漁業組合が組織されて活動大に睹るべきものあり、成績いづれも良好である。米麥、蜜柑の產あり、副業の梅干は縣下隨一の名あり、セメント瓦、麻撚絲を特產とし、漁業方面では鰤、シラス、鰹、鯖の漁獲多く、鹽辛、白素乾の製造が盛んに行はれる。

酒匂村

本村は足柄下郡の東北に位し、東は森戸川を隔てゝ國府津町に接し、西は小田原町に相對し、南は一帶に渺茫たる海洋に面し、北は足柄村及び下府中村に境する。この中を縣下屈指の大河たる酒匂川は村の中央を南流し、村內概ね平坦にして耕地よく闢け、西小田原町、東國府津町に至る國道沿線には所々に老松繁茂して四圍の眺望極めて絕佳である。氣候また甚だよく、避暑として都人士の欣ぶところである。東西一里五町、南北十五町面積〇・二五二方里を占め、四大字に分れる。

村內產物の主なるものを擧げると米、麥、鷄卵、鰤、度器、玩具等である。

小田原國府津間には富士箱根自動車の定期バスが二十分置きに運轉され、交通頗る利便である。

小學校は酒匂字濱ノ台に本校を有し、山王原字濱元町に分校を置く。兒童約千三百名をかぞへ、就學步合一〇〇パーセント、教員は二十四名である。本校に青年學校を併置し、分校に青年學校女子部を置く。

主要神社寺院及び名所古蹟には村社山王神社、同八幡神社、同酒匂神社、宗福寺、道場院、心光寺、篠曲輪、上杉龍若丸の墓、蛇塚、御濱御殿、七夕塚、錢塚などがある。

窪村

當村は往昔より本郡足柄郷に屬し、早川の莊であつた。東南部は概ね平坦にして、南端村境を早川が西より東に流れ、水利の便によく、田地及び用水の灌漑に益する。北西部は足柄函嶺の諸山重疊し全村の約八分を占め、急坂を登るに非ざれば村境に至る能はざるも、南東は眼下に相模灣を莅み、遠く三浦、伊豆の半島及び三原山の噴煙模糊として見え、四季共に山水の眺望絕佳である。氣候は寒暑溫暖の差少なく、箱根に遊ぶ客の足を止むるもの、別莊を造營するもの、保養に來住するもの漸く多く、北西山地は特に別莊地として遠近に知られてゐる。

當村の位置は足柄下郡の中央部にして東は小田原町に接し、南は早川を隔てゝ早川村に對し、北より西に一帶の函嶺足柄の連山を負ひ、山間に於て北は足柄村西は湯本町に隣接する。東西三粁二七三南北二粁一八二、面積七方粁一三八である。米、蜜柑、漆器、挽物、指物、酒、醬油、鷄卵等を主要產物とし、養鷄組合養豚組合、產業組合、編物會、村農會、柑橘小組合、漆增殖組合、箱根物產同業

組合等の團体がある。名所舊蹟では傷病院板橋地藏尊、紹太寺、山崎合戰の官軍の墓が著名である。

溫泉村

本村は箱根山の中腹に位し、神山を越えて西方宮城野村と相接し、早川を隔てて東方足柄村と境し、東南に湯本町あり國道は湯本町より本村に入り、大平台を經て宮之下、高松宮御別邸前に至り、左折して芦ノ湯を過ぎ、元箱根村に至るものと、右折して宮城野村に至る二線がある。早川は村內に於て蛇骨川を合せ、兩岸の山嶽いよ〳〵迫り、奇岩に激し怪石を嚙み、忽ちにして奔流忽ちにして碧潭行人をして應接に暇なからしむ、實に山中の一奇觀である。東方稍や平坦なるところを大平台と呼ぶ。蛇骨川に沿ふ底倉一帶には溫泉到るところに湧出する。小湧谷は櫻花、躑躅を以て天下に聞え、堂ケ島、底倉、宮之下は何れも箱根七湯の一に數へられ、小涌谷は明治初年に新創せる溫泉場である。廣袤東西三粁七二、南北一粁四七、面積四粁九七六を占め、役場は大字底倉に置く。

生產年額は十數萬圓にして木製品、菓子が主なるものである。駿河銀行支店、富士屋ホテル、富士箱根自動車會社、對星館、魚政商店、丸仙運送店、溫泉村信用組合、溫泉振興會、大平台玩具振興會等がある。

宮城野村

當村は郡の西部に位し仙石原、溫泉、元箱根、芦ノ湯の諸村及び足柄上郡の南北兩足柄村、岡本村に境してゐる。西南に早雲山、東北に明神ケ嶽聳え、芦ノ湖より流れ出る早川は、村の中央を西より東へ走つてゐる。

往古のことは詳でないが、永承年中佐伯連經の所管に屬し、次で鎌倉幕府直轄となり、その後は小田原歷代城主の治下にあつて、明治維新に及んだ。一時足柄上郡に所屬したが、郡制發布と共に本郡に入り、仙石原、溫泉の兩村と合併したこともあるが、また分離して現今の一村をなした。面積〇・八二六方里。役場は字小東に置く。

史蹟の主なるものには北條氏直の出城の跡あり、城山といひ、また日本武尊の古跡碓氷峠も世に知られ、南朝の忠臣新田義貞朝臣の碑もある。名勝は强羅溫泉を有し、溫泉には箱根七湯の一たる木賀ノ湯をはじめ强羅、川向があり、附近に別莊を營むもの百數十に及んでゐる。各溫泉の泉質、溫度、主治効能は次の通りである。

△木賀溫泉——鹽類泉。華氏一一三度皮膚病、胃病、婦人病、神經病、ロイマチス。

△强羅溫泉——酸性鹽類泉。華氏一五〇度。腺病、痛風、皮膚病、婦人病、花柳病。

△川向溫泉——鹽類泉。華氏一一〇度

ロイマチス、皮膚病、打撲傷、火傷。

仙石原村

本村は郡の西端に位し、北に金時山聳え、東は俵石山が蜿蜒屏列し、西は乙女峠、柄子山、高尾山が連綿起伏し、南に芦ノ湖の勝景をのぞむ。面積二三方粁。村民は昔より農を專業とし、副業として軍用乾草、天然製氷をつくり、特產箱根竹がある。名所古蹟には諏訪神社、仙石關所趾、大涌谷、小塚山、ゴルフコース仙石溫泉等があり、遊覽地として近年著るしい發展のあとを示してゐる。交通は富士箱根自動車のバスによる。

早川村

當村は小田原町の南に接し、早川の川口に位してゐる。有名な石橋山は村內にあり、建久元年正月、源頼朝が伊豆權現へ參詣の途、この地を横つて懷古の情に涙したといひ傳へられてゐる。

當村は、今戸數四百餘戸を擁し、人口二千二百餘を占めてゐる。早川村信用購買利用組合の設けがある。

片浦村

本村は足柄下郡の西南に位し、早川村岩村、吉濱村と境を接し、後方箱根の連山を負ひ、土地高低起伏、玉川、水無川清水川、白糸川、萩ノ尾川が流れ、山嶽地は柑橘畑として利用したるものゝほかは造林地帶である。海岸は奇岩、怪石突出起立し、磯濱長く連り、水清く海底深く、風景絶佳、定置漁場としては石橋、米神、江之浦地先に秋網、米神地先には優秀なる鰤、大謀網の漁場ありて、豐不漁の關係は地方的經濟界に非常なる影響を來すといふ。なほ石材中の根府川石は建築用及び道路舗裝用材として最も重要なるもので、資源開發上注目すべきものである。山地よりは木材、竹材をも產する。氣候は比較的溫暖なるが故に、諸種の農作物中この地に適しないものは極めて稀である。戸數五百二十餘戸のうち農家三百二十五戸を占め、漁家約四十戸をかぞへる。

昭和十年度の經濟更生指定村である。耕地約三百十三町歩の大部分は柑橘畑で年產約百五十萬貫に上る。苗木の自給自足、荒廢園の改植、肥培管理の合理化等により增產著るしきものあり、その他陸稻、蔬菜、梅が主なるものである。負債整理、豫算生活の實施等は他より數等進歩してゐる。

吉濱村

當村は郡の西南、靜岡縣境の近くに位置し、東に福浦村、眞鶴町、岩村、西に湯河原町、東北は片浦村、湯本町、北は箱根町と境し、東南は相模灘に面し、伊豆半島並に眞鶴岬と相對し、その間に大島初島を眺め、遙か水平線上に利島、新島

を望んでゐる。

地勢は背後に箱根の連山を負ひ、山脉は南に走つて星ヶ山、南郷山、幕山、城山となり、新崎川は源をこの溪谷に發し村を貫流して海に注いでゐる。土地は高低起伏し、僅かに西南の一部に水田を見るのみで、概して山嶽地、柑橘畑と造林地とに利用されてゐる。

熱海縣道は小田原から來つて當村の海岸を熱海市に至り、東海道本線は村の中部を東西に貫通し、東に眞鶴驛、西に湯河原驛がある。水清くして遠淺、氣候溫暖、風光明媚、關東地方稀に見る天然の海水浴場である。

廣袤東西三・〇二九粁、南北七・九七七粁、面積一・〇四六方里を占めてゐる。戸數約六百五十戸、人口四千百名、農を主業となしてゐる。

村役場は大字吉濱にあり、小學校は高等科を併置して役場の所在地たる八雲の里にある。當村は石材を以て主要產物となしたが、時勢の變遷と共に漸次衰運に傾き、農耕に從事するものゝ多くは柑橘の栽培を以てこれに代らしめんと、努力してゐる。

蠶絲の地 愛甲郡

本郡は相模國に屬するが、高座郡一つを隔てゝ武藏國に接してゐる地方だけに郡內は多分に武藏野を想はしめるやうな地勢を見せてゐる。南は中郡に接し、西は足柄上郡及び津久井郡に連り、北は津久井郡につゞき、北部及び西部の郡界には雨宮、丹澤等の山嶺があり、東部は平坦である。

相模川の支流は多く郡西部に源を發しこの沿岸地方は田圃よく拓け、郡內諸村は多くこの地に形成され、產業もまた主としてこの地に行はれる。

郡內を分ちて次の一町十六ヶ村とし、煤ヶ谷、宮ヶ瀬の二村、三田、棚澤、下川入、妻內、及川、林の六ヶ村は、それぞれ組合を組織する。

町　厚木

村　依知、中津、高峯、愛川、荻野、三田、棚澤、下川入、妻內、及川、林、小鮎、煤ヶ谷、宮ヶ瀬、玉川、南毛利

現在郡內に設置される中等學校は、厚木高女、愛甲農蠶學校、厚木中學校他一校である。郡教育會、男女青年團、在鄕軍人分會などの活動睹るべきものあつて社會教育の實績大にあがり、郡民の好學心も近年著るしく向上したかの感がある。初等教育に於ても內容は年と共に充實して行く。

產業を產額別に見ると、農產が最も多く、蠶絲、工產、鑛產がこれに次ぎ、更に郡市別の比較に於ては蠶業及び林業が第四位、畜產第八位にして鑛產は第一位を占め、鑛業不振の本縣に萬丈の氣焰を吐いてゐる。

北相模交通の中心たる厚木町を郡の東

南に控へてゐる關係上、東半部は交通至便、小田原急行電鐵、相模鐵道、神中鐵道があつて横濱、都筑、鎌倉、高座の市郡につらなる。道路も厚木町が中心となつて郡の東半部に發達し、車馬の往來頻繁である。これに反し西丹澤御料林に接する地方は、交通未だ發達せず、不便の域を脱しない。

愛甲の名は、延喜式にすでに見え、和名抄には玉川、英那、印山、船田、六座餘戸の六郷が算へられ、仁明朝の頃より清和朝にかけて、頻りに開墾が行はれ、爾來やうやく人文の發達を見るに至つたものである。

厚木町

厚木町は古の船田郷で、船喜田明神はその遺名である。北條氏の頃、既に郵驛があつて、二七の日を市日となし、内近の客で賑つたといふ、中世の頃から鎌倉圓覺、崇壽二寺の知行所となつた。

町は郡の東南端に所在し、相模川の兩岸に沿ふて一市邑をなしてゐる。小田急相模、神中三電車の交會場所で頗る殷賑を極めてゐる。戸數約一千五百戸、人口六千五百餘を擁してゐる。麥、豆類、甘藷、馬鈴薯等を產し、養蠶もまた行はれてゐる。

縣立厚木高等女學校をはじめ郵便局、縣土木出張所、第四衛生試驗場、厚木稅務出張所、厚木耕地整理出張所、厚木警察署、蠶業取締所、繭檢定所、小田原區裁判所出張所、氣象觀測所その他の官署が置かれてゐる。

依知村

本村は相模川の上流沿岸に位し、東は高座郡新磯村、南は三田村外五ヶ村組合西及び北は中津村に接し、土地平坦、農業に適するも、水田比較的少く、大小麥の增收顯著なるものあり、また蔬菜栽培も年々增加し養鷄、養豚等の有畜農業による自給肥料增產の成績もよい。東京方面にて依知眞綿として知られるものは本村の特產であり、古い歷史と品質の優良とを併せ有し、相當多額を移出する。

面積二方粁、村役場は大字山際にある青年學校は縣下の模範校といはれ、先年縣視察校に指定され推賞を受けた。

中津村

當村は厚木町を去ること二里餘の純然たる農村にして、面積九方粁、水田は全面積の十分の一にも過ぎず、養蠶の盛んな土地で、村農會が中心となつて蠶種の製造をなし、收繭は產業組合の統制販賣によつて成績をあげてゐる。近來金肥節約や產米增收の結果良好を極め、また特產品たる座敷箒は、明治初年頃からの古き歷史を有し、現今製造戶數五十餘戶、年產約五萬圓に達し、從來の副業は今や本業となり、縣内は勿論、他府縣に多數移出しつゝあり、箒製造による成功者の

數も多い。竹細工も最近勃興せる副業として收益あり、村内二ヶ所に製糸工場を有し、絹糸工業に新らしい凱歌をあげてゐる。

先年、經濟更生村の指定を受け、縣下に模範の折紙を附せられ、更に昭和九年には優良村として推賞された。「更生は一に自力、二に協同」の標語のもとに、自作農の創設、耕地の整理改善、道路改修、採種圃の設置、空地利用、貯金勵行その他諸方面に亘つて、村當局をはじめ村民一同はよりよき理想鄕建設に向つて不撓の努力をつゞけてゐる。教育方面に於ても、青年學校教育を中心に、學校教育、社會教育とも大に實績の見るべきものがある。

高峰村

本村は郡の西北隅に位し、南は愛川村東は高座郡、西及び北は津久井郡に連り相模川の上流たる中津川は本村の南部を流れてゐる。村内山岳重疊、殊に西部が甚だしい。

主產業は養蠶であるが、最近は陸稻作は奬勵の結果、この方面の發達睹るべきものあり、また養豚、養鷄等も隆盛に赴きつゝあり、水田裏作としての紫雲英、菜種、大小麥栽培の成績もよく、村内經濟は豐かである。產業組合は郡内第一の優良成績を擧げ、里芋の東京方面への共同出荷は村民に多大の利益をもたらしてゐる。

なほ村内の社寺としては八幡神社、諏訪神社、陣岩院、清德寺等あり、また三增合戰旗立松は名跡として著聞する。

愛川村

當村は郡の北部に位し、西南は宮ヶ瀬煤ヶ谷組合村と境し、經ヶ岳、佛果山、高取山等の峻岳連亘し、山麓には平原拓けて耕地をなす。東南は荻野村と境し、東北は志田山により高峯村に、北は津久井郡につゞく。中津川の清流は、西方の深谿より奇石突窟の間を東に奔流し、その流域に狹隘なる平地の點在するを見、東するに從つて次第に廣くなる。

嵯峨たる峻峰深谿相錯綜する當村は、往時住民安住の地であり、且つ隱棲の地であつたであらうが、時代の變遷と人口の增加につれ、狹少なる耕地に賴る農耕と養蠶によつてのみでは安住を許されずこゝに於て工業やうやく開けるに至つた。即ち中津川の急流を利用し、水車を動力とする撚糸業がこれである。この撚糸業も、副業的家内工業として小規模なものであつたが、年を追ふて改善發達せられるに至つた。

一方、撚糸業と平行して絹織物の工業化が企圖され、創始以來なほ十年未滿なるも、目覺ましき發展を遂げたるは實に驚嘆に價する。——この他、造酒、製絲發電等、逐年產業は進展し、村内諸施設等も充實し、自治の制度は着々改善されてゐる。

荻野村

本村は郡のほゞ中央に位し、舊大久保氏の荻野山中藩城下たりしところで、上荻野、中荻野、下荻野の三大字より成り愛甲農蠶學校、小田原區裁判所出張所等あり、郡下有數の繁榮村である。

村民は農耕を以て主業とし、傍ら養蠶をなすもの多く、米、麥、繭が主要産物である。

厚木驛へは二里あり、自動車の便を有し、縣道また村内を南北に貫いて車馬の往來頻繁である。

三田村外五ケ村組合

當組合村は厚木町の北に隣接し、相模川及びその支流中津川の流域に跨り、三田、棚澤、下川入、妻内、及川、林の六ケ村により形成される。組合役場は三田村に置き、尋常高等小學校一、尋常小學校二があり、各村を通じて産業は農を主とし、米、繭の産が多い。交通は厚木驛より半里乃至二里にして達するを得、いづれも自動車の往復がある。警備は厚木警察署、通信は厚木郵便局の管内に屬してゐる。

小鮎村

本村は郡のほゞ中央に位し、相模川の支流は村内を流れて、その沿岸には田圃よくひらけ、風光は明媚、氣候溫暖、加ふるに村民は淳朴にして溫情に富む。東は三田村外五ケ村組合に接し、西は煤ケ谷村、南は玉川村、北は荻野村につらなり、飯山、上古澤、下古澤の三部落を有し、面積一四方粁である。農學博士外山龜太郎氏や畫家關野聖雲氏等の名は廣く天下に知られるが、兩氏とも本村の出生であることを知るものは少ないだらう。

村民は主に農事に精勵し、傍ら養蠶業を營むもの多く米、麥、繭を主産物とする。一般に愛汗の念強く、勤勞を尊ぶ美風あるは、本村將來の發展のため慶賀すべき現象である。

教育は、尋常高等小學校及びこれに併置する青年學校が中心となり、男女青年團、在鄉軍人分會等の協力的活動によつて潑剌たる成績を收めてゐる。

交通は至便といはれないが、縣道は東南西の三方に通じ、厚木町へは自動車の便がある。しかも村内には見るべき地多く、龍藏神社、長谷寺、金剛寺、觀世音等崇敬皈依するもの多く。白山は弘法大師修業地として著はれ、一般賽客の影を絶つことがない。

煤ケ谷村宮ケ瀬村組合

當組合村は郡の西部に位し、煤ケ谷村は東部を占め、面積三一方粁を有し、組合役場所在地である。宮ケ瀬村は西半部を占め、面積四一方粁を有し、共に面積は郡内の一二位を占めてゐる。村内いづれも山岳重疊し、所謂丹澤御料地の一部をなし、山また山、廣大なる處女林が限りなく續いてゐる。

住民は養蠶業、林業を主とし、山岳にして耕地少なきため農業に從事するものの數は極めて少ない。從つて産物は繭を第一等とし、林野産物がこれに次ぐ。

東光寺の遠望、丹澤山三境の富士遠望等別天地に遊ぶの勝地多く、近年、都人士ハイキングの新コースとして人口に膾炙されるに至つた。實に文字通りの別天地であり、清新快朗の氣に滿つるところである。

交通は縣道日蓮線を幹道とし、伊勢原驛及び厚木驛へは自動車の便がある。兩村に尋常高等小學校があり、教育の實大にあがり、施設見るべきものが多い。

玉川村

本村は、厚木町及び伊勢原町に近く、郡の南部、相模川支流沿岸の地を占め、地勢平坦で、村内文化の發達見るべきものあり、諸機關の活動また活潑である、面積一七方粁。明治二十二年舊小野、七澤、岡津古久の三ケ村を合して一村となし、玉川村と稱して今日に至れるもので役場は大字小野に置く。

村民は概して質朴剛健、能く協力一致自治の効果をあげてゐる。農業を主とし米麥が主要産物であるが、本村産米は自給自足程度であり、蔬菜あまり多からず、養蠶にやゝ見るべきものがある。

眷ての石の産地として聞えた村だけに、石工の履歴を有するもの多く、一日五圓以上の收入のあつた好況時代の夢が一時醒めやらぬ惡夢となつて殘つたが、賢明なる村理事當局者の適切なる處置により、今では理想鄉としての地歩を着々固めるに至つた。

交通は小田原急行電鐵の伊勢原驛へ一里半、自動車の便があり、また縣道は厚木町方面に通じ、車馬の往復極めて頻繁である。

南毛利村

當村は郡の東南端に位し、東西一里、南北一里半、西北は高松山を控へて丘陵を形成するが、地勢概ね平坦、玉川、恩曾川が村内を貫流する。

往昔この地を毛利の庄と唱へしによつて村名を南毛利村と名づけたもので、鎌倉幕府の頃、大膳太夫廣元がこの庄にをり、四男秀光は毛利四郎と稱して廣く覇を稱へた。村内大字愛甲には、壽永より建暦の頃まで、愛甲三郎秀隆が居城を構ひ、郡名の起原となつた。その後戰亂の世を經て德川時代に至り、愛甲に若林氏舟子に堀田相模守、長谷川に堀田備中守愛名に跡部氏、溫水に大久保氏、恩名に三浦氏、戸室に奥津氏等がゐた。

村内の主要産物は米、大小麥、茄子、胡瓜、大根等である。厚木町と隣接する關係上、村民の生活程度は高く、都會の風潮が滲みこんでゐるが、昭和八年經濟

指定村となつて以來國民精神作興や生活改善が叫ばれて、漸次淳朴になつて來た。副業の製繩は本村第一の特產、廣く縣外に移出される。婦人工業として絨壇の製造がボツ〳〵隆盛に向ひつゝある。小學校、青年學校の教育機關は、男女青年團、在鄉軍人分會等と聯携して教育の實をあげてゐる。

蠶業殷盛の津久井郡

本郡は縣の西北隅に位し、蜿蜒長蛇たる秩父連峯を脊負ひ、東は高座郡、北は東京府、西は山梨縣、南は足柄上、愛甲の二郡につゞき、相模川の上流地域を占める。

高尾山、景信山、陣馬峯、三國山等は郡の北部に高さを競ひ、北西から南東に向つて傾斜する。平坦の地に乏しく、風光明媚の長所はあるが、農耕に適せざる短所を持つ。總面積一五方里四五六、全郡を分ちて四町十五ヶ村とする。

町村　中野、與瀨、小原、吉野

千木良、三澤、串川、川尻、湘南

鳥屋、青野原、青根、內鄉、佐野川

澤井、日連、名倉、牧野、小淵、

與瀨、小原、千木良の二町一ヶ村、日連、名倉の二ヶ村、吉野、小淵、深井の一町二ヶ村は、それ〴〵組合を形成する。

地勢に影響されて住民の多くは蠶業紡織に從ひ、農耕、林業がこれに次ぐ。林產は縣下第一等の產額を有し、蛭嶽、槌嶽は斯業の本場として知られる。

交通の發達程度は、他郡に比し多少劣れるも、郡の北部を鐵道中央線が走り與瀨驛を置く。乘合自動車は東部及び北部に數線あり、他は道路によつてのみ交通を保つ。交通の發達は郡民の瞬時も止まざる希望であるが、僅に小佛峠を交通の要路とした往時に比すれば、また轉た感慨無量であらう。

教育もまた地勢交通に影響されて、中等教育に僅に一蠶業學校を有するのみで上級學校志望者は遠く他郡に通學する狀態である。されど初等教育に於ては時運の進展と共に發達見るべきものがある。

有史以前に於てアイヌが住んでゐたことは本郡も他と同じく、平安朝の頃に至つては平家の祖高望王が上總介となつてこの地を支配し、爾來その子孫がこゝに覇を稱へた。鎌倉時代には、津久井衆と呼ぶ武士の一團があり、相模川の北岸室峰に城塞を構へてこの附近を領有し、爾來津久井と稱するに至つた。戰國時代には武田、北條兩氏の干戈を交へる地となり、德川時代には本郡小佛峠は武藏、甲斐兩國往還の要路となり、爾來文化漸くその度を高めたのである。

中野町

本町は郡制時代郡役所のあつたところで、面積八方里、大正十四年七月、中野

町外三ヶ村を合併して今日に至つたものである。商業殷盛を極めると共に、農業もまた盛んに行はれ、麥、繭を主要產物とする。また紡績工場を經營する者多く絹織物の產額もすくなくない。中央線與瀨驛及び橫濱線相原驛へはいづれも二里自動車の便があり、交通はさして不便でない。教育機關には津久井農蠶學校をはじめとし、尋常高等小學校、青年學校、青年團等あり、郡內文敎の中心をなすの感がある。

與瀨町、小原町、千木良村組合

當組合は郡北部に位する山村にして、東は三澤村に、東北は東京府南多摩郡、西は吉野町に境し、南は相模川を以て內鄉、日連の兩村に對し、面積一五方粁、組合役場は小原村に設置する。

住民は農業を主位とし養蠶、製糸、織物、畜牛を副業としてゐるが、近年織物業不振の結果、各部落で講習會等を開催して、これが挽回に大につとめてゐる。

中央線與瀨驛を有し、三崎與瀨間の縣道も通じ、近き將來に於ては本郡交通の中心地となり、百貨集散の地となることは瞭かである。

吉野町　小淵村澤井村組合

本組合村は、自治制施行以前の吉野驛小淵村、澤井村の一驛二村にして、南は相模川を隔てゝ名倉村日連村組合に對し東は與瀨町、西は山梨縣及び佐野川村に接し、北は東京府に境し、甲州街道の中央に當る。住民の主業は農業にして副業は養蠶、製糸織物、木炭製造等である。養蠶及び織物は每戸營まざるものなく、生產物は主として山梨縣上野市場に出荷する。なほ組合町村內には郵便局、小學校三、青年學校の設けあり、神社六社、寺院六ヶ寺を有する。

川尻村

今、文壇の寵兒加藤武雄氏を生んだ本村は、橫濱市の生命權を扼してゐる淨水場が設けられてゐる。村は郡の東端にあり、桂川に沿ふて北岸に位置し、西は川を挾んで中野町に對峙してゐる。

川尻信利販組合、郵便局の設けがあり寺院としては大正寺、明觀寺、寶泉寺などがある。

戸數四百餘戸、人口二千五百餘人、麥大豆、小豆、甘藷、馬鈴薯等を產し、養蠶もまた行はれてゐる。

湘南村

當村は明治二十二年の町村制實施の際舊小倉井、葉山島の二ヶ村を併合して湘南村と稱し、引續き今日に至つてゐる。

村は郡の東南隅に位してゐる。東北は相模川を隔てゝ高座郡の田名村と大澤村

並に本郡川尻村に對し、西南は山脈を以て串川村と中野町及び愛甲郡高峰村とに境してゐる。戸數は今二百餘戸、人口一千百餘人、米、麥、大豆、小豆、粟、甘藷などの外に蒟、林産を産出する。

社寺には村社諏訪神社、無格社八幡神社、同羽黒神社、同金山神社、同三島神社があり、西光寺、東照寺、東林寺、蓮葉寺等がある。

三澤村

本村は郡の東北端に位し、北は東京府南多摩郡、西は千木良村につゞき、南は相模川を隔てゝ中野村に對し、東は川尻村に接し、面積五方粁の小村である。

一般住民は、耕作山林の業に從ふ傍ら漁業を營み、麥、粟、米、蒟、木材、木炭を主産物とし、鮎の特産がある。

與瀬驛及び相原驛へは各二里、縣道は自動車が走つて交通の便がよい。大字三井には村役場があり、その他村内に三井尋高校、中澤尋高校、隔離病舍、巡査駐在所等あり、村農會、在郷軍人分會、青年團、産業組合が組織されてゐる。

串川村

當村は郡の東南端に在り、東に志田山西に仙洞寺山聳え、南に長峯、北に平代山を負ひ、東北隅に城山が屹立し、村の中央を串川が流れる。面積一方里五。

飯米は他より移入する狀態にあり、畑作は大小麥を主とする。從來養蠶は村の重要産業であつたが、先年の蒟價暴落以來不振に陷り、村經濟に過迫を感ぜしことあるも、その後全村民の和衷協同の努力によつて舊態に復し、加へるに小麥、蔬菜、養豚、製炭等が從來以上に隆盛を呈し、不況を全く挽回した。また納税成績優良村として知られ、平和な村として他の賞讃をうけてゐる。

鳥屋村

本村は郡の南隅、丹澤山の北麓に位し面積四〇方粁、全村到るところ山岳丘陵多く、水田は僅かに一町歩に過ぎず、從來蠶業を以て主業とし、畑は桑園が非常に多く、先年の蒟價暴落に際しても悲鳴を擧げず、經濟力豐富な縣下の模範村といはれ、昭和七年には經濟更生指定村となつた。紅鱒や山女魚の養殖、遊覽客誘引、自給自足的野菜の栽培、空地利用の果樹（柿栗）栽培、畜牛（肉用）奬勵等成績よく、緬羊飼育も年毎に多く、將來は毛織物工場も設置されんとする趨勢にある。また青年團の團体的訓練の徹底と活躍の旺盛とは、郡下第一等の稱がある。

青野原村

當村は山岳に富み、水田少なく畑地が多い。郡の中央部に位置を占め、東は鳥屋村、西は青根村、北は牧野村に接し、面積一一方粁を有するも、交通未だ不便の域を脱せず、縣道は村内を東西に貫き、

車馬の往來がある。

人情質實淳朴、和衷協同して事にあたるの美風を有し、各種團体の連絡協調の下に、産業的並に社會的改善を遂行しつつある。殊に國民精神の作興、生活改善産業の開發、敬神崇祖の念の涵養に好果を示してゐる。

青根村

本村は青野原村から道志川を溯つた山梨縣境に臨み、南は丹澤山の御料林に連つてゐる。道志川の風光を占めた地で、地名辭書に「道志川は遠源を去る六里にして本郡青根村に達し東北の方向を流るること猶四里、三加木村と寸澤嵐の間に於て桂川へ會す、鮎を名産とす、梁を張り贄の上に捕る」とある。

戸數約二百五十戸、人口凡そ一千三百人、春蠶、麥、豆類、玉蜀黍、甘藷、馬鈴薯類を産する。

官衙には縣林務課所屬觀測所、内務省道志川工場氣象觀測所があり、社寺には村社諏訪社、無格社子ノ神社、同八坂神社二社、同三王明神、同天皇社、長昌寺仙洞寺などがある。

内郷村

當村は郡の中央部に位する山村にして面積二二方粁あり、東北南の三方は川をめぐらし、西は一連の山脈を以てつゝまれる。山地畑地が大部分で水田少なく、ために飯米等は他より移入する狀態にあり、村民は專ら養蠶を以て主業とする。しかし最近は小麥の增殖、養豚、竹細工の普及等見るべきものあり、女子の家内工業として半絹半綿の包配織が盛んになり、市場の聲價も高い、昭和九年には經濟更生村に指定された。

なほ本村補習教育は縣下に於て最も古い歴史を有し、曾て明治四十二年青年團では文部省より表彰されるの榮譽に浴してゐる。

日連村名倉村組合

本組合は相模川上流吉野町の對岸に位置し、東は内郷村、南は牧野村、西は山梨縣に連り、全村一般に平坦、たゞ南方及び西方に僅かに山地を見る。面積一三方粁。面積に於て名倉村が大きく、戸口に於て日連村が多い。

中央線與瀬驛及び上野原驛に近く、縣道は村を縱横に走つて何れも自動車の便あり、本郡交通上重要なる位置を占める。

産業は農を以て第一とし、林業及び養蠶がこれに次ぎ、米、麥、蒟、木炭、木材等を多く産出する。

牧野村

當村は吉野町の南方、青根村に通ずる沿道に位置してゐる。戸數は約五百戸、人口凡そ三千人を占め、牧野郵便取扱所津久井郡學校醫會等が設けられてゐる。

當村の主なる產物としては麥、大豆、小豆、粟、玉蜀黍、甘藷、馬鈴薯などであり、また春蠶が旺んに行はれてゐる。

村社八幡神社、同大石神社、無格社須賀神社があり、寺院に安國寺、福壽院、蓮乘院、來迎院などがある。

佐野川村

本村は郡の北隅、山梨縣境に在り、全村山岳重疊、東は景信山、陣馬峯聳え、北に三國山がある。面積一二方粁。水田は耕地面積の僅か一割に過ぎず、從來養蠶を專業とするもの多く、村全般に亘つて養蠶技術の發達は他村の範とされる。加ふるに家内工業としての製糸や織物が盛んで、最近はわさびの栽培が急速度の發展を示し、縣の指導地としてその名を博してゐる。特產は村山大島、勾配織で廣く世人に喃炙される。しかも郡北隅なるに拘らず、諸機關、各種團体の設置多く、交通の便もまた頗るよい。

校外指導の指針

月刊雜誌『校外教育』

一部　定價五十錢（送料三錢）

東京市本郷區富士前町壹

發行所　株式會社　内外通信社

校外教育部

振替東京一三六〇六一番

最寄の書店にあり、品切れの節は直接本社へ御註文ありたし

埼玉縣勢

總說

位置・境界

埼玉縣は關東地方の西部に位し、政治的中心地である東京に北接してゐる。西南は關東山脈の主峰甲武信岳を起点として東南に走る金峯山脈によつて山梨縣と境し、西北は三國山、二子山等を盟主とする山脈によつて長野、群馬の二縣と境してゐる。

北は利根川及びその支流の烏川、神流川等によつて群馬縣と境し、東は利根川及びその支流の渡良瀬川、分流の權現堂川、江戸川等によつて栃木、茨城、千葉の諸縣と隔てられてゐる。

南は東京府と境してゐるが、西方の山地の部分を除けば何等の自然的境界がなく、全くの平地續きであるから、縣南の地方は東京市の郊外地域となり、交通の發達につれて益々東京市との關係を深めてゐる。

要するに、本縣は溫帶の文化地帶に屬し、然も日本のほゞ中央に在つて帝都に接壤し、最も優秀な地理的位置を占めてゐるのである。

氣候

氣候は、夏雨多く、冬雨の少い表日本式の樣相を呈し、氣溫も一般に溫和で本邦に於ても氣候の良好な地方である。

縣内の各所に於ける氣候と殆ど大差はない方で、雨量は一般に縣南地方と山地に多く、縣北地方の盆地内に少い。氣溫は平地よりも山地に低く、氣溫の較差は盆地に大である。

面積・人口

本縣の面積は、三千八百一方粁で、内地面積の凡そ百分の一、日本總面積の凡そ千分の六に當つてゐる。全國府縣中では第三十八位で餘り廣くはない。しかし人口は非常に多く約百五十萬人を算し、全國府縣中第十七位にあたり、人口密度の大なること全國第七位となつてゐる。即ち本縣は人口上から見て面積が非常に狹小であることが分る。

產業

山地の人々は多く林業に從事して木材薪炭を作り、山麓附近の人々は主として養蠶を行つて繭及び絹絲をつくり、臺地の人々は養蠶または畑作農業を營んで繭麥、野菜の產多く、低地の人々は水田作農業に從事して米をつくり、特別な技倆を有する人は資本と相俟つて各種の工藝品を作る等、いづれも分業的に自己の生業に專心努力して、お互に有無相通じ幸

福な生活を送つてゐる。

先住民族は漁獵生活をしてゐた證として各所に貝塚を殘し、また石斧、石鏃等を殘して居り、牧畜時代の證として各所に牧場に因んだ地名が多く、その後それらの牧場は漸次開拓されて畑、水田等と化し、農業の全盛時代を興した。しかし今日では商工業が次第に盛んとなつて、工產額は農產額を凌ぐやうになつた。即ち大正五年頃は工產農產互に伯仲してゐたが、漸次工產は增加して、今では工產額が約三千萬圓も農產額より多くなつてゐる。

主要產物を擧げると、米、繭、麥、甘藷、里芋、蠶絲、絹織物、綿織物、足袋、小麥粉、木製品、セメント及び石灰等である。

交通

縣內に於ける鐵道には、東北本線、高崎線、八高線、東武鐵道本線及び同日光線、同東上線、武藏野線、西武線、武州線、秩父線、總武鐵道、川越電氣鐵道、本庄電氣鐵道等がある。

また道路は陸羽街道及び中山道の國道をはじめ、縣道二千二百餘粁、市町村道二萬八千七百餘粁の延長を有し、熊谷、川越、大宮、浦和等の地方中心の都邑を一つの核心として、各方面に四通八達してゐる。

教育

本縣の教育は益々隆盛に向ひ、官立の專門程度の學校は浦和高等學校が一つあるに過ぎないが、縣立中等學校では師範學校二、中學校八、高等女學校十三、實科高等女學校七、實業學校二十六、青年學校四百の多數にのぼり、小學校に於ては本校分校を合せて四百八十校に達してゐる。就學兒童は約二十四萬人で、就學步合は九十九パーセントである。

また一般教育のため縣下に二百五十の圖書館が設けられ、幼兒教育のためには三十の幼稚園があり、その他不良兒教育のため官營の武藏野學院や、縣營の埼玉學園等が設置されてゐる。

宗教

縣下の神社總數は約二千三百社で、その內官幣社三社、縣社十八社、鄕社二十七社、村社千四百五十餘社である。

寺院は二千二百餘で、その內新義眞言宗の智山派が約六百寺、同豐山派が三百九十寺、曹洞宗が五百六十寺、天臺宗と淨土宗が各百七十寺ある。その他の佛教寺院または天理教、キリスト教の教會や說教所も各地にある。

財政

明治十二年地方稅制規則施行當時は、縣費總額三十五萬圓に過ぎなかつたが、縣民の福祉增進のため諸般の事業の施設改善の必要にせまられ、或は治水事業の促進に、或は洪水に基く損害の補塡に、或は道路橋梁の新設改善に、或は縣民の

教育に、或は衞生に、あらゆる方面に改良を加へたので次第に縣費の增大を來し現在では縣費豫算額は約九百萬圓に達してゐる。

浦和市

浦和市は縣の南部に位し、東方は北足立郡、三室、尾間木の二村に、西方は與野町に、南方は芝、六辻の兩村に、北方は大宮町及び片柳村に接續する。市街地の大部分は足立臺地の南端に位し、土地高燥にして、到るところ樹木鬱蒼とし、遠く富岳及び秩父連山をのぞみ眺望絕佳である。且つ空氣淸澄なれば東京に接近せる郊外住宅地として近時頓に人口の增加を來しつゝあり、東京大宮間の省線が電化してからその傾向はます〳〵顯著急激なものがある。

縣廳を始め稅務所出張所、警察署、地方裁判所その他各官衙ありて縣治の中心をなし、また高等學校をはじめ、男女師範學校、中學校、高等女學校、商業學校等の縣立中等學校のほか各種私立學校多數ありて、縣內教育の中心地となつてゐる。面積は一七方粁二五、人口四萬二千有餘をかぞへ、產物は米、建具、菓子、織物、繭等が主なるものである。

江戶時代、中山道の宿場町として人馬の往來繁きを見、每月二、七の日に定期市が開かれ、市場式宿驛としてかなり繁昌し、明治維新後は埼玉縣の政治的中心地として漸次大をなせるものにして、昭和七年木崎、谷田の二村を併せ、町政の改善を行ひ充分內容を充實せしめて同九年市制を施行した。

市內には東北本線浦和驛及び與野驛あり、鐵道並に國道は街を南北に貫き、浦和驛を中心として乘合自動車は四方に通じ、交通の便益頗る大である。

調神社は延喜式內の古社にて、往時調物をあつめし所なれば調宮と稱した。玉藏院は口碑に弘法大師の創建なりといひ中興の開山は本朝高僧傳にある印融である。また明治天皇行在所址がある。

川越市

川越市は武藏野臺地の東北端にあつて城下町として漸次大をなし、最近までは縣で唯一の市であつた。また元入間郡役所所在地で、現在附近一帶の產業、交通の大中心地となり、ます〳〵發展の傾向を有してゐる。附近の低地には米の產があり、臺地には麥、甘藷をはじめ蔬菜の產があつてそれらの集散が盛んである。殊に甘藷は川越芋として天下に名聲を博してゐる。また臺地には桑の栽培が行はれ、養蠶が盛んであるから繭の集散や製絲業が行はれ、石川製絲工場の如きは職工七百餘名を使用してゐる。その他紡績別珍製造、製粉、桐簞笥等の製造は隆盛で、簞笥工場は多く、裏町に分布してゐる。また駄菓子專門の菓子製造業者ばかり集つた菓子屋橫丁があるのも、この市の特異な人文事象の一つであらう。

江戸時代には仙波河岸、新河岸、扇河岸等を設けて、新河岸川の江戸通ひの舟の發着所にしたので、これらの河岸には常に荷物の山をなし、倉庫も櫛比して活氣があつたが、今日ではこれらの河岸は見る影もない位荒廢してゐる。

市には市役所を始め、裁判所、中學校高等女學校、工業學校、蠶業學校、市立商業學校、工業試驗場等があり、史蹟としては初雁城趾、三芳神社、氷川神社、東照宮、喜多院、養壽院、東明寺等がある。喜多院は天臺宗の巨刹で、淳和天皇大長七年に慈覺大師が勅願により創建したものであるが、その後幾度も變遷を經慶長十六年には家康が川越城主酒井忠利に命じてこれが再興に當らしめ、大に面目を一新したが、大火に際して一山焦土と化し、家康は紅葉山の別院をこの地に移さしめたといふ由緒ある寺で、當地方切つての名刹である。市の南方福岡村内には、日本無線電信會社の受信所が設けられてある。

熊谷市

熊谷市は省線高崎線に沿ひ、人口三萬秩父地方への交通の要路に當り、こゝから秩父鐵道が連絡してゐる。

米繭の取引が盛んであるが、特に縣下の染色地として有名である。この地方は水質と氣候とが染色に適してゐるので、早くから斯業は隆盛を極め、近年染色技術の進歩と共に益々發展し大に見るべきものがある。中にも緋染絹及び絞り染は有名で、緋染絹は紅絹またはモミと稱し京都の緋染絹に對し關東の紅絹として其の覇を稱へ、販路は東京を最とし、關西これに次ぎ、その他全國に及んでゐる。五家寶は、縣下到るところにその製造を見、高崎線或は東北線で埼玉を通過すれば誰でも目にするものであるが、當市に於て最も多く製造されてゐる。古くから中山道宿驛の名物として珍重せられ、江戸往來の諸大名はこれを必ず購つたといはれてゐる。糯、白米、水飴、白砂糖で作つたもので、年産額約三百萬圓にも達する。

熊谷の地名の因を成す熊谷寺は熊谷直實の草庵を結んだ跡で、天正年中、幡隨意上人が再興して熊谷寺と稱したのである。大正年間本堂を建築して現今見るが如き廣壯なものとなつた。寶物館には開山直實（蓮生法師）に關する種々の寶物が陳列してあり、毎年四月中旬に催される花期法要及び十月三日の開山忌には參詣者を以て賑ふ。

こゝから中仙道を横ぎり、松山街道を南に二丁、鐵道を踏みきれば荒川の土手に出る。こゝが櫻の名所として有名な熊谷堤である。延長二キロ餘り、樹種はことごとく染井吉野で、約一千株あり、櫻花の頃來遊する者頗る多い。

川口市

本市は縣の南端に位し、荒川の長流は

市の南方を西東に流れ、芝川また市の中央部を南流する。東は東京市足立區と境し、西は北足立郡戸田村に接し、南は荒川を隔てゝ東京市王子區に面し、北は筑波山を眺望し、鳩ヶ谷町及び神根村に相接する。

地勢概ね平坦にして、西南遙かに芙蓉峰を望み、市街の南部は荒川に沿うて鑄物工業地帶を構成し、中央は商家櫛比して商店街をなしてゐる。西北東の外廓は環狀に耕地開け、土地豐饒にして農産物に富み、また、北部大字青木には農家の兼業として釣竿、鍛冶工具等が生産される。南部の大字元郷には味噌の釀造が盛んに行はれ、市民の需要を滿たすの他東京横濱方面へ移出し、年産額五十萬圓を突破する。又荒川河岸より産する砂は、本市の主要工業たる鑄物製造に必要缺くべからざる材料である。

抑々當地の鑄物工業は、叩和年間にその端を發し、初めは鍋釜、風呂釜、鐵瓶等を製作するに過ぎなかつたが、天保の頃には大砲、小銃、短銃その他彈丸類の武器を專門に製作するものあり、明治に至り鑄造法の大改革が齎され、同二十年水道用大口徑鐵管を鑄、日露戰爭當時には軍用砲彈の製造を命ぜられて效績を擧け、爾後大正五、六年歐洲大戰の餘波により、鑄造品の需要激增を來すと共に、鑄造工場の數もまた急激なる增加を見るに至り、製品の種類もまた著るしく廣汎に亘り、技術は精巧となり、わが國内比類なき大鑄物工業地としてあまねく人口に膾炙せらるゝに至つたのである。市内には川口神社、前川觀音、錫杖寺、ゴルフ・リンク等の名勝あり、交通は川口驛を中心に、電車汽車の便極めてよく、荒川は水運の利便を占めてゐる。

農産の地　北足立郡

本郡は縣の東南部に位し昔はの謂ゆる關東大平野たる武藏野の中部を占め、東南は東京市の足立區に、西南部の一部は東京府北多摩郡に、南北は川口市に、その他は各流を隔てゝ隣郡に對してゐる。

面積は四五四七七平方粁、地形は南北に長く、北端は圓形をなし、南漸するに從つて東西に擴張し、略ほ立烏帽子の側面形狀を呈し、地勢は丘陵に屬する部分が三方に延びる。荒川は郡内を貫流する大河で、源を秩父郡大瀧村に發し、諸支流を合流して東京市に入り、終に綾瀬川を合はして隅田川となる。その他新河岸川、柳瀬川、綾瀬川、元荒川、芝川などがある。

本郡の産業としては工業最も旺んで、農産、畜産、林産、鑛産、水産の順であり、農産二六・四七に對し、工産六九・〇七の割合を示してゐる。

本郡は古の足立郡を、明治初年に至つて南北の二郡に分ち、南足立郡を東京府に編入し、北足立郡は新座郡と聯合して新たに本郡を成した。

現在本郡下にある町村は、十四ヶ町四十五ヶ村で、即ち次の通りである。

町 蕨、草加、鳩ヶ谷、志木、大和田、朝霞、大宮、與野、平方、上尾、桶川、鴻巣、吹上、原市

村 六辻、土合、美谷本、笹目、戸田、芝新郷、谷塚、新田、安行、神根、戸塚、大門、野田、尾間木、三室、片山、新倉、白子、内間木、日進、三橋、大砂土、宮原、指扇、片柳、大久保、馬宮、植水、七里、春岡、大谷、大石、上平、小室、小針、加納、川田谷、石戸、馬室、中丸、常光、田間宮、箕田、小谷

蕨　町

本町は中山道の一驛、浦和市の南凡そ一里のところにあつて、縞木綿の産地として名高く、謂ゆる埼玉二子と稱へられてゐる。

蕨、塚越の二大字から成り、面積五・〇六平方粁、戸數一千六百餘、人口八千餘を有し、古くは關八州の旗頭澁川左衛門佐義行（後ちの蕨左衛門）居城の地、半農半商の町から機業へと轉じてゐる。役場は舊本陣跡で、明治大帝一夜の安在所にあてられてゐたが、今はその建物は取毀されたが由緒ある場所、蕨驛あり、會社銀行等の設けがある。蕨城址、八幡神社、八幡山公園、和樂備神社、前川觀音、三覺院の社寺名勝がある。

草　加　町

草加越ヶ谷千住のさきよ――小唄にうたはれた艶かしい町の姿をすてゝ、新しく再建した本町は、北草加、南草加、與左衛門新田、彌惣右衛門新田、庄左衛門新田、太郎左衛門新田、谷古寺、宿篠葉東立野、吉笹原、原島の大字に分れ、東武鐵道草加驛あり、越ヶ谷、鳩ヶ谷の兩町を始め八幡、八條の兩村をつなぐバスがあつて、交通極めて便利である。

面積六四二平方粁、戸數一千四百餘、人口三千五百餘を占め商工業六、農業四の割合を以て生業となし、米、蔬菜の産額多く、また鹽煎餅の本場として知られてゐる。

役場を大字北草加に置き、産業組合、區裁判所出張所、郵便局、銀行、會社支店等の設けを見、村社草加神社、回光院淨德寺、淨龍寺、眞藏寺、東福寺等の社寺がある。

鳩ヶ谷　町

當町は川口市より一里五町、蕨町より一里二十町、バスの便があり、交通よく開けてゐる。中山道の脇道、川口市より草加、岩槻方面に通ずる要衝に當る縣下有數の市街地で、面積六・四二平方粁、戸數一千五百餘、人口六千八百餘をかぞへ、昔時は川口を支配したもの。

今、行政區を鳩ヶ谷、浦寺、里、三ツ和、前田、辻に分け、役場を大字鳩ヶ谷に置き、區裁判所出張所、警察署などの官衙の設けがあり、主なる物産としては

米、麥がある。また附近は機業なかゝ盛である。

志　木　町

本町は浦和市を隔つる西南約二里のところに位置し、東武鐵道東上線志木驛があり、所澤、川越への定期バス、新河岸川による東京への水運の便もある。

面積三・〇八平方粁、戸數九百に近く人口四千三百餘をかぞへ、米、麥、甘藷南瓜、雨傘、織物、竹箒などを産し、商業また活潑、銀行支店の設けがある。

役場、區裁判出張所、郵便局、技藝學校、裁縫女學校があり、村社氷川神社、同牧島神社、實幢寺などがある。

大　和　田　町

大和田、北野、野比、西堀、菱澤の五大字から成る當町は、郡の南端に在り東京府北多摩郡に隣接する。志木驛へ約三十町、縣道縱横に通じて自動車の便が頗るよい。

面積は一三・八八平方粁あり、七百六十餘の戸數に、四千五百餘の人口をかぞへてゐる。主産物としては米、麥、繭があり、また針線、澤庵等も出してゐる。

役場を大字大和田に置き、平林寺の名刹に野火止めの舊址がある。

朝　霞　町

本町はもとの膝折村で、膝折、岡、溝沼、根岸臺が合して町制を敷き、今の町名を生んだもので、東武鐵道東上線朝霞驛があり川越市に至る。縣道通じ、自動車の便も極めてよい。役場を大字膝折に置く。

面積一〇・八〇平方粁を占め、戸數九百餘、人口五千餘を有し、米、麥、繭に牛蒡を産し、その他針線、伸銅、伸鐵等を出し、また輸出玩具、ゴム風船、笛なども産する。

大　宮　町

官幣大社氷川神社の所在地として著聞する本町は、浦和市の北に在つて、東北本線より高崎線の分岐するところであり且つ西に川越への電車及び、東に岩槻、粕壁を經て千葉縣野田町への電車もあつて、交通極めて圓滑、至便である。

面積六・九一平方粁、戸數六千餘、人口三萬餘を孕んだ彪大な町、鐵道省大宮工場をはじめ、製絲工場、種牛場、製藥場その他があり、銀行會社の設けあるなど縣下屈指の都會地である。米、麥、甘藷、菓子、油、綿織物、名物からし卷などを産する。

官幣大社氷川神社、氷川公園、鹽田山城址等、名勝史蹟に富んでゐる。

與　野　町

元半農半商を以て鳴つた本町は、機業

漸く盛大、米、繭、バスケット用柳等を主産物として、斷然面目一新の體制を整へてゐる。

與野外九大字から成り、面積八・三〇平方粁、戸數一千五百餘、人口八千餘をかぞへ、役場を大字與野に置き、與野驛があつて交通の便益を助ける。

街路兩側に櫻樹を並植して花時の賑かさを見せ、古木欝然たる與野公園があり傳統に富む「二度栗山」の名勝などがある。

平方町

高崎線上尾驛を距る一里十町、バスの便益などのある當町は、平方、西貝塚、上野、本郷、平方領家の舊五ケ村合併からなるもので、昭和三年十一月一日町制を實施、今日に及んでゐる。

面積五・六九平方粁、戸數約六百、人口三千五百餘人を有し、養蠶の旺んな地として名高く、麥に米なども産する。

役場を大字平方に置き、郵便局、銀行會社、商店などもある。

上尾町

昔は中山道上尾宿で知られた本町は、町村制實施と共に今の大字を合して町制を施いたもので、高崎線上尾驛があり、川越市、原市町へのバス繁く、交通極めて便である。

役場を大字上尾宿に置き、區裁判所出張所、郵便局、銀行支店、會社などの設けもある。

主なる産物としては大麥、甘藷、清酒があり、特産物に三保漬がある。

氷川鍬神社、遍照院の社寺があり、また上尾郷二賢堂碑も亦た名蹟として知られてゐる。

桶川町

本町は縣道縱横に走り、南埼玉郡菖蒲町行のバスがあり、極めて活氣に富んだ町で、役場を大字桶川に置き郵便局あり銀行支店、會社の設けもある。

町の物産としては大麥、甘藷、繭があり、その他富田織物も多く出してゐる。

足立遠光の館趾が名勝として知られてゐる。

鴻巣町

本町は大宮から高崎線によつて約三十分の距離にあり鴻巣、上生出塚、下生出塚の三大字に分れ、鴻巣に驛がある。

東の岩槻町と共に人形の製造によつて知られ、鴻巣人形は、遠く天正年間、京都伏見の人、この地に移り來て土偶の製作を始めたのに濫觴し、その後萬治、寛文の頃になつてから、土偶の製作のほかに小雛を製造するやうになつた。後、技術の進歩と共に練物をはじめ、次第に鴻巣雛の名聲を博するやうになつた。現在製造される主なるものは、雛人形、玩具

五月幟等で、東京を主に、關西から東北更に遠く臺灣までも販路を持つてゐる。

吹上町

銀行支店、會社などの設けのある本町は、郡の最西北端に在つて、高崎線吹上驛あり、熊谷市へ二里餘、忍町へ一里、松山町へ三里、何れもバスの往復ありて交通に便する。

吹上、榎戸、大芦の舊三ケ村の合併から成り、面積四・六七平方粁、戸數六百餘、人口三千五百を占め、米、麥、繭、生絲を主産物とする。

役場は大字吹上にあり、氷川神社、稲荷社、東曜寺、醫王寺、勝龍寺、龍光寺等の神社寺院がある。

原市町

奥州街道の一寒村に過ぎなかつた當町は、今は原市、瓦葺の二大字から成り、面積五・六四平方粁を占め、戸數五百六十餘、人口三千二百餘、役場を原市に置き、銀行支店あり、東北本線蓮田驛へ約一里、高崎線上尾驛へ約三十町、縣道貫通してバスの便あり、見違へるほどの活氣ある町となつた。

主なる産物としては米、麥、甘藷、繭等をかぞへる。

六辻村

本村は白幡、根岸、辻、沼影、文藏の五大字から成り、面積五五・一平方粁、戸數一千餘、人口五千餘を有し、浦和驛より約十八町、國道通じ、バスの便があり、交通至便である。

村民の多くは農を主業となしてゐるが故に、米、麥、蔬菜等を主なる産物としてゐる。

土合村

當村は浦和驛を距ること約二十町、バスの往復がある。大字西堀、關、南元宿田島、鹿手袋、榮和、新開、中島、道場山窪、町谷から成り、一〇・三六平方粁の面積を有し、約八百の戸數に、四千二百餘の人口を擁して米、麥、繭等を重要な産物となしてゐる。

田島原の櫻草に名を知られ、同地は史蹟名勝天然記念物に指定された。

美谷本村

米を第一の農産物とし、麥、繭これに次ぐ本村は、美女木、松本、新田、曲本内谷の舊五ケ村から成り、その面積七・三七平方粁、戸數四百九十餘、人口約三千を占める。

浦和驛を距る約一里十町、縣道通じ、バスがあり、美女木に役場を置く。

笹目村

本村は蕨町の西、美谷本村の南に在つて、西に荒川の流域を控へ、地勢概ね平坦ではあるが、低濕の地が多い。

下笹目、惣右衛門の二大字から成り、人口約千七百を占め、米、麥、繭などを産する。

役場を大字下笹目に置く。蕨驛へは五粁餘、川口市へは八粁、何れもバスの便がある。

戸田村

當村は舊上戸田、下戸田、新曾の三ケ村合併によつて生れたもので、面積八・八二平方粁を有し、戸數九百餘、人口五千餘人を有し、農を主なる生業とし、米麥、繭を産する。

蕨驛を距る約十五町國道走り、バスの便あり、妙顯寺の名刹がある。

芝村

本村は芝、小谷場、伊刈、柳崎の舊四ケ村が合して生れた。面積六・七一平方粁の地、七百餘の戸數に四千三百餘の人口を算し米と麥とを主なる産物とする。

蕨驛を距る十町ばかり、バスの便があり、役場を大字芝に置く。

臨濟宗長德寺は曾ては七十石餘の寺領を有した名ある古刹。

新郷村

當村は東京府に近く、東武鐵道草加驛より約三十町、バスの便があり、役場を大字東本郷に置く。

村を東本郷、赤井、蓮沼、江戸袋、大竹、赤貝塚、前野宿、峯新堀、榛松の九大字に分け、面積六・九九平方粁、戸數約一千四百、人口約七千、その多くは農を生業として米、麥、蔬菜を生産する。

峯ヶ岡神社、無線電話、放送所、新郷貝塚などがある。

谷塚村

上、中、下谷塚の三大字に、新古に瀬崎、新里、柳島、東遊間、市右衛門新田彦左衛門新田が加はつて一村となつた本村は、郡の南端に位し、東京市足立區に接する。

面積五・九七平方粁、六百餘の戸數、三千七百の人口を擁してその多くは農耕に從事、米、麥、蔬菜を主産物とする。

役場を下谷塚に置き、東武鐵道谷塚驛あり、松壽實業學校の設けがある。

新田村

東武鐵道新田驛の設けがあり、鐵道に並行して國道貫通、バスの便ある本村は九左衛門新田の外八大字から成り、各大字に新田の名の多いところから、今の村名が生れた。

面積六・四六平方粁、戸數四百五十餘

人口二千六百餘を占めて、米の産額最も大、繭の産もまた多い。

役場を大字九左衛門新田に置く。

安行村

果樹苗木の産地を以て全國的にその名を知られた當村は、原、慈林、安行、北谷、小山、苗塚、花栗、吉藏新田、藤八新田、領家の大字から成り、その面積は八・〇七平方粁、戸數五百七十餘、人口三千五百餘あり、役場を大字原に置く。

東武鐵道草加驛を距る一里、鳩ヶ谷町を距る約三十町、バスの便もある。

神根村

本村は鳩ヶ谷町に近く、安行、戸塚の兩村と共に果樹苗木を特産としてゐる。

神戸、木曾呂、石神、道合、赤芝新田、東内野、西新井宿、新井宿、赤山源左衛門新田、根岸、在家の十二大字から成り面積九・六一平方粁、戸數八百九十餘、人口五千五百餘、綿織物を産する。

役場を大字神戸に置き、赤山城址、赤山源長寺など世に知られてゐる。

戸塚村

當村は郡の東端に在つて戸塚、西立野長藏新田、藤兵衛新田、久左衛門新田の五大字から成り、面積五・五四平方粁、戸數約四百、人口二千二百餘あり、果樹苗木の外に米、麥を産する。

東武鐵道越ヶ谷驛より約一里、鳩ヶ谷町へ一里十町、それ〴〵バスの往復がある。

役場を大字戸塚に置く。

大門村

本村は舊大門、玄蕃、新田、間宮、着間北原、下野田の六ケ村から成り、面積七・三六平方粁、戸數四百七十餘、人口二千八百餘を有し、米、麥の産地、果樹苗木を特産物となしてゐる。

浦和市、越ヶ谷、大宮町に縣道通じ、バスの便よく、役場を大字大門に置き、郵便局、銀行などの設けもある。

野田村

當村は武州鐵道沿線に地を占め、鳩ヶ谷町を距る約二里十五町、バスの便極めてよい。代山、中野、田辻、大崎、上野田、寺山、高畑の大字から成り、面積六・六六平方粁、戸數四百六十餘、人口二千八百餘、米、麥の産地でありまた果樹苗木の特産地としても名高い。

役場を大字代山に置く。

尾間木村

本村は中尾、大牧、井沼方、大間木、下山口新田、蓮見新田の六大字の合併から成り、六・五九平方粁の面積を有し、

戸數四百七十餘、その人に約三千をかぞへ、米、麥、蔬菜等を産出する。
浦和市を距る約一里、縣道通じ、バスあり、交通の便に富み、役場を大字大牧に置いてある。

三室村

本村は東に荒川を隔てて野田村に對し西は木崎村を經て浦和市につゞき、浦和驛を距る約一里のところにある。
三室、道祖土の舊二ヶ村から成り、面積六・八六平方粁、戸數四百に近く、人口約二千五百をかぞへ、農業を主となすもの多く、麥を第一に次で米を産する。
役場を大字三室に置き、崇神天皇の御宇に創建した氷川女躰神社が有名。

片山村

本村は、郡の最南端に位し、東京府北多摩郡に接する。村内を縣道南北に縱貫し、車馬の便極めてよい。
面積は八・九八平方粁、戸數五百餘、人口三千餘を有し、米、麥、繭を産し、また針線を出してゐる。

新倉村

本村の東北端は荒川の下流に臨み、流れを隔てゝ美谷本村に對峙する。東武鐵道東上線朝霞驛に近く、南端に縣道通じて自動車の便がある。
面積四・一五平方粁、戸數四百五十餘人口二千五百餘を占めて米、麥、繭、牛蒡を産する。
名勝に午房山新羅王居の遺跡がある。

白子村

當村は郡の東南端に在つて、東京市に接續してゐる。白子、下新倉の二大字から成り、東武鐵道東上線成增驛に近く、縣道貫通して自動車の便もある。主要物産として米、麥、繭がある。
役場を大字白子に置き郵便局もある。名勝に白子の里がある。奈良朝の頃、新羅人の歸化した地であると傳へられる。

内間木村

當村は志木驛に近く、縣道村を走つて交通に便する。濱崎、上内間木、下内間木、宮戸、田島の五大字に分れて、面積八・一四平方粁を占めて戸數四百五十餘人口二千七百餘を有し、米、麥、甘藷、竹材を産し、竹箒の製産も多額に上つてゐる。
役場を大字濱崎に置き、村社三柱神社寶藏寺、三光院、普善寺の社寺がある。

日進村

役場を大字上加に置いて村民福祉のために鋭意してゐる當村は、大宮驛を距る約二十五町、交通の便頗るよく、鴨川貫

流して水運の利もある。
大字上加、下加、上内野、西内野、櫛引、西谷、大成の七大字からなり、面積七・四三平方粁、戸數一千餘、人口二千九百餘を有し、米、麥、繭を産する。

三橋村

當村は、並木、下内野、上小村田、下小村田、側ヶ谷の五大字からなり、面積六・〇二平方粁、戸數九百餘、人口約五千、米、麥、繭等を産する。
大宮驛を距る十八町、中央を川越大宮間の電車軌道通じ、また村内を貫流する鴨川があつて舟運に便する。
役場を大字並木に置く。

大砂土村

本村は大宮町に接し、同驛を距る約一里、大字土呂、今羽、西本郷、大和田、堀崎、島、砂から成る面積一〇・六平方粁の地、戸數六百八十餘、人口四千餘を擁し麥を第一とし、米これに次ぐの農産物があり、また繭、茶の産もある。
役場を大字土呂に置き、茶の製造販賣店もある。

宮原村

高崎線上尾驛を距ること約三十町、村の中央を國道南北に走る當村は、加茂宮吉野原、奈良瀬戸、大宮別所の舊四ヶ村から成り、役場を加茂宮に置く。
面積七平方粁、戸數五百五十餘、人口三千百餘人を有し、米、麥を産し、養蠶また盛旺にして、繭の産出も從つて多く梨の名産地でもある。

指扇村

大宮驛を距る一里、川越驛と距る事二里、バスの便のよい本村は、大字高木外九大字より成り、面積一〇・二七平方粁戸數七百餘、人口四千三百餘、米、麥、甘藷、蔬菜を多く産出する。
役場を大字高木に置き、秋葉神社、穂積神社、永昌寺、福正寺、清川寺などの社寺がある。

片柳村

大宮驛から約一里、縣道縱横に通じてバスの利便ある當村は、東新井、片柳外十大字から成る面積一〇・八七平方粁を有する地で、戸數約六百、人口四千餘、その多くは農業に就き、米、麥、蔬菜を産し、また大和薯の産地として特に名が高い。
役場が大字東新井にあり、中野農家組合の設けもある。

大久保村

荒川の流域を占めた當村は、川を隔てて入間郡に對し、大宮驛より約一里十五

町、縣道通じ船運の便もある。
大字五關の外に七大字に分れ、面積一〇・五平方粁、戸數六百餘、人口四千弱を有し、米、麥を產し、また蠶業極めて旺んである。
役場を大字五關に置く。

馬宮村

本村は荒川流域に在つて、川を距てゝ入間郡に對峙し、村の北端を川越大宮間の電車軌道通じ、且つ縣道あり、電車及びバスの便頗るよい。
大字西遊馬の外に五大字に分れ、面積八・五八平方粁、戸數五百餘、人口三千百餘あり、米、麥、蒟を主として產出する。
役場を大字西遊馬に置いてある。

植水村

中野林、水判土、佐知川、飯田、三條町、島根、植田谷本の舊七ヶ村の合併によつて、新たに生れた當村は、面積五・二六平方粁、戸數約五百、人口三千餘を占め、主として米を、次に麥、及び蒟を產する。
役場を大字中野林に置き、大宮驛を距る約一里、村の中央を縣道左右に走つて交通便、バスの往復もまた頻繁である。

七里村

當村は膝子、風渡野、大谷、東門前、猿ヶ谷戸、新境、東宮下の七大字よりなるところから、今の村名が生れたもので大宮驛を距る約一里十町、縣道三線、村の中央に於て交叉し、バスの便がよい。
面積七・〇八平方粁、戸數約五百、人口約三千、農を主業となして米、麥、蔬菜を產出する。
役場は大字膝子にある。

春岡村

郡の東南に在つて、綾瀨川を距てゝ南埼玉郡岩槻町に相對する本村は、東北本線蓮田驛へ約二十町、深作、丸ヶ崎、宮ヶ谷塔、小深作の大字に分れ、面積六・七四平方粁、戸數四百六十餘、その人口二千七百餘をかぞへ、米、麥、蒟、蔬菜の外に下駄表を產する。
役場を大字深作に置く。

大谷村

當村は上尾驛を距る約十五町、東北上尾町に接し、鴨川を隔てゝ宮原村と相對する。大谷本郷外九大字からなり、面積七・一六平方粁、戸數四百五十餘、人口約三千を占め、米、麥、蒟等の外に茶を產する。
役場は大字大谷本郷に置いてある。

大石村

本村は上尾驛を距る約二十五町のところに在つて、西南部は荒川を挾んで比企郡に對する。
村内に縣道通じ中分、小泉、石戸、領家畔吉、藤波、沖ノ上、小敷谷、中妻、辨財、井戸木の大字から成り、大字中分に役場を置く。
面積一二・二三平方粁、戸數七百五十戸餘、人口四千六百餘人で、麥の產額最も多く、米、蒟をも產する。

上平村

當村は上尾、桶川の兩町の中間にあつて、高崎線桶川驛を距る十八町、バスの便がある。
村は西門前外六大字からなり、その面積七・六七平方粁、戸數四百六十餘、人口三千餘、米、麥、蒟を產する。
役場は大字西門前に置く。

小室村

本村は東北本線蓮田驛を距る約二十五町のところにあつて、自動車の便頗るよい。面積九・三八平方粁、戸數約六百、人口三千七百餘、米、麥、蒟、甘藷、梨を產し、また、簞笥、大島織などの工產もある。
村社氷川神社の外に寺院一六、天理教會一がある。なほ、小貝戸貝塚の遺跡もある。

小針村

當村は郡の東端に在つて、綾瀨川を距てゝ南埼玉郡に相對してゐる。高崎線桶川驛を距る約一里、縣道あり、交通に便する。
羽貫、大針、小針新宿、小針内宿の舊四ヶ村からなり、面積五・五七平方粁、戸數四百餘、人口約二千五百、米、麥、蒟等を產する。
役場を大宿羽貫に置く。

加納村

本村は郡の東端に位し、綾瀨川を限界として南埼玉郡桶間村に對し、村の東端と南北とに通ずる縣道がある。
大字は坂田、五丁臺、加納、篠津、倉田、小針領家、倉人新田から成り、面積八・二八平方粁、戸數五百五十餘、人口三千五百餘を占め、米、麥、蒟を產す。
役場を大字坂田におく。

川田谷村

當村は桶川驛を距る約二十五町、荒川の東岸に在り、西は川を挾んで比企郡八ツ保村に對する。
面積一〇・四七平方粁、戸數六百七十餘、人口四千餘を有し、麥、蒟を最たる產物となし、米これに次ぐ。
泉福寺は名刹、慈覺大師の草創にかゝり、阿彌陀如來坐像一躰は國寶に指定さ

れてゐる。

石戸村

荒川に沿ひ近世は宿場として榮え、上石戸、下石戸に分れてそれ〴〵獨立の村をなしてゐたが、今は合して石戸村となつた。人口四千五百餘人を算し、農業が盛んである。戰國の頃には城塞が築かれしことあり、太田三樂がこれによつてしば〳〵北條氏と爭つた。

字堀の内にある石戸の蒲櫻は、馬琴の筆によつて有名になつたもので、天然記念物に指定されてゐる。幹は根本から四本に分れて、花は彼岸櫻に似る。

間室村

本村は鴻巣驛を隔つる約十八町、荒川の流域に在り、流れを挾んで比企郡東北兩吉見村に對峙す。

原馬室、瀧馬室の舊二ヶ村から成り、役場を原馬室に置き、面積六・七九平方粁、五百七十餘の戸數と三千二百餘の人口とを有し、麥、蒟、清酒を產する。

村社愛宕神社、同氷川神社、妙樂寺、常勝寺の社寺があり、また一里塚の名勝もある。

中丸村

當村は鴻巣、桶川の兩町間に挾まれ、鴻巣驛を距る約一里、國道と縣道とが通じ、またバスの便もある。

山中、北東宿、東間、宮内、深井、古市場、花ノ木、北中丸、常光別所の九大字からなり、面積九・〇七平方粁、戸數六百、人口約四千を算し、麥、米、蒟を主なる產物とする。

役場を大字山中におく。

常光村

本村は下谷、上谷、西中曾根、常光の舊四ヶ村合併によつて生れたもの、郡の東端に在つて、綾瀨川をへだてゝ南、北埼玉の兩郡に相對してゐる。

面積五・三八平方粁、戸數三百六十餘人口二千三百餘あり、米と麥と蒟とを產する。

役場を大字下谷におく。鴻巣驛へは約十八町。バスの便がある。

田間宮村

當村は鴻巣驛を距る約十八町、東は鴻巣町と箕田村とに接し、西は荒川の流水を挾んで比企郡北吉見村に對する。國道貫通し、バスあり、荒川の水運にも惠まれてゐる。

糠田、登戸、宮前、大門、北中野の大字からなり、面積五・六六平方粁、戸數四百餘、人口二千七百餘、米、麥、蒟を主產物とし、清酒の釀造もある。

役場を大字糠田におく。產婆看護婦學校の設けがあり、源經基の壘址がある。

箕田村

本村は高崎線の沿線を占め、鴻巣驛を距る約一里のところに在つて、自動車の便に富んでゐる。箕田、八幡田、寺谷、川面、市繩、三ッ木、中井の大字からなり、役場を箕田に置く。

面積六・八二平方粁、戸數五百餘、人口三千餘を占め、農を生業となして、米麥、蒟、を產する。

神社に箕田八幡宮がある。

小谷村

當村は郡の西北端に位し、荒川をへだてゝ比企郡北吉見村に對す。村の東端を高崎線走り、國道通じてバスの便もある

小谷外三大字に分れ、面積四・九七平方粁、戸數三百六十餘、人口二千三百餘を有して米、麥、蒟を產する。

役場を大字小谷におく。

工產の地

入間郡

北は比企郡に接し、東は北足立郡に隣り、南は東京府の北多摩郡及び西多摩郡と境を接し、西は秩父郡につらなる。

地勢西部は關東山脈に屬する丘陵が起伏するが、その他の地は平坦、高麗川、入間川が貫流して、郡の北境を流れる越邊川を合せて、末は荒川に入る。入間川は源を秩父郡に發し、上流を名栗川といひ成木川を合せ、黑須に至り北向し、川越市の北に至り越邊川に合してゐる。

本郡は武藏國の中央に位し、武藏野の景觀を留むるところで、麥、茶、甘藷、織物、繰糸等の產多く、產業上縣下有數の地である。

明治二十九年に舊入間郡に高麗郡及び比企郡の一部を合せて稱したもので、郡内に川越市を抱き、行政上、六町五十六ヶ村に分れ、人口は二十三萬五千餘人である。

町村名は次の如し。

町　入間川、飯能、所澤、豐岡、越生、坂戸

村　入間、原市場、日東、入西、堀兼、富岡、大井、大田、大家、奥富、川角、金子、柏原、霞ヶ關、加治、芳野、田面澤、高階、高萩、鶴瀨、鶴ヶ島、名細、南畑、名栗、宗岡、植木、梅園、山田、山根、山口、柳瀨、松井、福原、藤澤、福岡、古谷、小手指、高麗川、高麗、吾妻、吾野、三芳、水谷、南古谷、三芳野、三ヶ島、宮寺、水富、南高麗、東金子、東吾野、毛呂、元狹山、元加治、精明、勝呂

所澤町

本町は東京山手線の池袋驛から武藏野線で四十分にして到着する。東京市の上水道の設けある狹山丘陵を西南に見て、こゝにはわが國最古の陸軍飛行場が置かれてある。

所澤織物の名は古くからこの町を世に紹介し、こゝでは瓦斯縮、上布、風呂敷地、夜具地等の產多く、木綿織物中の高級品として優秀な生產を上げてゐる。中にも、所澤絣はその起原も古く、西方の久留米絣と相對して東に於ける紺絣織物界の重鎭をなしてゐる。年產七百萬圓、織物同業組合があつて斯業の發展に努力してゐる。

豐岡町

郡のほゞ中央部にして稍々南に偏し、北は入間川を隔てゝ水富村に境し、東は入間川町、東南は入間村、南は藤澤村、西は東金子村に接する。川越、所澤、青梅、八王子、坂戸、飯能への街道は町より發して四方に向ふ。川越市を去る三里半、入間川は北境にあり、霞川は町の中央を流れてこれに合す。茶、繭、織物の產あり、黑須、高倉、扇町屋、善藏新田の四大字に分れる。町の中心は扇町屋の繁華を主とする。

入間川町

川越市の西南に位し、入間川の右岸に沿ふ小市街である。古は武藏國多摩郡の國府から上野國への官道にあたり兼ねて鎌倉への要路であつた。元弘三年新田義貞が北條高時を鎌倉に攻めた時も、こゝで戰つた。人口八千二百有餘をかぞへ、小學校は高等科の併置ありて諸施設良好にして、學級二十四、學業成績は他の推稱す所である。

坂戸町

郡の北部に位し、北は越邊川を隔てゝ比企郡高根村に臨み、東は勝呂村、南は鶴島村、西は大家村及び高麗川を以て入西村に相對する。川越今宿街道と豐岡高坂街道とは町の中央に於て相交叉し、また桶川への街道は町の稍ゝ北部より東へ走つてゐる。川越市を距る二里半。地勢東南部は高臺にして、林畑多く西北部は一帶に低地にして水田が多い。市街地ではあるが、養蠶も行はれ、農も盛んにして、米、瓜、繭、蘭蓆の產出が多い。

越生町

郡の西北部に位し、北は比企郡明覺、龜井、今宿の三村に境し、東は川角村、南は毛呂村及び山根村、西は梅園村に隣接する。川越より來る街道と飯能より來る街道とは町の南に於て合し、更に町の中央に至つて二つに岐れ、一は小川町に一は西方梅園村に至る。川越市を去ること五里。地勢南北に山多く、中央越邊川の沿岸は平である。

町は附近數村の交易地にて、住民は農蠶を以て主なる生業とし、故に絹、生糸の產多く、越生絹の名は夙に廣く著はれてゐる。また澁團扇の產も尠なからず、世に知られてゐる。

飯能町

本町へは武藏野鐵道によつて東京山手線池袋驛から連絡があるが、昔は秩父盆地の大宮から江戸に出る捷路にあたり、宿驛として賑はつたものである。今ではこの地方の養蠶の中心をなし、生絹織物飯能銘仙の產地として世に知られ、秩父銘仙と共に、埼玉絹織物界の双璧をなしてゐる。

驛の西北方約一キロに當つて天覽山がある。この山はもと羅漢山と呼ばれてゐたが、明治天皇が特別大演習をこの地に於いて御統監遊ばされてから天覽山と名を改めた。眺望頗るよく、中腹にはお駒繋ぎの松及び御手植の松等がある。

芳野村

郡の東北部に位して、北は入間川を隔てゝ比企郡に對し東は古川によりて植木村に境し、南は古谷村、西は川越市及び山田村に連り、川越上尾街道の通路にあたる。村内一面の水田にして、村の南方に伊佐沼あり、周圍里餘、その一半は古谷村に入る。產業は殆ど農を主とし、米の產額が非常に多い。別に副業として僅かに漁業等を行ふものあり、川魚は大抵川越市に鬻がれる。近時養蠶の業に從ふ者もまた尠くない。

植木村

郡の東北隅に當り、川越市を去る一里ばかり、その四周を繞らすに河流を以てし、荒川東にあり、入間川は北にある。

地勢低平にして水田比較的少く、陸田が甚だ多い。また池沼少からず屏風沼、淵ノ上、淵ノ下等あるも水利を缺く。川越上尾街道は村内を走り、北は比企郡出丸村に、東は北足立郡平方村に、西南は郡内芳野古谷兩村に連る。物產は麥、米、豆等にして、戶數に於て郡中の小村である。

古谷村

郡の東北部の一村にして川越市の東につらなり、東は北足立郡に接し、北は植木、芳野二村に境し、南は南古谷村に隣する。荒川は東部を流れ、伊佐沼及び九十川は西境にあり、古川は北境にある。土地低平、水田相望み用水は伊佐沼より引く。但し荒川以東は土地稍々高く、陸田若くは雜草地が多い。物產は米を主とし、麥これに次ぐ。伊佐沼及び荒川よりは魚類を漁り得る。川越大宮街道は村内を横斷し、電車もこの道に沿うて走つてゐる。

南古谷村

郡の東隅に位し、東は荒川を以て北足立郡に境し北は古谷村、南は南畑村及び福岡村、西は高階村に隣接する。川越市

を去る一里餘、川越志木街道及び大宮所澤街道は村内に於て交叉する。

地勢一面の平地にして、九十川は村の西部を流れて西南境に不老川と會し、新河岸川となりて高階、福岡二村の境界をなす。地味肥沃にして水田多く、米麥の産あり、また若干の川魚を出す。

福岡村

郡の東部に位し、川越市の東南一里半のところにあり、北及び東は新河岸川を以て南古谷村及び南畑村に對し、南は鶴瀬村、西は大井、高階の二村に接壤する。大宮所澤間の街道は東北より斜に村内を走つてゐる。新河岸川は南古谷村より來て平野の間を屈曲緩流し沿岸は低濕にして水田多く、村の西半は高臺にして畑地が多い。米、麥、甘藷等の産あり、また若干の川魚を出す。大字は福島、中福島、福岡新田、駒林、川崎の五つに分れてある。

高階村

川越市の南一里餘のところに位し、東は南古谷村及び福岡村に隣り、南は大井村、西は福原村に連る。川越東京街道は村内を貫き、新河岸街道これより分岐する。その他新河岸、箱根ヶ崎、入間川、青梅、志木、所澤の各街道がある。不老川北境を流れ、東境の新河岸川には新河岸、寺尾河岸等の船着場があり、水運の利甚大である。一般に農業が行はれるが東京街道に沿うて商家軒を並べ、機業も行はれ、麥、甘藷その他野菜類の産に富み蠶絲、織物も多い。

大井村

郡の東部に位し、川越市を去る二里、北に高階村、東に福岡、鶴瀬の二村あり南は三芳村、西は福岡村に接壤する。川越東京街道、大宮所澤街道は村内に於て相交はる。土地概して高燥なれども、東方には往々窪地ありて、福岡鶴瀬地方の低地と相通ずる。籌、甘薯、瓜類、麥類の産あり、織物業及び養蠶業も近來頓に盛大である。殊に土地の名物たる籌の製造は文化文政の頃に始まり、大井籌の名は縣外にまで知られてゐる。

鶴瀬村

郡の東南部に位し、川越市を去る三里北は福岡村に、東は南畑村に、南は水谷村に、西は三芳村及び大井村に隣接し、大井村との境界は互に交錯突入し、複雜を極める。大井志木街道、南畑所澤街道は村内に於て交叉する。

土地東半は低濕にして水田多く、西半は高燥にして畑地に富む。鶴馬、勝瀬の二字に分れ米、麥、綿布を主産物とする

南畑村

郡の東南部に位し、川越市を去ること約三里、東は荒川を以て、北足立郡に境し、西は新河岸川を以て福岡、鶴瀬、水谷の三村に對し、北は南古谷村、南は宗岡村に連る。その地域狹長、兩河東西より壓するの感がある。

地勢平坦にして水田甚だ多く、川越志木街道は村内を縱貫し、別に南畑所澤街道、南畑大宮街道はこの地より起る。土地肥沃、米の産出を大宗とし、麥これに次ぐ。水害の恐れ大なるを以てその堤防工事は世に著名である。

水谷村

郡の東南隅に位し川越市を去る四里、郡内の小村で、北は鶴瀬村、東は南畑、宗岡の二村、西は三芳村、南は北足立郡志木町に接續する。柳瀬川南境を流れ、新河岸川は東境にあり、兩河の畔は土地低く水田多けれども、村の大半は高臺にして麥畝である。近來は養蠶業やうやく盛んにして、米、麥、豆のほか、生絲織物の産がある。大字は水子、針ヶ谷の二である。

宗岡村

南畑村の東南に連り、川越市を去る四里、荒川東を流れ、新河岸川及び柳瀬川は西を流れる。東及び南はすべて北足立郡に包まれ、西に水谷村がある。土地低平、水田に富む。米、麥及び織物の産あり。東西十八町、南北一里、川越志木街道は北より來つて志木浦和街道と連絡する。交通は志木若しくは浦和に出づるを以て便とする。古蹟に伊呂波樋があり、神社寺院も頗る多い。

三芳村

郡の東南隅にありて、川越市を去る西南二里の地に位し、北は大井村、東は鶴瀬、水谷の二村、南は北足立郡大和田町西は富岡、福原の兩村に連接する。川越東京街道は村の中央より稍々東部を縱貫し、南畑所澤街道は東西に走つてこれと交叉する。村の東境に柳瀬川あり、その沿岸に水田開けるほかは概して高燥である。農を以て主要なる生業となし、甘藷麥、その他の菜穀、製茶を以て重要産物とする。

柳瀬村

郡の東南隅に位し、西は松井村及び富岡村に接し、北は三芳村に隣り、東は北足立郡大和田町にして、南は東京府北多摩郡清瀬村である。縣道大和田所澤線に沿ひ東西一里五町、南北一里内外あり、坂之下、城、本郷、龜ヶ谷、日比田、南永井の六大字より成る。柳瀬川は村の南境をかぎり、支流谷戸川が村内を流れるこの沿岸を除いては、他は大抵高燥、麥圃菜園相連り、麥、甘藷、米、瓜類、豆類の産多く、製茶、繭、織物、釀造等も

尠くない。

松井村

所澤町の東に隣接し、北は富岡村、東は柳瀬村に接し、西南は吾妻村、南は柳瀬川を隔てゝ東京府北多摩郡と境する。大和田所澤街道は村内を貫き、川越鐵道は西境を去る。土地概して高燥にして畔地及び雜木林多く、柳瀬川沿岸狹長の地域に僅に水田を見る。甘藷、茶、麥、生糸の產あり、また笊の製造盛にして安松笊の名は昔から知られる。所澤陸軍飛行場の地は大部分本村内にかゝる。

富岡村

所澤町の北に連り、小手指、三ケ島、入間、堀兼、福原、三芳、柳瀬、松井の諸村がその東北西を圍繞する。土地概ね高燥平坦、丘陵なく、水流もない。たゞ一時の雨水を通ずべき溝渠三ケ島より來り村の中央以東に至つて消えてゐる。畑地多く森林これに次ぎ、麥、茶、甘藷を以て主なる物產とする。川越鐵道は村の西北部を通過し、川越所澤街道、豐岡所澤街道、大宮所澤街道は何れも村内を通つて所澤町に向ふ。

山口村

郡内南隅の一村にして、北は三ケ島、小手指の二村、東は吾妻村、南は東京府北多摩郡、西は宮寺村に接して、東西に甚だ長く、南北短く、所澤五日市街道は村内を走つてゐる。地勢北西南はすべて丘陵に包まれ、東の一方が平地である。丘間狹長、邑居開け、田園がつらなる。而して柳瀬川は、その丘間を西より東に流れる。農業、林業、工業等行はれ、織物、絣、麥、柿を主產物とする。往古は武藏七黨の內の村山黨の一族たる山口氏の居住地にて、村名はこれに因りしものである。

吾妻村

郡の最南端に位する一村にして、北は小手指村及び所澤町、東は松井村、南は東京府北多摩、西は山口村に隣接する。所澤田無間の縣道は村内を走る。狹山の丘陵は南方に連り、柳瀬川はその北を流れてゐる。河の沿岸低くして水田あり、その北はまた高台にして畑地が多い。丘陵には雜木林がある。絣、織物、茶、甘藷等の產あるが、土地狹く、殖產に限りがある。古くは鎌倉街道の要衝に當り、開創すでに久しく、古戰場でもある。

小手指村

郡の南部に位し、北は富岡村、東は所澤町、南は吾妻村及び山口村、西は三ケ島村に隣接する。所澤豐岡街道、所澤青梅街道、所澤五日市街道は總て村内を通り、川越鐵道もまた東北部を通過する。

地勢南境に丘陵あり、長者峰を主峯とする。その他は一圓高平の原野である。小流二條あり、谷戸川は三ケ島より來て所澤に去り、砂利川は富岡村に入る。畑地多く、森林もあり、絣、茶、甘藷を主產物とする。

三ケ島村

郡内南部の一村にして、北は入間、藤澤二村、東は富岡、小手指兩村、南は山口村、西は宮寺村に接壤する。

縣道所澤青梅線及び豐岡所澤線は村内を走り、車馬の往來頻繁である。地勢南境に丘陵を控へ、村は北東に向つて漸次下向してゐるが、概して高平の原地である。林川は宮寺より來り藤澤に出で、また谷戸川は源を本村に發し東流してをる。

茶、繭、織物を主要物產とする。下田に古戰場あり、林には新田義宗陣地址がある。

宮寺村

所澤町の西二里、豐岡町の南一里半ばかりのところにあり、北は東金子村、東は藤澤、三ケ島、山の三村、南は東京府北多摩郡、西は元狹山村に境し、地形ほゞ長方形をなし、南北甚だ長く、東西は短い。狹山の丘陵は村の南部に連り、柳瀬川の一支流は丘の南より發し山口村に向つて流れる。製茶、織物、養蠶の業盛んにしてそれ〳〵產出するところ尠なからず、農產は麥を以て最とする。神社寺院及び舊蹟等多い。

元狹山村

郡内最南端の一村にして、北は東金子村、東は宮寺村、南は東京府北多摩郡、西は金子村の地に隣接する、豐岡八王子街道、所澤青梅街道、新河岸狹山街道等は村内を縱橫に走り交通頗る便利である村の南境には丘陵ありて高根山そびえ、その他は概して高平の原地であるが、西方は東方に比して稍々高い。不老川は南境の丘陵より發して東北に流れる。養蠶業が盛大にして、茶、綿布、絹糸の產も多い。

金子村

縣の南部に位する一村にして、北は加治、元加治の二村、東は東金子村、南は元狹山村、西は東京府に接壤する。豐岡青梅街道の通路に當り、南にはその舊道もある。川越市を去る五里、北は阿須山一帶の丘陵、南は高平の畑地にして中央に桂川が流れてゐる。製茶、養蠶の業が甚だ隆昌である。往古の金子鄕の地で廻國雜記に「里人のやせといふ名やほりかねの井に水なきを佗てすむらん」とあるは當地のことであるといふ。

東金子村

郡の中央より南部に當り、北は水富村東は豐岡町、東南は藤澤、宮寺の二村、西南は元狭山村、西は金子村、西北は元加治村の地に接し、豐岡青梅街道の沿線にして、南隅には豐岡八王寺街道も走つてゐる。入間川は北境の一部を流れ、霞川は青梅街道に沿うて流れる。阿須山の餘脈は村の西及び北に連り、愛宕山、乘鞍山、源氏峰等がある。産業は茶業、養蠶業、機織等が盛大で、農産は米を最とし、甘藷、豆類がこれに次ぐ。

藤澤村

豐岡町の東南、入間村の西南に接壤して、南は三ケ島村、西は宮寺、金子二村に境する。郡内小村の一にして、不老川及びこれに竝行する逃水川は西南より東北に向つて村内を貫く。人家の存するところは細流の附近で、土地稍々低い。所澤豐岡街道。入間元狭山街道は村内で交叉し、土質は腐植土を主とし、畑地、雜木林が多い。産物は茶及び織物を主とする。村の西部は入間野と稱し、建久四年源頼朝が追鳥狩を行つたところである。

入間村

入間川町の東南、豐岡町の東に接續して、東北は堀兼村、南は三ケ島村、西南は藤澤村に境する。新河岸二本木街道及び豐岡八王子街道村内を通る。土地概して高燥若干の高低あり、不老川は藤澤村より來る逃水川を併せて東北し堀兼村に入る。畑地及び雜木林が多い。農の外、機織、製茶の業大いに行はれる。古來歌に詠まれ詩に賦せられし堀兼井、逃水、月見野等の名所が尠くない。

堀兼村

郡の中央部に位する一村にして、福原村の西、富岡、入間二村の北、入間川町の東、奥富、日東兩村の南に位置する。川越市を去る三里、縣道は福原村より來て二つに岐れ、一は豐岡町に、一は入間村に入る。川越鐵道は村の西北部を通過する。土地些少の高低あるの外、概して高燥平坦にして、畑地及び森林が多い。野菜類、果實類、甘藷の栽培が盛んである。大字堀兼井は千載集、俊頼集、山家集等に詠まれた名所である。

福原村

川越市の西南大凡一里半のところにあてり東は高階、大井の二村、南は三芳、富岡の兩村、西は堀兼、日東の諸村に接し、些少の高低あるほか土地概して平坦。川越所澤街道、新河岸入間川街道、新河岸狭山街道は村内に於て相交り、不老川は堀兼より來り、同じく堀兼より來る窪ノ川と、東境に於て合流する。水田無く、畑地及び森林が多い。麥、茶、豆、甘藷等を主産物とし、野菜類も豐富に産

し、養蠶も盛んである。

奥富村

郡の中央に位し、東は日東、堀兼の二村、南は入間川町に接し、西は入間川を隔てゝ柏原村に對し、北は少しく入間川の彼岸に地域を有し霞ケ關村と隣する。川越市を去ること西南二里、川越鐵道と川越八王子街道は竝行して村の東南部を走つてゐる。東南は土地高燥にして畑地多く、西北は低地にして水田を主とする赤間川は入間川町より來りて、東北に流れる。養蠶、機業等近來盛んにして米穀に次ぐ産額を示してゐる。

日東村

郡の中央に位し、川越市を去ること西南へ一里半、東は大田村に境し、東南に福原村あり南は堀兼村、西は奥富村に連り、北は入間川を隔てゝ霞ケ關村に對する。地勢南東の一半は高臺にして畑地あり、西北の一半は低地にて水田が多い。土質高臺は輕鬆質埴土で、米、麥、甘藷蔬菜に適し、低地は砂質壤土及び粘土質壤土で、水田は稻、陸田は桑、茶、果樹等によろしい。米麥のほかに梨の特産がある。村の大きさ東西二十一町、南北十六町である。

大田村

川越市の西南端に接續し、北は田面澤村、東南は福原村、南は堀兼村、西南は日東村に連り、西北は入間川を隔てゝ霞ケ關村に對する。川越入間川街道は東北より西南に村内を貫き、川越鐵道は南大塚驛を設置する。土地東南の一半は高臺にして陸田若しくは森林多く、西北部は低地にして水田連り、小池が多い。全村農を主とし、米麥の産がある。池邊、豐田、豐田新田、大塚、大塚新田の五大字に分たれる。

田面澤村

川越市の西に連り、北は山田村、南は大田村、西は入間川を隔てゝ名細村及び霞ケ關村に境する郡内の小村にして、川越高麗街道、川越入間川街道が村内を通つてゐる。土地は東南少しく高臺に及ぶと雖も、村の殆ど全体は低濕なる水田地にして、地味肥えてゐる。赤間川は大田村より來り川越市に去る。産業は農を主とし、米麥の産あり、往々養魚養蠶等に從ふ者もある。今成、小室、小ケ谷、野田、野田新田の五大字に分れる。

山田村

郡の東北部の一村にして、入間川を隔てゝ北は比企郡伊草村に、西は名細村に對し、東は芳野村、南は川越市及び田面澤村に連る。川越松山街道、川越桶川街道、川越小川街道、川越越生街道はいづ

れも村内を走つてゐる。土地平坦にして水田多く、入間川より數條の用水を引く養蠶、養鶏等頻りに行はれ、米、麥、大豆、繭糸等の産がある。上寺山、寺山、山田、福田、府川、石田の六大字より成つてゐる。

三芳野村

郡の北部に位し、西北は勝呂村、西は鶴ヶ島、名細の二村に接し、東北は越邊川を隔てゝ比企郡に境する。川越高坂街道は南部を通り、川越まで僅かに一里半である。東北の一半は低地で、越邊川に沿ふて水田よく拓け西南の一半は高臺で殆ど森林または畑である。小畔川は東境を、飯盛川は北部を流れて共に越邊川に注ぐ。米、麥、豆の産あり、小畔川には妖怪の説話が傳へられる。

勝呂村

郡の最北端に位して、北は越邊川を隔てゝ比企郡に對し、東は三芳野村に連り南は鶴ヶ島村に、西は坂戸町に隣する。川越市を去る西北へ二里、同市から高坂へ行く街道と桶川坂戸街道は本村内で交錯する。南部は概して高く、北部は一般に低濕である。川は越邊川のほか飯盛川があり、合して三芳野村に入る。米、麥の産多く、養蠶も行はれる。住吉神社、勝呂神社、光勝寺址等がある。

入西村

本村は北淺羽、長岡、新堀、金田等の諸字より成り、坂戸町の西、高麗川と越邊川の中間にあり、新堀、善應寺、澤木竹内、小山等は、皆永祿役帳に載する村名である。道路發達して交通の便よく、産業また隆盛を極め、農業を以て第一とする。村内自治圓滑に行はれ、教育の實また大いに見るべきものあり、住民は概して勤勉質實の美風を有し、堅忍持久の精神に富む。生活改善の勵行等は他の範となるものがある。

大家村

森戸、四日市場、萱方、成願寺、厚川等の部落を合して成り、坂戸町の西南に隣り、高麗川は村内を流れて灌漑の便頗る良好であり、村民は農を以て生業としてゐる。

大字森戸には熊野神社あり、往古はささやかながら宿驛として榮えたところがある。萱方には成友の城跡と稱する古戰場あり、四日市場は古く月毎に四の日を以て市を立てた商業地である。

川角村

苦林、川角、大類、西戸、箕和田等の部落合して成り、坂戸町の西一里半、越邊川の南北に渉る村里である。

大字大類は兒玉黨の人なる大類行綱の

一族が土着して在名を名乘つたもの、古い時代から開拓されたところである。

大字苦林は越邊川の右岸にあり、善能寺に接してゐる。また大字西戸は越邊川の北岸にありて、昔は道祖土と書いた。箕輪田は西戸の西に並んでゐる。

毛呂村

川角村の西に隣り、桂木山に展開する村落である。法恩寺錄に、應永三十三年越生山城次郎入道宏秀の門族、忠秀が毛呂郷のうち四至を限りて曇秀律師に寄附せしことが見えてゐる。また東鑑には毛呂豐後守季光云々の記事があるところより見れば、本村は相當古くから開けた土地であることがわかる。住民は主として農耕を以て生業となし、從つて重要産物は農産品である。

山根村

大谷木、瀧之入、宿谷、葛貫、阿諏訪等の大字より成り、毛呂村の西にして、高麗村日和田山の北方にあたる。山谷分裂して形狀模し難し、大字瀧之入にある桂木山は、登り十五町餘、行基菩薩が東國巡錫の時、和州葛城山を擬して、この山を桂木山と名づけたといふ。大字阿諏訪には宿谷瀧があり、勝地として廣く知られる。大字葛貫は往昔葛貫大膳亮が居住せしところと傳へられる。

梅園村

津久根、龍谷、大滿、黑山の諸大字より成り、越生町の西につらなり、全く越邊川の水源なる山谷に居る。北に堂山ありて比企郡と界す。大字龍谷にある龍穩寺は、曹洞宗の名刹にして、殊に近世は江戸幕府の旨を奉じて、一派の大僧錄所となつたので、非常に著名であつた。住民は農を以て生業とし、林業及び養蠶も行はれる。小學校、青年團、軍人分會は共に成績良好である。

名細村

川越市の東方一里のところに位し、東は入間川を以て田面澤、山田二村に境して他は三芳野、鶴ヶ島、霞ヶ關の諸村に續いてゐる。小畔川は西南から東北へ流れて灌漑に便し土地は西高東低である。米麥のほか織物、生繭の産あり、柿を特産とする。川越、坂戸、越生へはそれぞれ街道通じて自動車を走らせる。大竹氏屋敷址、稚兒ヶ淵、京塚、西光寺趾等の名勝舊跡がある。

鶴ヶ島村

川越市を去る事三里弱、郡の中央より稍々北部に位し北は坂戸町及び勝呂村に東は三芳野、名細二村に、南は霞ヶ關、高萩の兩村に、西は高麗川村及び大家村に接壤する。川越越生街道と豐岡坂戸街

道とは村内に於て交叉する。土地概して高臺、たゞ小流の走るところわづかに低濕である。山林の樹木は伐りて薪炭とすべく、また製茶、織物の業も盛んである

高萩村

川越市を去る三里、郡のやゝ中央部にして少しく西寄りに位し、北は鶴ヶ島村に、東は霞ヶ關・柏原の二村に接し、南に水富、精明の兩村あり、西は高麗川村に連る。地形南北に長く東西に短く、郡内大村の一である。川越高麗街道、豐岡坂戸街道は村内に於て交錯する。南部に小さな丘陵あり、若干の高低あるが北部一帶は高平の原野である。雜木林多くして薪炭を出し、また製茶、織物の業も頻りに行はれる。

高麗川村

郡の中央より稍々西部に位し、大家、山根二村を北にし、高萩村を東にし、南に精明村への往還がある。木材、木炭、蒟を以て主要物とする。

高麗村

郡の西部にあたり、飯能町を南にし、東吾野村を西にし、山根村を西北に控へて東及び北には高麗川村がある。川越市を去る五里。高麗川は村のほゞ中央を曲折迂餘し、二十餘の小流北及び南より流れて悉くこれに注ぐ。日和田、物見、高佐須、山王峠の諸山あり、南に梅原峠、高根澤山等あり、土地概して高峻だが、東部には平地が見られる。山地多きを以て薪炭の産多く、養蠶も行はれ、柿、栗香魚等もとれる。

東吾野村

郡の西部に位し、川越市を去ること七里、北に梅園村あり山根村東北につゞき高麗村東にあり、南は飯能町及び原市場村と接してゐる。南と北に丘陵を控へ、吾野川はその間を縫つてゐる。森林多く溪流また少なからず、長澤川、虎秀川はその稍々大なるものである。畑は河畔の低地にある。秩父街道は吾野川に沿うて走り、飯能吾野間に自動車あり、西は高麗村につゞく。川越市を去る四里餘。川越高麗街道と飯能越生街道に沿ひ交通の便悪くない。西北部は丘陵甚だ迫り、富士山系の諸山岳あり、高麗川はその東を流れて大家村に出る。支流に宿谷川がある。織物、米、薪炭、茶の産が多い。陣屋跡、旗塚の舊趾がある。

霞ヶ關村

川越市の西南約二里のところに位し、北は名畑村、西は鶴ヶ島、高萩兩村、南は柏原村に連り、東は入間川を隔てゝ田面澤、大田、日東の三村に相對する、中央に小畔川流れる。入間、小畔兩河の沿

岸は低地で水田があるがその他は概して高く畑地または林地である。西南林中に能登池あり、幽邃森閑たる勝地である。川越高麗街道は村の中央を走り、自動車の往來がある。織物、薪炭は本村の重要物産である。

柏原村

郡の中央部に位して、東は入間川を隔てゝ奥富村に對し、北西南は霞ヶ關、高萩、水富の諸村に連り東南の一角わづかに入間川町に接壤する。村の西北部は高臺にして、東南部は低地である。高臺には林畑多く低地は水田に富む。入間川町より毛呂村に赴く街道は村内を貫く。米製茶、織物等を産し、柿は本村の特産である。南北朝時代には鎌倉街道の要地にて水富村境に所謂霞ヶ關の趾がある。

水富村

郡の中央に位する一村にして、東は入間川を隔てゝ入間川町と隣りし、北は柏原、高萩の二村、西は精明、元加治の兩村、南は入間川を以て豐岡町及び東金子村と境する。川越市を去る四里である。村の西北部は高臺で、東南入間川に沿ふ地方は低地である。入間川は村の南及び東を圍繞し、河床高くして地盤比較的低きが故に堤防を設け、また水流の利用が盛んに行はれる。水富村の名は偶然ではないのである。米、麥、蒟、斜子織、木綿織物、醬油、砂利、鮎の産がある。

元加治村

郡の稍々西南部に位し、北は精明村、東は水富村、南は東金子村及び金子村、西は加治村に連る。村の南に阿須の丘陵あり、北部に高臺を有し、中央は入間川の流域である。畑地多く山林も乏しからずたゞ水田が少い。織物業、養蠶業が盛で、農業以上の觀あり、從つて織物、生蒟の産多く、麥、米これに次ぎ、鮎は入間川の名物である。元、加治氏の居地なりし故、元加治村と名づけたといふ。神社寺院等舊蹟頗る多い。

加治村

郡の西南隅にあり、飯能町、精明村を北にし元加治村を東にし、南高麗村を西にして、南は金子村及び東京府の地に境する。名栗川は西北より、成木川は西南より來り、村の中央に於て合して入間川となり東流する。西部及び南部は一帶に丘陵連り高尾根山、琴平山、秣場山がある。中央及び東部は低地で水田が擴がる斜子織、茶、麥の産多く、入間川飯能街道は北境を走つてゐる。

精明村

郡の中央より稍々西南に位し、北は高麗、高麗川、高萩の三村、東は水富村、

南は元加治、加治の二村、西は飯能町に接する。入間川飯能街道は南境を走り、飯能越生街道は西部を通過する。川越市を去る五里。地勢西北部は丘陵で、中央小畔川の沿岸に帶の如くに水田がある。その他は村内一圓高平にして畑地または森林で掩はれる。製茶、織物の業が隆盛である。

原市場村

郡の西南隅に位し、北は東吾野村、東は飯能町、東南は南高麗村、南は東京府西多摩郡、西は秩父郡の地に隣接する。飯能名栗街道は村内を走り、車馬の便がある。秩父山脈は西より來て村の南西北を圍み、河流には名栗川、中藤川等がある。産業は農業を主とするも林業、養蠶等も行はれ、木材、木炭及び繭を主要物産としてゐる。正保の頃までは中藤、赤澤、原市場の三つを合して、日影村と呼ばれてゐた。

南高麗村

郡の西南隅に位し、北は原市場村及び飯能町に、東は加治村に、南は東京府西多摩郡成木村他二ケ村に接す。東西に甚だ長く、南北に狹い。飯能青梅街道は村内を通り、交通の便益頗る多大である。西南北の三面は秩父山系の餘脈にて圍まれるため土地の高低甚だしく、平坦な所は稀で、西部は殊に一千尺以上に及んでゐる。しかし下畑より飯能への道路は四十餘間の隧道を以て急坂を除きしため車馬の往來に不便はない。岩井堂の奇景あり、主産物は木材とす。

名栗村

當村は古くから栗の名産地、狩獵地として知られ、田邊山脈に圍まれた盆地で東は原市場村、西は秩父郡浦山村、北は吾野村、南は山脈を隔てゝ東京府西多摩郡大丹波村に隣接する。

面積五八・七三平方粁、戸數約七百、人口三千五百餘、村民は農を以て生業となしてゐる。上、下名栗の二大字から成り、村社星宿神社、正覺寺、柏林寺、楞嚴寺、圓正寺、醫王寺等の社寺が村内にある。

吾野村

古くは、東吾野村と共に吾那郷と稱した。高麗川の水源をなして坂石、坂元、南川、北川等の諸部落を合せて成る山中の村である。

いつの頃よりか秩父郡に屬したが、後入間郡に移り今日に至つた。名栗村の北にして、飯能町を去ること三里、更に一里半正丸峠を以て分水嶺とする。峠を下り四里にして大宮郷に達する。産業は、山村なれば林業頗る盛んにして薪炭の産多く、また農業も、相當盛んに行はれてゐる。

農産首位の比企郡

當比企郡は東は北足立郡、西は秩父郡南は入間郡、北は大里郡に接壤し、都幾川、市野川の二流域の山野を元として荒川並に越邊川に至る地を占めてゐる。その面積三二八・二九平方粁に跨り、こゝに擁する町村は二ケ町、二十六ケ村をかぞへる。

産業の上から見た本郡は、何といつても農業を首位に、工業これに次ぎ、その他の統計を示してゐる。

古くは横見郡と入間郡との間の狹地を比企郡と稱したもので、中世の頃には豪族比企氏こゝに臨み、後、南方、北方に分れ、また上比企、下比企と稱したとも傳へられる。明治二十九年本郡に横見郡（植木村は入間郡に編入さる）を併合して、今日に及んでゐる。次に町村名を擧げる。

町村 松山、小川 大岡、福田、宮前、唐子、菅谷、七郷、八和田、竹澤、大河、平、明覺、玉川、亀井、今宿、高坂、野本、中山 伊草、三保谷、出丸、八ツ保、小見野 東吉見、南吉見、西吉見、北吉見

松山町

七百年前の昔を偲ばせる名勝舊蹟に富んだ本町は、鎌倉時代武藏武士が鎌倉への往還に必ず通つたといふことから、當時既に繁昌を見せたに違ひない。松山、野田、市ノ川、東平の四大字から成り、面積一二・四六平方粁、戸數二千餘、人口一萬餘を有し、古くから商況の活潑な町で、米その他雜穀の集散多く、米、麥繭、清酒、建具、雨傘等を産し、また銅器の特産がある。

役場を大字松山に置き東武鐵道東上線松山驛あり、その他區裁判所出張所、警察署、税務署、郵便局、蠶業取締支所、縣立中學、松山實科高女、銀行、會社などがある。

縣社箭弓神社、岩殿觀音、松山城址、近くには有名な吉見の百穴等、名勝舊蹟に乏しくない。

小川町

當町は郡の西部に在つて、秩父連山の支脈、淺間山、錦勝山など四邊に起伏し都幾川の碧流、町の南方に四時淙々たる響きを絶たない。謂はゆる山紫水明の地である。

大塚、小川、角山、下里の舊四ケ村から成りその面積は一〇・八四平方粁、戸數一千六百餘、人口約八千を占めて製紙絹織物の業が極めて旺盛である。建具、蠶種原紙、清酒、醬油、製麺、製材、鹽せんべい等を産する。

役場を大字大塚に置き、區裁判所出張所、警察署、郵便局等縣立高等女學校、工場、銀行、會社、東武鐵道東上線小川驛、があり、縣道左右に馳せて交通甚だ

便である。
村社八幡神社、外三社、東昌寺、大梅寺、外に四寺あり、僧仙覺の遺跡、また守邦親王御墓もある。

大岡村

本村は松山驛を距る約一里、郡の北部に在り熊谷市に通ずる縣道の便がある。岡郷、大谷の二大字に分れ、面積一〇・五八平方粁、戸數四百餘、人口二千五百餘、米、麥、繭を主産物とする。
役場を大字岡郷に置く。

福田村

福田、和泉、山田、土鹽、菅田の五大字から成る當村は松山驛を隔てる約一里半、縣道もある。
面積一四・四八平方粁、戸數五百七十餘、人口三千五百餘を有し、米、麥、繭を産する。
役場は大字福田に在り、泉福寺の名刹もあり、木像阿彌陀如來の坐像は國寶に指定されてゐる。

宮前村

本村は松山驛を距る約一里のところに在り、中尾、羽尾、水房、伊古、月輪の五大字に分れ、一四・四五平方粁の面積を有し戸數六百餘、人口約四千を擁してゐる。主産物としては米、麥、繭をかぞへる。
役場を大字中尾に置き、伊古乃速御玉姫神社がある。

唐子村

柿の産地で知られる當村は、松山驛を距る約三十町、下唐子、上唐子、葛袋、神戸、石橋の舊五ケ村の合併から成り、面積一五・〇一平方粁、戸數七百餘、人口四千二百餘をかぞへ、米、麥、繭を産する。
役場は大字下唐子にある。

菅谷村

本村は菅谷、平澤、志賀、千平堂、大藏、鎌形、根岸、將軍澤、遠山の九大字に分れ、その面積一五・九二平方粁、戸數七百餘、人口は四餘、米、麥、繭を主なる産物とする。
東武鐵道東上線菅谷驛あり、役場を大字菅谷に置く。
畠山重忠の菅谷館址及び、帶刀義賢の墓もある。

七郷村

當村は南は菅谷村、北は大里郡に接して菅谷驛より約半里、小川町へは一里餘で達する。自動車の便がある。
吉田、太郎丸、杉山、廣野、越畑、勝田、古里の七部落に分れてゐるが、村名

もこゝから起つてゐる。面積一四・一一平方粁、戸數五百八十餘、人口三千五百餘を占め、米、麥、繭を多く産する。
役場を大字吉田に置く。

八和田村

本村は上横田外七大字から成り、郡の西北部に位し、大里郡男衾村に接する。面積一三・二〇平方粁、戸數六百餘、人口三千七百餘を有し、米、麥、繭、木炭を主として産出する。小川驛を距る一里七町、自動車の便があり、役場を大字上横田に置く。村社八和田神社、四津山神社などがある。

竹澤村

當村は小川驛を距る約二十五町、郡の西端部に位し、大里郡折原村外二ケ村に接續する。木部、原川、笠原、靱負、勝呂、木呂子の大字に分れ、面積一一・五五平方粁、戸數四百餘、人口二千五百、麥と繭とを産し、また除蟲菊製劑も旺んであり、各種加工紙、紙張、蠶具をも出してゐる。
役場を大字木部に置き、竹澤水囊業組合の設けがある。

大河村

本村は郡の西端部に在つて、地勢は概ね丘陵山岳を以て充たされてゐる。大字腰越、上古寺、下古寺、青山、增尾、飯田から成り、面積二三・七二平方粁、戸數一千餘、人口約六千を有し、米、麥、繭、林産を出し、また建具の製造も盛大である。
小川驛へは約十町、役場を大字腰越に置く。

平村

郡の最南端に在つて、西南は秩父、入間の兩郡に隣りしてゐる當村は、小川驛に約二里、自動車の便があり、西平、渡野、雲河原の三大字に分れ、役場を大字西平に置く。
面積一四・〇二平方粁、戸數四百餘、人口二千三百餘を占め、麥と繭とを主なる産物とする。
名刹慈光寺が世に聞えてゐる。

明覺村

本村は郡の西南端に位置し、松山驛を距る約三里半、また小川驛へは約一里半あり、共に自動車の便がある。
桃ノ木の外に八大字あり、面積九・〇九平方粁を占め、五百餘の戸數に、三千餘の人口を擁してゐる。米、麥、繭を産出する。
役場を大字桃ノ木に置く。

玉川村

當村は郡の西南部に在つて明覺、平、大河の三村に接續する。玉川、日影、五明、田黒の四大字から成り、面積一四・六一平方粁、戸數約六百、人口約四千を有し、米、麥、繭を主として產する。

役場を大字玉川に置き、郵便局がある松山驛へ約三里、小川驛へは約一里半、自動車の便がある。

亀井村

本村は郡の南端に在つて、入間郡越生町に隣接してゐる。泉井、高ノ倉、熊井須江、竹本、奥田、大橋の舊七ヶ村の合併から成り、面積一三・一三平方粁、戸數四百餘、人口二千五百餘、松山驛を距る約四里、自動車の便がある。

役場を大字泉井に置き、主なる產物としては米、麥、繭がある。

今宿村

東武鐵道東上線坂戸驛を距る約一里十五町に在る當村は、石坂、赤沼、今宿、小用、大豆戸の大字に分れ、面積一三・六五平方粁、戸數四百餘、人口一千三百餘をかぞへ、米、麥、繭などを產する。

役場を大字赤沼に置く。

高坂村

本村は高坂、正代、早俣、毛塚、宮鼻田木、岩殿、西本宿の八大字から成り、その面積一四・一四平方粁を占め、戸數八百八十餘、人口約五千を算する。

松山驛を距る約一里十町、自動車の便があり、米、麥、繭を主要產物とする。役場を大字赤坂に置く。

岩殿觀音のある正法寺があり、その背後にある物見山は關八州を圍繞せる連山を遠望する。

野本村

當村は松山驛を隔つる約三十町、自動車の便があり。大字下野本、上野本、柏崎、今泉、古凍、下膏島、上押乘、下押乘に分れ、面積一二・六八平方粁、戸數九百餘、人口五千餘を有し、役場を大字下野本に置き、米、麥、繭を主なる產物とする。

中山村

役場を大字戸守に置き、區裁判所出張所、郵便局のある本村は、川越市を距る約二里、松山町へは約一里半、何れも自動車の便がある。

戸守、吹塚、中山、南園部、北園部、長樂、正直の大字から成つて面積七・九九平方粁を有し、その戸數五百餘、人口約三千をかぞへ、主產物に米、麥、繭などがある。

伊草村

伊原宿、上伊原、下伊原、安塚、角泉飯島の舊六ヶ村合して生れた當村は、面積に於て四・九七平方粁、戸數に於て約

四百、人口に於て二千二百餘を算し、米麥、繭を產する。

川越市を距る約一里十町、松山驛へ約三里、自動車通じて交通の便を助ける。

役場は大字伊草宿にある。

三保谷村

本村は川越市を距る約一里半、自動車の便がある。

宮前、平沼、白井沼、上谿、下谿、新堀、釘無、紫竹、吉原、表の大字に分れ面積六・八三平方粁、戸數四百五十餘、人口二千七百餘あり、米麥、繭を主として產する。

役場を大字宮前に置き、古刹廣德寺があり、また源平合戰の鍬引で有名な三保谷十郎の墓がある。

出丸村

當村は郡の最東端に在つて荒川に面し南端は入間郡につゞいてゐる。上大屋敷下大屋敷、出丸中郷、同出丸、出丸本、西谷、曲師の大字から成り、面積七・一六平方粁、戸數四百餘、人口二千五百餘を占めて米、麥、繭を產する。

役場を大字上大屋敷に置き、川越市へ一里强、自動車の便がある。

八ッ保村

本村は松山驛を距る約二里半のところに在り、畑中、下八ッ林、三保宿谷、上八ッ林、牛ヶ谷戸、山ヶ谷戸の大字から成つて面積六・三六平方粁、戸數四百六十餘、人口二千七百餘を占めてゐる。

役場を大字畑中に置き、主なる產物としては米、麥、繭などがある。

小見野村

當村は上小見野、下小見野、谷中、加胡、梅ノ木、松永、虫塚、鳥羽井、一本木、鳥羽井新田、東大塚の舊十一ヶ村合併から成り、面積八・五二平方粁、戸數五百餘、人口三千餘を有する。

川越市を距る約二里半、松山町へは約二里、共に自動車の便よく、役場を大字谷中に置き、米、麥、繭を產する農本位の村である。

東吉見村

荒川の流れに臨み、米、麥、繭、蜂蜜蜜蠟を產する本村は、松山町へ約一里二十町、村内を縣道通過して自動車の便がある。

大和田、上銀谷、古名、谷口、蚊計谷飯島新田、萬光寺、下銀谷、久保田新田江和井、須ノ子新田、高尾新田、荒子古名新田、蓮沼新田、丸貫、北下砂の大字にわかれ、面積九・五三平方粁、戸數六百五十餘、人口三千五百餘あり、役場を大字大和田に置く。

南吉見村

當村は東、西兩吉見村の間に在り、松

山驛を距る一里十町ほどのところに在り久保田、江綱、下細谷、前河内、大串の五大字に分れ、面積七・七〇平方粁、戸數五百五十餘、人口三千百餘、米、麥蒟を主産物とする。

役場を大字久保田に置き、郵便局の設けがある。

西吉見村

本村は東は南北吉見の兩村に接し、西は松山町につゞき、松山驛を距る約十八町、自動車の便がある。

北吉見、長谷、南吉見、御所黒岩、久米田、和名、田中、山ノ下の大字に分れ役場を大字北吉見に置く。面積一二・〇九平方粁を占め、戸數六百七十餘、人口三千餘を有し、米に麥に蒟を主なる産物とする。伊波比神社、横見神社、高負彦根神社、安樂寺の社寺があり、また岩窟ホテル、吉見の百穴などの名勝が近くにある。

北吉見村

地頭方、一ツ木、中新井、中曾根、上砂、本澤、上細谷、今泉、小新井、松崎明秋の大字から成る當村は、東北は荒川の流域に對し、他は東、西、南吉見の三村に接續する。

面積九・三九平方粁、戸數三百六十餘人口約二千を有し、主として米、麥、蒟を産する。

松山驛を距る一里半、役場を大字地頭方に置く。

林業に富む 秩父郡

縣の西部一帶の地を占め四面皆山岳を以て繞らされその内部に秩父盆地あり、荒川、赤平川の二大水系によつて貫流される。郡の東方は、大里、比企、入間の三郡に接し、北方竝に西北方は兒玉郡及び群馬縣多野郡に連り、南方より西方に かけては高山峻嶺綿々蜿蜒として東京府西多摩郡、山梨縣北都留郡、同縣東山梨郡、長野縣南佐久郡との分水界をなす。東西約十一里、南北約八里、面積六十二方里九五にして、縣全面積の四分の一强を占め、縣下第一の大郡である。

全郡を分ち四ケ町二十八ケ村とする。即ち次の通りである。

町　秩父、皆野、吉田、小鹿野

村　横瀬、芦ヶ久保、高篠、原谷、三澤、白鳥、樋口、野上、國神、金澤、矢納、日野澤、大田、尾田蒔、長若、上吉田、倉尾、三田川、兩神、大滝、白川、中川、久那、浦山、影森、大淵、槻川、大河原

本郡に於ける田畑は全面積の百分の六で一萬一千二百五十町歩に過ぎず、主要農産物は米、麥、大豆、玉蜀黍、甘藷、馬鈴薯等で、蒟及び蠶種の製造も多い。本郡は天與の林業地にして、一般造林、特に杉扁柏の植栽に適し、生育良好なること、奈良縣吉野地方、靜岡縣天龍川地

方に劣らない。工業は織物を以て第一とし、生絲、玉絲、眞綿の製造これに次ぎ酒、醬油、和紙の産も少なくない。

秩父町

本町は秩父一帶の大中心地にして、西へ縣道に沿ふて小鹿坂峠を越せば小鹿野町へ達する。人口約二萬あり、延喜式の式内社秩父神社があり、古來大宮郷といはれたが、明治二十二年大宮町と改められ、大正十五年一月再び秩父町と改稱された。毎週二回、水曜日と土曜日に市が開かれ、水曜の方を本市といつてゐる。さすが秩父一帶の中心地だけあつて、市の立つ日には四方から人が集つて來る。大正十三年には南方浦山川の派流、橋立澤から疏水して水道が完成され、やうやく水の不足から免れることが出來た。また秩父銘仙の産地として知られ、荒川はその西方を走つてゐる。町の形態は寄居吉田、小鹿野等と同じく街村の進化したものであるが、その程度は前記諸町よりも遙かに大である。

皆野町

郡の東北にあり、東南は蓑山を以て三澤村に境し、南は原谷村に接し、西及び北は荒川を隔てゝ尾田蒔村、大田村、國神村に對し、東北は三澤川を以て白鳥村に境する。

秩父熊谷間の縣道は村内を走り、自動車を通じて交通の便良好である。中古は大濱郷武光ノ庄に屬した。正親町天皇の永祿十二年、武田信玄が龍谷城を攻撃した古戰場があり、神社寺院も多い。

吉田町

郡西北部の大邑にして、東は國神村及び大田村に境し、南は小鹿野町につらなつて西は上吉田村に接し、北は日野澤村につゞき、大字に下吉田、阿熊、久長の三に分れる。町の周圍は多くは山脈を以て包圍せられ、僅に南方より東方へかけての一小部分が稍々開け、こゝに縣道を通じ車馬の往來頻繁である。主要河流は赤平、吉田の二川で市街地を形成せる部分はこの流域によつて發達したものである。椋神社、大伴部少歳の歌碑、秩父家邸址等の舊蹟がある。

小鹿野町

秩父町より西方二里餘のところに在りその間に小鹿坂峠の山脈を隔てる。東は大田村に隣接し、南は長若、白川の二村に連り、西は兩神、三田川の二村に、北は下吉田村、上吉田村に境する。本郡西部の都邑にして物貨集散の中心をなし商業殷盛である。

王朝時代には巨香郷と稱せられた所にして武家時代には大字下小鹿野は矢畑庄に、大字伊豆黒澤は武光庄に屬した。郷社小鹿神社があり、郷民の崇敬をあつめ

てゐる。また寺院には十輪寺、鳳林寺、雲龍寺等がある。

横瀬村

秩父町の東方にあり、東は芦ヶ久保村南は浦山村及び入間郡の名栗村に境し、西南は影森村に、北は高篠村に隣る。當村の南方より東方にかけては武甲山並にその支脈を以て圍繞せられ、中央より西部並に北部にかけては平坦にして田圃接續する。武甲山は山容雄偉本縣第一の名山である。横瀬川、生川などが村内を流れる。

中古武光ノ庄に屬し、江戸時代には忍藩主阿部氏より繼ぎて松平氏の領であつた。神社には御嶽神社あり、寺院には光正寺、東養寺、滿光院、大忠院ほか七ヶ寺がある。根古屋城址、古御嶽城址も著名である。

芦ヶ久保村

郡の東南にあり、東は大椚村及び入間郡吾野村に境し、南は同郡名栗村に西は横瀬村につらなり、北は高篠村に境する四而山岳をめぐらし、二子山は西方に峙ちて横瀬村を限り、丸山は北方村境にあり、正丸峠は東方にありて秩父町と入間郡飯能町とを連絡する要路にあたる。

枕の瀧は横瀬川の上流にあり、世にこれを瀧の枕と呼ぶ。高さ四丈五尺、幅一丈三尺、奇岩怪石の間に屈曲奔流し、奇景いふべからずである。

高篠村

秩父町の東北に在り、東は大椚村に、東北は槻川村につらなり、北は三澤村に接し、南は芦ヶ久保村及び横瀬村につゞき、大字に栃谷、山田、宮峯の三がある東部の一帶は山岳相連り、西方は田圃が開けてゐる。横瀬川は南方横瀬村より來り、西北流して原谷村に入る。

武家時代には三大字共に恒持ノ庄に屬し、德川幕府の頃は代官の支配を受けた村内に光明寺、妙圓寺の古刹あり、本村造林事業の成績は特に顯著である。

原谷村

秩父町の北方に位し、東は高篠、三澤の二村に隣り、西は荒川を隔てゝ尾田蒔村に對し、北は皆野町につらなる。東方一帶は山岳相連り、西方は稍々平坦である。横瀬川は村を西北に流れて荒川に入り、川の南方は大字大野原にして北方は大字黑谷である。

聖神社、瑞岩寺等あり、舊蹟として著名なるは大字黑谷なる和銅呈瑞の地である。城址には諏訪城址及び城山がある。

三澤村

皆野町の東南に位し、東は槻川村に境し、西は原谷村及び皆野町につゞき、北は山岳丘陵錯綜して白鳥村に境する。平

地は三澤川の兩岸に僅かに見られるだけで、村内は丘陵頗る多い。秩父町と比企郡小川町を連絡する道路は村内を走る。

中古は白鳥庄に屬し、德川のはじめ代官の支配を受け、寛文三年忍藩主阿部氏の領となつた。龍谷城址は村の北端字茗荷澤にあり、用土新左衛門の居城址なりと傳へられる。

白鳥村

郡の東北部にあり、荒川の南岸に位する東北は荒川を隔てゝ大里郡寄居町に、東は同郡折原村に、東南は槻川村に、南は三澤村に、西南は皆野町に接し、北より西にかけては荒川を隔てゝ樋口、野上の二村と對し、金屋、岩田、井戸、風布下田野の五大字より成る。地形は東北より西南に長く、村内山岳蟠屈し平地は山間並に荒川沿岸に極く少しあるばかりである。釜伏神社、法善寺は夙に人口に膾炙し、城址に天神山城あり、名勝に古井梅が井がある。

樋口村

郡の東北端にあり、東南は大里郡寄居町につゞき、東北は兒玉郡大里村に、北は同郡秋平村に、西北は同郡本泉村に接し、南は荒川を隔てゝ白鳥村に對し、西南は溪流を以て野上村と境する。大字に矢野瀬、野上下郷の二がある。西北部は山岳を負ひ、南方荒川の沿岸に田圃が開けてゐる。著名なる山岳には京山、榎峠間瀬峠等があり、郡の咽喉を扼し交通の便よく、虎ヶ岡城址、仲山城址、天道大日如來碑等の舊蹟がある。

野上村

郡の東北部にあり、東は荒川を隔てゝ白鳥村に相對し、北は樋口村に、西北は兒玉郡本泉村に、西は金澤村に接し、南は國神村につらなる。本野上、中野上、藤谷淵の三大字より成る。寶登山は村の西北に峙立し、南方荒川の沿岸は平坦にして田畑よく開けてゐる。

奇勝長瀞は本村本野上から對岸白鳥村にかけたる一里餘の總稱にて、百尺の斷崖は屏風を立てたるが如く、河流瀞をなして紺碧に深み、天下の奇勝たるに恥ぢない。

國神村

秩父盆地の北端に位し、東北は野上村に接して大字金崎は名勝長瀞に臨み、西北に日野澤村、西に下吉田村あり南方一帶は赤平川及び荒川を隔てゝ大田、皆野白鳥の町村と際する。村の北方には山岳多く保土山、十二天山、社宮山、破風山等はその著しきもので、十二天山は喬松繁茂し頂上よりの遠望絶佳である。

破風山は大字野巻の西北に屹立し、中古の貢馬の牧場はこの山麓にあつたと傳へられる。

金澤村

郡の北方兒玉郡との境界にあり、東は野上村に、東南は國神村に、南は日野澤村に、西は矢納村及び兒玉郡若泉村に接し、北は同郡本泉村につらなる。村内一般に丘陵多く、西方は城峯山の餘脈を受け土地高峻である。秩父、兒玉兩町を連絡する道路は本村を南北に貫通する。中古は白鳥庄に屬し、江戸時代末期には旗本榊原主計の知行所であつた。神社には萩神社あり、寺院には西福寺、西光寺ほか二ケ寺がある。

矢納村

郡の北部にあり、北は神流川を隔てゝ群馬縣多野郡美原村に對し、東は兒玉郡若泉村及び本郡金澤村に、南は日野澤村に、西は上吉田村に境する。城峯山は村の南方に屹立し、從つて南は高峻にして北方に至るに從ひ次第に低下する。この地勢の關係よりして本村は物資の供給を群馬縣鬼石町に仰ぐことが多い。神流川兩岸並に中流に奇石多く、世に賞翫する所の三波石は即ちこれである。日本武尊の創建にかゝる城峯神社は、夙に世に有名である。

日野澤村

郡の北部に位置を占め、東南は國神村に、北は金澤村及び矢納村につらなり、西は上吉田村に、南は下吉田村に接し、大字に上日野澤、下日野澤がある。城峯山の餘脈を受けて西北部は一般に高く、東南部に至るに從つて次第に低下する。大字下日野澤に日野澤あり、別稱を下空瀧、秩父華嚴瀧などと呼ばれる。高さ三丈、堂々の響き四邊を壓してゐる。

神社には日野澤大神社あり、寺院は大通院のほかに四ヶ寺、舊跡に高松城址がある。

尾田蒔村

秩父町及び原谷村の西方に位し、荒川を隔てゝ相對する。東北の一隅は荒川によりて皆野町に接し、西より南にかけて大田、長若の二村に隣る。蒔田、寺尾、田村の三大字より成る。地形東西に狹く南北に長く、村の中央を南北に走る丘陵により東西兩部に分たれる。

中古は三大字ともに武光ノ庄に屬した江戸時代には領主轉々として相移つた。椋神社、諏訪神社、圓福寺などの社寺あり、勝地に小鹿坂峠がある。同峠は秩父小鹿野間を連絡する捷路にして、登攀六町餘にして頂上に達し、顧れば秩父町は脚下にあり、武甲山は突兀として前面に横はる。

長若村

小鹿野町の東南にあり、東は尾田蒔村

及び久那村に境し、南は中川、白川の二村につゞき、西及び北は小鹿野町に連り大字は長留、般若の二つである。四周山脈連亙して平地少なく、長留川はその間を流れて赤平川に入る。武家時代、大字長留は武光庄に、大字般若は矢畑庄に屬した。般若は往時半谷と記したこともある。日本武神社、法性寺、常光院、寶藏院ほか七ケ寺あり、般若には歸化人羊太夫の墓がある。

大田村

下吉田村の東方にあり、東北は荒川を隔てゝ皆野町に對し、東より南にかけて尾田蒔村に隣り、西は小鹿野町及び下吉田村につらなり、北は國神村に接し、大田、伊古田、品澤、堀坂、小柱の五大字より成る。

東南は丘陵相連り、西北赤平川の沿岸は平坦にして田圃よく開けてゐる。住民は一般に醇朴勤勉の美風あり、社寺には熊野神社、諏訪神社、大林寺、天幸院、寶勝寺その他が知られる。

上吉田村

吉田町の西北に位し、東北は矢納村に東は日野澤村及び下吉田村に接續し、西は倉尾村、南は小鹿野町並に三田川村に隣り北に群馬縣多野郡の美原、神川の二村がある。地勢一般に高峻にして、北部には山岳連亙し、次第に南東に走り、その間少しばかりの平地を吉田川及び石間川の流域に見る。城峰山は里人俗に城山と呼び、平將門の弟將平の城址なりといはれる。城峯神社、石間戸神社、龍泉寺正藏坊ほか一社十三ケ寺がある。

倉尾村

郡の西北隅にあり、東は上吉田村に、南は三田川村に接し、西方竝に北方は群馬縣多野郡中里村に境する。

四面みな山岳を以て包圍せられ、他町村に出づるには必ず峠を上下しなければならない村内も平地殆ど少なく、耕地は皆傾斜して坂をなし、吉田川はこの間を流れ上吉田村に入る。武家時代は矢畑庄に屬し、江戸時代には變遷甚だしく、その末期には平岡丹波守、松平因幡守等に領有された。

三田川村

小鹿野町の西方にあり、北は倉尾村に南は大瀧、兩神の二村に、東北は上吉田村に接し、西は群馬縣多野郡中里村及び同上野村に連る。地勢東西に長く、小鹿野町との境界より群馬縣境まで凡そ六里に及ぶ。三田川は村を西より東に流れ、その兩岸に狹少の平地を存しその他は山岳丘陵起伏する。

八幡神社の例祭日たる十二月十五日には、遠近の信徒群集し、神輿の渡御あり賑殷をきはめ、鐵砲祭と稱して空砲を盛

んに發射する。

兩神村

郡の西部にあり、東は小鹿野町に接し東南は白川村に境し、南より西にかけて大瀧村につらなり、北は三田川村に隣接する。

西南北の三面は高山峻嶺を以て圍まれ村内また山巒多く、薄川、小森川の沿岸に僅少の平地があるに過ぎない。兩神山は村の西端にそびえ、頂上に伊弉諾尊、伊弉冉尊を奉祀せるより山名が起つた。丸神瀧は三段の落瀑となり、景趣最も奇絶である。法養寺、藥師堂、鹽澤城址も名所として知られる。

大瀧村

郡の西南部にあり、東は中川村に、東北は白川村に、北は兩神、三田川の二村に接し、南は山岳を以て東京府西多摩郡氷川村及び山梨縣北都留郡丹波山村につづき、西は長野縣南佐久郡川上村に隣り西北には群馬縣多野郡上野村がある。

面積は、約二三方里の大村にして、本郡面積の三分の一弱にあたり、比企、兒玉、大里、北埼玉、南埼玉、北葛飾の各郡よりも廣大である。しかし村内到るところ高岳峻峰連亙し、平地は殆ど無い。

瀑布には清淨瀧、不動瀧ほか四瀑あり萬年橋、大輪橋、三峯神社、諏訪神社、竈三柱神社、大陽寺、圓通寺、栃木關所址、平賀源内採鑛の　など名所舊蹟が頗る多い。

白川村

郡の西南にあり、東南は中川村に接し西南は大瀧村に隣り、東北は長若村に境し、北は小鹿野町に、西北は兩神村に連る。村の四圍は群峯簇立し、荒川は西方大瀧村より來り東流して中川村に入り、その兩岸に僅少なる平地を存するに過ぎない。

白久、贄川の二大字より成り、中古兩字共に武光庄に屬した。秩父三十番の札所たる法雲寺をはじめ、神社二、寺院七がある。

中川村

郡の西南に位し、北は長村及び久那村に接し、東は影森、浦山の二村に、西は白川、大瀧の兩村に連り、南は東京府西多摩郡氷川村に境する。久那、上田野、日野、小野原の四大字より成り、天目山の山脈は南方より、矢嶽の山脈は東方より入り來り、村内に丘陵の起伏が多い。殊に日野に於て甚だしく、この一帶を總稱して川浦山といふ。蝉笹山は日野の西南にあり、この邊霧深くして雨多く、村民はこれを日野、田野の日和雨と稱す。安谷橋、荒川橋、熊倉山城址等の名勝は夙に世に知られ、遊覽客の杖を曳くものが多い。

久那村

秩父町の西南にあり、東は影森村に接し、西は長若村につらなり、西南より南にかけて中川村と境する。

中古武光ノ庄に屬し、江戸時代には忍藩主阿部氏、同松平氏の領地となつた。一時は中川村に屬してその一大字たりしことあるも、荒川その中央を貫流し萬事に不便多かつたので、その北岸一帶が明治三十六年獨立して久那村と稱したのである。

神社には葛城大神社、寺院には秩父第二十五番の札所たる久昌寺ほか、五ヶ寺がある。

浦山村

武甲山の裏にあたり、浦山川が村の中央を流れてゐる。村の面積は大きいけれども人家はその數少なく、全部で三百戸足らずである。

山懐の急斜面の日照の惡いところに點點散村型をなして居り、水田は樂にしたくとも無く、僅かの畑が急斜面に耕されてゐるだけである。

住民は主として炭燒をなし、盆地の中心地秩父町からさう遠くもない地であるが、その生活は全く都人士の想像の外である。

影森村

秩父町の西南にあり、東南は武甲山を以て横瀬村に境し、南は浦山村に接し、西は中川村につらなり、西北は荒川を隔てゝ久那村に對し、上影森、下影森の二大字より成る。東南に山を負ひ、西北に至るに從つて次第に平坦で、里俗に本村名を以て「武甲山の影の森」なりとせるは全くその謂れなしではない。

明治三十八年六月、近衛留守師團の步兵部隊が、武甲山腹に實彈演習を行ひし時、故竹田宮殿下御見學のため台臨あらせられ、記念碑は下影森に建つてゐる。

大椚村

郡の東方に位置し、東は比企郡平村に接し、東南は入間郡梅園村に境し、南は同郡吾野村に、西は芦ヶ久保、高篠の二村に連り、北は槻川村及び比企郡大河村に境する。

村の西方に大野峠あり、南方に犠峠あり、北に堂平山あり、村内山岳蟠屈し、平地は少ない。

都幾川は源を村内に發し東流して比企郡に入る。縣道小川秩父線に沿うて交通の便よく、大津久城址、大野神社、正藏院の舊蹟がある。

槻川村

郡の東部に在り、東は大河原村及び比企郡大河村に境し、南は大椚村に接し、

西は高篠、三澤の二村に連り、北は白鳥村及び大里郡折原村と地を交へる。村内到るところに山巒起伏し、笠山は本村竝びに比企郡に跨り、觀音山は頂上に高さ六丈餘の巨岩直立し、その狀觀音に酷似し、里人之を中山の觀音と稱し參拜する者が多い。不動瀧（七瀧不動）宗閑寺、大日岩窟等の名勝がある。

大河原村

郡の東端に位し、東及び南は比企郡大河村に、北は同郡竹澤村及び大里郡折原村に隣接し、西に槻川村がある。村の北方並に西南方は山岳重疊すれども、中央槻川の沿岸は稍々平坦にして田圃よく拓け、農耕蠶桑の業に適する。

槻川の河流大字奥澤にヤモト、關場の二堰あり、大字御堂に浦山、宮地の二堰あり、共に灌漑用に供される。上品寺、淨蓮寺、安戸城址等は廣く人々の知るところである。

農耕第一の兒玉郡

本郡は縣の西北隅に位置し、東は丘陵と身馴川とによつて大里郡に接し、西は神流川を挾んで群馬縣多野郡の諸村に隣り、南は山嶺を以て秩父郡に境し、北は利根川と烏川とによつて群馬縣佐波郡の諸村に接する。その面積は一八四・三七平方粁を有する。

南部は丘陵性の峯巒重疊し、陳見山を主峰として東西に連亙し、その地勢は南方山地より北方利根川に向つて傾斜をなし、謂ゆる武藏野の一部をなしてゐる。山地と平野とに分ち得べきも、南方地附近から岐れる數條の小隆起があつて丘陵豪地を起し身馴川、志度川、小山川などを通ずる。產物としては、農產を第一位に、畜產、林產、鑛產、水產、工產の順に出してゐる。

本郡は和名抄に「古太萬」と誌し、昔時は賀美、那珂、榛澤を通じて兒玉と總稱せしものゝ如く武藏七黨の一たる兒玉黨の武威を揮つた地として世に名高い。今、二町十八ケ村に分れてゐる。

町　本庄、兒玉

村　藤田、仁平、旭、北泉、東兒玉、共和、金屋、青柳、若泉、本泉、神保原、賀美、七本木、長幡、丹莊、秋平、松久、大澤

本庄町

北武藏の名邑、その昔は若泉の庄と稱して、秩父、上州地方への往還の衝に當つた本町は、商業の中心地、とりわけ生糸、繭の賣買の旺盛なること縣下第一を以て鳴る。

高崎線本庄驛あり、兒玉町へは電車、深谷町へは汽車、自動車の便があつて、交通極めて圓滑。

本庄城址は、今は僅がにから堀、木丸

の址を遺してゐるが、曾ては當國兒玉黨の嫡流は代々庄氏を稱して武威を北武藏に誇つたもの、惜しや永祿十年北條氏のために敗れて落城、天正十八年以來は小笠原氏の居城に歸し、天和に至つて廢城となつたといふ。

兒玉町

郡名を生んだ本町は、昔時當國七黨の一兒玉黨の在住した由緒ある地、郡の西南部に在つて本庄町へは電車通じ、交通便、今も川越市より上州に至る一驛邑として賑ひ、商工の中心地をなしてゐる。

兒玉、八幡山の二大字から成り、面積四・二二平方粁、戶數一千百餘を突破して、人口五千餘をかぞへる。米、麥、繭の集散が極めて多い。

役場を大字兒玉に置き、縣立中學校、高等女學校、區裁判所出張所、稅務署、警察署、郵便局等の所在地であり、その他養鷄組合、製絲工場、會社などの設立を見る。

縣社八幡神社、玉蓮寺、實相寺、法養寺、玉藏寺、長福寺、淨眼寺の社寺があり、また兒玉城址、八幡山陣屋跡の名勝がある。

藤田村

本村は本庄驛を距る約一里、國道通じて自動車の便がある。大字牧西、鵜森、傍示堂、小和瀨、宮戶、瀧瀨に分れ、面積六・九二平方粁、戶數約七百、人口四千六百餘を占めて米、麥、繭、蠶種を產する。

役場を大字牧西に置きて、村社稻荷神社、八幡神社、濱瀨神社、淺間神社、圓滿寺、長光寺、利益寺、寶泉寺等の社寺がある。

仁平村

當村は本庄町の北に位置し、久々宇、田中の舊二ケ村を合せて一村となし、面積五平方粁を占め、約四百に近い戶數と二千五百餘の人口とがあり、特に繭の產地である。

役場を大字仁平に置き、村社諏訪神社外三社がある。

旭村

本村は本庄驛を隔つる約十八町、舊七ケ村に今の小島、郡島、山王堂、杉山、沼和田、新井、下野堂の大字を合してなつたもので、面積七・四六平方粁、戶數六百五十餘、人口三千七百餘をかぞへ、米、麥、繭を主產物とする。

役場を大字郡島に置く。村社唐鈴神社外五社がある。

北泉村

本庄驛を東南に距る約十八町、身馴川と九郷川とを南北に帶び、志度川と村の

東部に於て相合する當村は、又自動車の便を占め、北堀、東五十子、西五十子、東富田、西富田、栗崎、四方田の舊七ケ村を合し、面積八・一六平方粁を占め、戸數六百餘、人口三千七百餘あり、主として米、麥、蒟を生産する。役場を大字北堀に置き、村社若泉稲荷神社をはじめ十一社がある。

東兒玉村

本村は兒玉町の東方に在つて、約一里十町を隔て、自動車の便がある。面積一一・一五平方粁あり、戸數八百餘、人口約五千を擁し、米、麥、蒟などを主なる産物とする。

役場を大字阿那志に置く。村社河輪神社その他がある。

共和村

當村は本庄、兒玉の兩町間に位置して電氣軌道の沿線に在り、自動車の便がある。今井、入淺見、下淺見、蛭川、上眞下、下眞下、吉田林、高關の舊八ケ村が合同したもの、面積一〇・一八平方粁、戸數六百六十餘、人口四千餘を占め、米麥、蒟を産する。

役場を大字蛭川に置き、村社駒形神社同八幡神社、同金鑚神社、その他が鎮座する。

金屋村

本村は金屋または金谷と稱して古くから開けた地で、面積一二・七四平方粁を占め、戸數七百餘、人口約四千ありて、米、麥、蒟の外に瓦の特産物がある。

役場を大字金屋に置く。村社御靈稲荷神社の外に六社を有する。

大字保木野は塙保己一の誕生地で、附近には「塙先生百年祭記念碑」と、明治十九年建設の墓碑がある。

青柳村

本庄驛を距る約三里、兒玉町を隔てる約一里十八町、自動車の便ある當村は、西は神流川を挾んで群馬縣に對峙する。

面積八・一九平方粁、戸數五百餘、人口約三千を占めて生糸、蒟、百合等を産する。役場を大字二ノ宮に置き、村立圖書館がある。

官幣中社金鑚神社、村社八幡神社、同守神社、同御靈神社、同白岩神社、普照寺、泉德寺、光顯寺の社寺がある。

若泉村

昔、若泉の庄の一部で若泉村の名ある本村は、神流川の東岸にある渡瀬、上、下河久原の舊三ケ村が合同したもの、面積一五・七五平方粁、戸數四百餘人口約二千五百を占めてゐる。兒玉町を距る約三里、縣道通じ自動車の便もある。

役場を大字下阿久原に置き、郵便局の設けもある。主産物は麥と蒟。

村社丹生神社の外に三村社がある。

本泉村

當村は秩父郡に連り、南するに從つて地形漸く丘陵高地となり、身馴川の水源をなし、全く峽谷の中にある。

太駄、河内、元田、稲澤の大字にあり面積一五・七五平方粁、戸數四百餘、人口約二千五百、蒟を産する。役場を大字河内に置き、郵便局の設けもある。

村社金鑚神社の他三村社が鎮座する。

神保原村

本村は忍保の庄と稱した名邑で、北は利根川上流に臨み、地勢平坦、米、麥、蒟等を産する。

石神、忍保、八町河原の三大字からなり、面積四・九五平方粁、戸數五百五十餘、人口三千餘を占める。

高崎線神保原驛あり、本庄町へ一里餘、群馬縣新町へ一里十町、共に電車自動車の便がある。

役場を大字石神に置き、縣社今城青坂稲實池上神社の外に村社二、善臺寺、陽雲寺がある。

賀美村

勅使河原、黛、金久保、毘沙土の舊四ケ村の合併からなる當村は、中山道本庄町、群馬縣新町の間にあたり、本庄驛を距る一里二十町、國道通じ、自動車の便がある。

面積七・五六平方粁あり、五百五十餘の戸數と三千餘の人口とを有し、主なる産物として麥、蒟をかぞへる。

役場は大字勅使河原にあり、村社金窪神社、同黛神社、同丹生神社、大光寺、陽雲寺の社寺がある。また金窪城址、畑時能の墓がある。

十本木村

本村は本庄町に接し、本庄驛を距る約一里、自動車の便がよい。面積九・二四平方粁、戸數六百餘、人口三千五百餘、米、麥、蒟などを主として産する。

役場を大字七本木に置く。

村社七本木神社、同嘉美神社、同諏訪神社、同熊野神社がある。

長幡村

當村は舊加美郡藤木戸、帶刀、長廣、五明、大御堂が合して生れたもので、面積一一・七四平方粁、戸數七百六十餘、人口四千六百餘を有し、本庄驛へ一里二十町、兒玉町へ一里十町、自動車の便があり、米、麥、蒟を主なる物産とする。

役場を大字藤木戸に置く。

縣社菅原神社あり、ほかに村社五社がある。

丹莊村

本庄は郡の西部に在り、神流川の流域を隔てゝ群馬縣に接してゐる。本庄驛を距る約一里二十五町、自動車の便よく、米、麥、蒟、桑苗、梨及びその果實などを產する。

面積一一・七四平方粁、その戶數七百六十餘、人口四千七百餘を占めてゐる。役場を大字植竹に置く。

村立圖書館あり、會社があり、又鄕社廣野大神社並に村社六、寺院七がある。

秋平村

當村は郡の南に在つて秋山、小平の舊二ケ村から成り、東南は松久、大澤の二村に、南は陣見山、小平山の山脈連亙して秩父郡に境し、西は本泉村、北は身馴川を挾んで兒玉町と金屋村に接する。

面積一二・四三平方粁を有し、戶數四百五十餘、人口二千七百餘をかぞへ、米と麥とを產する。

役場を大字秋山に置く。村社天神社、同石神社、同河原神社がある。

松久村

本村は兒玉町を距る約一里十町、自動車の便あり、舊那珂郡の廣木、中里、弱衣、甘粕、古郡、木部の合併から成り、面積一〇・二五平方粁、戶數六百餘、人口三千六百餘を算し米、麥、蒟の外に福壽草の特產がある。

役場を大字木部に置く。縣社瓦生神社の外に村社四、

三業の中に向へる曝井の絕えず通はむそこに妻もがで知られる曝井の跡があり、今も溢水涓涓として盡きるを知らない。

大澤村

當村は舊那珂郡の白石、猪俣、圓良田の三ケ村からなり、秩父鐵道寄居驛を距る約一里、自動車の便がある。

面積一・二二五平方粁、戶數約五百、人口三千餘を有し、木炭、百合根、福壽草を特產物とする。役場を大字白石に置く。村立圖書館の設けを見る。

村社二柱神社、同東大澤神社、同西大澤神社、高臺院、普門寺、觀藏院、その他の寺院があり、猪俣範賴の城址及び墓白石播摩守の城址などもある。

織物も旺んな 北埼玉郡

本縣の北東部に位し、北は大部分利根川を挾んで群馬縣邑樂郡に相對し、一部分は栃木縣都賀郡と隣り、東はわづかに茨城縣猿島郡と接してゐる。東南は北葛飾郡及び南埼玉郡と交はり、南西に北足立郡あり、西は大里郡と境する。

地勢荒川と利根川の間の沖積層の地帶を占め、郡內山なく、一望豐沃な耕地にして田畑大いに開けてゐる。水利の便よく灌漑もまた至便である。土質は肥沃にして農作物の栽培に適し、農產物は本郡の主要物產であるが、また綿織物の產も極めて多い。

鐵道は、東武電車が東南より來つて郡を橫斷して群馬縣に入り、秩父鐵道の電車は、東武鐵道羽生驛より起つて信越線と連絡する。道路は文字通りの四通八達にして、至るところに自動車を通じ交通の利便頗る大である。人口十五萬七千餘人。分ちて五町四十三ケ村とす。

町村 羽生、忍、加須、不動岡、騎西、井泉、岩瀨、原道、星宮、星河、利島、豐野、中條、太田、大桑、太井、大越、川俣、川邊、笠原、高柳、田ケ谷、種足、長野、中島、禮羽、村君、屈巢、元和、共和、南河原、三田ケ谷、三俣、水澤、新鄕、志多見、下忍、廣田、細遣川、東、持田、須加、須影、手子林、荒木、北河原、埼玉、鴻巢

忍町

本町は行田、佐間、忍の三大字よりなり、忍町と呼ぶより行田といつた方が一般に知られてゐる。羽生町の西約六キロの地に位し、電車の便がある。

行田足袋の製造を以て知られるが、その起原は、貞享の頃、二三の當業者が職工を使用し、また舊忍藩の士卒の家族につて、大きな工場組織によつて大量に生產するものは比較的少く、二百戶餘りの製造家が附近の農村から約三千人の男女工を集めて小規模に製造してゐる。年產七千萬足、縣下有數の產業である。字には白子、常光、新田、芝、新鄕がある。

羽生町

忍町の東北二里二十餘町の地點に位して、所謂羽生領の首邑であつた。東は井泉村に接し、西は岩瀨村に、南は須影村に、北は川俣村に續いてゐる。東武鐵道に沿うてゐる一驛であつて、また秩父鐵道がこゝより起つて忍町の方へ走つてゐる。面積三方粁九八。當町には警察署、郵便局等の外北埼玉實業學校、登記所を始めとし銀行、會社多數がある。近接各地へ自動車の便が通じてゐる。また商業と共に農業も極めて盛んで、加須町と共に青縞製產の一中心地であり、その他運動用ボール、靴のゴム踵、足袋底等の產がある。利根川畔の風致區に羽生城址があつて、榮盛の昔を忍ばせてゐる。

加須町

本町は北西の羽生町とともに古くから本場青縞の產地として名高く、年三百三十萬圓に餘る產額をあげてゐる。由來、當地域は草棉及び葉藍の栽培に適して居り、原料の自給自足によつて農家の副業

として盛に青縞の製織が行はれた。後、紡織業の發達に伴つて染色に大なる改善が加へられ、實用一點張りとして藍染を主とし、光澤の優美と地質の堅牢とを最大の特色にしてゐる。

東武鐵道の沿線にあたり、久喜驛までは僅かに十分で着く。行政上、町内を加須、久下の二大區に分つ。

騎西町

騎西はまた私市に作る。四邊は、古利根、元荒川等の灌漑する所、農産多くその集散地でもある。町の東方鴻巣村に私市城址がある。戰國の頃小田氏の據つた所といはれる。また近世騎西領といつたのは、騎西町及びその附近一帶の稱である。人口は約二千五百人をかぞへる。

不動岡町

加須町の北西に隣接する町で、東は三俣村につゞき、南西は禮羽村に、西より北へかけては手子林村に、北東は中島村に境界を交へる。面積は五方粁六一。明治初年の頃比口町と呼稱せられて繁華をした。町には不動岡中學校、圖書館、郵便局等がある。米、麥、繭、鷄卵、綿織物を主要産物となし、住民の金融機關として銀行支店のほか信用組合がある。また、この地は鯉幟製造が盛んである。稻荷神社、八幡神社を始め神社寺院頗る多く、不動明王を本尊とする總願寺は、附近に櫻花、花菖蒲の名所を有し、參詣の客多く、靈驗また顯著と傳へられる。

中條村

郡の最西端に位し、往時利根川が交通の主要路であつた頃は、東海よりの船舶の泊り場として廻船問屋も多數あり、舟運の要地として相當殷盛を極めた川港であつた。東は南河原村に接し、南は成田村、西及び北は大里郡奈良、長、秦の三村につゞいてゐる。上中條、今井、小曾根、大塚の四大字より成り、面積は八方粁五がある。住民は主として農業に從事し、主産物は米、大小麥、繭である。なほ熊谷市へは自動車の便がある。

南河原村

忍町より西北へ約二里ほど距り、中條村に東隣し、東は星河村につゞき、南は星宮村に連り、北は北河原村に接する利根川流域の一村である。南河原、犬塚、中江袋、馬見塚の四大字より成り、總面積は五方粁七五にして、忍町及び大里郡熊谷町へは自動車の便がある。農村にして耕地は四百六十餘町歩にのぼり、米、麥、繭の産が多い。名勝に勝呂神社、石塔婆三基がある。

北河原村

忍町より約一里半の北方に位し、南河

原村の北隣である。北境は大里郡秦村に接し、東北の一部は僅かに須加村につゞき、他は南河原村に圍まれてゐる。北河原、酒巻の二大字よりなり、その面積は三方粁九五である。耕地面積は水田百三十六町餘、畑百餘町歩にして、畑地のうち約七割は桑園である。されば養蠶業頗る盛大に行はれ、繭の年收一萬二千有餘貫をあげ、その他米麥の産が多い。なほ忍町よりは自動車が通じてゐる。

星河村

忍町の北邊に接壤し、東は荒木村及び長野村に續き、西は星宮村につらなり、北東には須加村が接して、東北に短く南北に長い村である。齋條、和田、谷郷、白川戸の四大字より成り、その面積は六方粁丁度で、總耕地面積は四百七十町歩に上り、うち畑地は百三十餘町歩あり、更に畑地のうち七十餘町歩は桑園になつて居り、年收繭高一萬餘貫に及んでゐるその他米麥の産も多い。また村には行田合同運送會社がある。

星宮村

忍町の西北に隣り、星河村の西に續いてゐる。南は持田村に、西は成田村に、北は南河原村に接壤してゐる。羽生より發して行田を通過し、熊谷に向ふ秩父鐵道は村の南端を走つてゐる。池上、下川上、上池守、下池守、中里、小敷田、皿尾の七大字より成り、面積は七方粁五九である。元祿四年に上杉輝虎は皿尾に城を築いてその臣木戸監物を置いて守らせたが、監物は私に忍の成田氏に通じたるため輝虎大いに怒つてその城を燒拂つたといふ歴史を有し、現在は純然たる農村で米、大小麥、繭の産が多い。

持田村

忍町の西に隣り、東南は下忍村に、北は星宮村に、西は太井村にそれぞれ接壤し、忍町より吹上町に至る電車の通路にあたり、村の北邊は忍町熊谷市間の縣道が通り、之に沿うて秩父鐵道が走り、村内に持田驛を置く。前谷新田、小敷田、持田等の部落あり、面積四方粁六二、昔は城門の北に向ひるを持田と稱したもので、成田氏が忍城主であつたころ、その家臣持田氏が當地に居住してゐたといはれる。主産物は米と繭である。

太井村

北及び東は持田村によつて圍まれ、西及び南は綾瀬川の上流を境として、大里郡の久下村並に北足立郡吹上町と相對する。信越線は村の西南の一部を走る。

棚田、太井、門井、北新宿の四部落を合して成り、總面積は三方粁四二を算して、耕地面積は三百有餘町歩あり、そのうち水田は百七十餘町歩である。主要農産物は米、大麥等であつて、また養蠶が

盛んに行はれる。なほ信越線吹上驛へは自動車の便がある。

下忍村

忍町の南に隣接し、東は埼玉村、西持田村に接壤し、南は綾瀬川を隔てゝ北足立郡箕田村と相對してゐる。忍町から箕田村に至る縣道は村を北から南へ縱斷して居り、自動車の便がある。樋上、堤根袋、鎌塚、下忍の五部落を合併した村で面積七方粁、戸數五百三十をかぞへて、耕地面積は五百四十餘町歩にのぼり、米麥の產最も多く、また養蠶業の隆昌するところとして知られてゐる。

長野村

忍町の東に隣り、東は太田村に、南は埼玉村に、西北は星河村に、東北は荒木村に隣接してゐる。往時は村の東端に馬場があり、馬場の周圍には櫻樹が列をなしてゐた爲め、この地一帶を櫻の馬場とも呼んでゐた。村の南端を元荒川の支流が流れてゐる。縣道の忍加須線と、忍館林線とは村の東端に於て分岐し、一は東へ、一は北東へ向つてゐる。秩父鐵道は村の北邊を斜に過る。村内は瓢形墳、圓墳等大小二十ヶ所あり、更に古代住民の遺跡がある。面積は五方粁、產物は米麥と繭を主とする。

荒木村

忍町の東北方に位し、東は新郷村に、南は太田村に、西は星河村に、北は須加村にそれぞれ接壤し、荒木、小見、白川戸の三大字より成り、面積は五方粁三一である。大字白川戸は星川の南方で、星川は小見まで流れ、小見の東に於て見沼用水と合し南折する。秩父鐵道は村の中央を横切り、武州荒木驛がある。鐵道に沿うて縣道が走り、忍町へは自動車の便がある。上代卒邪志國造時代の文化の名殘と思惟される遺跡が頗る多い。また名勝舊蹟に荒木天神、長善沼、搔上城、眞觀寺、觀音ケ嶽がある。

須賀村

本村は利根川沿岸の村落にして、荒木村の北に接し、東は新郷村に、西は北河原村及び南河原村につゞき、北は利根川を隔てゝ、群馬縣邑樂郡富永村に對してゐる。古くは鎌倉街道がこゝを過ぎて居て、その頃利根川に架設した橋の杭木が今尙ほ水中に殘つてゐると傳へられてゐる。村の中央より稍々西寄りに見沼用水が南北に流れてゐる。明治二十三年の大洪水の際には當村地内の利根川堤防が決潰して村内に濁水氾濫して大慘害を蒙つたことはまだ記憶に新であるが、更に遠い昔時から、頻々として自然の暴威に惱まされ通して來た土地である。面積五方粁〇七で、米、麥、茶を產し、また織物業が盛んである。

新郷村

須加村の東に接し、利根川南岸の肥沃なる農村である。東は岩瀬村に、東南は志多見村に、西は須加村のほか荒木村に接壤し、西より南へかけては太田村に續き、地形南北に長い。上新郷、下新郷、下新田の三大字より成り、昔は宿場町として繁昌した所で、面積は八方里三九あり、秩父鐵道は村の中央を東西に横切つて、新郷驛を置く。主產物は米、麥、繭等で、殊に養蠶は隆盛をきはめ、桑園百町歩にのぼる。

太田村

忍町の東一里の地に位し、東は新郷村及び志多見村に接し、南は廣田村に、南西は埼玉村に、西は長野村に、北は荒木村につゞいてゐる。下須戸、小針、若小玉、眞名板、藤間、關根の六大字より成り、面積一一方粁、川俣、埼玉各村と共に郡中の大村である。加須町及び忍町へはそれ〴〵自動車の便がある。荒木村から本村に入る見沼川水は下須戸の西を流れ小針の西に於て南東へ流下する。米、麥、繭を主產物とする。なほ東鑑に見える若小玉小次郎はこの地の人であ

埼玉村

忍町より南東へ一里餘の地にあり、東は太田村及び廣田村に接し、南は屈巢村に續き、東は下忍村に連り、北は長野に接壤して東南は綾瀬川によつて北足立郡箕田村と境する。埼玉、利多、渡柳、野の四大字より成り、面積八方粁一九である。本郡中最も古墳の多いところで、武藏國造の遺壘であらうといはれる古代の塚山が大小約二十程ある。縣道忍鴻巢線は村を貫き、自動車が通つてゐる。主產物は米及び麥で、名勝に前玉神社、小崎沼、石田堤がある。

屈巢村

埼玉村の東南に隣接し、西北より東南へ向つて流れてゐる綾瀬川を隔てゝ北足立郡箕田村と相對する。東は共和村、東南は笠原村、東北は廣田村に接してゐる郡の西南端で縣道羽生鴻巢線は村を縱走し、忍町及び鴻巢町へは共に自動車の便がある。面積五方粁六一。耕地は約四百三十町歩あり、內水田は約二百町歩である。また畑地の三分の二は桑園で、養蠶地として著名である。

廣田村

屈巢村の東北に續き東は見沼用水を隔てゝ田ケ谷村に對し、東南は共和村に、北は太田村に、西は埼玉村にそれ〴〵接してゐる。羽生町より來た縣道は村內を迂曲して屈巢村へ拔けてゐる。大字廣田赤城、北根の三部落より成る村で、總面

積五方粁九四である。戸數四百六十戸。耕地面積四百七十町歩に上り、米、繭の産が多い。

須影村

羽生町の南に隣り、東は手子林村に、南は志多見村に、西は岩瀬村及び新郷村に接壤してゐる。大字須影、下川崎、上川崎、砂山、秀安、下羽生、加羽ケ崎より成り面積六方粁四五、東武鐵道の沿線になつてゐる。耕地面積四百九十町歩あり、田畑相半し、主要農産物は繭、米、大麥の三である。

岩瀬村

羽生町の西に接壤し、南は須影村に隣り、西は新郷村に、北は川俣村に連る。中岩瀬、上岩瀬、桑崎、小松の四部落を合せて成り、面積四方粁九八、戸數四百七十餘、人口二千六百餘人を有する。

五月雨は岩瀬の渡り浪越えて
　宮崎山の雲ぞかゝれる
船とむる岩瀬の渡り小夜更けて
　みやさき山を出づる月影

等の古歌に名高い岩瀬は本村であつて、昔から月の名所として知られてゐる所。産物は米、麥、繭を主とする。村内に古社小松神社がある。

川俣村

郡の最北端に位し、羽生町の西北半里にして利根川の岸に沿つてゐる。東及び南は村君村及び井泉村につゞき、西は須加村、南は羽生、岩瀬、新郷の町村に連り、北は利根川を隔てゝ群馬縣邑樂郡に相對する。東武鐵道は村の中央を貫き、交通至便である。面積七方里五三。昔は利根川はこゝで二派に分れ、一は會野川といひ南流して再び利根川に合したが、元祿年間會野川の水は塞がれ、利根一流となつた。村内には長良神社、天神社、諏訪神社、千光院、光明院、源昌院、藥師寺等がある。米、麥、繭のほか大豆及び蔬菜類を多く産する。

井泉村

利根川流域に沿ふ村で、東は村君村及び三田ケ谷村につゞき、南は手子林村及び中島村に接し、西南は羽生町と隣り、西に三俣村がある。藤井下組、今泉、發戸、尾崎、北袋の六大字を合して成り、面積七方粁五三、戸數約六百五十戸である。東武鐵道羽生驛より約二十五町にして自動車の便あり、警察署及び郵便局は羽生に屬する。主要産物は米及び大麥にして養蠶業がまた盛んに行はれる。

中島村

羽生町の東一里餘の地に位し、東は樋遣川村に南は不動岡町及び手子林村に、西は村君村に、北は三田ケ谷村に、隣接

する。中手子林、北荻島の二大字より成り、葛西用水に沿ひ、面積二方粁四四、戸數二百餘、人口千百六十人の本郡中最小の村である。村民は農、蠶を主業とし耕地百八十餘町のうち畑地は僅かに五十數町歩に過ぎず、しかも畑地のうち三十餘町歩は桑園によつて占められ、米、繭を主要産物とする。

手子林村

中島村の南に隣りて、不動岡町の西につゞき、南は志多見村に對し、西は須影村につらなり、西北は羽生町に境する。警察は羽生署の管轄に屬し、郵便は加須局によつて集配せられ、上手子林、下手子林、町谷、神戸の四大字を合して成る村で面積五方粁八八、米、麥、生繭、酒の産出が多い。村社豐武神社、富德寺、千眼寺、實相院ほか三ケ寺がある。また圖書館の設備を有し、小學校の學業狀態は良好である。

志多見村

東は禮羽村に接し、西は太田村につゞき、南は高柳村及び田ケ谷村に連り、北は手子林村及び須影村と境界を交へてゐる。東武鐵道加須驛より約一里十町にして自動車の便あり、交通の便益多大である。志多見、平永、串作、阿良川の四大字より成り、面積六方粁八五、郡の殆ど中央部に位する。米、麥、繭を主要産物とする。

田ケ谷村

志多見村の南に隣り、騎西町の西北に當つてゐる。東は高柳村に接し、南は共和村に連り、西は廣田村及び太田村につづいてゐる。東武鐵道加須驛より一里の地にして、村の西南部に見沼用水が流れてゐる。田ケ谷といふのは舊郷名であつて、また多賀谷とも作つた。源氏の武士に多賀谷氏なる者あり、この地の人であつたといはれる。現在の村は内田ケ谷、外田ケ谷、道地、上崎の四大字を併合したもので、面積四方粁八七あり、米、麥、繭が主産物である。

共和村

種足村の西北に接し、東北は田ケ谷村につゞき、南は笠原村に、西南は屈巣村に、西北は廣田村に連つてゐる。北足立郡鴻巣町よりは、約一里半ほど距つてゐる。新井、鏡、關新田、上會下の四大字を以て組成され、面積四方粁九五にして耕地面積は五百九十餘町歩、内水田は四百五十町歩で、米、麥の産多く、また養蠶業のさかんなる地で、年收繭高一萬五千數百貫に上る。

笠原村

郡の最南西端に位し、騎西町の西南に

當り、北足立郡鴻巣町とは綾瀬川を隔てて相對し、こゝより自動車の便が通じてゐる。東は種足村に接し、東南は南埼玉郡柏間村につゞき、北は共和村、西北は屈巣村に隣接する。郷地、笠原、安養地の三大字を合して成り、面積六方粁八八和名抄によれば笠原は埼玉郡の郷名であつた。東鑑に出て來る笠原六郎、笠原十郎左衛門尉はこの地の人である。村民は農を以て主業となし、主産物は米、麥、繭等である。

種足村

笠原村の北に隣り、星川の兩岸に跨つてゐる。上種足、中種足、下種足、中ノ目、戸室、西の谷の六大字より成り、面積七方粁九九、郡の南部に位し、南埼玉郡に隣接し、高崎線鴻巣驛よりは約一里半あり、自動車の便があり戸數六百二十餘、主要物産は米、麥、繭等で一部には果樹の栽培がある。

高柳村

加須町の西につゞき、騎西町の北に隣り東南は水深村に、西は田ケ谷村に連り北は禮羽村、及び志多見村と境域を交へてゐる。上高柳、戸崎、日出安、正能の四大字を以て成り、面積五方粁五一、戸數四百三十戸、人口は二千四百人弱である。諏訪神社、駒形神社、龍花院、保寧寺、龍寶寺、寶幢寺等の神社寺院がありてまた村民のためには圖書館の設備がある。米、麥の産多きほか養蠶が盛んに行はれ繭の收穫多く、生絲の産額が多い。

禮羽村

加須町の西に連り、高柳村の北にあたり、北は不動岡町に接し、西は志多見に續いてゐる。禮羽及び馬内の二大字より成り、面積二方粁九九にして、加須町忍町間の縣道は村内を通過し、自動車の便がある。また加須町より羽生町方面へ向ふ東武鐵道は、東南から西北へ村を斜に横切つてゐる。村には埼玉精米會社ありてまた社寺には千萬神社、諏訪神社、香積寺、今蓮院、延命寺等がある。主要産物としては米、麥、繭、蔬菜類の農産物のほか足袋の製造が行はれる。

樋遣川村

古利根川の西岸にあり、昔は菅ノ雪と言つたところである。東は原道村に、南は豐野村及び三俣村に、西は三田ケ谷、中島の二村に、北は大越村に接續し、東北は古利根の流れを越えて、利島村に對してゐる。上樋遣川、中樋遣川、下樋遣川、戸川、町屋新田の五大字を合併して現在の村を構成し、總面積は八方粁一三で、村民は農を主業となして、米、麥を多く産し、また養蠶業盛んである。御室神社、穴昨塚は舊蹟として夙に知られてゐる。

三田ケ谷村

羽生町より約一里半の東方に位し、東は大越村に連り、東南は樋遣川村に當つてゐる。更に南は中島村に、西は井泉村に、北は村君村にそれ〴〵接續する。東武鐵道羽生驛では自動車の便がある。與兵衛新田、日野牛新田、喜右衛門新田、三田ケ谷、彌勒の五大字より組成せられて面積七方粁七三、戸數六百餘、人口三千三百數十人にのぼり、米、麥、繭を主産物とする。

村君村

利根川沿岸の村にして俗に村君王子の住居せしところと傳へられる。文明十八年、道興准后がこの地を過ぎて

誰世にかうかれそめけん朽はてぬ
その名もつらき村きみの里

と詠まれたことがある。水運の便よく、藥師山の紅葉、御廟塚の古墳等の名勝舊蹟がある。下村君、上村君、堤、名村、常木の五大字より成り、面積六方粁九七にて米、麥、大豆を主産物とする。

大越村

利根川の流域に臨みたる一村にして、大越、外野の二大字より成り區裁判所出張所及び郵便局がある。面積六方粁七六戸數五百八十有餘、人口約三千百人を算して、耕地面積は四百十餘町歩あり、うち畑地は二百四十餘町歩である。主産物には米、麥、繭がある。

利島村

麥倉、飯積、柳生、小野袋の四大字より成り、面積九方粁四四、戸數六百有餘人口約三千六百人を擁して、耕地面積は六百三十餘町歩にのぼり、内三百五十餘町歩は畑地である。米、麥、繭を主産物とするが、その他大豆、栗等の産もまた多い。

川邊村

向古河、駒場、榮、本郷、柏戸、小野袋、立崎、伊賀袋の八大字より成り、渡良瀬川を隔て、炙城縣猿島郡古河町と相對し、當郡中最大の面積を有し、實に一一方粁五四に及んでゐる。南は古利根川を越えて東村と向ひ合つて西は利島村に續いてゐる。村民は農を以て生業とし、米、麥、蔬菜類を主要産物とし、また養蠶業の盛んな土地である。

東村

郡の最南端に位する村で、南は北葛飾郡栗橋町及び靜村に接壤し、東は利根川を隔て、炙城縣猿島郡新郷村に、北は古利根川を越えて川邊村にそれ〴〵相對して西は原道村及び元和村に續いてゐる。

旗井、外記新田、新川通、中渡の四大字よりなりて面積五方粁九六、戸數三百六十、人口約二千人をかぞへる。米、麥、大豆、蓮根の産出多く、また鯉、鮒等の川魚が獲れる。村立圖書館の設備あり、また、絹絲製造場長島工場がある。神社には旗本神社、稲荷神社、神武天皇社、鷲明神社が鎭座する。

原道村

加須町の東北約一里半の地點にあり、古利根川に臨んだ村で、東は東村に、南は元和村に、西は樋遣川村に接續し、北は古利根川を隔て利島村に對してゐる。細間、道目、佐波、彌兵衛、砂原等の五大字より成り、面積は七方粁〇三、戸數五百十餘、人口は二千八百有餘である。耕地は四百九十餘町歩あり、住民は農を以て主業となし、米麥の産多く、また養蠶業盛んにして年收繭高は一萬二千三百貫の多きに及んでゐる。

元和村

加須町より東へ二里の地に位し、原道村の南に當り、東は東村に接し、東南は北葛飾郡靜村に續き、西南より西へかけては豐野村に連つてゐる。北下新井、琴寄、北平野の三大字よりなり、その總面積は五方粁七二にして戸數四百餘、人口二千二百五十人である。耕地面積は四百五十餘町歩に達し、田畑相半する。農を以て生業となす者多く、米、麥及び繭の産出が多い。

豐野村

加須町より東方へ約一里半の地に位し元和村の西に當り、東南は北葛飾郡に接し、南は大桑村に、西は三俣村に、北は元和村と原道村とに續いてゐる。阿佐間北大桑、間口、杓子木、生出、新井新田松永新田等の大字より成り、その總面積は六方粁一七にして、戸數五百二十、人口三千有餘をかぞへる。耕地面積は約四百七十町歩を占め、主要農産物は米、麥及び繭にして、その他大豆、蔬菜類も少くない。

三俣村

加須町の東北に隣接し、豐野村の西にあたり、南は大桑村に、北は樋遣川村に續いてゐる。北小濱、上三俣、下三俣、北篠崎、多門寺の五大字より成り、總面積八方粁二四、戸數約七百八十、人口四千五百八十人を算し耕地總面積は六百二十町歩あり、うち三百九十餘町歩は水田で農業よく行はれ米、麥、繭を主産物とする。

大桑村

東武鐵道の沿線に在り、村内を縣道通じて自動車の交通便にて、南大桑、川口

南篠崎、花崎の四大字より成り、總面積八方粁一七、戸數約六百三十、人口三千五百有餘に上り、耕地總面積六百五十町歩、うち水田は三百五十町歩である。地味肥沃にして農作に適し、米及び大豆の産多く、繭は年二萬二千五百貫を收めてゐる。村社神明社、雷電社が鎭座し、寺院には普門寺、大福寺、西蓮寺その他がある。なほ小學校内には村立圖書館が設けられてゐる。

水深村

村の中央を縣道が縱横に貫通して、加須町よりは自動車の便がある。大室、油井ヶ島、常泉、下高柳、南小濱、水深、船越、北辻、今鉾、割目の諸部落を合して成り、面積九方粁七三、戸數七百餘、人口約四千を算し、耕地面積は七百八十町歩に及び、地勢平坦にして地味肥沃、水田四百七十有餘町歩を占め、米、麥、繭をはじめ、種々の農産物及び果實の産が多い。村内には村社八幡神社鎭座して村民の崇敬をあつめ、また團體には産業組合、村農會、在鄕軍人分會、その他がある。

鴻莖村

加須町より約一里の地に在り、鴻莖、芋莖、牛重、根古屋の四大字を合して成れるものにて、總面積六方粁三四、戸數四百八十、人口二千八百人を擁し、地勢平坦にして地味よく肥え、耕地總面積五百三十町歩あり、うち三百三十町歩は水田で、米麥の産多く、また養蠶の盛んなる地で年收繭高は一萬五千貫に近く、その他果實の特産がある。大字根古屋には私市城址あり、一名に根古屋城址とも呼ばれる。騎西町を距る僅に數町の地にあり、太田道灌の築きしものと傳へられ、今日では城址一面陸田と化して、僅に數十間の殘壘に遺蹟を留めてゐるばかりである。

東樹にも適地な 南埼玉郡

武藏二十郡の一にして、東は北葛飾郡南より西にかけては東京市葛飾區及び足立區に接し、北は北埼玉郡に連つて居りて所謂埼玉平野の中央部に位置を占めてゐる。總面積は一八方里六〇七で、行政上七町三十五ケ村に分ち、町村名は次の如し。

町村 岩槻、箱壁、越ヶ谷、大澤、菖蒲、久喜、鷲宮、豐春、内牧、川通、武里、櫻井、新方、出羽、蒲生、川柳、八條、八幡、潮止、大相模、慈恩寺、日勝、須賀、百間、太田、清久、江面、河合、黒濱、綾瀬、平野、栢間、小林、三箇、篠津、大山、增林、大袋、荻島、柏崎、和土、新和

本郡は大略、古利根川及び元荒川、綾

瀬川の流域にて、平坦且つ肥沃、殊に南部方面は溝渠縦横に通じて灌漑の利大きく、極めて平坦な低濕地をなし、殆ど全部の土地が水田として開拓されてゐる。

奥州街道が郡の東南を過ぎ、曾ては越ヶ谷、粕壁の二宿場があつた。鐵道は東北本線が大宮町から來り、郡を斜に東北部に貫き、蓮田、白岡、久喜の三驛がある。また東武鐵道は奥州街道に沿うて走り、郡内に四驛を置き、久喜に於て東北本線と交叉する。

本郡は最も農産に富む地方であつて、農業は頗る隆盛を極め、米の年産二十二萬石を突破し、大麥、小麥、大豆、小豆蕎麥、甘藷の産また少なからず、また氣候温和なるため果樹の栽培にも適し、梅桃、梨、柿を特産とする。その他蔬菜類の産多く本縣中第三位に屬し、葱、甘藍胡瓜、茄子、西瓜等もまた有名である、北部地方には、養蠶が行はれる。工産物としては白木綿及びガーゼ、雛人形、菜種油、帽子、藁細工、足袋、瓦、簞笥、酒、醤油等がかぞへられる。

岩槻町

本町は元荒川西岸の高度の低い丘陵上にある聚落である。舊城下町で、城は長祿元年太田道灌が築いたものである。城址は元荒川の低濕地に臨み、小高い臺地に設けられ、三方は沼地の取圍むところである。今、沼地は水田となつてゐる。町の西北側に東京中央電信局の岩槻受信所がある。

町の經濟を維持するものに雛人形の製造がある。こゝで裸人形及び雛人形の頭部を製造する技術が特に優れてゐる。約百五十戸の製造家によつて年々六十萬圓の産額をあげ、東京から關西に至る迄、また東北地方の一帶に販路を有しが、一部は輸出され全國的に有名である。

東へ四キロの粕壁驛まで電車、乘合自動車の便がある。

粕壁町

本町は古くは陸羽街道の一驛にあたりてこゝで古利根川を渡つて幸手、久喜へ通じ、また菖蒲、關宿にも街道が開けてゐる。即ち交通要路にあたり謂はゆる宿場町として發達した土地である。現在は淺草驛より東武電車が通じ、また東は千葉縣野田町、西は大宮町へ電車の便がある。古利根を渡つて東岸の牛島は藤の名所として知られる。

越ヶ谷町

桃林によつて知られる本町は、本郡南部地方の中心都會にして、粕壁町の南二里二十町餘、荒川の南岸に位し、東は增林村、南は蒲生村、西は荻島村及び出羽村、北は大澤町に接壤し、面積二方粁四二、戸數約八百九十をかぞへ、往時は奥州街道の一驛にして所謂宿場町としての

繁昌を極めた土地である。現在、町には越ヶ谷區裁判所、警察署、郵便局等の官衙の他、縣立高等女學校、東武實業學校等がある。町は東武鐵道に沿ひ附近糯米の集散地にて、大林の桃林、古梅園、久伊豆祠の藤等の名勝がある。

大澤町

元荒川の北岸に位し、一橋を以て越ヶ谷町と相對する町で、往時は奥州街道にあたる一邑であつた。東は增林村に連なり、西より北は荻島村、大袋村及び新方村等に接し、東武鐵道に沿ひて武州大澤驛あり、國道通過して、自動車の便もある。町の面積は二方粁三四にして、戸數六百五十餘、人口三千餘人である。

久喜町

郡の東北端に位し、古利根川の舊河道がつくる農村地帶の中心都市にて、久喜本、久喜新、上早見の三大字より成り、東は太田村、南は江面村、西より北にかけて清久村及び鷲宮町に接してゐる。面積三方粁五三で、商業盛んにて、綿織物の工業また行はれ、世に岩槻木綿と稱するは多くこの附近の産で、良質を以て廣く世に知られるが、久喜の町はむしろ交通上の要路としての方が知られてゐる。東北本線が南北に過ぎるほか、東武電車が北西へ進み、往時陸羽街道の宿驛たりし幸手に代つて、當町が新時代の交通都市として繁華を極めてゐる。官公衙學校會社銀行支店等多く、名勝地としては久喜城址、甘棠院がある。

鷲宮町

郡中の最北端に位し古利根川の西岸にあり、東は北葛飾郡、北は北埼玉郡に接してゐる。久喜町の北隣にして、南西は清久村に連つて居り、東武鐵道は東南より西北に向つて走り鷲宮驛を置く。久本寺、中妻、葛梅、鷲宮、上内の五部落を以て成り、面積六方粁六五に上り、戸數六百五十餘、人口約三千六百人を算してゐる。近年商業大いに隆盛を呈するに至れるも、依然農業盛んにして米、麥、繭果實の産額が多い。なほ大字鷲宮には縣社鷲宮神社が鎮座する。

蓮田町

本町は元荒川の上流、郡の西南突出部に位し、西方並に南方は北足立郡と境し春岡村、宮原村、大砂土村相對す。北は藤津村、東は黒濱村に隣接してゐる。東北本線町内を南北に貫通し蓮田驛あり、又武州鐵道西の基點に當る。附近交通上の要衝たるのみならず、農産物及び其他の物資集散の地理的に重要なる位置を占め累年町勢の伸展を見せつゝあり、町内商店諸會社等多く將來の發展を卜さるゝ町である。

菖蒲町

郡の北邊に位し、北は北埼玉郡鴻巣村に接し、東から南にかけて三箇村及び大山村、西から南にかけて小林村と接壤して元荒川上流地の一都邑で、古くは宮宿と呼ばれた。東北本線久喜驛まで約二里定期自動車通じて、交通至便である。菖蒲、新堀の二大字より成り面積六方粁二九、戸數約九百をかぞへ、町には區裁判所出張所、菖蒲郵便局及び銀行支店等あり、また名勝菖蒲城址がある。米、麥を產し、養蠶が盛んに行はれてゐる。

豐春村

東は粕壁町に接し、西は川通村につゞき、北は内牧村及び慈恩寺村に、南は武里、川通の二村に接壤し、岩槻町にも近い。道順、川戸、上蛭田、下蛭田、花積、增戸、增富、谷原新田、上大曾新田、下大曾新田、新方袋、南中曾根、道口蛭田の十三大字より成りて、總面積は七方粁六に及び、戸數四百三十餘、人口約二千五百人をかぞへる。耕地面積は水田四百五十町歩、畑地百六十餘町歩あり、米、麥、蒟を主產物とする。

内牧村

古利根川の上流に沿ふ一村で、粕壁町の西北に接壤し、東は古利根を隔てゝ北葛飾郡幸松村に對し、北は百間村、西北は白勝村、西は慈恩寺村、南は豐春村に接してゐる。東武鐵道粕壁驛へは自動車が通ひ交通は至便である。梅田、内牧の二大字より成り、面積五方粁四五に及びて戸數約三百五十、人口約二千をかぞへる。村民は農を主業として、耕地は水田百五十町歩、畑地二百十餘町にのぼり、米、麥、蒟の產多く、また製茶及び果樹栽培も行はれてゐる。名勝に隅田川古渡がある。

川通村

岩槻町に東隣し、東は豐春村及び武里村、南は大袋村及び新和村、北は慈恩寺村に接壤し、西は岩槻町の南隣なる和土村と元荒川を隔てゝ相對してゐる。南平野、大口、長岡、大戸、大野島、大谷、增長、大森、新方須賀の九大字より成り總面積七方粁〇五に及び戸數四百五十、人口二千五百有餘をかぞへる。耕地は水田四百十餘町歩、畑地百六十餘町歩ありて米、麥、蒟を主產物とし、果樹の栽培も盛んに行はれる。

武里村

古利根川の流れに面し、粕壁町に南隣し、東武鐵道が村を南北に縱斷する。東南は櫻井村、南は大袋村、西は豐春村及び川通村に接し、面積七方粁三四、備後市ノ割、大場、大板、大畑、中野、增田

新田、薄谷の八大字を合併して成り、戸數五百四十、人口三千有餘をかぞへ、耕地は水田四百二十町歩、畑地百七十餘町歩に上り、米、麥、蒟のほか果實の產がある。大字市ノ割は名僧呑龍上人の生れた地である。

櫻井村

古利根川の西岸に位置し、東南は新方村、西南は大袋村、西北は武里村に接續し、大澤町よりは自動車の便がある。上間久里、下間久里、大泊、大里、平方等の部落より成り、面積五方粁五一にして戸數四百二十餘、人口二千二百餘を算して、耕地は水田二百八十餘町歩、畑地百四十町歩にのぼり、主要農產物は米、麥及び蒟である。

新方村

古利根川の西岸に位して東は北葛飾郡松伏領村に相對し、櫻井村の東南に隣接し、南は大澤町及び增林村に接して、船渡、大吉、北川崎、彌十郎、大杉、大松向畑の各字より成り、面積五方粁三八である。戸數三百五十有餘、人口二千を越え、耕地は水田三百十餘町歩、畑地九十五町歩で、米、麥、蒟等の主產物のほかに農家副業として藁工品の製造が盛んに行はれる。また川崎神社、清淨院等の社寺がある。

增林村

元荒川及び古利根川の流域に圍繞せられたる村で、新方村に南隣し、東は古利根川を越えて北葛飾郡の松伏領、旭、吉川三村と相對し、南は大相模村に接し、西は元荒川を隔てゝ越ヶ谷町に通じ、越ヶ谷よりは自動車の便がある。增林、增森、中島、東小林、花田の諸部落より成り、總面積八方粁六二である。戸數は六百八十、人口は三千八百五十をかぞへてゐる。水田三百六十餘町歩、畑地二百二十町歩あり、米、麥の產多く、果樹の栽培また盛んである。

大袋村

元荒川の東岸に位置して東武鐵道に沿ひ、東は櫻井村、南は大澤町、西は荻島村及び川通村、北は武里村に相接觸し、大竹、恩間新田、大房、二野宮、大林、袋山、大道、恩間の諸字より成り面積七方粁一四にて戸數五百餘、人口二千八百五十をかぞへる。米麥を產し大房の桃林を有して桃は本郡中第一位を占める。名勝としては帝室御料埼玉鴨場（御獵場）があり面積三萬餘坪中に閑亭を構へて御休憩所にあてさせられてゐる。

荻島村

大澤町の西に隣り、南は出羽村、西は新和村、北は大袋村と相接壤する村で、

長島、西新井、小曾川、南荻島、砂原、北後谷、野島の諸字より成り、面積七方粁二三、戸數四百三十餘、人口二千五百人である。主要農産物は米、麥で、また果樹の栽培盛んに行はれ、藁細工の製造も少なくない。五社稲荷、石神井神社、淨山寺、玉泉院、西敎院等の神社佛閣多數あり、中にも淨山寺は子育地藏を安置して信仰者頗る多い。

柏崎村

岩槻町に南隣して、西は綾瀬川を隔てて北足立郡東宮下村及び勝子村に對し、東及び南は和辻村に依つて圍まれてゐる武州鐵道に沿うて交通の便頗るよく、村内浮谷驛より六哩にして東北本線へ連絡が出來る。柏崎、横根、加倉、谷下、浮谷、眞福寺の諸字を合して成り、面積六方粁一七、戸數四百四十、人口二千五百をかぞへ、米麥のほか、蒟、果實の産出がある。大字加倉にある淨國寺は關本十八壇の一である。

和土村

岩槻町の東南に接し、西は柏崎村に連り、西南は綾瀬川を隔てゝ北足立郡野田村と相對し、東南は新和村に、東北は川通村に隣接して居り、武州鐵道が通じて村内笹久保驛より七哩にして東北本線と連絡し得られる。黒谷、飯塚、笹久保、木曾良、村國、笹久保新田、南下新井の諸部落より成り、總面積六方粁一七、戸數四百四十、人口二千五百を數へる。田二百十五町歩、畑二百五十町歩の耕地を有し、米麥のほか果實の産がある。

新和村

和土村の東南に接觸し、西南は綾瀬川を以て北足立郡野田村及び大門村に對し東及び東南は荻島村と連り、北は川通村と接壤して居り、東武鐵道越ヶ谷驛へは約一里、自動車が往復する。高曾根、野島方、末田、尾ヶ崎、尾ヶ崎新田、孫十郎、鈎上、鈎上新田の八大字より成り、面積八方粁三四、明治二十二年町村制施行以來納税成績の優良なるを以て表彰さるゝこと三回に及ぶ模範村で、米、麥、果實、蔬菜の産細出多く、また藁工品の製作も盛んに行はれてゐる。

出羽村

越ヶ谷町の西に隣り、東南は蒲生村に接壤し、西南は綾瀬川を以て北足立郡戸塚村及び新田村に對し、西及び北は荻島村によつて圍まれたる村で、四丁野、越巻、谷中、大間野、神明下、七左衛門の六部落を併合して組成せられ、總面積は七方粁一六で、戸數四百三十有餘、人口二千七百五十人を越え、村民は主として農を行ひ水田五百十數町歩にのぼり、米作は壓倒的數量を示し、その他麥及び果實の産も多い。

蒲生村

綾瀬川の北岸に位し、越ヶ谷町の南に隣接して、東は大相模村及び川柳村、西は出羽村につらなり、南は綾瀬川を隔てて北足立郡新田村に相對する。奥羽街道は村を南北に縱斷し、東武鐵道また本街道に沿うてその西側を走り、交通の便良好である。瓦曾根、蒲生、登戸の三部落より成り、面積四方粁五四、所謂越ヶ谷糯と稱する良質米を産す。また藁細工品の製産が盛んである。村内に東京電燈の變電所が二個所あり、日本無線電話、武陽水陸運輸等の會社もある。なほ大字瓦曾根の溜井は　明治天皇田植天覽の舊跡である。

川柳村

東は古利根川、西は綾瀬川によつて、それぞれ北葛飾郡吉川村及び北足立郡草加町に相對して居り、北は大相模村、南は八條村に隣接し、越ヶ谷町とは約一里の距離にありて自動車が往復してゐる。麥塚、伊原、南青柳、柿ノ木の四部落を合併したもので、面積六方粁八八あり、戸數五百弱、人口二千七百五十をかぞへ耕地は水田四百七十五町歩、畑地七十七町歩にして米麥を主産物とし、殊に米の産高は非常に多い。

八條村

郡の南部に位し、綾瀬川、古利根川、元荒川に圍まれたる卑濕の地にして、往時は今の潮止村、八幡村、八條村、川柳村、大相模村の諸村を合して單に八條と呼び、東鑑にもその名見え、古くより開けた地方である。現在の八條村は川柳村に南接し、東は古利根川を越えて北葛飾郡彦成村に對し、西は綾瀬川を隔てゝ草加町と境し、鶴ヶ曾根、松ノ木、伊草、小作田、立野堀、八條の諸字より成り面積六方粁六五、米の産額極めて多い。

八幡村

潮止村と共に本郡の最南端に位し、綾瀬川を隔てゝ東京市足立區と相對してゐる。北は八條村、東は潮止村に接觸し、西は北足立郡草加町及び谷塚村に連る。上馬場、中馬場、大原、大曾根、浮、西袋、柳ノ宮、南後谷の諸部落を併合して成り、總面積五方粁六一を有し、戸數五百六十餘、人口三千二百餘人をかぞへる耕地は田三百三十五町歩、畑百餘町歩にのぼり米産を以て村の重要物産とする。

潮止村

八幡村の東隣にして本郡の最南端に位し東は古利根川によつて北葛飾郡戸ヶ崎村との境をなし北は八條村に接し、南は大東京市と境する。伊勢野、二丁目、木曾根、南川崎、大瀬、桁、古新田の諸部

落より成り、總面積七方粁〇八、住民は概ね農業に從事し農事改良に見るべき點多く、殊に蔬菜栽培に於て名を擧げた村である、産業組合もまたよく整備發達し曾て優良農村として内務省より推賞せられしことがある。

大相模村

越ヶ谷町の東南に位し、同町と千葉縣流山間の縣道が通じて自動車の便がある東は古利根川を隔てゝ北葛飾郡吉川村に向ひ、南は川柳村に、西は蒲生村に隣接する。南百、千足、別府、見田方、四條西方、東方の諸部落より成り、面積八方粁一一、米産頗る多く、蔬菜の栽培また盛んに行はれ藁細工品の産出も尠くないまた村内に富進園養魚場がある。日枝神社、八阪神社、伊南理神社、大聖寺等を有する。因に大相模といふのは、舊郷名で八條領に屬した地で、中世野與黨の一派大相模氏はこゝに據つてゐた。

慈恩寺村

岩槻町の北に隣接し、東は豐春村、西は黒濱村、西南は河合村、北は日勝村、東北は内牧村に接壤し、岩槻町幸手町間の街道は村を南北に貫き、岩辻及び粕壁からは自動車の便がある。南辻、德力、上野、相野原、古ヶ場、慈恩寺、表慈恩寺、裏慈恩寺、鹿室、小溝の諸部落より成り、面積九方粁で三、米、麥、蘭を主産物とする。なほ村内には天台宗の古刹にして坂東第十三番の札所たる慈恩寺がある。

日勝村

慈恩寺村の北に位し、岩槻幸手間の街道に沿ひ、東は百間村、東南は内牧村、西南は黒濱村、西北は篠津村、東北は須賀村にそれぞれ隣接し、小久喜、上野田下野田、岡泉、瓜田ヶ谷、實ヶ谷、千駄野、太田新井、彦兵衛の諸字を合して成り、總面積一一方粁六一にして郡中の最大村である。米、麥、蘭のほか果實の産出頗る多く、村民生活程度は概して裕福である。東北本線白岡驛に近く、また村内には舊跡下野田一里塚がある。

須賀村

古利根川の西岸に位し、川を越えて北葛飾郡杉戸町及び高野村に對し、東南は百間村、西南は日勝村、西は篠津村及び江面村、北は太田村に接壤して居り、國納、須賀、和戸、西久米原、東久米原の五大字より成る農村にて、村内を東南より北西に向つて東武鐵道が貫通し村内に和戸驛がある。古は鎌倉街道がこの地を通つてゐたといはれる。面積七方粁一一あり主産物は米、麥、蘭及び果實である

百間村

古利根川の西岸に位置して須賀村の東南に隣り、西は日勝村に、南は内牧村に續き、東は川を越えて北葛飾郡杉戸町及び堤郷村に相對する。百間、百間中、百間東、百間金谷原、百間西原、百間中島蓮田の七大字より成り、面積八方粁八八にして、東武鐵道は村を縦斷し、粕壁町よりは自動車の便がある。戸數七百五十餘、人口四千百をかぞへ、主要産物として米、麥、蘭があげられる。なほ村内には西光院がある。

太田村

久喜町の東隣に位し、古利根川の流域に沿ふ農村にして、南は須賀村、西南は江面村、北は鷲宮町に接壤し、東は川を隔てゝ北葛飾郡櫻田村と相對してゐる。吉羽、西、栗原、青毛、野久喜、古久喜の六大字を合併したもので、面積五方粁九一、戸數五百四十餘、人口三千餘人をかぞへ、耕地は水田百九十餘町歩、耕地二百八十町歩にのぼり、米、麥、蘭を主産物とする。なほ久喜町よりは自動車の便がある。

清久村

久喜町に西隣し、東北は鷲宮町に南は江面村に、西は三箇村に接壤し、北は北埼玉郡水深村と連る農村で、久喜町よりは自動車の便あり、交通便利である。六萬部、北中、曾根、上清久、下清久の五大字より成り總面積六方粁〇三にして戸數は五百弱、人口は二千八百餘を算し耕地は田二百七十町歩、畑二百十餘町歩あり、主産物は米、麥及び蘭である。

江博村

久喜町の南に隣り、西北は清久村、西は三箇村、南は篠津村、東は須賀村に接し、北青柳、江面、除堀、原、樋ノ口、下早見、太田袋の諸部落を合して成り、その總面積は九方粁六一にして、戸數七百有餘、人口四千百五十をかぞへてゐる耕地は水田四百三十町歩、畑地三百十七町歩あり、米、麥、蘭の産が多い。なほ久喜町との間には自動車通ひ交通至便である。

河合村

綾瀬川の東岸に位置して北足立郡に對し、岩槻町の西北に接し、東は慈恩寺村北は黒濱村、西北は綾瀬村に各隣接し、岩槻町からは自動車の便がある。平林寺掛、金重、本宿、箕輪、馬込、川島の諸部を合して成りし一村で、面積六方粁五七あり、戸數三百九十餘、人口二千五百五十人をかぞへ、耕地は田百七十一町歩畑二百五十六町歩にして、産物は米、麥蘭を主とする。

黒濱村

河合村の北遺に接壤して東は慈恩寺村に、北は日勝村に、西北は篠津村に、西は綾瀬村に隣接し、黒濱、城、南新宿、笹山、江ケ崎の五部落を以て組成され。東北本線に沿うて交通の便よく、面積は一〇方粁四三に及び本郡中第二の大村である。戸數五百九十、人口三千五百を算し、米、麥、繭を主要物産とするほか、製茶の業行はれ果樹栽培も相當盛んである。村の西北部なる大字城の水田に産する雜木林中には往昔の猪穴の跡がある。

綾瀬村

岩槻町の西北一里半の地に位し、東北本線に沿ふて蓮田驛を置く。綾瀬川の東岸にありて對岸は北足立郡小室村である東は篠津、黒濱、河合の三村に境し、北は平野村に接觸する南北に細長い村で、閑戸、蓮田、貝塚の三大字より成り、面積八方粁〇八、米、麥、繭を多數産する外、茶及び甘藷の栽培が盛んに行はれる現在東京灣沿岸まで十餘里あるも、村内には多數の貝塚あり、往時はこの邊まで海であつたといはれる。

平野村

綾瀬村の西北に隣接し、北は大山村、西北は栢間村、西南は北足立郡加納村にそれ〴〵接壤、高蟲、井沼、根室、駒崎等を併せて成る村で、元荒川はその東及び北を流れ、綾瀬川は元荒川より分流して西南の方を流れてゐる。且つ見沼用水は北方より來り元荒川が掛樋を以て打渡し、東南綾瀬村に流下し、灌漑の便頗る良好である。面積七方粁四五、戸數五百四十、人口三千二百五十を算し、米、麥繭のほか果實の産が多い。なほ久喜町よりは自動車の便がある。

栢間村

元荒川の北岸に位して郡の西北端に位置し西北は北埼玉郡笠原村に連り、西南は北足立郡常光村及び加納村に接し、東は大山村、東南は平野村、北は小林村に隣り、下栢間、上栢間、柴山枝郷の三大字より成り、面積六方粁四八にして、米麥、繭を産するほか、果樹の栽培極めて盛んなる村である。なほ久喜町及び北足立郡桶川町よりは自動車の便があり、村内には神明神社、幸福寺、正法院、善宗寺等の社寺がある。

小林村

菖蒲町の南に接し、本郡の西北端の一村で、昔時より獨立の一字を以て一村を形成してゐる。久喜町よりは自動車が通じて交通の便良好である。面積は六方粁五一にして、戸數四百七十五、人口二千八百人を算し村内主要産物としては米、麥、繭等が擧げられる。なほ耕地は水田二百十數町歩、畑地百八十數町歩に達してゐる。

三箇村

菖蒲町の南東に隣り、星川と見沼用水との合流は、本村の南方に於て分れてゐる。東は清久村及び江面村に、南西は大山村に接し、台、三箇、河原井の三大字より成る。

面積は六方粁八八に及び、戸數は五百七十、人口三千三百人を算する。耕地は水田二百九十町歩、畑地二百三十五町歩あり米、麥、繭、の産多きほか、梨の栽培が盛大である。なほ久喜町よりは自動車が通じてゐる。

篠津村

平野村の東に隣り、元荒川を隔てゝ相對してゐる。北は江面村、東は須賀村及び日勝村、南は黒濱村と接續し、岩槻町の北方三里の地點にあり、中世の頃には鬼窪郷と呼ばれた村である。

篠津、野牛、白岡、寺塚、高岩の五大字より成り、大宮町より久喜町へ向ふ東北本線は村内を貫通してこゝに白岡驛を置く。

本村面積八方粁〇七、麥、繭及び果實を主要物産とする。名勝には白岡八幡神社、白岡正福寺、新井白石の藏屋敷の遺蹟等がある。

大山村

菖蒲町の南に當り、東及び北は三箇村に、南は平野村に、西は栢間村に接壤し新井新田、柴山、上大崎、下大崎の諸大字より成る村、久喜町及び菖蒲町へは自動車が通つてゐる。面積六方粁六〇にして、戸數四百四十、人口二千六百五十を算し、主産物は米、麥、繭で、果實の産出も頗る多い。

なほ村内には諏訪八幡神社、常福寺、正泉寺、長松寺のほかになほ三社、三ケ寺などがある。

米産縣下一の北葛飾郡

地形は甚だしく狹長で、西北より東南に延びてゐる。

北及び東一帶は江戸川を以て茨城縣猿島郡及び千葉縣葛飾郡に隣り、南はわづかに大東京の葛飾區に接し、西北一帶は古利根川を以て南埼玉郡に境し、北西の一部が北埼玉郡につゞいてゐる。

前記のごとく四境殆ど川を以て圍まれ全く利根川の堆土から成り、土地肥沃、早稻米の産地として名高く、米の産額は縣下第一位である。郡内全部平坦、丘陵と稱すべきほどのものもない。

鐵道は省線東北本線が郡の北端を走るだけであるが、郡内は縣道村道共によく備はり、自動車を通ずるもの多く、一般に交通の利便良好である。

本郡は明治二十九年下總國の中葛飾郡を併合して今日に至り、人口は約九萬、いづれも質實の美風を有し、大東京の郊外地域として發達しつゝあるにも拘らず概して醇朴なるは、當地方の一の特色である。

郡内を分ちて次の如く四町二十七ヶ村とする。

町　栗橋、杉戸、吉川、幸手

村　寶珠花、豊岡、戸ヶ崎、富多、豊田、豊野、早稲田、上高野、金杉、川通、幸松、吉田、田宮、高野、八代、八木郷、松伏領、權現堂川、堤郷、旭、櫻田、櫻井、南櫻井、行幸、三輪野江、静、彦成

栗橋町

郡の最北端に位し、利根川を隔てゝ茨城縣猿島郡新郷村と相對し、南は豊田村に、西及び北は静村に接し、面積二方粁四五である。町の東方に於て利根川はその流域幅中員最も廣く約三百間に及んでゐる。維新前には奥州街道の要驛にして德川幕府は、こゝに箱根、小佛等と同じ位に重要性を持つ關所を設け、見張番所を構へて往來の旅人を檢した。今、橋畔の堤防上に關所碑が建つてゐる。町は堤防の西側に小じんまりと蔓を見せて、現在も昔風の宿場町の面影を保存する。附近の米穀その他諸品の取引が行はれ、今も昔も變らぬ繁昌は、郡中の首邑たる名を恥めない。

幸手町

栗橋町の南方二里餘の地に位し、東は權現堂川村に、西は八代村に、西南は上高野村に接續し、北及び西北は行幸村に連つてゐる。幸手、内國府間の二大字より成り、曾ては奥州街道の宿驛として繁華を極め、今は東武鐵道幸手驛がある。往古は田宮町と呼び、一色氏の居城地であつた。權現堂川と古利根川を左右に控へ、奥州街道と日光街道の會合點にあたり、面積四方粁一三あり、附近農産物の集散地たるのみならず、菓子及び綿毛靴下、手袋等、諸編物の産地で、區裁判所出張所、警察署、郵便局があり、名産鹽がまを産する。

杉戸町

古利根川の東岸に倚り、對岸は南埼玉郡栢間村である。幸手町の南一里半に位し、東は田宮村、東南は堤郷村、北は八代村、北西は高野村に隣接し、杉戸、倉松、清地の三大字より成り、面積五方粁一八である。往時は陸羽街道の驛路にあたり、人馬の往來頻繁にして殷盛を極めたが、東武鐵道開通後、交通の中心が移動した爲め、今は往昔の繁昌を見ることは出來ないが、未だ郡中の一名邑たるを失はず、東武鐵道日光線はこゝより分岐してゐる。附近は農産物の集散地をなし町内からも、米、麥、繭を産出し、また町には縣立杉戸農學校、警察署、郵便局

等がある。

吉川町

古利根川の東岸に在り、東は三輪野江村に、南は彦成村に、北は旭村に隣接し西は古利根を越えて南埼玉郡大相模村と境する。平沼、保、川野、須賀、川島、中野、富新田、木賣、木賣新田、吉川、關、高久、高富、中曾根、道庭等の部落を合せた町で、面積九方粁七八に及び戸數は約千、人口五千百を算す。南埼玉郡越ヶ谷町を去ること一里半にして自動車の便がある。町には吉川警察署、區裁判所出張所、郵便局がある。産物は米麥のほか荷造用縄、莚、叺、草履等の藁細工品の産額が多く、町に埼玉縣藁工品同業組合の事務所が置かれてゐる。

静町

栗橋町の西に隣り、往昔の奥州街道に沿ふ地域で、北及び西は北埼玉郡豊野村及び大桑村に接し、南は櫻田村に、東南は豊田村に隣りする。佐間、伊坂、松永間鎌、高柳、島川の諸部落より成り、中世奥州路に、義經の後を慕うて旅を重ねた静御前の名に因んで、名づけられた村といはれる。東北本線に沿うて村内に栗橋驛がある。面積は六方粁八八、戸數は約六百、人口は三千二百を算して、米、麥、繭を主要物産とし、村内には静御前の墓がある。

豊田村

栗橋町の南に隣り、權現堂川の西に臨み對岸は茨城縣猿島郡である。南は行幸村に接壤し、西は静及び櫻田村に連る。村の中央を南北に東武鐵道が貫き、栗橋町及び幸手町へ自動車の便がある。北廣島、新井、河原代、狐塚、中里、小右衛門の六大字より成りて、面積は六方粁五四、米、麥、繭の産額が頗る多い。權現堂堤には櫻樹數千本あり花時都人士の來遊するものが多い。

櫻田村

豊田村に隣り、古利根川に面し、對岸は南埼玉郡太田村及び鷲宮町と向合つてゐる。北に静町、東南に行幸村があり、東大輪、西大輪、八甫、外野、上川崎、中川崎、下川崎の諸部落を併せて一村をなし、面積八方粁六七、戸數六百三十餘人口三千五百餘に達する。幸手町まで約一里、自動車が通ふ。主要産物は米、麥繭で、殊に繭は年收高二萬貫に上る。

行幸村

幸手町の北に隣り、北は豊田村に、西は櫻田村に接壤し島川はこの地に於て權現堂川に合流する。明治九年　明治天皇御駐輦の光榮を永遠に記念し村名としたのである。圓藤内、千塚、松石、外國

府間、高須賀の諸字より成り、面積三方粁六九、養蠶業の盛んな所で、繭年收高一萬八千貫を超え、また米麥の産額も多い。東武鐵道は奥州街道に沿うて村の東部を走り、久喜町よりは自動車の便がある。權現堂川に備ふる行幸堤は、また櫻の名所として知られる。

上高野村

幸手町の西南に隣接し、北は櫻内村に連なり、西は古利根川を隔て、南埼玉郡大田村に境し、東南は八代村に、南は高野村に接壤する。久喜町より自動車の便あり、村の面積は二方粁五八にして、戸數三百有餘、人口千七百餘人をかぞへてゐる。耕地は田百四十餘町歩、畑六十餘町歩を有し、米、麥、繭を以て主要産物とする。

高野村

古利根川の東岸に位し、杉戸町の北隣にして、東は八代村に、北は上高野村に續き、西は川を超えて南埼玉郡須賀村に相對し、杉戸町より幸手町に至る國道通貫し、これに沿うて東武鐵道日光線が走り、また國道を乘合自動車が通つて交通至便である。下高野、茨島、下野、大島の四大字を合して成り、面積四方粁三三である。米、麥、繭を主産物とし、名勝に高野城址及び永福寺がある。

權現堂川村

幸手町の東に隣り、北より東にかけて權現堂川が流れ、對岸は茨城縣猿島郡五霞村で、南は八代村に接す。曾ては東葛飾郡元栗橋村と稱したるところで、權現堂、木立、神明内、上吉羽の四大字より成り、面積は五方粁一七である。米、麥、繭を主要産物とする。村名の起原は熊野權現の祠堂があるために權現堂と稱するのであつて、古くより開けた土地と見え慶長四年の文書には權現堂河岸の名が見えてゐる。

吉田村

東に江戸川、北に權現堂川を控へ、江戸川の對岸は千葉縣葛飾郡關宿町に、權現堂川の對岸は茨城縣猿島郡五霞村に相對し、東より東南にかけて豐岡村及び櫻井村に接し、西は八代村に、南西は田宮村に隣りする。惣新田、下吉羽、細野、下宇和田、上宇和田の諸部落より成り、面積は六方粁六六にして、戸數約四百九十、人口二千八百餘をかぞへ、産物は米麥及び繭を主とする。杉戸町よりは約二里ばかり距り、自動車の便がある。

八代村

杉戸町の北に隣し、吉田村はその東にあり、北は幸手町及び權現堂川に連り、西は高野村に接してゐる。戸島、天神島

平野、吉野、平須賀、中野、神扇、長岡等の部落を合して成り、面積は一〇方粁一六にして本郡中第四位の大村で、戸數約五百四十、人口三千二百をかぞへる。大字中野には郵便局あり、杉戸町へは自動車が通つてゐる。耕地は水田六百二十町歩、畑地百四十町歩で、米麥のほか養蠶が盛んに行はれる。

田宮村

杉戸町の東に接し、東は櫻井村に、東南は富田村に、西南は幸松村に、西北及び北は八代村に、東北は吉田村に隣接する。庄内古川の上流は村の東部を流下し粕壁より關宿へ通ずる縣道は、村の東南部を貫き、杉戸町へは自動車が通つてゐる。才羽、北蓮沼、並塚、廣戸沼、佐左衛門、遠野、大塚の七大字より成り、その總面積は七方粁七一にして、戸數四百六十、人口二千七百餘を算し、主産物は米、麥、繭等である。

堤郷村

古利根川上流の東岸に在り、杉戸町の南に接壤する農村で、東は田宮村に、南は幸松村に接し、西は古利根川を隔て、南埼玉郡百間村に對してゐる。陸羽街道及び縣道は村の西部及び東南部を走り、杉戸町へは自動車の便がある。堤郷、本郷の二字を合して成る村で、面積四方粁八一あり、戸數約三百三十、人口約二千人である。主産物には米、麥及び繭等が擧げられる。

幸松村

古利根川の東岸に沿ふ農村で、流の對岸には南埼玉郡粕壁町があり、北は堤郷村に、東北は田宮村及び富田村に、東は南櫻井村に、南は豐野村に隣接する。粕壁の藤と稱して有名な藤園は本村大字牛島にあり、東武鐵道粕壁驛を去ること僅に十町、牛島の藤ともいはれ、全國でも代表的巨木である。また小淵の不動院も有名である。面積八方粁〇五、粕壁町及び杉戸町へは何れも自動車の便あり、陸羽街道通じ、關宿への縣道は本村内に於て分岐する。米、麥、桐材用具、果實、清酒の産が多い。

豐野村

古利根川の東岸に位して、東方は古庄内川を限界として川邊村及び南櫻井村に接し、西は古利根川を隔て、南埼玉郡武里村及び櫻井村に對し、北は幸松村につづき、南は松伏領村に隣する。銚子口、藤塚、赤沼の三大字より成り、その面積四方粁八三あり、村民は農を主業とし、桃、枇杷等の栽培極めて盛んにして、果實の産出の多いことは本郡中第一位である。他に米、麥、繭を産し、また帽子の特産がある。名勝に遠藤桃園、龍泉寺等がある。

松伏領村

古利根川の東岸に沿ひ、北は豐野村に接し、東は金杉村及び旭村に連り、西は南埼玉郡新方村及び增林村に對し、面積に於て當郡中第二位に屬し一一方粁〇六である。松伏、上赤岩、下赤岩、田島、大川戸の諸大字より成り、南埼玉郡越ヶ谷町より千葉縣野田町に至る乘合自動車の通路にあり、尙また本村及び吉川間にも乘合自動車が往復する。新風土記に「此邊田圃の間に多くの桃樹を栽培し、其實を鬻いで生産の資とせり」とあり、古くより桃の栽培の盛んな土地であつて、米麥の産もまた尠くない。名勝には松伏溜井がある。

旭村

東方は江戸川の流れに面して千葉縣東葛飾郡梅郷村に對し、西は松伏領村に隣り、南は三輪野江村及び吉川町に連り、北は金杉村につゞき、古庄內川は江戸川と並んで村の東部を南流する。南廣島、十一軒、鍋小路、今上、上內川・下內川八子新田、川藤等の部落を併せて成り、面積九方粁七六あり、戸數約六百、人口三千五百をかぞへる。米、麥、蔬菜及び桃果を主産物とする。

三輪野江村

江戸川及び古庄內川の堤防に倚り、對岸は千葉縣東葛飾郡新川村である。北は旭村に、西は吉川町に、南は早稻田村に隣接する。二つ沼、小松川、中島、飯島半割、加藤、深井新田、平方新田、三輪野江、鹿見塚ほか七字より成り、面積一一方粁一七の大村で、本郡中の最大なる面積を有してゐる。慶長年間、伊奈半十郎忠治がこの邊を開墾したもので、米、麥、蠶豆、蔬菜等の農作物の産出が頗る多い。

彦成村

古利根川の岸に在り、對岸は南埼玉郡八條村である。吉川町の南に位し、同町から越ヶ谷町へ行く定期バスの通路に當り、東は早稻田村に、南は戸ヶ崎村に相接する。彦倉、番匠免、彦濱、彦江ほか十二の大字を合して成り、面積一〇方粁三〇にして郡中の第三位を占める、蕪菁その他の蔬菜類の栽培多く、すべて東京へ送られる。字彦名は最も古くより開けた部落である。

早稻田村

古利根川の西岸に位して對岸は千葉縣東葛飾郡流山町である。彦成村の東に連り、北は三輪野江村に、南は戸ヶ崎村に接する。卑濕の地で、村內東部を古庄內川及び大場川が南流する。谷中、幸房、岩野木、茂田井ほか十一大字より成り、面積九方粁六九に及ぶ。

當地方の水田には昔より專ら早稻を播種することが慣しとなつて居り、また他郡に勝れて成熟すること早く、萬葉集の歌に「にほとりの可豆思加わせをにへずとも」とあり、南に海をうけて氣候も自ら溫暖であるため、古くより早稻米の名が聞えた。また藁細工品の製造も盛んに行はれる。

戸ヶ崎村

本郡中最南部に位する村で彦成村及び早稻田村の南に隣接する。南は東京市に堺し、東は八木郷村に續き、西は綾瀨川を越えて南埼玉郡潮止村に對してゐる。戸ヶ崎、寄卷、長沼ほか、六部落より成り、面積四方粁六一に及び、字戸ヶ崎に郵便局あり、當村及び草加町間には自動車の便がある。

米の産額多きほか、葱、小蕪等、蔬菜類の産地として知られ、村內には西福寺淺間神社の名勝がある。

八木郷村

郡の最東南端に位し、東は江戸川を隔てゝ千葉縣東葛飾郡馬橋村及び松戸町に對し、南は東京市葛飾區と境し、西隣は戸ヶ崎村で、北は早稻田村に續く。

長戸呂、大膳、市助、八町堀外八部落より成り、面積五方粁三四に及ぶ。古庄內川及び大場川は早稻田村より南流し來り、前者は大字橫堀に於て、江戸川と合し、後は更に南下して古利根川に注ぐ。葱、蕪菁等、蔬菜の名産地で生産物の大部分は東京へ出荷されてゐる。青年學校及び消防組の成績は特に良好なるを以て廣く縣下に知られる。

豐岡村

江戸川上流の西岸に沿ふ村邑で杉戸町を去ること二里の地點に在り、江戸川對岸は千葉縣東葛飾郡二川村である。西は吉田村及び櫻井村に、南は寶珠花村に續く。鷲ノ巢、目沼、槇野地、花島ほか五大字より成り、面積四方粁四九、村の西端を縣道が通ずる。戸數三百二十餘、人口千六百三十をかぞへ、耕地は田六十町歩、畑百九十五町歩で、米、麥、繭を主産物とする。

櫻井村

杉戸町の東方約二里の地に位し、豐岡村の西に隣り、東南は寶珠花村に、南は富田村に、西は田宮村に接し、西北には吉田村がある。杉戸町及び粕壁町へは自動車の便がある。

木崎、倉常ほか五大字より成り、面積五方粁五八にして、主産物は米、麥、繭蔬菜類であつて、また鯉、鮒、鰌等の川魚が獲れる。名勝には　大正天皇御大典記念に植ゑた野田街道の楓櫻樹があり、景勝絕佳、春秋を通じ觀賞者の來り遊ぶものが多い。

寶珠花村

江戸川上流の西岸に沿ふ村邑で、對岸は千葉縣東葛飾郡二川村である。北は豐岡村に、西は櫻井村に、南は福田村に隣接する。杉戸町を東へ去ること二里二十餘町、同町よりは自動車の便がある。西寶珠花、西親野、井塚の三大字より成りて、面積一方粁七六にして本村中の最小村である。主要産物は米、麥、繭で、村内には名刹寶藏寺がある。

富多村

江戸川の西岸に位し、對岸は千葉縣東葛飾郡木間ヶ瀬村で、北に寶珠花村あり西は田宮村、幸松村に接し、南は櫻井村に續く。粕壁町を去ること約二里にして自動車の便がある。神間、上吉妻、下吉妻、小平、立野、椚、榎の七大字より成り、面積七方里四二、戸數約三百四十、人口約二千百人。主要物産は米、麥、繭で、蔬菜類の栽培も盛大である。

南櫻井村

富多村の南に隣り、粕壁町より東へ一里の地にあつて自動車の便あり、村の東側を江戸川が流れ、對岸は千葉縣東葛飾郡川間村である。南は川邊村に接し、西に幸松村がある。

上柳、下柳、永沼、金崎、上金崎、大衾、西金ノ井の諸部落より成り、面積は九方粁九〇、主要物産は米、麥、繭で、蔬菜及び果樹の栽培も盛んである。村内には鄕社香取神社があり村民の崇敬をあつめてゐる。

川邊村

南櫻井村の南に隣接して、東は江戸川を越えて千葉縣東葛飾郡川間村及び七福村の各一部と對し、南は金杉村に連り、西は豐野村に續いてゐる。越ヶ谷町より寶珠花村へ至る縣道は村の東部を南より北へ走り、交通至便である。飯沼、赤崎等の部落より組成せられて、面積六方粁九一にして、戸數四百十、人口二千四百人をかぞへる。米、麥、繭、茶を主産物とし、また果樹の栽培が盛んに行はれて居り、八ッ頭芋、薑等の名産地として知られる。

金杉村

川邊村の南に隣接し、江戸川の西岸に沿ふ農村で、對岸は千葉縣東葛飾郡七福村及び野田町である。西南に松伏領村あり、南は旭村に連り、築比地、魚沼、番匠、金杉の諸部落を合し、面積五方粁六三に及ぶ。縣道越ヶ谷寶珠花線は、村の西より入つて、川邊村に進み、野田町及び粕壁町へは自動車の便がある。米麥を主要物産とし、蔬菜類の栽培極めて盛大で、また枇杷の名産地として聞える。

農作本位の大里郡

面積三三・二四平方粁有し、關東平野の一部を占める本郡は、西、秩父山地に接續するの外は東、南、北の三方は開けて卽ち關八州の大平野に連り、全部平坦廣濶、北端には洋々たる大利根の長江東に流れ、南部には荒川の急湍貫流し、兩川の流域は沃野千里、溝渠四方に通じて水利の便極めてよく、稻田麥圃廣く、桑園また連つてゐる。

本郡の産業は農業を以て生計となしてゐる。土地平坦、水利縱横に通じて灌漑揖舟等の便あり、地味また肥沃、且つ氣候中和にして晴雨の適度なる、農業の發達を遂げ、治水の完備、耕地の整理などに對しては官民一致してこれが進歩と改良とに意を注いで、今日の整備を招來するに至つたものである。

本郡は郡制實施の際、武藏國の舊大里幡羅、榛澤、男衾の四郡を併合して一郡を成せる行政區であつたが、大正十三年郡制廢止となり、同十五年郡役所も廢止されて、現在はたゞ地理的稱呼に過ぎない。三ケ町三十四ケ村に分れてゐる。

町村 妻沼、深谷、寄居

久下、佐谷田、吉見、市田、吉岡、御正、大麻生、三尻、玉井、奈良、長井、桒、男沼、大田、明戸、別府、幡羅、大寄、新會、中瀨、八基、岡部、榛澤、本郷、藤澤、武川、花園、用土、櫻澤、男衾、折原、鉢形、小原、本畠

妻沼町

郡の北東部に位置して區裁判所出張所郵便局、銀行、商店等を有する本町は、熊谷太田街道により南は熊谷町に、北は群馬縣太田町に、南は羽生妻沼街道により北埼玉郡羽生町に、西は妻沼深谷街道により深谷町に達し、洵に四通八達、郡東北部に於ける最樞要の地を占める。

面積六・一五平方粁、戸數八百餘、人口五百餘を有し、土地平坦、地味肥沃、米、麥の栽培に適する。

村社大村井神社、同氷川神社、同白髭神社、觀喜院、玉洞院、瑞林寺、長井寺觀清寺その他の社寺があり、大村井森に聖天堂がある。

深谷町

郡の中央部に位して深谷、田谷、西島曲田、萱須等の大字から成り、面積四・七平方粁一、戸數二千六百餘、人口一萬五千をかぞへる當町は、製藥の盛大なること縣下隨一とされてゐる。生糸、絹織物、小麥粉等の産出が多い。

中山道が町の中央を東西に貫通し、深谷寄居街道、深谷妻沼道などがあり、また私設鐵道の起點ともなつてゐる。

區裁判所出張所、郵便局、高崎線深谷驛、縣立深谷商業學校等の所在地であつて、商業工業の旺んなところ、銀行會社

商店、工場等、中山道を挾んで櫛比し、今もなほ車馬絡繹の繁華を呈す。
村社四、寺院一二、深谷城址がある。

寄居町

本町名は鉢形落城後、甲州武田の落武者並に小田原北條の浪人など、四方から來住したことに起ると傳へらる。
郡の最西部に位置し、東は花園、櫻澤の二村に、西は荒川を挾んで鉢形・折原の兩村に、北は兒玉郡松久、大濃の二村に接し、寄居、藤田、末野の三大字から成る。
面積六・一五平方粁、戸數一千百餘、人口五千百餘、秩父鐵道寄居驛、波久禮驛あり、商賈軒を列ねて商況活潑で、また柑橘、葡萄の產地である。
裁判所出張所、警察署、郵便局等の所在地であり、村社末野神社、極樂寺、善導寺、正龍寺、東藏院、淨心寺、西念寺正樹院などの社寺がある。

久下村

本村は郡の東南部に在り、久下、新川の二大字に分れ、面積は五・八一平方粁を占めてゐる。戸數三百六十餘、人口二千二百餘、米、麥を產する。
久松寺などの寺院があり、また久下氏の城址がある。

佐谷田村

當村は、面積五・六平方粁、戸數四百餘、人口二千五百餘をかぞへ、米と麥とを主なる產物とする。また名產としての蔬菜がある。
村社八幡神社、外二社あり、寺院に永福寺、金鍋寺、長福寺、超願寺がある。

吉見村

本村は郡の東南に在つて、比企郡と北足立郡との間に突入し、東北は荒川を境に久下村、北足立郡吹上村に對し、東南は比企郡北吉見村、西は比企郡大岡村、南は比企郡松山町、北は市田村に接す。
相上外六大字に分れ、面積七・二六平方粁、戸數約六百、人口三千三百餘を占め、農耕を生業とする。鄕社吉見神社あり、天照皇大神を祭神とし、外に日吉神社初め六社あり、玉泉寺、西明寺、大福寺、保安寺の寺院を有する。

市田村

郡の東南に位して中曾根、屈戸、小泉上恩田、中恩田、下恩田、平島・沼黑、吉竹敷、津田新田、高本の十一大字に分れる當村は、面積八・一四平方粁、戸數五百八十餘、人口三千六百餘、米、麥及び雜穀を產し、桑樹の栽培に適する。
村社高城神社、同市田神社、同諏訪神社、圓正寺、地藏院、常永寺、自性寺、桂雲寺などの社寺がある。

吉岡村

本村は熊谷市を距る約半里、西南部は土地高燥、大字揚井と比企郡との界は起伏あるも、その他は全く平坦、荒川の灌漑を利した肥沃の田野で、農產物を多く產してゐる。面積七・七〇平方粁あり、五百餘の戸數と三千餘の人口とがあり、郡中最も早くから開けた地である。
村社八幡神社、同登宇氣神社、同白髭神社等鎭座し、見性院、高雲寺、專念寺などの寺院が置かれる。

御正村

當村は舊新田家の莊園で、里人「御庄」と呼んだ。成澤、御正新田等の五大字に分れ、面積一〇・一二平方粁七、戸數七百餘、人口一千六百餘、米、麥を產す。
村社八幡神社、外四社、光眞寺、外四寺がある。

大麻生村

面積六・七四平方粁、戸數五百五十餘、人口三千二百餘、秩父鐵道大麻生驛があり、田畑よく拓けてゐる。村社五、寺院六がある。

三尻村

三ケ尻、十六間、新堀新田の舊三ケ村合併からなる當村は、面積八・八一平方粁。戸數五百六十餘、人口三千三百餘を占め、その多くは農を主業とする。
村社大雷神社あり、觀言閣、龍泉寺、幸安寺、德藏寺などがある。

玉井村

本村は郡の中央に位置し、中山道に沿ひ、高崎線籠原驛、郵便局、縣農事試驗場あり、玉の井等の四大字に分れる。面積七・三七平方粁、戸數六百餘、人口三千六百餘を有する。
四大字はもと何れも獨立村なりしが、合して本村となつた。村社玉井大神社、外三社、玉井寺、外十寺院がある。

奈良村

當村は熊谷市と妻沼町との中間約一里の地に在り上奈良、中奈良、下奈良、奈良新田四方寺の五大字から成つてゐる。面積七・四八平方粁、戸數六百餘。人口四千に近く、米、麥等を主產物とする。
熊谷妻沼街道、村の中央を南北に馳せ、寄居赤岩街道村の中央を東西に駈つて交通に便する。村社四、寺院一三がある。

長井村

熊谷市を北へ距る約二里、上根外舊七ケ村の合併したもので、戸數六百餘、人口三千七百餘、利根川流域の平地で、全

村殆んど水田をなしてゐる。
熊谷妻沼街道、妻沼羽生街道、寄居赤岩街道、忍妻沼街道など通じて、交通頗る便利である。
村社八幡神社をはじめ村社七、寺院八がある。實盛塚の舊蹟もある。

秦村

當村は葛和田、俵瀬、日向、大野、辨財の五大字から成り、面積六・七六平方粁、戸數五百七十餘、人口三千二百餘、利根川、村の北境を東流し、妻沼羽生街道、寄居赤岩街道はその他の街道と共に村を貫通し、村社長井神社、外三村社と四寺院がある。

男沼村

面積七・六二平方粁、戸數六百に近く、人口三千五百餘をかぞへ、米、麥などを産出する。村社四、寺院六あり、妻沼町と群馬縣尾島町に通ずる道路があつて、交通に便する。

大田村

東は妻沼町、長井村に、北は男沼村に接する。七大字に分れて面積七・七三平方粁、戸數六百餘、人口約四千を有し、土地平坦、田園連り、水路縱横に通じて地味肥沃、米、麥、蘭を産する。
村社大田神社あり、能護寺、外八寺院がある。

明戸村

本村は蓮沼外九大字からなり、北境を利根川が東に流れる。面積八・七五平方粁、戸數一千二百餘、人口六千二百餘、農産物を主としてゐる。幡羅中瀬街道、深谷妻沼街道、本庄妻沼街道が縱横に馳驅する。村社四、寺院七がある。

別府村

東別府、西別府、下增田の三大字から成り、面積六・一八平方粁、戸數八百餘人口三千餘、尾島小川と、別府深谷の二街道あり交通に便である。主産物は米、麥、村社三、寺院四があり、別府氏の城址がある。

幡羅村

原郷、柴崎等の五大字からなり、面積一一・〇六平方粁、戸數七百五十餘、人口四千五百餘、米を産す。村内中山道、深谷妻沼街道、幡羅中瀬街道通じ、高崎線は中山道に並行して東西に走り、縣立商業學校がある。郷社櫻川神社は郡内四郷社の一、他に村社四、寺院七がある。

大寄村

深谷町を距る北へ三十五町、内ケ島等の七大字に分れ面積六・五九平方粁、戸數七百餘、人口四千二百餘を有す。中山道北境を走り幡羅中瀬街道、本庄妻沼街道など通じ、交通に便する。村社諏訪神社の外に村社五、寺院八がある。

新會村

深谷町を距る事北へ一里三十餘町、新戒高島、成塚の三大字から成る本村は、面積四・九五平方粁、戸數六百餘、人口約四千、一村殆んど水田連り、米、麥等の産額が多い。
村社生品神社、同古櫃神社、同御嶽大社が鎭座する。大林寺、東雲寺、安善寺などがある。

中瀬村

當村は利根川の右岸に在る一小村で、土質特に桑園に適する。從つて養蠶並に蠶種製造の業盛大にして、その名は洽く關東に知られる。
國道は村の西部を南北に走り、幡羅中瀬街道村の東南を東西に通じ、人家兩街道を挾んで櫛比し、郵便局及び、十五社神社、觀音寺、吉祥寺がある。

八基村

本村は郡の西北隅に位置し、實業界の傑人子爵澁澤榮一を生み出した地、血洗島舊七ヶ村の合併から成り、面積五・八六平方粁を有し、約七百の戸數と二千二百餘の人口とをかぞへる。
穀類、蔬菜、藍、桑によく、養蠶、蠶種製造また旺盛で富裕である。村社六、寺院四がある。

岡部村

高崎線岡部驛があり、岡部、普濟寺、岡、伊勢方、寄根の五大字から成る當村は、面積一三・四八平方粁、戸數一千餘人口約六千を擁し、米、麥などを主なる産物とする。
中山道、村の北部を東西に貫通すれば深谷兒玉街道は、中山道と分岐して南西部を馳せて榛澤村に入り、その他の街道また交通の便を助ける。
郷社島護産泰神社あり、外に村社三、寺院九がある。

榛澤村

郡の西北隅に位し、榛澤外舊五ヶ村合して一村となつた本村は、深谷兒街道が村の中央を東西に通ずるの外、榛澤本庄道、榛澤兒玉道、榛澤寄居道、榛澤本郷道の里道が走り、交通頗る便である。
面積八〇・二八平方粁あり、戸數約六百、人口三千五百餘を占め、河あり、堀あり、池あり、大に水利に富んでゐて、水田相連つてゐる。
村社六、寺院七をかぞへる。

本郷村

當村は郡の西北隅を占め、本郷、針ケ谷、山河、今泉の四大字に分れ、面積一二・二二平方粁、戸數四百五十餘、人口約三千を有す。

秩父山脈の餘波をうけ丘陵連亙し、石原山、高取山、淺間山等防風堤の如くに聳え、西部頗る高く、三面は平野をなして北方に傾斜する。

村社三、無格社一、寺院六がある。

藤澤村

本村は郡の中央をやゝ西北偏りに位置し、深谷町を西南に距る一里八町、人見の外に六大字に分れ、面積二一・三〇平方粁を有し、一千三百餘の戸數、約八千の人口を占め、農耕の業を主たるものとなしてゐる。

縣道深谷小川街道あり、深谷寄居街道また村の中央を東西に馳せて、交通の上に便益を與へる。

村社五社が祀られてゐて、一乘院をはじめ八寺院がある。

武川村

長在家、田中、菅沼、上原、明戸、瀬山の舊六ケ村から成る當村は、面積に於て八・六五平方粁を占め、戸數に於て六百八十餘、人口四千二百餘を算す。

荒川の北岸に延長する一帶の平地であるが、北部は高燥、森林鬱蒼たる臺地をなしてゐる。

秩父鐵道武川驛あり、熊谷秩父街道、寄居赤岩街道、深谷小川街道など四方に通ずる。

村社三、寺院五がある。

花園村

本村は郡の西端部に位置する。武藏野黒田、小前田、永田、荒川、比根の舊六ケ村からなり、面積一五・七〇平方粁、戸數一千百餘を算す

秩父鐵道永田驛と小前田驛とがあり、熊谷秩父街道、菅谷兒玉街道、深谷寄居街道が走つてゐる。

村社八幡神社の外に村社二、寺院八をかぞへる。

用土村

昔は用土原と稱し、用土城址が今に遺る當村は、郡の西端部に在つて面積六・九七平方粁、戸數四百餘、人口六千七百餘、寄居藤岡、菅谷兒玉街、廣瀨土の各街道の村内を貫通する。

村社白山神社、同諏訪神社、貴船神社があり、心光寺、蓮光寺の寺院もある。

櫻澤村

村内第一の高山鐘撞堂山を有する本村

は、郡の西南部に在つて面積四・七〇平方粁、戸數は五百餘をかぞへ、人口は約三千人を有する。

熊谷秩父街道、深谷寄居街道、寄居藤岡街道が貫通して交通に便する。

村の名稱は古く、武藏七黨の猪俣黨の一族櫻澤四郎左衛門宗氏の住したところであるといふ。

村社八幡神社および長福寺、天正寺、妙音寺、龍源寺がある。

男衾村

當村は郡の西南部、寄居を距る東南一里十町のところに在る。

今市、富田、赤濱、牟禮、鷹巣、西古里の七大字に分れその面積一八・〇一平方粁、戸數七百餘、人口四千二百餘、農業を主とする。

郷社出雲乃伊波比神社をはじめ村社小波神社、同熊野神社、同三島神社、同兒泉神社等があり、そのほか東全寺をはじめ九寺院がある。

折原村

折原、立原、秋山、西ノ入、三品の五大字から成る本村は、東は鉢形村西は秩父郡白鳥村、南は比企郡竹澤村、北は荒川を挾んで寄居に對する。面積一五・五〇平方粁、戸數四百七十餘、人口約三千

本村はその昔、武藏七黨丹黨の一族織原丹五郎泰房の居住したところである。村社三と、寺院一〇とがある。

鉢形村

當村はもと數釜の庄と稱し、今に遺る鉢形城址あり、北武藏地方第一の郡邑だつた。鉢形、保田原。露梨子、小園の四大字に分れ、面積六・三七平方粁、戸數四百六十餘、人口約三千をかぞへ、北部は荒川に臨み、田圃よく開けてゐる。

村社五あり、寺院六がある。

小原村

郡の東南部に位置し、稲垣若狹守の陣屋跡を有する本村は、須賀廣、野原、小江川、板井、鹽、柴、千代の七大字から成つて、面積一一・九四平方粁を有して戸數四百餘、人口二千五百餘を占める。主産としては米、麥などがある。

村社八幡神社、外に村社三、寺院七がある。

本畠村

當村は郡の東南、荒川の南岸に位置して本田、畠山の舊二ケ村から成り、面積一三・六二平方粁、戸數七百五十餘、人口四千五百餘、古は畠山の莊と稱し、源氏の功臣畠山次郎重忠この地に住した。大字畠山の中央に畠山館跡及び、八幡神社の背後に畠山重忠の墓がある。村社三、寺院三がある。

茨城縣勢

總說

概說

面積六百十六粁余あり、人口百五十萬をかぞへる本縣は、關東地方の東北部に位し、北は福島縣磐城國に隣り、東は大平洋に面し、南は利根川を以て千葉縣下總國に境し、西は栃木縣下野國及び埼玉縣武藏國に接し、常陸一國と下總國三郡に亙り、水戸市、東茨城、西茨城、那珂久慈、多賀、鹿島、行方、稻敷、新治、筑波、眞壁(以上常陸國)、結城、猿島、北相馬(以上下總國)の一市十四郡を管轄し、縣廳を水戸市に置く。

地勢

北部は山地で阿武隈高原の一部に屬し西北栃木縣界にはその一支脉なる八溝山脈が南北に走り、その南端は加波山、筑波山となるこれと並行して久慈川の谷を距てゝ東方には阿武隈山系の一脈が來て多賀山脈となる。那珂川は八溝山脈を横斷し、久慈川は兩山脈の間を流れて海に入る。八溝山脈の先端の筑波山(八七六米)はさほど高くはないが、平地に聳えてゐるので著しく目立つ。

縣の南部一帶は關東平の一部をなし、土地低く、霞が浦や北浦をはじめ、利根川の支流たる、小見川や鬼怒川が流れ、肥沃な大平野を形成してゐる。

海岸は大體に屈曲少なく、久慈川以北多賀山脈の東側には帶狀をなす第三紀層が發達して急に海岸に迫り、これを開折する小流ごとに沖積地をなす。この第三紀層中に石炭をふくみ、これが常磐炭田で、その一部は本縣に屬する。しかしてまた多賀山脈をなす古い岩層からは金、銀、銅、鐵等を產出する。久慈川以南利根川河口に至る間は、概ね砂濱で良錨地はない。

產業

本縣は平地が多いから米、麥、大豆、茶、煙草等の產額が多く、大豆は北海道岩手縣に次ぎ煙草は鹿兒島、栃木の二縣に次ぎ、いづれも第三位である。土浦の清酒、醬油、石岡の清酒、結城の紬、木綿等は縣下の主なる產物となつてゐる。北部の山地には鑛業が盛んで常磐炭田の石炭は炭質は良くないが、東京、横濱の大需要地を控へて大いに利用されてゐるまた日立鑛山は銅、金、銀、鐵などを產し、なほ他の鑛山の鑛石をも精煉する。その他花崗石、大理石等の石材をも多く產出する。

都邑

水戸は副將軍といはれた德川御三家の

一の舊城下である。その他土浦、石岡、下館、日立、古河は名邑で、潮來、大洗筑波山は遊覽の地として知られ、鹿島は鹿島神宮鎭座の地として名高い。

交　通

本縣を南北に縱貫する常磐線は、關東と奥羽とをつらねる幹線の一で、水戸線がこれより岐れて西に走り、縣の主要の地を連ね、常總鐵道及び筑波鐵道は上記二線を連絡して交通の便を大ならしめ、水戸からはなほ福島縣郡山に達する水郡線が出、その他數多の私設鐵道があり、霞ケ浦や利根川は汽船の來往繁く交通至便である。

沿　革

明治の初め、新治郡に常陸縣知事を置いたが間もなくこれを廢し、同二年二月には若森縣を置いた。更に同四年の廢藩置縣に際しては次に擧げる十五藩が縣とされた。

水戸――德川氏三十五萬石
宍戸――松平氏一萬石
笠間――牧野氏八萬石
下館――石川氏二萬石
下妻――井上氏一萬石
松岡――中川氏二萬五千石
土浦――土屋氏九萬五千石
石岡――松平氏二萬石
志筑――本堂氏一萬百十石
牛久――山口氏一萬余石
龍ケ崎――米津氏一萬千石
麻生――新庄氏一萬石
松川――松平氏二萬九千余石
結城――水野氏一萬七千石
古河――土井氏八萬石

しかして同年十一月十四日には前記の若森及び土浦、石岡、志筑、牛久、龍ケ崎、麻生、松川の八縣を廢して新治縣を土浦に置き、常陸國の新治、筑波、河內行方、信太、鹿島の六郡と、下總國の香取、匝瑳、海上の三郡を管せしめた。また結城、古河及び葛飾、佐倉、關宿、曾我野、生實の七縣を廢して印旛縣を佐倉に置き、下總九郡を管せしめた。更にまた水戸、宍戸、笠間、下館、下妻、松岡の六縣を廢して茨城縣を水戸に置き、常陸國の多賀、久慈、那珂、茨城、眞壁の五郡を管せしめた。

明治六年六月十五日には印旛縣を廢してこれを千葉縣に併せ、ついで八年五月七日には下總の結城、猿島、岡田、豐田の四郡と葛飾、相馬二郡の一部とを茨城縣に移し、新治縣を廢して常陸の六郡を茨城縣に、下總の三郡を千葉縣に移して大體今日の狀態となつたのである。

その後、明治十三年及び同二十九年の二回に亙つて郡の廢合を行ひ以て今日に至つてゐる。

名　勝

名勝として擧ぐべきものには勿來の關袋田の瀧、大洗海岸、常磐公園、筑波山霞ケ浦、海軍航空隊、江戸崎潮來の水郷鹿島神宮、笠間稻荷、その他があり、何れも世に知られてゐる。

水戸市

いはゆる水府は、德川三家の一にして副將軍と稱された水戸中納言家三十六萬石の城下として發達し、今も關東平野の東北に於ける最も主要なる中心都市をなし、縣廳所在地にして、恰も常南と常北兩地方の境界線上にあり、縣治上好個の位置を示してゐる。しかし近代的產業の土地としては必ずしも有利な條件を備へず、最近の發達は比較的遲々たるもので人口も六萬餘に過ぎない。

交通は常磐線の通過驛で、小山線の起點たるのほか、郡山に達する水郡線を北方に出し、海濱へは水濱電車が通じ、これと並行して、やゝ北方を湊鐵道が走つてゐる。市內にも一條の電車が東西に貫いてゐるが、しかし常磐線のほかは何れも比較的短距離で、產業的價値にとぼしい。道路は四通八達し、陸前濱街道（國道）が南北に貫通するほか、定期自動車の運轉しつゝあるもの十數線に及ぶ。水運はもとは那珂川を利用し、これによつて外海に通じ頗る便益を得てゐたが、今はさうでもない。

物產は比較的乏しく、煙草製造の盛んであるほか、小規模の製造會社若干あり梅羊羹、茨城殿中、寒水石器など土產物として知られるに過ぎない。

市街は東西に長く南北に狹く、小高い臺地の上下に亙り、北に那珂川、南に千波沼を控へて、天然の要害と美觀とを得てゐる。市區は古來、上市と下市に分たれるが、その中間に丸の內とも稱すべき一劃があり、おのづから三分される。

舊城地の跡には各種の官衙・學校、建造物など散在し、市役所、縣社東照宮、商工會議所、赤十字社支部、縣廳、縣會議事堂、地方裁判所等はいづれもこゝに集つてゐる。なほ市內には日本三公園の一たる常磐公園及び水戸公園（第二公園）の名勝がある。

蔬菜多產の東茨城郡

本郡は縣のほゞ中央より稍々東寄りに位置し、北は那珂川の流れを越えて那珂郡に相對し、東の一部大平洋に面し、南は鹿島、行方の二郡に隣り、西に西茨城郡あり、西北は栃木縣と境する。また那珂川に沿ふ一部は水戸市を抱いてゐる。地勢概ね平坦なるも西北に至るに從つて山岳丘陵の起伏するあり、民狀一般に質實である。往古は茨城郡の一部であつたが、明治二十九年これを二分して東西にわかれた時、現區域を以て東茨城郡と稱され今日に及ぶ。

小學校は四十二校の多きをかぞへ、うち高等科を併置するものは三十六校に及び各學校共設備よく整ひ、施設また見るべきものあり、鄕土に即應せる教育が行

はれ、住民も一般に教育に理解がある。中等學校には水戸高等女學校、茨城工業學校、茨城縣薫風院等がある。また官衙としては水戸地方專賣局石塚出張所、歩兵第二聯隊司令部、水戸區裁判所出張所農事試驗場等が擧げられる。

郡内を分ちて四町二十九ヶ村とし、町村名は次の如し。

町　小川、石塚、磯濱、大貫。

村　上大野、下大野、稲荷、大場、酒門、石崎、吉田、緑岡、河和田、上中妻、長岡、上野合、白河、橘、竹原、堅倉、川根、鯉淵、下中妻、中妻、渡里、飯富、山根、小松、西郷、圷、岩船、澤山、伊勢畑。

小川町

本町は郡の西南に位し、西に新治郡南は行方郡、東は橘村、北は竹原村に接し町内概して丘陵に富む。曾つて烈公弘道館を水戸に開くや、潮來、玉造、湊に郷校を設く、小川にも亦郷校を設けて勤王の士を輩出した。人口約五千餘田二五七町歩、畑四五六町歩にして、小川町外五ヶ村産業組合農會、縣廳へ七里三町。

石塚町

郡内一流の都邑にして東は那珂川に臨み野州、奥州兩街道の交叉點に當り、佐竹氏の居城たりし處、眞言宗の舊跡名精舍たる寳憧院がある。人口約五千、田一二五町歩餘、畑四二三町歩餘、那珂西信販購利組合、石塚管内煙草耕作者購買組合等あり、瀬谷勇次郎氏を出してゐる。

磯濱町

本町は漁業を以て文祿年間より繁昌した、又近世大洗海水浴場と磯節の本場として天下に知らる。古來祝町は歌に有名であつたが、今は娼家その跡を絶つてゐる。田中光顯翁の建設せし常陽明治記念館は明治大帝の聖像を奉安し有名である昔は石卷港より江戸への水運に於ける唯一の中間碇泊港であつた。人口一萬二千に上り面積〇・三二方里、漁獲物實に三十六萬圓内外に達してゐる。國幣中社大洗磯前神社あり老松老椎櫛比して崇嚴である。

大貫町

本町は磯濱町と木卸川を隔つて南方にあり、鹿島灘に臨み漁業を以て磯濱町と殷盛を競ふ。昔は水運の阜頭なりしも今は川を埋められて磯濱町と接續してゐる人口約四千餘、名勝に袖ヶ浦あり、縣廳より三里二三町の處、町政、産業大いに擴充しつゝある。

上大野村

本村は水戸市の東郊にして、東は下大野村に接し、那珂川を北に帶び、南酒門村と境してゐる平坦な地勢である。字は

吉沼、澁井、西大野、坪大野、中大野、細谷、濱田に分れ、細谷には幕末烈公の砲術所神勢館あり。元治元年の内訌には兵火の巷となつた。人口三千二百、田三百町歩、畑二四〇町歩、葱、白菜の産出多く、縣農事試驗場、船舶車輛工場等あり、縣廳へ一里二十五町である。

下大野村

本村は北は那珂川に臨み、西上大野村南稲荷村、東磯濱町に接して、地勢極めて平坦なり。義公千波沼開墾のとき大野大膳村を拓く、古來那珂湊に至る渡頭に當つてゐる。人口三千餘、田一二町歩畑三一九町歩、米の産出二十萬圓に近く、葱、白菜、一寸蠶豆の産出多く又村内自治産業活發を極め曾つて優良農村として縣當局より表彰さた、萬歳製藥工場あり名勝に大膳塚がある。字は下大野、川又平戸、鹽ヶ崎、小泉の五に分れ小泉に村役場がある。

稲荷村

本村は元大串と稱し大串稲荷は水戸家の崇敬厚き祠であつた。又此邊コロボックルの遺窟が多かつた。地勢は水戸市と磯濱町の中央に位し、南大場村、東磯濱町、西酒門村、北大野村に隣接して、人口三千三百餘、田四三二〇町歩、畑二六七町歩にして胡瓜の産出が多い。大字は大串、栗崎、東前、島用、六反田に分れ大串に役場がある。

大場村

本村は古書に「大葉、又は大羽といふ涸沼の沿岸にて村の鎭守を鉾宮といひ、劍を神體とす」と記錄あり。東大貫町に接し北は稲荷村、南吉崎村、西吉田村に隣り、面積〇・五五方里、人口二千餘、田二六四町歩、畑二一四町歩。白菜種子の産地にして、大場（役場あり）森戸、下入野、秋成新田の大字がある。

酒門村

本村は地勢平坦にして、水戸東南の郊外に位し、みつばぜりを産す。古くは坂戸、酒戸とも呼び水戸市の關門に當り重要な地點をなしてゐた。國寳聖德太子像を所藏する善重寺あり、眞宗二十四輩の一字として知らる。人口約三千、田一四一町歩、畑四六八町歩、字は酒門（役場）若宮、石川、谷田の四に分れ、縣廳へ一里、水戸電鐵ありて交通至便なり。

石崎村

本村は中世石崎保と呼ばれ、上中下の三區に分れ涸沼の北岸に位し地勢平坦にしてみつばぜりの産として知らる。大貫町、大場、吉田、長岡諸村と隣接してゐる。人口四千、面積一・二方里、田四百町歩餘、畑五百餘町歩にして昭和八年國

有林九九町歩を拂下げ縣指導の下に、新興理想農場の設置をなしたことは有名にして、爾來本村産業の各分野に亙つて活發なる發展を見せつゝある。

吉田村

本村は水戸南方の郊外に當り、古來南方の關門として重きをなした處、吉田神社と藥王院は古くより由緒ある祠宇として有名である。人口三千餘、畑三六〇町歩、田百町歩、縣立工業學校、市立水戸高等女學校、吉田織物工場、吉田産業組合などあり。字は吉田（役場）吉澤、米澤、東野の四區に分れてゐる。古墳天神山は知名である。縣廳へ一里八町。元吉田古宿といはれた。

緑岡村

本村は吉田村の西方、千波沼の對岸にありて水戸市に隣接してゐる。水戸偕樂公園の西南に丘阜をなし、曾つて水戸藩の別業を置かれた景勝の地である。人口五千餘、田一八〇町歩、畑八七〇町歩あり麥の産出一三萬餘圓に上る。字を千波（役場）見川、見和、小吹、笠原新田、平須の六區に分つ。史蹟弘道館公園あり古千波沼を以て聞ゆ。

河和田村

本村は水戸市の西方にありて、東は緑岡、南は鯉淵、西は中妻、北東、北西に水戸市、上中妻村と接して地勢平坦である。河水の勾をなす邊といふより村名出づ。昔は那珂郡廳の置かれた處、文明年間には春秋尾張城を築くと記錄に存し、此の地にある報佛寺は關東二十四輩の一として眞宗の名寺として知らる。人口三千餘、田二〇餘町歩、畑三七四町歩。常磐線に赤塚驛があり、大字を河和田（役場）萱場新田、赤塚、中丸の四區に分つてゐる。

上中妻村

古くは隱井郷と稱され、加倉井は有名な井である。水戸より笠間への驛路であつた。水戸市の西方一里半の處にして東は水戸市、南は中妻村、西茨城郡、北は山根村に接し地勢は山地、田畑相半ばしてゐる。田一百町歩、畑二五〇町歩、人口約二千五百、字を大塚（役場）、加倉井金谷、飯島の四區に分つ。上中妻産業組合があり、村産業の中樞をなす。

長岡村

本村は郡の中央に位し東京街道の要衝をなす。水戸城南の咽喉を扼し、曾つて幕末水戸の志士が此處に屯して勅書の返還を抗拒し次で櫻田義舉の計畫を立てたるは史實に著名なところ、即ち天狗黨の本據たりし處なり。人口四千七百餘、田三百六十町歩、畑五百六十町歩、縣廳へ

二里半、字を長岡（役場）、前田、谷田部大戸、馬渡、近藤、常井、小鶴の八區に分つてゐる。

地勢平坦である。天然記念物大戸櫻がある。楠公神社あり、境内に田中光顯伯の建立せる櫻田烈士記念碑がありて「菊水の清き流れを長岡の、酌みて御國の塵を洗はむ」と彫つてある。

上野合村

本村は古く野合郷と稱され、後之れを上野合、下野合の二村に分つたものである。巴川の北宍戸川の南なる野中に在り東は鹿島郡、北は川根村、西は堅倉村、南は白河に接して地勢極めて平坦である人口約四千五百、田二百六十町歩、畑一千町歩に上る。國寶阿彌陀像を所藏する圓福寺がある。

大字を秋葉（役場）、神谷、南島田、下座、輕井澤、上雨谷、下雨谷、小幡、鳥羽田に分つてゐる。

白河村

本村は世樂外五ケ村の聯合役場を統一して白河村となしたもので、世樂、吉影ともに種々古文書に見えてゐる。郡の南方に位し、東は鹿島郡、西は堅倉村・南は橘村、北は上野合村に隣接し地勢平坦である。人口約三千五百、面積一・八平方里、田二百餘町歩、畑六五〇町歩、字を上合（役場）、下吉影、飯前、世樂、佐才、新田の五區に分つてゐる。

橘村

本村は中古常陸大椽國香の所領たり、天正年間佐竹氏の領となり、水戸藩に屬す、郡の最南端にして東西南は行方郡に接し西小川町東白河村に隣りて村内山地多く、面積は一・三平方里である。人口約三千六百、田二二〇町歩餘、畑六百四〇町歩、字を與澤（役場）、幡谷、山野、外ノ内、倉數、川戸の六區に分つ、名勝に貝塚がある。

竹原村

本村は古の生國郷にして今小曾納に其名が殘つてゐる。郡の南端に位し、西南は新治郡、東北は堅倉村に接し東京街道の一要地として、早生胡瓜茄子を産す。面積一・二五方里、人口約五千、田三五〇町歩、畑六五〇町歩、産業總額三十萬圓を超ゆ。字を竹原（役場）、竹原新田、竹原中郷、中野谷、花ノ井、中臺、小曾納、大谷、羽鳥、上馬場の十區に分つ。

堅倉村

本村は戰國時代戰亂の巷となりし處、栗、うどの産地として知らる、東京街道に位し西南は竹原村、東は上野合村、北は西茨城郡と境を接す。人口七千餘、田五百町歩、畑一千二百町歩に上る。縣廳

へ五里九町あり、字は十七に分れ、古くより開墾の盛んなりし處である。

川根村

昔は宍戸川の岸部を川根の郷と呼び、後之を北川根村南川根村(以上西茨城郡)と本村に分つたもので、本部落には古墳多くして知らる。郡の西方に位し、西は西茨城郡、北は鯉淵村、東は長岡村、南は上野合村に接し、地勢概ね平坦、人口五千餘、田四百餘町歩、畑六百二〇町歩促成胡瓜の產多く、川根村產業組合が活動してゐる、字を十二區に分つ。

鯉淵村

郡の西方にあり西は西茨城郡、北は中妻、下中妻、東は河和田、南は川根の諸村に隣接す。江戸氏の時代駿河守彦次郎通重鯉淵氏と稱す村名これに出づ。幕末の甲子の內訌に此處の農兵諸生黨に組して天狗黨に對抗せしことあり。地勢平坦にして木炭を產す。人口三千六百餘、田二五〇町歩、畑六八〇町歩、縣廳へ約三里。字を鯉淵(役場)、五平、下野新田、高田の四區に分つ。

下中妻村

中世の頃河和田以西三十三村を中妻郷と稱す那珂のツマリの義である。後之を中妻 上下中妻の三村に分つた。本村は郡の最西方に位し、西は西茨城郡、東は中妻村、南は鯉淵村、北は上中妻村に接し村內地勢凹凸に富む。人口約二千八百田二四〇町歩、畑二五〇町歩、產業組合內原農倉あり、字を杉崎(役場)、中原、三湯、小林、內原の五區に分つ。

中妻村

本村は水戸市の西に當りて、東は河和田村、西は下中妻村、南は鯉淵村、北は上中妻村に接し地勢概ね平坦である。人口二千三百、田二二〇町歩、畑二六〇町歩にして中妻村產業組合あり、字は大足(役場)、有賀、牛伏、黑磯、筑地、赤尾關、田島、三ノ輪に分つてゐる。

渡里村

本村は昔那珂郡と稱し、那珂川の渡津に當る。萬葉集に「三栗の中にむかへるさらし井のたゝずによはむそこに妻がも」とあるは、當村の曝井を詠めるものといはれてゐる。水戸市の東北に隣接し北は那珂川に望み地勢平坦である。人口約四千二百、田一三〇町歩、畑三七〇町歩、歩兵第二聯隊並に衞戍病院がある。字は渡里、田野の二つに分たる。

飯富村

大部(おほぶ)より飫富に、飫富より飯富に轉訛せしものにして、大部の名は

眞佛房(俗稱大部平太郎)が親鸞に歸依し眞佛房を此處に建立したるにより始まるといはれる。東は那珂川、西は山根村南は渡里村、北は石塚町に接す。西方に山地多く、里芋、牛蒡の產出が多い。人口二千九百餘、田百町歩、畑五百町歩、名勝に親鸞聖人田植の舊跡。源義家が十萬の兵を集めし處といふ十萬原等がある大字飯島(役場)、岩根、藤井に分る。

山根村

古くは全隈(またくま)郷と稱し谷津明神は近郷七村の鎭守として知らる。東は飯富村、西は西茨城郡、南は上中妻村北は小松村に隣接して山地多く、人口二千五百、田一八〇町歩、畑三一〇町歩、字を全隈(役場)、開江、成澤、谷津、木葉下の五つに分つ。

小松村

古く本村は入野郷といふ、增井には益井といふ有名な井戸あり。石塚町の西方飯富村の西北方の山間に位置す。人口二千二百餘、田一八〇町歩餘、畑二七〇町歩、名勝に小松寺あり本尊如意輪觀音像は國寶である。平家沒落後一族平重盛の分骨を當寺に葬りたりと、境內に方二間の塚と古碑があり。大字を增井(役場)、上入野、磯野の三つに分つ。

西郷村

本村は石塚町の西南、小松村の西方に當る山間にあり、西は西茨城郡に接す。煙草、茶の產地である。往時石上郷と稱し江戸時代「常之茶」を以て知られた記錄あり。清晉寺は臨濟宗寺の古禪林として古くより著はる。人口三千三百餘、田二二〇町歩、畑三二〇町歩、藤井川發電所あり、字を青山(役場)、下青山、春園小坂、上古內、下古內、勝見澤に分つ。

坏(アクツ)村

本村は古く阿波郷、栗郷と稱さる。坏とは平なる低き地といふ意義にして地勢平坦、漆器を產す。石塚町の北方に接し東は那珂川、西北に岩船村と境し、人口約二千二百餘、田一三〇町歩、畑二七〇町歩あり、上坏に役場あり字を下坏、栗の三區に分つてゐる。

岩船村

本村は元孫根と呼び、錫高野は水戸家が金銀錫を採掘せし處である。東は澤山村、西は西茨城郡に接し、南は石塚町、北は伊勢畑村に隣す。人口三千五百餘、田百六十町歩、畑四百町歩にして、全面積の七七%は森林である。各戸殆んど林業を兼營して貧富の差尠く、曾つて經濟更生模範實行村たり、村產業の伸展大なるものあり。女勳王家黑澤勳子の出身地

にして名勝に德化原がある。字は孫根(役場)北方、高久、錫高野、岩船、高根に分つ。

澤山村

古くは阿野澤、穴澤と呼び、佐竹氏の支族大山氏の領たり。澤山村の名は阿野澤と阿波山より出る。郡の北方に位し、東は那珂川に臨み西は岩船村、南は圷村北に伊勢畑村を隣接し、地勢概ね平坦である。人口二千六百餘、田一二〇町歩餘畑二三〇町歩あり、名勝に御前山、阿波山城址あり。縣廳へ五里半、字は下阿野澤(役場)、阿波山、上阿野澤、赤澤等がある。

伊勢畑村

本村は元野州芳賀郡上檜山と一村をなしてゐたが、後野州を上檜山、常州を下檜山となし之に伊勢畑を加へて現在の村となつた。郡の最北に當り北は那珂郡、南は岩船村、東那珂川に臨み西は栃木縣である、人口約千八百、田三〇町歩、畑は二一〇町歩の山地にして、名勝に檜山城址あり、上下伊勢畑、檜山の三字に分つ

石材第一の西茨城郡

常陸國の中部に位置し、北の一部より東にかけては東茨城郡に境し、南は新治郡と接壤し、西は眞壁郡につゞき、西北は栃木縣芳賀郡につらなる。

郡の西北は八溝山脈に屬する群峯が下野國境にそびえ、その他南新治郡界にも東北の東茨城郡界にも山地があり、その間に笠間盆地をつくつてゐる。盆地の水はすべて涸沼川に集つて東流する。

主要物産は石材を以て第一とする。

鐵道は常磐線が郡の東南を走り、友部よりは水戸線が岐れ、郡を横斷して眞壁郡に入る。また郡の西部の岩瀬よりは筑波鐵道線が岐れて土浦町に至る。

本郡の一部は舊新治郡の地である。明治十三年五月、茨城郡を東西二郡に分けて本郡を置いた。笠間は牧野氏八萬石の城下、宍戸は水戸の支藩たる松平氏一萬石のあつたところである。

中等學校には笠間農學校、日本國民高等學校、笠間家政女學校、稻田裁縫女學校等を有し、小學校は二十四校をかぞへいづれも設備よく整ひ、學業成績また良好である。

郡内を分ちて次の四町十ヶ村とし、人口は約二萬二千人である。

町 笠間、宍戸、岩間、岩瀬

村 南川根、北川根、大原、大池田、七會、北山内、南山内、西山内、東那珂、北那珂

笠間町

德川時代笠間藩と稱して牧野八萬石の城下であつた。元和年間には淺野采女正

長重封ぜられ、赤穗義士の父祖發祥の地である。奥州街道の要衝に位し笠間稻荷は關東に聞ゆる靈場である。地勢概ね平坦にして、陶器、木炭、栗の特産があり元郡役所の所在地であつた。人口約一萬餘、笠間農學校、笠間家政女學校、女子技藝學校あり郡の中心都邑としての體面と施設を存す。名勝に笠間城址あり。

宍戸町

宍戸城は八田知家の四男宍戸四郎家政の築城にして、慶長七年秋田實季五萬石を以て此に封ぜらる。天和二年水戸家の分家大炊頭一萬石の城地となる。元治元年天狗黨の犧牲となつた松平賴德は即ちこの城主である。日本國民高等學校あり農事の改善に先鞭を付け顯著なるものあり。昭和八年頃の經濟不況に町勢大に衰へたが、爾來町村經濟更生模範實行町村として漸次挽回し來りその伸展見るべきものがある。

地勢は概ね平坦にして約七千餘を有し産業總額七十七萬餘圓をかぞへる。名勝に二十四輩第二十二番唯信寺、古墳等がある。

岩間町

和名抄に「茨城郡石間郷は巨神郷(今の笠間町)の南にして山前郷の北なり」とある。鎌倉時代宍戸莊に編入され德川時代に至り土浦藩土屋氏の所領となつた處、大正十年町制を布く、人口約九千、産業總額八十萬圓に達してゐる。

地勢は郡南方の樞要の地にして促成野菜が盛んな平坦の地である。岩間組合の外に官衙、會社、社寺などが多數あつて縣廳へ十里、大字を十四に分つ。

岩瀬町

本町は元西那珂村といふ一寒村であつたが、筑波鐵道の開通を見るや一躍附近物産の集散地と化し、昭和五年町政を布くに到つたもので、商工業では未だ見るべきものなきも農業方面に於いて古くより知らる。人口約九千餘、田畑共に各六百町歩内外にして、岩瀬産業組合、西那珂協和信販購利組合等の外、會社、社寺等多數ある。

名勝に聖武天皇の勅願により行基菩薩の開基した富谷觀音がある。

南川根村

本村は元安居郷又押延郷と呼び、更科日記に子忍とあるは此地といはる。郡の最東南方に位し、東南は東茨城郡、北は北川根村、西は岩間町に接し、地勢平坦で促成胡瓜、桑苗等の特産がある。人口三千二百餘、田二百町歩、畑五百町歩餘あり。南川根産業組合が産業の中樞となつて活動してゐる。字は押邊、安居、土師に分る。

北川根村

本村は元住吉郷といひ、隨分附（ナフサツケ）ともいつた。南川根村に隣して東は東茨城郡、北は宍戸町に接し地勢平坦である。人口約二千五百、田二一〇町歩、畑三一〇町歩、北川根村産業組合が村産業の主動體となつてゐる。部落は湯崎（役場）、住吉、長兎路、仁古田、隨分附、柏井の六區に分れてゐる。

大原村

本村は宍戸町の北方に位し、西は笠間町、東は東茨城郡、北は大池田村に接す元小原、大茨と呼び小野崎通綱の戰死した處である。人口三千七百餘、田三一〇町歩、畑三三五町歩あり、縣廳へ四里一九町、大字は下市原（役場）、小原、上市原、中市原の四つに分れ、水戸よりバスの便がある。

大池田村

笠間町の東北方にありて、西は北山内村東北方は東茨城郡に隣接し山地多き處である。元新治郡に屬し、福田部落は慶長以來金の産地として知らる。人口三千四百、田三百町歩、畑二百十九町歩あり池野邊産業組合あり。勤王家森貞次郎の出た所である。字は大橋（役場）、池之邊福田、飯田の四つに分る。

七會村

本村は郡の最北方にある山間の邑にして西は栃木縣芳賀郡、東は東茨城郡、北は那珂郡で木炭を産する。もと德藏と呼ぶ笠間の一族戸倉三郎の居城であつた。赤澤は鹿島の神領と記錄にあり。人口三千四百、田二八〇町歩、畑二四〇町歩、字は德藏、鹽子、大總、眞端、上下赤澤小勝の七區に分る。

北山内村

本村は下野街道に當り、笠間町の西北方に位す。東は大池田村、西は栃木縣、南は西山内村、北は七會村に隣り、山地多く國境に佛山あり、人口四千百餘、田三五〇町歩、畑二九〇町歩、箱田産業組合あり。名勝に國寶千手觀音像、山門を有する楞嚴寺、國寶石寺彌勒像等あり、字は箱田、片庭、大郷戸、石寺、大淵の五區に分れ縣廳へ六里である。

西山内村

本村は元稲田と稱し笠間町に接す、南は新治郡、西は東那珂村、北は北山内村と境し、地勢概ね平坦大理石の産地として知らる。人口七千餘、田三四五町歩、畑二二〇町歩、石材産額三〇萬圓に及ぶ。縣社稲田神社あり、稲田禪坊跡は眞覺傳錄にある如く十餘年隱栖の所にして下野

上總下總二十四輩の諸寺皆其門弟の開基なり。眞宗興隆の基として西念寺（稲田禪房）は眞宗のエルサレムたり。字を稲田、福原、飯合の三區に分つ。縣廳へ約七里。

南山内村

本村は古の巨神（おかみ）郷にして、後吉原と稱さる。南に難題山あり、南北朝の頃、小田五郎擧兵の地である。笠間の南方宍戸の西方に位し西は西山内村に接す。人口四千二百、田四一〇町歩、畑三一〇町歩、來栖信販購利組合あり。名勝岩谷寺に藥師像の國寶あり。字は北吉原（役場）、南吉原、來栖、本戸、上加賀田、手越の六區に別す。

東那珂村

本村は岩瀬町の東南方の山地にして、特産物に梨あり。元北那珂村と共に大幡郷と呼ばれ、磯部は紀貫之の歌に「いつよりも春べになれば櫻川波の花こそ間なく寄すらめ」とあり、又謠曲櫻川で天下に知らる。田五百町歩、畑三七五町歩東那珂信販購利組合あり村産業大いに伸展す。字は西小塙（役場）、磯部の外十二部落即ち十四區に分つ。

北那珂村

本村は岩瀬町の北方にあり北は栃木縣に接し地勢稍平坦にして、煙草を産す。富谷部落には戰國時代城塞あり、池龜部落は天正時代戰亂の巷たりと記錄にある人口五千六百、田四七〇町歩、畑三七〇町歩、北那珂信販購利組合あり農業に副業に顯著なる事績を擧げてゐる。名勝として富谷觀音あり聖代天皇の勅願所、堂宇棟を連ね慈覺大師作の不動尊、運慶作の毘沙門天等の寺寶を所藏し、又、小山寺には國寶の塔婆がある。部落は南飯田（役場）、龜岡、大月、小鹽、山口、平澤池龜、坂本、間中、福崎、門毛、入野、富谷の十四區に分れてゐる。

水産首位の那珂郡

本郡は常陸國の北部にあり、北は大體久慈川を以て久慈郡に境し、東は太平洋に面し、南は那珂川を以て水戸市及び東茨城郡に相對し、西は栃木縣那須郡並に同縣芳賀郡に隣接する。

本郡は那珂、久慈二川の間の狹長な地で、北部には八溝山脈に屬する山嶽が重疊として峙ち、中部以南は概ね臺地をなしてゐる。生産は水産を以て第一となし葉煙草がこれに次ぎ、水府煙草として全國的に著名である。那珂川河口の湊は漁港として有名である。

省線常磐線は郡の東南部を通つて北に進行し、その勝田驛よりは湊鐵道線が岐れて海邊に達し、水郡南線は水戸より來

つて郡を縦貫し久慈郡に入り菅谷驛より岐れて太田に至る支線を出す。道路は西半より東半によく發達し、車馬の往來頻繁にして郡内概ね交通至便である。

本郡は上世仲國（ナカノクニ）と號したる地にして、早く成務天皇の朝に國造が置かれた。當時その境域は、那珂川の兩流域を含んでゐた。その後國郡制定の際、那珂は郡名に用ひられた。中世に至りその境界が頗る錯綜したが、豊臣秀吉の文祿檢地の際、今の境界となつた。

全郡を分ちて三町三十ケ村とし、人口は約十二萬三千五百をかぞへる。

町村　湊、平磯、瓜連、大宮。
前渡、中野、勝田、川田、佐野、村松、石神、神崎、廻田、菅谷、五臺、柳河、國田、戸多、芳野、木崎、靜、大場上野、大賀、玉川、鹽田、山方、檜澤、小瀬、野口、長倉、八里、三隆郷。

湊　町

本町は古くは阿多可奈湖（あたかな）と呼び、水戸藩の海洋の咽喉部たりし地にして幕末の頃には砲臺が置かれ、天治元年の内亂に天狗黨と諸生黨が戰火を交へたことによつて有名である。

那珂川の河口にある漁港にて市街殷盛北は平磯町に連り、南は川を隔てゝ祝町と相對す。人口約一萬六千、漁業の中心として漁獲高四十萬圓、水産加工三十萬圓に上る。那珂湊信販購利組合、湊町外二町四ケ村販利組合等あり、學校、工場神社、寺院、其の他數多町の施設が完備してゐる。名勝に湊公園、海防見張番、反射爐、鐘樓、水車爐、文武館、砲臺等の舊跡、淨光寺等がある。

平　磯　町

湊町に接續せる海岸の都邑にして、萬葉集にある左奈都良（さなつら）の圖は酒列（さかつら）の轉訛にて元の地名は酒列といつた。現にこゝに國幣中社酒列磯神社がある。人口約九千、遞信省電氣試驗所、平磯水産物産業組合等があり、名勝としては酒列磯神社の外、烈公が命名した觀濤所、畜生石、比觀亭跡などがある。

瓜　連　町

本町は石塚町より太田町に到る中間の樞要の地にして北は久慈川に臨み平坦なる處なり。人口約三千五百である。延元元年足利尊氏大敗して西走するや、佐竹義篤、義春兄弟之に應じて瓜連城に據りて之を助く、楠正成の父正康、常陸の廳にありし由緣により正成家臣を東國に遣して此の城を攻むとの記錄あり、城跡に眞宗の巨刹常福寺あり東國十八檀林の一つである。昭和九年の町制實施にして伸展見るべきものあり。因みに常福寺所藏の拾遺古德傳と稱する繪卷物九軸及法然聖人像は國寶に指定せられてある物で廣く知られてゐる。

大　宮　町

本町は古くは部垂（へだれ）といつた此處も湊、平磯と同じく天狗黨の亂によつて有名な處である。地勢大體郡の中央に位し久慈川に沿ふ山間の都邑にして對岸は久慈郡である。昔より菊の産地として知られてゐる。人口四千餘。煙草耕作者購買組合、大宮町外二町四ケ村産業組合等の外諸種の官衙あり。筑波天狗黨の烈士内藤舜一郎の出た地である。

前　渡　村

本村は古く青塚村、二赤村と稱し、海濱にあつたが天和中大風のために家屋倒壞せしにより今の地に移つたといはる。平磯町の北方に接し鹿島灘に臨む一帶の地域にして地勢平坦、西瓜、甘藷の産多く、近年は殊に村内擧げての協力により縣下稀れに見る優良村となつてゐる。人口約五千三百餘、田一四〇町歩、畑八七〇町歩あり、殊に千五百頭に上る養豚村として知らる。字を馬渡（役場）、前濱、長砂、足崎の四區に別れてゐる。村の中央に立つ火見櫓は代表的なものとして廣く知らる。

昭和七年井上準之助、團琢磨の兩氏が斃れた彼の護國黨の井上日召、菱沼五郎、小沼正等の本據たりし東光臺の庵を結んだ村として、未だ記憶に新らたなる處である。

中　野　村

本村は湊町の西方に隣接する平蕪の地にして、大根の産多し。元幡田郷と呼ばれし地である。

人口約三千四百、田三百餘町歩、畑五五五町歩に達し、農業熾んである。産業組合あり、字は中根（役場）、部田野、東石川、柳澤の四區に分れてゐる。縣廳へ二里二十八町である。

勝　田　村

本村は元川田村と共と武田郷と呼ばる佐竹義榮の弟刑部三郎義清が武田氏を稱せしに始まる。那珂川を隔てゝ西方水戸城と相對し、一望平坦の地たり。葱、牛蒡の産地として知らる。人口三千三百餘田二三五町、畑四六四町歩にして字を勝倉（役場）、三反田、金上、武田に分つ。

川　田　村

水戸市の北方に位する本村は地勢平坦を極め、田二三〇町歩、畑三二〇町歩、人口二千六百餘にして水戸市へバスの便あり、字を枝川（役場）、堀口、市毛、津田に分つ。當村の二井寺は寛文の頃經塚より經筒出で別に經卷の在る處に七寶塔を建つべしとありしにより綱條、父義公の志をついで建立せしものといはる。

佐野村

本村は那珂平の中央に當り、陸羽街道が村内を貫通してゐる。西は菅谷村、北は神崎村、東は前渡村、南は中野村に隣接して西瓜の產地として知られる。人口約四千五百、田二一〇町歩餘、畑六六〇町歩に上る。產業組合發達し、名勝に清水但馬守城址がある。字を稻田(役場)、田產、高場、佐和、高野に分つ。

村松村

本村は元美和鄉と稱さる。村内に村松大明神、日光寺あり共に多くの由緒在り前渡村の北に接して、鹿島灘に臨む地區にして、眞崎浦、阿漕浦の風光明眉なる二池あり。梅干の產地として知らる。人口約四千三百餘、田三四〇町歩餘、畑七一〇町歩、字は村松(役場)、照海、白方豐岡、須和田、船場の六區に分る。

石神村

本村は郡の最北端に位して久慈川に臨む、南は村松村、西は神崎村に接す。古の石橋驛にて天文中石神道長の領地に屬して此名あり。人口約三千百餘、田一二〇〇町歩、畑五四〇町歩にして苗木の產多く、名勝に小野塚越前守城址がある。字は石神外宿(役場)、竹瓦、龜下、石神、內宿、舟石川に分る。

神崎村

本村は地勢平坦にして、桑苗うどの產出が多い。西に菅谷村、東に石神村、南佐野村、北額田村を隣接してゐる。人口約三千四百、田一二〇町歩、畑五四〇町歩ある。上宮寺は國寶聖德太子の繪像あり關東二十四輩の一として知らる。字を向山(役場)、本米澤、横堀、場、杉等に分つ

額田村

本村は郡の東北方に位し、北は久慈川に臨み、西は木崎村、東石神村、南神崎村に隣接し地勢概ね平坦である。吾妻鏡に佐竹秀義の所領なりと見え、名勝に額田城址、關東二十四輩阿彌陀寺がある。人口約三千三百、田一四〇町歩、畑五一〇町歩あり。字は北南東の三鄉に分れてゐる。

菅谷村

本村は那珂久慈二水の間に在りて、曾て郡役所の置かれた處、西は芳野村、東は佐野村、南は五臺村、北は額田村に隣接す一望平坦の地である。人口約三千九百、田一七五町歩、畑五一〇町歩あり苗木栽培が盛んである。郡自治會館あり、字を菅谷(役場)、福田の二つに分つてゐる。

五臺村

本村は元柳河村と共と河內鄉と稱され佐竹義宣の水戸城を攻むる時、江戸重通と激戰せし處である。水戸城の北に位し南は柳河村、東は川田村、西は國田村北は菅谷村に接す。人口約三千百、田二六〇町歩、畑四七〇町歩にして地勢極めて平坦である。字を後臺(役場)、中臺、豐喰新田、西木倉、東木倉に分つ。

柳河村

那珂川を隔てゝ水戸城と相對し、東は川田村、北は五臺村、西は國田村に接す地勢平坦にして野菜類の產出多し。元は奧州柵澤への驛路の渡津たり、河內鄉と稱した。人口約二千五百、田二四〇町歩畑二六〇町歩あり蠶業も盛んである。字を中河內(役場)、靑柳、下河內、上河內に分つ。

國田村

本村は昔國井鄉と呼んだ。賴朝時代常葉政廣(後國井源八)が住せしによるといはる。地勢は頗る平坦にして、那珂川に沿ふ村落である。東五臺村、西戸多村北芳野村に接す。人口二千九百餘、田一九〇町歩、畑四四〇町歩餘にして牛蒡の產が多い、名勝に光圓の詩に知らるゝ三國瀧がある。字は下國井(役場)、田谷、上國井の三つに分る。

戸多村

本村は古く戸村と呼ばる。佐竹氏の一族戸村八郎の居城ありし爲めである。那珂川を隔てゝ戸塚町と相對し、國田、芳野、瓜連、靜、大場の諸村と隣接す。人口約二千七百餘、田一六〇町歩、畑四百町歩、牛蒡の產多し。字を田崎(役場)、戸大內、下江戸の三區に分つ。

芳野村

本村は北を木崎村に東菅谷村に、西戸多村、南五臺村に隣接してる。人口三千三百、田二〇〇町歩、畑五五〇町歩あり飯田の一乘院、戸崎の蓮光寺、鴻巢の鷲明神ともに史乘に見ゆ。村役場は飯田にあり字は三區にして、水戸よりバスの便あり。

木崎村

和名抄には木前鄉と見ゆ。佐竹秀義の次男を南酒出氏、三男を北酒出氏の祖とすと東鑑にあり、酒出の名は今に續き部落の名となつてゐる。瓜連町の東方に連る平野にして久慈川に臨む。人口約三千四百、田二三〇町歩、畑四八〇町歩あり字を門部(役場)、南北酒出、鹿島の四區に分つ地勢平坦なる爲め、農業最も盛んである。

靜村

本村は古く倭文（しづり）郷と呼ぶ。縣社靜神社は櫻田の烈士齋藤監物の祠官たりし處、常弘寺は關東二十四輩の一として知らる。地勢は概ね平坦にして、大宮、瓜連二驛の中間にあり、玉川は西より村内を貫流してゐる。人口約三千二百田二六〇町歩餘、畑三五〇餘歩町である字は下大賀（役場）、下村田、上村田、石澤に分つ。

大場村

本村は古く川邊郷と稱す。小場堰は明暦二年になること舊記に明らかである。小野は佐竹の一族小野氏の居所、三善には長者屋敷なるものがあつた。地勢概ね平坦、那珂川の上流、西は河に面し、東は靜村、北は野口村、南は戸多村に接してゐる。人口約二千八百、田一一〇町歩畑四百町歩で字を小場（役場）、小野、三美に分つ。

上野村

本村は名僧了譽上人の出でし所、佐竹の忠臣岩瀬與一太郎の食邑であつた。瓜連町の西北方、大宮町の南方、久慈川に臨む地區にて岩崎用水が村内を貫流してゐる。人口二千三百、田二三〇町歩、畑二九〇町歩、產業組合あり根本（役場）、下岩瀬、上岩瀬、泉、宇留野の五字に分れてゐる。

大賀村

本村は大宮町の北に隣接し久慈川に臨む。地勢稍平坦にして促成野菜の栽培が盛である。古くは岡田郷と稱されし處大賀は即ち岡の訛化せるものである。人口約三千、田二百町歩、畑二八〇町歩、產業組合あり。字は上大賀（役場）、岩崎、小祝、鷹巢の四區に分れてゐる。

玉川村

昔水中に種々の寶石ありて、此の名ありといふ。大宮町の西方に隣接し稍平坦なる地勢なり。人口約二千七百餘、田二百町歩、畑九〇餘町歩あり。勤王家横山亮之介の出た處、字を東野（役場）、若林、八田に分つ。縣廳へ七里七町、大宮町よりバスの便がある。

鹽田村

本村は曾て佐竹氏の領地たりし處である。照田は天保年間まで寺田と作つた。玉川村の西北に隣し、東は山方村、西は小瀬村、北は檜澤村に接し山地極めて多し。人口約二千五百、田二二五町歩、畑一五五町歩、產業組合あり、煙草を產す字は北鹽子（役場）、西鹽子、照田、長田長澤に分つ。

山方村

奥州山道の一小驛たりし處、陰陽山は奇岩を以て知らる。曾て山縣顯重の食邑たりし處である。地勢は名の如く山地にして久慈川に沿ひ久慈郡に對す。北は下小川村、西は鹽田檜澤、南は大賀等の村と隣接してゐる。人口四千四百、田一七五町歩、畑三二五町歩、名勝に大串無事衛門の碑あり、勤王家根本正之介の出た處である。字は山方（役場）、野上、舟生の三つに分れてゐる。

檜澤村

本村は郡の北方山間部にあり、野州街道の沿線に當りて四方山岳に包まれてゐる。佐竹の一族檜澤氏の城塞ありし處、滿願寺は眞言宗の道場として知られてゐる。人口三千三百、田五五町、畑二四〇町歩にして森林に富む爲め、林業盛んなり。縣廳へ九里三四町、字を下檜澤、上檜澤、氷ノ澤の三區に分つてゐる。

小瀬村

本村は曾つて佐竹氏の一族常陸介小瀬義春の食邑たりし處である。義春は建武の頃尊氏に仕へてゐた者である。郡の西北部の山間に位し、西は長倉村、北は八里村東は鹽田村に隣接してゐる。人口約三千九百餘、田一六〇町歩、畑三百町歩あり。產業組合大いに發達し伸展見るべきものあり。小瀬農學校あり。又は名勝として南朝の忠臣那珂彦五郎通辰の館址百體觀音等がある。字を上小瀬（役場）、小玉、下小瀬、國長　那賀の五區に分つ

野口村

本村は曾つて佐竹の一族野口景義の居城たりし處、大畑の壽命寺は二十四輩の一にして關東の靈場たり。大宮町の西方那珂川に臨む所にして人口約二千八百、田一二〇町歩、畑二二〇町歩、名勝に時雍館址がある。縣廳へ六里十四町、字を野口（役場）、野口平、門井の三區に分つてゐる。產業組合あり活動見るべきものがある。

長倉村

本村は郡の西南隅にありて西方は栃木縣芳賀郡に接して地勢峽嶮たるものなり。曾て佐竹氏の一族長倉三郎義綱の割據せし處である。人口二千七百、田八〇町歩、畑二〇五町歩、陸軍工兵實習廠舍專賣局、莨牧納所等がある。字は長倉（役場）、金井、野田、秋田、中居等がある。

八里村

本村は古くは朝妻郷といつた。大岩區には名の如き巨大な岩がある。長倉村の

北に位し、同じく栃木縣芳賀郡と接する山間の大村である。人口四千三百、田一六〇町歩、畑三一〇町歩、産業組合が發達してゐる。字は油河内(役場)、本郷、吉丸、松之草、千田、大岩、小舟、小瀬澤の八區に分れてゐる。

塵郷村水

本村は那珂郡の西北隅に位し山野多く緒川は村の中央を貫流し地味肥沃にして農産發達す、又椎茸の産地として知らる面積三・八四方里に亘り人口約五千、田一二〇町歩、畑三五〇町歩、森林三千二百町歩にして林業も亦盛なり。産業總額四十萬圓に上り、産業組合發達し、映畫館、料理店等もある。字は高部(役場)、小田野、鷲子の三つに分る。高部は佐竹の一族高部五郎景義の城塞ありし處、鷲子は常介泰宗の末族鳥子四郎之を領すとあり、又鳥子は鳥子紙の産地なるよりこの名ありといふ。名勝に昭願寺あり關東二十四輩の一にして幾多の寺寶を所藏す外蛙の里、三浦杉等あり。

葉煙草の産地　久慈郡

本郡は縣の中央より西北に在り、北は福島縣東白川郡に接壌し、東は多賀郡に隣り久慈川の河口の邊が一部分茫洋たる太平洋に面し、南より西は那珂郡及び栃木縣那須郡と境界を交へ人口は十二萬餘をかぞへる。

地形南北に狹長で、久慈本支流の流域から成り、郡の大部分は山地で、到るところに岳丘陵の起伏を見、僅かに久慈川河口に近きあたりに沖積層の肥沃地がある。葉煙草の産極めて多く、また農耕の業が盛んに行はれる。鐵道は東部に常磐線が走り、北部には水郡線が通つてゐる。水戸鐵道の終點にあたる太田町は本郡の首都である。

中學校には太田中學校をはじめ、太田高等女學校、大子農學校、大子女子技藝學校等があり、小學校は五十四校をかぞへ、うち三十四校は高等科を併置する。なほ官衙には太田稅務出張所、久慈郡自治會、太田大子各土木出張所、久慈港修築事務所、蠶業取締所出張所、木炭檢査所支所等がある。

全郡を分ちて四町三十ヶ村とし、町村名は次の如くである。

町　大子、太田、久慈、袋田

村　機初、世矢、坂本、東小澤、西小澤、幸久、佐竹、郡戸、久米、金郷、世喜、金砂、天下野、高倉、染和田、山田、磐田、佐都、河内、中里、賀美、小里、生瀬、宮川、黒澤、依上、佐原、上小川、下小川、諸富野

大子町

本町は久慈川の沿岸にあり郡北方の物資の中心地たり。此の附近は木炭、乾柿漆液の産出多し、人口約七千、田二九〇

町歩、畑二三〇町歩あり、町産業の中心たる産業組合を始め大子營林省、警察署縣立農學校、女子技藝學校、銀行、社寺其の他がある。延元の頃依上保内より貢金のことあり、元治元年天狗黨は那珂湊より此地に來り勢揃ひの上西上したといはれてゐる。

太田町

本町は郡の最大都邑たり且物資の集散地である。水戸太田間六里の沃野は水戸藩の天府と稱せられた處、戰國時代佐竹氏此處に城を築いて舞鶴城と稱した。德川時代には錢座を建てゝ鑄錢し年々益金二萬兩を水戸家に献じたといはれてゐる。

人口約一萬、各官衙出張所、會社工場等多數あり、縣立太田中學校がある。名勝として、孝子塚、佐竹城址、鑄錢座址、太田の落雁、西山の遺跡等が廣く知られてゐる。

久慈町

本町は郡の最東南部に位し、久慈川の川口北岸にあり南は川を隔てゝ那珂郡に相對し東は洋々たる太平洋鹿島灘に臨んでゐる。人口約九千、久慈港の改修と相俟つて漁業の發展顯著なるものあり年々漁獲高は年數前の六十萬圓臺をはるかに引き離し、町勢の上に多大の繁榮を齎しつゝある。曾つて安積淡泊が久慈川を渡り「海門曙色を開き、野水清光を泛」の詩は常磐線沿線となり電車亦通ずるの今日實に隔世の感がある。名勝に倭文神社大甕神社がある。法學博士五來欣造氏、工博渡邊寧氏はこの地の出身である。

袋田町

本町は大子町と久慈川を挾んで相對する。人口三千五百餘の都邑にて田一五〇町歩、畑二一〇町歩あり。袋田産業組合袋田保勝會等がある。袋田の町は袋田の瀧によつて天下にその名を知られてゐる。「いつの世につゝみおきけん袋田の布引出す瀧の白糸」と義公の歌にもある如く、四段に別れて巾一丈、高さ各段共數丈に及び夕日を受けて虹が現れる時等「瀧に架す虹の根青きもみぢかな」の景觀は筆舌に盡し難い。又その右に兀然として空突く天狗岩の奇峰は一層の景彩を添へてゐる。此の外名勝として月居山城址、烈公の碑、飛石跳石、袋田溫泉、鰐魚ケ淵、鏡山古城址、龍泰院等が多々ある。

機初村

本村は太田町の東方に接續し、東多賀郡と境してゐる。田二四〇町歩、畑一七〇町歩、人口二千七百餘である。眞弓は石理白色小紋の大理石を産し、世に水戸の寒水石と稱され東京其他に移出されてゐる。古代此處に機殿を造り初めて衣裳を

織りたる故事より村名起れりといはる。長幡部神社は機殿に因む椽起の古いものである。字は幡(役場)、三歳、西宮、田渡、長谷、高貴に分つ。

世矢村

本村は久慈町の西方にして東は多賀郡に接し地勢平坦である。人口三千五百餘田三一〇町歩、畑二五〇町歩にして、梨葉煙草、大理石、繭を産す。山脚の迫りたる地なれば、世矢崎迫谷なるべしと東鑑に出てゐる。名勝に源義家弓を射たりと傳へ大理石を出す眞弓山、大森舘址、瀬谷舘址等あり。字を小目(役場)、龜作眞弓、大森に分つ。

坂本村

本村の石名坂は奥州濱街道の要所たり茂宮川の橋は土浦の櫻川橋と共に元祿時代の二名梁と稱せらる。古くは北畠、佐竹の古戰場たり、又近くは筑波爭動の田中忠藏と諸生黨の戰つた處である。地勢は南西平坦にして東北は丘陵多く、久慈町の西方に位し、南は東小澤村、西は西小澤村、北は世矢村に隣接してゐる。人口約二千三百、田二二〇町歩、畑一九五町歩にして村民は農業を主とし、甘藷の産多く、繭綿、菊坐等も産する。南高野に鑛泉あり胃腸病に效く。大字は石名、(役場)、大和田、茂宮、南高野の四區に分つてゐる。

東小澤村

古くは小澤十郷の唱へあり、後分れて東西小澤二村となつたもので、本村は久慈川口に位し、川を隔てゝ南は那珂郡に接してゐる。人口約千八百、田二百町歩その他畑あり農を主とする。東小澤村産業組合の活發なる伸展あり。名勝に戊辰の役の戰場がある。大字は下土木内(役場)、神田、留に分る。

西小澤村

本村は東小澤村の西に隣接し久慈川を挾んで那珂郡額田村と相對する平坦の地である。人口二千七百、田三二〇町歩、畑一四五町歩あり。昔佐竹四郎義隆此地に住し岡田冠者と呼ばれた。岡田は部落概ね丘上に在りしためである。字は内田(役場)、岡田、小澤、落合、堅磬、上土木内、澤田に分る。

幸久村

本村は西小澤村の西方に隣接し、久慈川に沿つて村落をなす。平坦の地にして籌、牛蒡の産地である。人口三千、田三一〇町歩、畑二二五町歩である。萬葉の歌に「久自河は幸(さけ)くあり得て」とあるのが村名の由來である。河合の枕石寺は關東二十四輩の一である。字は上河合(役場)、下河合、藤田、栗原、島に分つ

佐竹村

本村は太田町の南に隣接する平坦なる地にして、人口三千、田三二〇町歩、畑一六二町歩あり。産業組合がある。字は磯部(役場)、谷河原、天神林、稲本に分る。當村は佐竹氏發祥の地として知らる佐竹氏が新羅三郎源義光より起り覇を關東奥羽に唱へしは著名なる史實である。谷河原の西光寺は二十四輩の一たる名刹である。

郡戸村

本村は久慈川に沿ふて村落をなし、東は久米村、南は幸久村、北は金郷村に隣接する平坦の地である。人口約二千八百田二五五町歩、畑二九五町歩あり。字は松梁(役場)、中野、小島、新地、花房に分る。古く中野の遠山は久慈理丘と云ひ久慈理は鯨轉訛にして郡名の由來なりと

久米村

太田町の西方に位し稍平坦なる地勢である。人口約二千人餘、田三五〇町歩、畑一八六町歩あり。古くは久米郷と呼ばれた處にして佐竹三郎二郎義武の居城あり北殿と云つた。大里には弘仁年中、雄薩驛置かれ次いで古郡廳が置れて頗る繁榮した處である。

金郷村

本村は古く河内郷と呼ばれ山田川岩門の峽谷は昔詩人の愛觀に値する絶景であつたといはれてゐる。地勢は概して平坦にして、西世喜村、東山田村に接してゐる。人口約三千七百、田三〇五町歩、畑三二五町歩あり。名勝に國寶の藥師如來像を所藏する藥師堂あり。字は高柿(役場)、大方、竹谷、箕、下利員、中利員、千壽、岩手の八つに分れてゐる。

世喜村

世喜村は久慈川に堰を設けて小倉花房に灌漑したるによりその名あり、本村は大宮町と川を隔てゝ相對し地勢南北に長く概ね平坦である。人口約三千八百、田二百三十町歩餘、畑二一〇町歩あり、縣廳へ七里二十一町である。字は辰ノ口(役場)、鹽原、小倉、富岡、照山、小貫に分る。

金砂村

本村は世喜村の東方、染和田村の西方に位し、概ね山間の部落たり、此の邊一帶煙草を産す。人口約三千七百餘、田一三〇町歩餘、畑三三五町歩あり。古くは河内郷と呼ばれ、金砂神あるを以て宮河内の名あり、赤土は水戸煙草の産地なり名勝に西金砂神社、金砂城址あり、この城は佐竹義秀の居にして峻嶮を極め源頼

朝之を攻め拔く事を得ざりしといふ。字は下宮河内(役場)、上利員、赤土、上宮河内に分る。

天下野村

本村は當國隨一の深山と稱せられた處元高倉村を合併せしが明治二十九年分離した。太田町より野州に通ずる街道に當り東は賀美村に西は諸富野村に隣接した山間の邑にして、凍こんにやくの產が多い。人口約二千九百餘、田六三町歩、畑二一〇町歩にして山林多く。北地探險家故木村謙次氏の出身地である。

高倉村

本村は明治二十九年天下野村より分離して一村となせしもの、天下野村の北方の山間に位し地勢峻嶮なり。人口約一千八百、田六三町歩、畑一七〇町歩あり山林に富む。名勝に男體山湯草溫泉の仙境と高倉城址がある。縣廳へ十一里二十三町、太田町へバスの便あり。字は上高倉下高倉の二つに分れてゐる。

染和田村

本村は元山田郷と呼び染部落は古來奉書紙の產地として知られてゐる。南は山田村、北は天下野村に接し、太田町より野州に通ずる街道に當つてゐる。此邊は煙草の產地にして、人口約三千五百餘、田一六〇町歩、畑二五五町歩あり。字は町田(役場)、和久、西染、東染、中染の五區に分る。曾つて優良村として表彰されしことがある。

山田村

本村は染和田村の東方に接し、郡の中央に位す。東西に山岳連り中間が稍開けてゐる。人口約三千、田九二町歩、畑二三〇町歩、山林五五〇町歩總產物約二〇萬圓、內煙草の產額九萬圓餘に達してゐる。字を松平(役場)、和田、東連地、棚谷、國安の五區に分つ。昔山田郷と呼ばれ、松平には佐竹の一族居城があつた。東連地には東連寺あり、棚谷は棚の如き谷會山の奇岩によつて知らる。名勝に金砂山の老松がある。

譽田村

本村は義公即ち德川光圀が隱栖の山莊西山莊及び其の墓所たる瑞龍山の所在地として史家は一度は足を運ぶ所にして、天下に普く知られてゐる。太田町の北に隣接し、東に佐都村、西は山田村に隣る人口約四千八百、田二三〇町歩、畑二六〇町歩あり煙草の產が多い。縣廳へ約五里半交通便利である。字を馬場(役場)、新宿、增井、下大門、上大門、瑞龍に分つ、因に水戸家の墓は、神田御茶ノ水の孔子廟、湊川の鳴呼忠臣楠氏乃墓の考案者朱舜水の考案になるものであるといはれてゐる。

佐都村

本村は太田町の東北方奥羽街道に當り東は多賀郡、西は譽田村に接し山地多く椎茸の產出が多い。人口約二千六百、田一六〇町歩、畑一三五町歩あり。大字を里野宮(役場)、白羽、茅根、常福寺、春友に分つてゐる。昔は佐都郷と呼ばれた薩都神社は延喜式久慈の官社たり。白羽は古へ蠶絲の產地にして白羽即ち衣服である。天之志良波神社あり、麻績祖長白羽命を祀るとの記錄がある。

河內村

本村は佐都村の北に隣接し奥羽街道に當り山地多き邑である。人口約二千七百田一四〇町歩、畑一六〇町歩あり。大字を町屋(役場)、西河內下、西河內中、西河內上に分ち。町屋の寒水石檄欖石は、大笹、小笹其の他の名稱によつて裝飾用として東都に移出されてゐる。尙八八堰八八溜と稱し義公時代長田茂平次なるもの贖罪のために造つたといふ故實がある

中里村

本村は古來山に神峯あり、瀧に玉簾あり山水の勝地として知らる。河內村の北に隣接し東は多賀郡に境する山間の一邑である。人口約三千二百、田二一〇町歩畑二二〇町歩、產業組合、並に發電所あり。大字を下深萩(役場)、東河內、入四間中深萩の四區に分つてゐる。

賀美村

和名抄村に多珂郡賀郷とあり、文祿時代には里上村と呼ばれてゐた處である。地勢山地多く南に中里村北に小里村を接し東に多賀郡と境する山村にして椎茸の產が多い。人口約三千、田一四五町歩、畑一五二町歩あり。大字を小菅(役場)、折橋、大菅、上深萩に分つ。水戸の勤王學者豐田天功の出た處である。

小里村

常陸帶に「もみぢ葉はこゝを世にせんつけ時雨そめて色濃き德田山かな」とあるは本村のことである。文祿時代には小里下村と稱されてゐた。郡の東北隅に位する山村であつて、北は福島縣白河郡、東は多賀郡に接してゐる。木炭の產が多い。人口約四千二百、田三四五町歩、畑二百町歩。德田發電所小里川發電所、產業組合等あり縣廳へ約十二里半、大字を小中(役場)、大中、小妻、德田、里川の五區に分つてゐる。

生瀨村

本村は郡の北部に位し、東小里村西袋田村に隣接せる山間の邑にして人口約四

千六百餘、田三九〇町歩、畑三五〇町歩で産業組合が充實してゐる。字は小生瀬（役場）、高柴、内大野、外大野、大生瀬に分る。戰國時代は江戸氏の臣野口周防守義國が居住したが佐竹義重に滅されるとの記錄あり。

宮川村

本村は太子町の北に位し久慈川の上流に沿へる山村にして人口約三千六百餘、田二二〇町歩、畑二五〇町歩あり。字を川山（役場）、下野宮、高田、冥賀、谷田に分つてゐる。名勝として天然記念物の鉾杉がある。下野宮の石都々古和條神社は即ち近津神は延喜式の神社として古い由緒を持つてゐる。

黒澤村

本村は曾て佐竹の臣荒牧駿賀守の舘せる地にして、八講山上の八講嶺神社、日輪寺共に近郷に聞へてゐる。地方は四方山岳に圍繞され郡の西北隅に位す。福島栃木と境を接し三國の國境には八講山がある。人口約四千六百、田二六〇町歩、畑四百町歩あり。製茶、山葵、木炭の産出が多い。字は町付（役場）、上郷、中郷上野、宮、北吉澤に分れてゐる。

依上村

本村は大子町より野州馬頭町に至る街道の筋に當り、西は野州那須郡に境する山村である。人口約三千六百、田二九五町歩、畑二四〇町歩、産業組合の活動見るべきものあり。字を下金澤（役場）、上金澤、相川、田野澤、塙、芦野倉に分れてゐる。金澤には親鸞上人の弟子如信上人の廟所ありといはれてゐる。

佐原村

本村は黒澤村と依上村との間にあり西は栃木縣那須村に接し四方山岳に圍繞された邑である。人口約三千二百、田一五〇町歩、畑二五五町歩、山林二千餘町歩である。古くより縣下隨一の茶の産地として知られる。産業總額約十五萬圓内外である。字を初原（役場）、佐貫、横野地の三區に分つ。曾つて天狗黨の西上途中に通過せし處にして、佐貫にその戰跡がある。

上小川村

本村は慶長年間まで佐竹氏累代の居城ありし處又和紙の産地として和られた。袋田村の南に隣り、久慈川の西岸にある山村にして、人口約四千三百餘、田六〇町歩、畑三七〇町歩である。椎茸、こんにやく、漆液等を産出するが、村産業の大半以上は林業にて年約九萬圓に達してゐる。名勝として久慈川沿岸の風光は明眉として知らる。字を頃藤（役場）、大澤栃原の三區に分れてゐる。

下小川村

本村は上小川村の下流久慈川に沿つて那珂郡に接する山村にして人口約三千三百、田四〇町歩、畑三一〇町歩で林産が概ね盛んである。字を西金（役場）、久降盛金、家和樂の四區に分つてゐる。名勝に湯澤溫泉の仙境と磐城判官の基がある縣廳へ約十一里、縣道が大宮町及大子町に通じ、水郡線西金澤、下小川二驛あり

諸富野村

郡の中央に位し西は下小川村東に高倉村を隣接し山地頗る多く、古くより和紙漆液の産地として知らる。人口約三千四百、田八二町歩、畑三五〇町歩あり。産業組合の活躍盛んである。字を諸澤（役場）、西野田、北富田の三區に分つてゐる明治の儒學者會澤伯。元和年間の西之内紙の創始者細貝清藏、蒟蒻粉の創始者中島安藏の諸氏を出してゐる。

鑛山地 多賀郡

縣の最北端に位し、形狀三角形をなし北一面に福島縣の石城、東白川の二郡に隣り、東の一面は茫洋たる太平洋に面し西は久慈郡と境する。

郡の西界は阿武隈山系の末端に位するを以て山岳重疊て、土地は東に低く、郡内の水はみな東流して海に入る。河の稍々大なるは大北川で、この下流の地及びその附近は常磐炭田の一部をなし、石炭の産出が多い。而して山地の南部には日立鑛山があつて、銅、金、銀を發掘精煉し、謂はゞ本郡は鑛山郡である。

交通は奥州街道が海岸に並行し、常磐線がこれに沿ふて走つてゐる。

本郡は往古は高宮といひ、成務天皇の朝には國造が置かれたことが「國造本紀」に見え、國名はのみ多珂につくつたが、その頃は今日の福島縣の石城郡の南部をも包含したものと見える。のち二分して郡となり南部の多珂郡は常陸國に歸して今日に至つた。

人口は十二萬三千を遙に突破し、九町十一ヶ村に區劃される。

町　河原子、助川、日立、豐浦、松原、松岡、磯原、大津、平潟

村　華川、高岡、櫛形、黒前、國分、鮎川、坂上、南中郷、日高、關本、關南

河原子町

本町は古く鹽濱と呼ばれた。郡の南部に位し南は坂上村、東に太平洋を臨む、海岸は岩礁多く、烏帽子岩には藤田東湖の詩を刻みし碑がある。人口約三千五百田二〇町歩、畑一一〇町歩あり、此邊皆第三期層に屬する竣丘にして十米より二十米の斷崖をなして海に臨み一帶の砂濱が其の下にひろがり海水浴場等なつてゐ

る、名勝に孫澤城址がある。本町の海岸は特に雄壯の景觀を以て知られて居り多くの旅館がある。

助川町

本町は縣の北部、郡の南部に位し、東は太平洋に臨み、西は久慈郡、南に鮎川村北は日立町に隣接してゐる、人口約一萬七千、面積二方里、字を助川、會瀬に分つ、助川は人口稠密にして市街をなし會瀬は灣をなして海に臨み出入に便である。各官衙出張所を始め、銀行會社多く殊に日立電線工場、日立礦末工場、常陸セメント等の存在は町發展の大いなる原因となつてゐる。年總産物額七百萬圓内外に達し工産關係大部分にして工場小都市の觀を呈してゐる。名勝に助川城址あり、水戸藩内記のとき、神勢隊、諸生隊等の抗爭せし處として廣く知らる、田中愿藏の就縛も、本城逸吉の直後のことであつた。

日立町

本町は明治二十二年宮田、滑川二村を合して日立村となしたもので大正十三年の町制施行となつてゐる。日立製作所の所在地として普く知られてゐる。助川町の北に隣接し農産物に葱、甘藷の産出が多い。日立中學校、東海高等女學校、産業組合がある。人口約三萬である。日立鑛山は實に日立、助川の二町、日高、中里、河内、佐都の四町に跨り鑛區八百六十萬坪に上る。從業員二千五百、鑛山一帶の地は秩父古生層に屬し阿武隈山脈の南端にあり金、銀、銅、硫化鐵等年産一千萬圓以上に及ぶ。日立製作所は主として電氣機械の作製をなし日立モートルの名によつて全國に知られてゐる。

豐浦町

本町は明治廿三年四月、市町村制施行に際し、茨城縣令甲第十二條を以て縣下町村の分合せらるゝ時、川尻折笠砂澤の三村を合併し、豐浦町と改稱して三月三十一日より施行舊村名を大字名としたものである。陸前濱街道に當り、北西に櫛形村、南西に日高村と接し、東は海に臨む。町の西方の一部は丘狀の林野に屬するも他は概して平坦にて農耕盛んである又海に臨むを以て漁業にも相當の成績を擧げてゐる。人口約四千、年總産物額三十五萬圓にして、農産、水産相半してゐる。産業組合の活動見るべきものあり。名勝に川岸八景がある。

松原町

本町は高萩驛の所在地として知られた郡屈指の都邑にして、地形は東西に細長く太平洋に面してゐる、人口約一萬一千田三三〇町歩、畑一六〇町歩である。各官衙出張所を始めとして松原實科高等女學校、町立圖書館あり。洋灰窯業方面の

工場が多い、松原産業組合の活動顯著なるものがある。尙當方面は所謂常磐炭田にして無煙炭の産地として普ねく全國に知られてゐる所である。名勝に八幡宮の大杉あり又いぶき山の樹叢、はまなすの自生地等珍しい(天然記念物指定)ものがある。縣廳へ約十三里、大字を高萩(役場)島名、安良川、秋山、石瀧等あり近時バス交通の中心地となつてゐる。

松岡町

本町は古く手綱と呼ばれてゐたが、水戸家の宰臣中山氏此の地に築城して松岡城と稱したので今の町名がある。高萩の北に隣接し、高萩炭坑、手綱炭坑の所在地として如られてゐる。人口約五千八百田三八〇町歩、畑二百町歩あり米産十八萬圓に上る。柿の産出が多い。名勝に古くより萬葉集に手綱の濱といつて知らる高戸濱外七ケ處を呼んで松岡八景といふのがある。その他、妙法寺、松岡城址、千代田炭鑛(茨城無煙炭)等がある。水戸藩の碩學として知られた長久保赤水、鈴木玄淳を出してゐる。中村信實男爵、理學の松村瞭博士も本町の出身である。縣廳へ約十四里、字を下手綱(役場)、上手綱、高戸、赤濱の四つに分けてゐる。

磯原町

本町は町村制施行當時は北中郷村と稱したが大正十四年現在の町名に改めたものである。郡北方の市邑にして、南は大北川を隔てゝ南中郷村に對し、東は海に面してゐる。人口約一萬一千、田三八〇町歩餘、畑一五五町歩あり米産約十八萬圓内外である。名勝に天妃山と稱する高さ五六丈、周圍三町歩に亙る巨巖屹立し上に老松茂る奇觀あり頂上に天妃宮を祀り近郷の漁民深く信仰す、古の折藻山之なりと、又夢想窟、二ッ島、菅俣城址、重田炭鑛(茨城無煙炭)の名勝あり。詩人野口雨情、畫家飛田周山の出身地である。縣廳へ約十六里、常磐線磯原驛あり字を豐田(役場)、磯原、大塚、木血、上相田、内野に分つてゐる。

大津町

本町は縣並に郡の最北端に當り、平潟町の南方に突出せる漁港である。古くは粟津郷と呼ばる。水戸藩こゝに砲臺を設け、北門のさやくとした所である。幕末(文政七年)英國の黑船三隻此處に來泊す。藤田東湖死を決してこれに當る(東湖三度死を決したる其の一なり)人口約六千、漁業頗る盛んにして鰹節、乾鮑の産出が多い。名勝にイギリス梅、タゴール手植の松、大津八景其の他がある。

平潟町

本町は縣の最北端に位し福島縣勿來關と境をなしてゐる。地勢は三面斷崖にして北東に開いてゐる。常陸帶にも「平方

は仙臺より江戸へ運送の船つきなれば富高の家々海に臨み山に掛造りていと賑はし」とある。戊辰の役に、官幕兩軍の戰矛を交へた處である。人口約二千七百、田畑合して三十五町歩餘、縣廳へ約十八里、關本驛よりバスの便あり多く漁業船運に從事してゐる者が多い。

坂上村

本村は郡の最南端に位し久慈町と境を接する海道の一邑である。人口約三千、田五〇町歩、畑二八〇町歩、礦末大甕工揚、赤津石灰工場、產業組合等がある。字を水木(役場)、森山、大沼に分つてゐる。大沼は幕末水戸烈公が海防の設備をなした處である。水木は活水洞として清泉の湧出せし處なりといはれてゐる。名勝に泉ケ森がある。山崖に泉神社といふ古祠あり延喜式内速玉姫神社である。崖下に一池あり甘泉常に池底より湧出沸々白砂を吹く、常陸風土記の所謂密木の大井にして古來の名蹟である。藤田東湖の納涼碑がある。

國府村

河原子町の西に隣接して久慈郡と境す人口四千五百人、田三三町歩、畑三六〇町歩促成胡瓜、甘藷の產が多い。殊に本村は石灰工場三四を數へ長山粉碎工場、旭礦末工業等があり工業が盛んである。產業組合の活動亦盛んにて、名勝に二十四輩の二十三番覺念寺、風穴等がある。字を下孫(役場)、大久保、金澤の三區に分つてゐる。下孫は永祿年間相馬氏の古戰場、金澤は砂金の產地、大久保は戰國時代鄕士大窪氏の住せし所なりとの記錄がある。

鮎川村

茨城縣の東北部多賀郡の南部に位し東に太平洋を臨む一邑にして、陸前濱街道は村の中央を通り常磐線が東端を通つてゐる西方の過半は山岳にして山村に富み中央に鮎川の清流がある。人口約二千六百餘、田六〇町歩、畑二〇〇町歩、總產物拾五萬圓內外である。日本諏訪礦坑あり。各實行組合の活動盛んである。字を油張子(役場)、諏訪、成澤に分つてゐる諏訪は寒水石の產地として知られてゐる名勝に神仙洞、諏訪の水穴、其の他がある。海野正氏の出身地である。

日高村

本村は日立町と豐田町の間にある邑にして海に臨み漁業が盛んである。人口約二千五百、田一五〇町歩、畑二二〇町歩產業組合の活動旺盛にして松苗、こんにやく、苹果等の產が多い。名勝に裸島、榮藏小屋がある。常陸帶に「伊師より川尻の濱など過て榮藏小屋といふ島山を見る此島昔は大田尻村(田後部落)の山に續きたりしが荒き浪風にいつとなく崩れを

ちてはだか島となれとど」と見えてゐる字は小木津(役場)、田尻に分れてゐる。

櫛形村

本村は多賀郡の中央丘阜一連の地にあり南は豐浦町北は松原町西は黑崎村に隣接し東は太平洋に臨んでゐる。古來より農業を主とし人情極めて淳厚にして彼我相異らずといはる。昔は伊師を稻村千軒安良川高萩の海岸を松原千軒と稱する程賑はつた漁村であつたが中古民家を岡に移してよりさびれたといはる。人口約三千五百餘、田三百町歩、畑三百町歩、總產額約十三萬圓である。產業組合、製氷工場、發電所等あり。字を伊師本鄕(役場)、友部、伊師に分つてゐる。

黑前村

本町は古く藻島(めし海)鄕と呼んだ。松原町の南方豐浦町の西方に位する村落にして西は久慈郡と境を接してゐる。人口約二千五百、田二二五町歩、畑一三〇町歩あり產業組合、發電所等あり。名勝に坂上田村麿奧羽より凱旋の時此の山に宿せりといふ、立割山がある。字を高原(役場)、山部、黑坂、福平に分つ。

高岡村

松岡村の西方に位する村で西は久慈郡と境を接してゐる。人口約三千、田二四五町歩、約一二〇町歩、產業組合發電所あり。字を若栗(役場)、上君田、下君田、大能、横川、中戸川に分られてゐる。常陸帶に「時雨する空もいとはず山茂重越へて、君田の里の紅葉」とあるは本村にして、又中戸川は牧場地として知られてゐる。

南中郷村

本村は磯原村の南方に位する大村であつて、西は高岡村に接し、農業のみならず漁業も盛んである。人口約七千餘、田五二五町歩、畑一八〇町歩、常磐線南中郷驛あり發電所二ケ所がある。字を上櫻井(役場)、粟野、日棚、松井、小野矢、指足洗、下櫻井、石岡の九區に分れてゐる。古くは多珂郷家と稱し郡司の居住せる處にして櫻井は古き井戸の名である。名勝に古墳がある。

華川村

磯原町の西方約一里半を隔つた山間の大村である。人口約六千、田二六〇町歩畑一二五町歩あり、大日本炭鑛々業所がある。古くは車鄕と呼び、村內に小豆畑手綱等の產出があり本村より高萩に至る間を茨城炭山と稱する。字を下相田(役場)、臼場、車中壽、下小津田、小豆畑花園に分つてゐる。名勝に坂上田村麿の創建になる華園神社あり境內に大老杉がある。

關南村

本村は古く新居鄕と稱され、郡の北部に位し北は大津町南は磯原町と境を接し東は太平洋に面して西は華川村と隣接する人口約二千六百、田二三五町歩、畑九五町歩、産業組合の活潑なる動きがある字を神岡下(役場)、神岡上、仁井田、關本下に分つてゐる。名勝に義公手植の菩提樹がある。

關本村

本村は平潟町と共に郡の最北端に位し福島縣と境を接し東に平潟、大津の二町あり。村名は勿來關の本といふより出で西方の山中に關址の碑がある。「馬上弓を横へて歌を吟ぜし八幡太郎今何づれの處にかある。路もせに散りけむ山櫻も既に枯れつくしぬ。星霜八百年、將軍の昔を思へば、松籟むなしく蕭々たり」と大町桂月の名文がある。人口約四千百、田二四〇町歩、畑一二五町歩、産業組合の旺盛なる活動あり村産業漸時伸展しつゝある。菜種油製造工場、製氷工場等ありの字を關本上(役場)、福田岡本中、八反、山小屋、才丸、山小川に分つ。名勝に源義家の陣址館山がある。

漁業に富む 鹿島郡

縣の東南端に位置し、北は東茨城郡に續き、東は一帶茫洋々たる太平洋に面し南は利根川を以て千葉縣香取郡及び海上郡と境し、西は北浦及び浪逆浦を隔てゝ行方郡と相對してゐる。

外洋(太平洋)と北浦の間に介在する狹長の地で、斜に東南にのび、北方の三分の二は洪積層の高地より成り、到るところに原野があるが比較的水利に乏しいので、未だ充分に開墾されなてゐない。南の三分の一は外洋及び利根川の堆砂より成る瘠薄の地で耕田が少ないけれど、甘藷の栽培が非常に盛んである。海岸は八十粁に及ぶが殆ど屈曲なく、泊舟の便に惠まれない。

利根川の河口にのぞみ、舟楫、漁業の利に富むを以て往古より開け、官幣大社鹿島神宮、息栖神社等がありまた海岸砂濱地帶はグライダーの好適地として近年大いに利用されるに至り、一部は都人士の別莊地として隆盛を見んとしてゐる。

人情質朴淳厚、氣候溫和、人口は八萬六千人に滿たず、全郡を分ちて三町十九ヶ村とし、町村名は次の如くである。

町 鉾田、鹿島、波崎。

村 息栖、巴、豐浦、豐鄕、德宿、沼崎、大谷、若松、上島、輕野、大同、高松、中野、波野、夏海、矢田部、新宮、白島、諏訪

鉾田町

本町は霞ヶ浦北浦の端にあり郡下の

代表的都邑にして、元郡役所の所在地たりし所である。元祿、天正の二回に亙つて鹿島と武田が此處に交戰したといはれる。人口約四千五百、縣の各出張所、郡自治會館縣立鉾田中學校、組合立實科高等女學校の他産業組合、銀行會社工場等がある。縣廳へ約九里半、田一五〇町歩畑七五町歩。字を鉾田町(役場)、塔ヶ崎に分つ鹿島參宮鐵道鉾田驛がある。

鹿島町

本町は古くより崇高の神靈鎭座し、萬葉集に「霰ふり鹿島の神を祈りつゝすめみいくさに我は來にしを」或は藤田東湖等の詩に歌に敬仰せられたる官幣大社鹿島神宮の名を以て普ねく天下人士に悉知されてゐる。人口約二千六百、田一二五町歩、畑二九二町歩、縣立鹿島農學校がある。鹿島神宮は古來香取神宮と並び稱せらるゝ大社にして延喜式には名神大社として載せられてゐる。武甕槌命を祭神とし、經津主命天兒屋根命を配祀してある。現在の本殿、拜殿、幣殿は元和五年德川秀忠の再建にして國寶に指定されてゐる。本殿は三間三面流造、柿茸、桝組は和樣三斗を用ひ、腰組など朱塗にて桝組、蟇股、頭貫、上長押などに彩色が殘つてゐる。本町の字は、宮中(役場)、根三田の二區に分たれてゐる。

波崎町

本町は光俊朝臣の家集に「康元元年十一月鹿島の社に詣でゝ彼島のさきにまかりて見れば、我國の東のはてにぞありける」とある。島のさきは即ち、波崎である。郡の最南端にありて一衣帶水千葉縣銚子市と相對す。人口約九千五百、田一八一町歩、畑二七五町歩、産業組合、漁業組合、水産組合等あり、太平洋の波濤に洗はれて遠大の理想を抱き活潑なる町勢を持しつゝあり。殊に當町は全國隨一の籐表の産出地として知られてゐる。

夏海村

本村は元大貫町天谷村と共に大屋鄕と呼ばれ、幕末の頃には水戸の支封松平大學領の陣屋があつた處である。大貫町の南方涸沼の東岸にある漁業に惠まれた邑で表裏に江海に臨む景勝の地である。人口約三千三百餘、田一五七町、畑四八〇成田町歩、字を(役場)、神山、上釜、澤尻、荒地の五區に分つ。鉾田町よりバスの便あり、又鹿島灘に臨んで舟運の便がよい。

大谷村

本村は明治二十二年自治制施行の際諏訪、夏海、沼前の三村分立して一村を成したもので涸沼の南岸、夏海村の西南に位して東方は海に面してゐる。人口約五千五百、面積一・七八餘方里、田二八五町歩畑千餘町に及ぶ。名勝に二館址あり。

字を造谷(役場)、鹿田、玉田、子生、田崎上太田、下太田の七區に分つてゐる。

沼前村

本村は郡の西北隅に位し夏海、大谷の二村と共に涸沼南岸にあり地勢頗る平坦である。人口約五千、田三九五町歩、畑六八五町歩に上る。名勝に涸沼(ヒヌマ)あり日沼に作り古名を蒜間の江と稱した。風土記の阿多可奈湖なりとの論あるも未だ精確ならず。字を海老澤(役場)、宮ケ崎、城之内、網掛、小堤、駒場、神宿に分つ。

巴村

本村は鹿島、行方、東茨城三郡の交會點に當り、人口約三千六百、田二七〇町歩、田六〇二町歩、産業組合がある。字は上富田(役場)、下富田、菅野谷、大和田、紅葉、烏栖、當門の七區に分たる。チーゼルの産地である。富田と烏栖には東西兩派の無量壽寺(眞宗)あり共に二十四輩の一である。國寶の繪卷物を所藏してゐる。

德宿村

本村は鉾田町の西北巴村と諏訪村の中間にある邑で村名は鹿島成幹の嫡子太郎親幹地頭となり子孫德宿氏と稱せしによるといはれる。人口約三千七百、田二〇二町歩、畑九四〇町歩、山林九八〇町歩あり。名勝に德宿城址がある。字は德宿(役場)、大戸、舟木、駒木根、秋山、飯名の六區に分つてゐる。

諏訪村

本村は元三宅鄕と呼ばれ諏訪神社あるによつてこの村名起る。鉾田町の東北方海に面せる村落である。人口約三千八百田一三三町歩、畑九二〇町歩、産業組合あり。字は縱山(役場)、勝下新田、勝下瀧濱、柏熊新田、柏熊安房の六區に分れてゐて、縣廳へ五里、鉾田町よりバスの便ある。

新宮村

本村に就いては畑田(かまた)文書なる貴重なる文献あり、當國の一徵古に資せられ學者の賞玩する所となつてゐる。鉾田町の東方海に面せる村落にして、西は北浦に臨んでゐる。人口約二千七百、田二一〇町歩、畑五一〇町歩。字は畑田(役場)、白塚、大竹、安塚に分れてゐる、勝名に畑田城址がある。

上島村

本村は古く畑田村の内にて上島鄕と稱せられた。常陸帶には「汲上」と見元てゐる。新宮村の南方にして西は北浦に臨み砂丘の多い村である。人口約三千三百、田一八二町歩、畑四四七町歩。字を

梶山(役場)、汲上、二重作、青山、臺濁澤に分つ。縣廳へ約十里、北浦へ舟運あり、鉾田、鹿島兩町へバスの便がある。

白鳥村

垂仁天皇の時白鳥天より飛來し化して童女となるとの傳說が村名の由來といはる。上島村の南方に隣接し西は北浦に臨み砂丘多し。人口約五千餘、田三三七町歩、畑六五〇町歩あり。名勝に國寶の釋迦像を藏する福泉寺と菩提樹がある。字は札(役場)、江川、中居、上幡木、飯島上澤、大藏、阿古の八區に別れてゐる。

大同村

本村は昔の高家(たけへ)鄕である。海濱を角折濱といひ砥濱、銚子の中間に當り砂丘多く、西は北浦に臨み北は白鳥村に接してゐる。人口約五千六百、田三九六町歩、畑五六六町歩あり。字を津賀(役場)、大小志崎、武井、武井釜、志崎濱津賀、和、棚井、荒井、青田、角折、の十一區に分つてゐる。舟運バスの便あり。名勝には、まなす自生南限地帶(天然記念物がある。

中野村

本村は鹿島白鳥の中間にあるを以て村名を得たといふ。聖武帝の時本郡を分ちたる十八鄕の一の中村鄕に當る。大同村の南に隣接し人口約三千餘、田二二六町歩、畑二八八町歩あり。村内十三に上る寺院あり。字を林(役場)、奈良毛、中荒野、小山に分つてゐる。名勝には林古城址がある。

波野村

本村は元宮前鄕と稱され鹿島町の東方にある海濱の村落にして砂丘多し。人口二千二百餘、田八八町歩、畑一七二町歩あり。名勝に高ケ原、鬼塚、末無川あり。字を神向寺(役場)、清水、明石、小宮作下津の五區に分つ。神向寺は寺の名にして遊行時宗の道場なりといはる。

豐鄕村

本村は鹿島の北にあり西は北浦東は波野村に接す。人口約一千四百、田二四三町歩、畑一二五町歩あり。字を須賀(役場)、猿田、田谷沼新田、田野邊、沼尾田谷、山ノ上に分つ。鹿島、鉾田兩町よりバスの便あり、北浦鹿島灘等舟運がよい、名勝には劍聖塚原ト傳の墓がある。夫木集に「沼のをの池主水神代よりたへぬやふかきちかひなるならん」とある沼尾池の蓮は美味にしてよく病を醫すと古書に見ゆ。

豐津村

「ねんねお守は何處へいつた鹿島の舟戸

へ帶買ひに」とある舟戸は今の大船津である。根本寺は著名の寺にして、芭蕉の「寺に寢てまこと顏なる月見かな」又桃隣の句に「額にて掃くや三笠の花塵」とある。本村は鹿島町の南に接し、西は北浦に臨む。北浦に神宮橋なる長橋架あり潮來への交通便利である。人口約千八百田一九八町歩、畑三七町歩ある。字を大船津(役場)、爪木に分つ。大船津の町の入口に鎌足公の屋敷跡といふのがある。

高松村

本村は古く高松濱と呼ばれし所である鹿島町の東南に横はる村にて、粟生には稍宏大なる城址あり未だ何人の居城たるや判然ならず。人口約四千三百、田四七五町歩、二七〇町歩、產業組合の活動見るべきものあり。農業の副產物に製莚盛んにして漁業も亦旺盛である。西瓜の產地である。字を木瀧(役場)、下塙、谷原佐田、鉢形、平井、粟生、國木、泉川、長栖の十區に分つてゐる。

息栖村

本村は新和歌集に「鹿島潟沖洲の森のほとゝきす舟をとめてぞ初音きゝつる」とある如く古くは沖洲と呼ばれし處。鹿島の攝社息栖明神の所在地として有名である。北浦に面し浪逆浦の東岸、北に高松村東に輕野村と接してゐる。人口約四千九百、田四八一町歩、畑三一一町歩にして莚の產が多い。產業組合、鹿南電氣株式會社等がある。

輕野村

村名の輕野は草木なき枯野の義即ち砂濱さして云つたものといはる。神野池として砂濱には珍らしき大なる池がある。地勢は平坦にして息栖村の南北に當り、西は北浦、東は大平洋に面し西瓜の產出多く、又副業に製莚が盛んである。人口六千三百、面積三方里、田七五六町歩、畑四百町歩、山林千七百餘町歩といふ大村で、產業組合の活動が盛んである。字を知手(役場)、高濱、石神、田畑、濟口芝崎、萩原、木崎、奥野谷、日川の十區に分つてゐる。名勝に苅野橋(カルヌノハシ)といふあり。萬葉集卷九に高橋連蟲麻呂の「鹿島郡苅野橋にて大伴郷に別るるの歌」といふのが見えてゐる。

若松村

本村は元東矢田部村と共に元松浦郷と稱されし所にして村内砂丘多く常陸の砂山といはれ、最近の開拓に係り村内落花生、西瓜、南瓜の產出が多い。人口約三千九百餘、田三三〇町歩、畑四六五町歩を山林原野一五〇町歩あり、產物總額二五萬圓内外にして、内水產の三萬圓等もある。產業組合の旺盛な活動は村勢の將來に多大なる嘱望を繫げられてゐる。鹿島灘及び大利根等の舟運の便よく、縣廳

へ二〇里七町、字は柳川新田、須田新田太田新田の三區に分れてゐる。

矢田部村

本村は砂丘多く、海と川とを腹背とせる割合に密集せる部落である。若松村の南に隣接してゐる人口約三千六百餘、田三七五町歩、畑三〇〇町歩餘にして枇杷葡萄、柿、桃、南瓜の產出が多い。縣廳へ約二一里半、利根川の渡船を以て千葉縣香取郡豐里村に通じ舟運の便がよい。

林產の地 行方郡

本郡は常陸國の南部に位し、北は鹿島東茨城の二郡に接し、東は北浦及び外浪逆浦を以て鹿島郡と境し、南は北利根の流れを隔てゝ千葉縣香取郡の水郷に相對し、西は西浦及び霞ケ浦を以て新治、稻敷の二郡をのぞむ。人情醇朴にして勤儉の美風あり、一般に敬神崇祖の念篤く、國民精神總動員運動の如きも比較的良果を收めてゐる。

郡内は主として洪積層の臺地より、境域に水を繞らすも内部は水利に乏しく、未だ耕されない土地が多いが、原野から出る林產や湖水から獲れる水產は少なくない。鹿島參宮鐵道線が新治郡から來り郡の北部を過ぎて鹿島郡に入るほかは鐵道の通ずるところがない。

小學校は二十五校を算し、尋常小學校七、尋常高等小學校十八校である。中等學校としては麻生中學校、潮來女子技藝學校の二を有するのみである。また郡内官衙には牛堀土木出張所、農產物檢査出張所、蠶業取締支所、麻生警察署、大藏省預金部麻生出張所、麻生稅務署、麻生區裁判所、供託局出張所等がある。

郡内を分ちて次の三町十七ヶ村とし、人口は五萬八千餘に過ぎない。

町 麻生、潮來、玉造

村 香澄、八代、津知、大生原、太田、大和、津澄、要、武田、秋津、立花、現原、玉川、行方、小高、手賀、延方

麻生町

本町は古く香澄鄕と稱し幕末の頃は新庄氏一萬石の陣屋であつた。霞ケ浦に沿ひ浮島と指呼の間にあり郡南の重要都邑たり、曩には郡役所の所在地であつた。人口約四千五百、田二七三町歩、畑一八九町歩、山林四七六町歩にして、水產四萬餘圓、工產一萬圓餘一萬三千圓に上つてゐる。產業組合其他縣出張所等の官衙及び縣立麻生中學校がある。名勝に霞ケ浦景觀には相見崎と共にその双絶と稱される天王崎の眺望がある。其他麻生氏城址霞ケ丘、養神臺、香澄の里、霞ケ浦八景等がある。人物に元鐵相内田信也氏、新莊直知子爵、實業家羽生兵四郎氏等の知名の士を出した。字は麻生(役場)粗毛富田の二區に分れてゐる。

潮來町

本町は霞ケ浦の南端蹟んで水路となる處その東岸にあり、古來水郷の歌舞郷として潮來節にあやめ踊りに有名であつたが今は娼家跡を絶つてゐる。人口約五千二百、田四三五町歩、畑一二〇町歩にして米産二〇萬圓に上る。女子技藝學校あり、醫院七、その他銀行會社、官廳出張所等あり、名勝霞ヶ浦は古來餘りにも詩に歌にとうたはれ、且つ有名で擧げて數ふるに堪へない。長勝寺は頼朝の創建になる古刹にして、その古鐘は國寶に指定されてゐる。縣廳へ一五里一二町。幕末の勤王學者宮本茶村の出た處である。玉造驛に縣道通じバスの便あり、霞ケ浦、銚子、北浦へ舟運の便あり、字を潮來、大洲の二つに分ち、潮來に町役場を置く

玉造町

郡の北端に位置し西は霞ヶ浦に臨み、東は鐵道にて鉾田に通じ水陸の交通開く昔は本村を會彌郷と呼んだ、後玉造重幹の居城にて國名こゝに起る。幕末の頃藩の郷校玉造館あり多くの人材を輩出した人口約三千、田三三三町歩、畑二一三町歩、山林三〇七町歩、産物總額約二〇萬圓内外蔵の産出五萬圓内外に及ぶ。産業組合の活動顯著である。名勝に義烈兩公以來藩公愛撫の「高須孤松」あり根幹三叉して枝葉蜿蜒匍匐せる老松である。天龍と稱する孝德天皇時代の古跡といふ清泉あり。その他玉造城址、物見塚等の名勝がある。字を玉造町(役場)、一本松、搦目、物見塚に分つてゐる。縣廳へ九里鹿島參宮鐵道玉造驛あり。

香澄村

本村は麻生町の東南方に當り、西南は霞ケ浦に面し、大田大生原八代の各村を繞らし、東北は丘陵にして東方に田園が開けてゐる。人口約二千九百、田二〇〇町歩、畑一〇〇町歩、山林一六一町歩、劇場一、料理店八、工場三、神社五あり字を牛堀、清水、茂木、堀之内、永山に分つ。牛堀は村役場の在所にて、古來霞ケ浦の咽喉を扼し横利根北利根の合流點に當り水の名所として有名な處である。古き詩に「水を汲んで山動くと疑ひ帆を揚げて岸行くと覺ふ」とあるはこの地の情景である。縣廳へ十四里一〇町、潮來麻生兩町に舟運の便がある。

八代村

本村は水郷の一たり、藤森天山の詩に「篷を推して前路を問へば、歌吹是潮來」とあるは此邊の情景である。潮來町と香澄村との間に位置す。人口約二千三百、田一九五町歩、畑一三二町歩あり米産約二十萬圓に上る。製綿、製織工場各一あり。バス、舟運の便よく、字は上戸(役場)島須に分れてゐる。

津知村

本村は潮來の東に隣接し延方村の曲松との間にある地域である。人口約千八百村民農を主としてゐるが、田一二五町歩畑六六町歩の小村にして縣廳へは十五里十九町舟運の便が良い。字は辻(役場)、築地に分る。

大生原村

本村は日本武尊の故實を存せる村であつて大日本地名辭書に村名幾千歳の故事を存すとあり大生は日本武尊の假宮の大炊の義といはる。延方村の北方に當り北浦に面し蓮種の産出を以てひろく世に知られてゐる人口約二千百餘、田二〇〇町歩、畑一三〇町歩、字を釜石(役場)、水原、大生、大賀に分つてゐる。縣廳へ十五里、舟運の便が良く、また陸上の交通も惡くない。

大田村

本村も亦日本武尊の足をとゞめられた地なりといふ故實がある。岡平の藥師堂の地は相廉(今の岡部落)の丘前(おかさき)宮の舊址なりといはる。人口約二千、田二〇五町歩、畑一一〇町歩、産業組合の發展充實見るべきものあり。字を矢幡(役場)、根小屋、石神に分ち、舟運の便よし。

大和村

本村に田里といふ處あり神功皇后三韓征伐の時古都比古なるもの三度彼地に渡り功を以て賜りし所といはる。又波都武三野といふがあり此は日本武尊東征の途弓矢の手入をせし所なりといはる。麻生町の東北にありて半島形をなす。東は北浦にして大田村の南に隣接してゐる。人口約四千四百、田四七九町歩、畑三二二町歩、山林三九五町歩あり、産物總額三十萬圓内外に及ぶ。字を藏川(役場)、白濱、杉平、籠田、宇崎、青沼、小牧、岡天樹、四鹿、板峰、新宮に別けてゐる。

津澄村

本村は要村と共に古くは藝都(ぎつ)郷と呼ばれた所、こゝも亦日本武尊にゆかりのある地である。大和村の東北、要村の東に位し、東方に北浦を臨む、人口約三千六百、田三六〇町歩、畑二三五町歩、産業組合、製綿工場、鐵工場、製材工場等あり。字を繁昌(役場)、吉川、山田、中根の四區に分ち、水運の便が良い

要村

本村は小高、大和、津澄、武田、牛賀玉川の諸村に圍繞された村落にして、人口約二千四百、田二〇〇町歩、畑四四五町歩にして、縣廳へ一〇里九町、陸路四

方に通じてゐる。字を小幡(役場)、南高岡、北高岡、行戸の四部落に分つてゐる

武田村

甲斐武田の族此處に住みしより村名起る、武田氏佐竹氏に亡ぼされし後仁賀保擧一萬石を以て此地に封ぜられ後佐竹氏に從ひ出羽に移る。要村の北方、北浦に面したる邑にして中央部より西部に亙り山林が多いが地勢概ね平坦である。人口約三千六百、田三四〇町歩、畑四二五町歩、山林原野一千百町歩餘、總產物高三〇萬圓內外で內蘭四萬圓がある。產業組合が大いに發達してゐる。名勝には大穴(往古寸津毗命の住せし處今尙奇異狀あり)神明城址がある。字は雨宿(役場)、小貫、次木、內宿、長野江、成田、三和に分つ。

秋津村

本村は古くは當麻鄉と呼び日本武尊此地を過ぎるとの記錄あり。郡の東北隅にありて巴川を隔て鉾田町と相對す。人口約三千八百餘、田三四〇町歩、畑四九〇町歩あり、縣廳へ八里餘、巴川沿岸に舟運の便よく。字を野友(役場)、高田、串挽、米原、借宿、靑柳等の六區に分つてゐる。

立花村

本村は東茨城郡橘村と共に昔立花鄉と稱された。玉造町との間に梶無川あり日本武尊此の川を渡る折に舟の梶を折りし故實ありと云はる。郡の西北隅に位し、南に玉造町、東に現原村と接し西は霞ヶ浦に臨んでゐる。人口約二千九百、田二六六町歩、畑一七五町歩あり。字を八木蒔(役場)、濱、羽生、沖洲に分つ。

現原村

日本武尊此國を過ぎて現原の丘に幸すと風土記にあり。又平貞能常陸に至り重盛の骨を若梅村に埋むと大日本史にあり本村は北を東茨城と境し、立花村、秋津村、玉造町の間に位置する村落である。人口約二千百、田一五二町歩、畑三四五町歩、鉾田、小川の兩町よりバスの便あり。字を捻木(役場)、芹澤、若梅、谷島に分つてゐる。

玉川村

日本武尊此地槻野の清水に幸し手を洗ふ、此井を玉清井といふの故實あり、村名の由來なりと。本村は北に手賀村、南に行方村、東に要村と隣接し、西は霞ヶ浦に臨む。人口約二千七百、田二三七町歩、畑一六一町歩あり。名勝西蓮寺は延曆元年最仙上人の創建になり桓武天皇の勅願寺たり、弘安十年慶辨阿闍梨の建立したといふ高さ三十三尺、周圍十尺赤銅を以て作り花崗岩を臺石となす規模壯大

なり。元寇殲滅記念の相輪塔が境內に立ち國寶に指定されてる。字を井上(役場)出沼、藤井、荒宿の四區に分つてゐる。

行方(ナメカタ)村

本村は古への郡家にして中世八甲村といつた。孝德帝の朝に行方郡を設けしとき此處に郡家を置き、當時郡の首邑たりし故今にその名を存してゐる。玉川、要小高三村の間に介在し西は霞ヶ浦に面す人口約二千四百、田二四五町歩、畑一五六町歩、產業組合あり、製莚が盛んである。字は行方(役場)、船子、五町田、於下に分つてゐる、麻生町よりバスの便あり、縣廳へ十一里。

小高村

戰國時代小高氏邑主たるにより村名起る、村內に鯨岡あり上古鯨此にはひ來りて臥せりとの傳說あり。麻生町の北に隣接し西は霞ヶ浦に面す。人口三千百餘、田二九四町歩、畑三二六町歩、玉造町及麻生町よりバスの便あり。字を小高(役場)、橋門、井貞、南、島並に分つ。

手賀村

本村は古へ提賀(てが)鄉と稱し、足利時代手賀氏の據住たり。玉造町、玉川要、武田各村の間に介在し西は霞ヶ浦に面せる村落である。人口約二千百、田二一町歩、畑二一四六町歩、山林二三二町歩、產物總額十五萬圓內外、公魚白魚の產が多い。麻生町よりバスの便あり、舟運の便もよい。

延方村

本村は郡の最南端にある半島形の村落であつて、北西に津和大生原の二村に接し三方霞ヶ浦に面してゐる。人口約四千五百、田七三六町歩、畑一〇九町歩に上る大村の部落で曾て優良村として表彰されしことあり、叺の產出が多い。水戸の學者小宮山楓軒が此地に鄉校を設け人材を敎育したことがある。名勝に北浦の景がある。尙汽船の便あり交通繁し。

農產の地 稻敷郡

本郡は常陸國の南部にあたり北の西半は新治郡に接し、他の半分と東方は霞ヶ浦に面し、南は下利根の大江を以て千葉縣香取、印旛の二郡に境し、西は北相馬郡につゞく。

地勢平夷で、處々に沼澤があり、三十メートル以上の丘陵はない。

郡の西部を省線常磐線が貫通し、霞ヶ浦も水運に利用せられるから交通の便は良い。主な產物は米と麥である。人口は約十萬九千人をかぞへる。

本郡名は和名抄に出てゐる信太郡の鄉

名で、古くは稻敷里などゝ歌にも詠まれたところである。明治二十九年、信太郡に河内郡を併せるに際し、改めて稻敷郡と稱した。而してこの時、河内郡の小野川村は泉波郡に、信太郡の東村及び中家村は新治郡に入つた。

龍ケ崎中學校、江戸崎農學校、大成學舍等の中等學校のほか、小學校五十校をかぞへ、教育狀態頗る良好といふべきである。

行政上二町三十二ケ村に分ち、その町村名は次の如くである。

町　江戸崎、龍ケ崎

村　君賀、沼里、奥野、朝日、君原、阿見、鳩崎、木原、舟島、安中、大宮、生板、源清田、長竿、柴崎、根本、長戸、八原、岡田、馴柴、牛久、蓮崎、太田、高田、大須賀、伊崎、阿波、古渡、浮島、金江津、十餘島、本新島

江戸崎町

本町は戰國時代土岐氏に亞いで佐竹氏の居城となり、領高四萬八千石と稱された處である。郡の中央に位する都邑にして、南は湖水に面し、西に沼里村、北に木原村、東に鳩崎村と隣接してゐる。人口約三千七百、田一九〇町歩、畑一八八町歩である。各縣出張所、銀行會社、產業組合、江戸崎農學校（縣立）等がある。不動院は江戸時代僧天海が中興した天臺宗の名刹として知らる。名勝に江戸崎八景、江戸城址、土岐治賴の墓等があり、神道流の名人諸岡逸羽の出た所である。土浦へバスの便あり、銚子よりは汽船の便がある。字を江戸崎（役場）、犬塚の三つに分つてゐる。

龍ケ崎町

本町は慶長十一年奥羽伊達侯の陣屋が置かれ、江戸幕府より特恩の地二萬石を治めし處である。元郡役所の所在地として現に當郡文化の中心をなしてゐる。地名辭書に「谷原の低野の中なれど東傍に獨基の岡あり、北方は丘陵連續して女化原に至るを以て形勢甚だ卑ならず、牛久沼用水は近く市街の南を流れ、小貝川新川利根川の諸水は田郊の間を回る」とある。人口約八千、田三七八町歩、畑一八〇町歩、各縣出張所、縣立龍ケ崎中學校同女學校、銀行會社、工場、產業組合、警察署等の他、町施設完備してゐる。龍ケ崎鐵道と常磐線の分岐點をなす。又附近各村へのバス網の中心をなしてゐる。縣廳へ十七里十五町縣道東西に走り東端に於いて江戸崎、銚子の二線に分る。

君賀村

本村名は君山の君と羽賀の賀をとりて村名となすと、昔の鎌倉街道にて繁盛せる驛たりしと傳へられてゐる。郡の中央に位し、周圍に江戸崎町、沼里奥野長戸根本大田の一町五村に隣接してゐる。人口約二千二百、田二六二町歩、畑一九〇町歩ありて、字を松山（役場）、上君山、

下君山、羽賀、村田に分つてゐる。產業組合の活動が旺んである。

沼里村

本村は江戸崎町の西方に隣接し、君賀高田、奥野、君原、木原の各村に圍繞せられてゐる。人口千六百、田一七五町歩畑二一二町歩である。字を時崎（役場）、蒲ヶ山、月出里、沼田、小羽賀に分つ。江戸崎町よりバスの便がある。月出里は（スダチ）と讀む難讀部落の雄である。

鳩崎村

本村は元は信太郷と呼ばれし處、郡の東部に位し、地稍高く概ね丘阜にして霞ケ浦に面した肥沃の地である。人口千七百餘、田一六三町歩、畑一六四町歩、山林一八〇町歩あり、總產物高三十萬圓内外にして、茨城縣醬油酒釀造組合聯合會がある。名勝に信太小太郎旗掛松の舊蹟佐倉砦址等がある。字を佐倉（役場）、鳩崎、古渡の三つに分つ。

安中村

新千載集に「常陸なる小野の御牧の露草のうへしは駒のおくにぞありける」とある。小野の御牧は即ち此地である。本村は郡の東方の突角部にして三方水に面し北方を木原村と接してゐる。人口約二千八百、田二六〇町歩、畑二二〇町歩、山林一七五町歩あり。產業組合の活動旺盛にして、村内寺院實に十七寺に上る。名勝に陸平貝塚、辨天の秋月、芝浦の千島、不動堂、花見塚、ぶく〳〵氷等がある。縣廳へ約十七里字大山に汽船發着所がある。字は土浦（役場）、外實に十六字に分れてゐる。

木原村

元の島津郷にして、上古廣野あり杉檜處々に生じ、村名そこにより起るといはる。江戸崎町の北に接し、東は霞ケ浦に面す。人口約四千六百餘、田四四八町歩畑四一八町歩にして產業組合が充實してゐる。名勝に稻荷神社（縣社）貝塚、木原城址、一の宮の大杉等がある。字を木原（役場）、大須賀津、茂呂、受領、宮地大谷、信太、興津、布佐等に分つてゐる

君原村

本村は朝日村の東方にあり、南は沼里西南に奥野、北は阿見、舟島、東は木原村に隣接してゐる。昔は子方郷と呼ばれた處である。人口約二千九百、田二九七町歩、畑四二一町歩あり。字を君島（役場）、石川、塙、追原、上條、飯倉、大形の七區に分つ。名勝に君島原古戰場、上條城址、江戸崎監物の墓等がある。縣廳へ十五里二三町、土浦より汽船の便あり、土浦、江戸崎間のバスも通つて便を極めてゐる。

舟島村

本村は昔霞ヶ浦舟夫の群居せしより舟子の津と呼ばれた處、阿見村の東南方に接し、霞ヶ浦に面す。人口二千五百、田二四五町歩、畑二五五町歩にして產業組合の充實あり。縣廳へ約十五里、土浦、銚子、江戸崎等へバス及び汽船の便がある。字を島津（役場）、舟子、掛馬、竹來に分つ。名勝に縣社阿彌神社がある。

阿見村

本村は昔の阿彌鄕にして、其名は阿彌神社に殘されてゐる。霞ヶ浦海軍航空隊の所在地として知らる。敷地八十六萬坪我國最大のものといはる、白堊の巨大な建物が水に映じ殊に往年ツェッペリンを入れし大格納庫は一偉觀を呈し人目を聳たしむるものである。霞ヶ浦航空隊の所在地として知らる土浦とは電車を以て通じ、舟島を南に朝日村を西に接して北は新治郡と境してゐる。人口約七千五百、田二七〇町歩、畑五一七町歩あり、產業組合が發達してゐる。常南電鐵の終點をなし、縣廳へ十三里二十六町。字を阿見（役場）、靑宿、廻戸、大室、若栗、鈴木の六區に分つ。名勝は海軍航空隊の外、阿見原、柿置橋（書置）等がある。

朝日村

本村は昔高來鄕と呼ばれた。郡の北方にありて、東は阿見、西は岡田、南は奥野の三村と隣り、北は新治郡と境してゐる。人口七千四百、田三三〇町歩、畑九三〇町歩に上る。產業組合、旭製絲工場等あり、亦小說家下村千秋の出た所である。字を實穀（役場）、荒川沖、荒川本鄕沖新田、上長、小池、福田、吉原の八部落に分つ。常磐線荒川沖驛がある。村民は農を主業とし、桑苗馬鈴薯、甘藷の產が多い。

奥野村

本村は郡の中央に位し、八原、長戸、君賀、沼里、君原、朝日、岡田の七村と境を接してゐる。田三一二町歩、畑四一〇町歩、人口三千五百にして奥野農學校がある。字を久野（役場）、桂、井ノ岡、奥原、島田、正直、小坂に分つ。久野城址、赤井橋（片眼魚の傳說あり）の名勝がある。島田部落の石神は附近のはやり神にて病氣の全快する時は石にて男根を作り捧ぐといふ珍奇な風習がある。

岡田村

本村は牛久村の東方常磐線沿線の村落であつて、北は筑波郡と境してゐる。人口約四千四百、田二七二町歩、畑八〇三町歩にして、葡萄、桑苗、落花生の產出が多い。村立の農學校あり、名勝に明治天皇御野立所、國見入道主殿居城址、岡見池等あり。字を柏田（役場）、猪子、東狸穴、東大和田、中根、下根、岡見、上太田、結束等に分つてゐる。

莖崎村

本村は郡の西端に位し西方並に北方は筑波郡と境を接し、東は牛久沼に面す。人口約五千四百餘、田三四七町歩、畑七八〇町歩、山林八一〇町歩ある。名勝に高崎城址、護摩塚あり。字を小莖（役場）天寶喜、上岩崎、下岩崎、房內、君栗、菅間、大井、樋ノ澤、高崎、庄兵衞新田に分つてゐる。

牛久村

本村は戰國時代小田氏の居城ありし所にして、牛久沼の存在によつて有名である。人口約三千百、田二〇七町歩、畑二八一町歩、山林一三三町歩、產業組合、星製藥牛久工場がある。野蜀葵蕃茄の產出多く牛久葡萄の名も知られてゐる。名勝に牛久沼八景、牛久城址、義良新王の墓其の他諸塚がある。常磐線牛久驛ある字は牛久、城中、新地、田宮、遠山、庄兵衞新田に分れてゐる。役場は牛久に置かれてある。

馬柴村

本村は牛久沼の東岸にあり郡の西南隅に位す。人口約三千七百、田五二四町歩畑二九〇町歩、產業組合が充實してゐる名勝に女化原あり栗林下總守義長の出生に傳說ある三里四方餘の原にして中に三沼があり灌田の要をなす。その他、若柴城址、馴柴城址、新田義貞、貞氏の墓、國寶十六羅漢像を藏する金龍寺等がある字は若柴（役場）、佐貫、庄兵衞新田、稗柄、小通萃谷、南中島、入地、稻荷新田小柴新田、馴馬、門倉新田の十一字に分れてゐる。村名は字馴馬と若柴より出でしもの。

八原村

本村は元の稻敷鄕にして、八代羽原より村名が出てゐる。長戸村の西方、龍ヶ崎町の北方に位す。人口約三千、田三九五町歩、畑三六五町歩、山林八八〇町歩產業組合があり、栗の產出が多い。名勝に八代城址、泉城塚、貝原塚址、稻塚等あり。字を羽原（役場）、別所、貝原塚、泉、薄倉、八代の六區に分つてゐる。

長戸村

本村はもと稻敷鄕と呼ばれた所である周圍に奥野八原大宮生板源淸田根本君賀と接壤してゐる。人口約二千七百、田四三三町歩、畑一九九町歩、產業組合活潑なる動きあり名勝に牛田城址がある。字を牛田（役場）長峯、高作、塗戸、板橋、大塚の六區に分つてゐる。縣廳へ約十八里である。

根本村

本村は柴崎村と共に古く朝夷郷と呼ばれた處、柴崎村の西に隣接し、北に君賀南は長竿村源清田村西に長戸村と境してゐる。北方に小野川あり。人口二千三百田三七五町歩、畑一〇六町歩、産業組合あり。名勝に神向寺城址、龍貝城址、岡田大明神等あり。字は上根本、下根本に分る。

柴崎村

本村は一帶の丘阜にして其の南端は殆んど新利根の上に臨み依つて柴崎の村名出ず。北に君賀村、東に太田村、南に金江津村、西に根本村長竿村と隣接す。人口三千八百、田六五〇町歩、畑二六〇町歩、山林九三町歩あり、産業組合が發達してゐる。養の物産地である。名勝に竹内城址あり。字を柴崎(役場)、中山、角崎、狸穴、成渡新田、伊佐津新田、伊佐津の七區に分つてゐる。

太田村

本村は昔の小野(おぬ)郷である。江戸崎町の南方、金江津、柴崎、君賀、高田、大須賀の諸村に圍繞され人口約二千二百、田四六三町歩、畑一二六町歩で産業組合が發達してゐる。名勝に小野の御牧、姫宮、東條城址、小野筍碑、介壚等あり。字は下太田(役場)、寺内、小野、堀川に分れてゐる。

高田村

江戸崎町の南方湖水を挾んで江戸崎と相對し、南に太田、大須賀、東に阿波、古渡の諸村と隣接し東部に丘陵あり林樹に富む。人口約二千、田二八六町歩、畑一七一町歩、産業組合の活動がある。名勝に多くの貝塚がある。字は椎塚(役場)高田、駒塚、桑山の四區に分る。

大須賀村

本村は高田村の南方、阿波村の西南に位し貝塚は早くより人類學者の著目する處である。人口約三千、田四八三町歩、畑一七〇町歩、山林一四〇町歩あり産業組合が充實してゐる。名勝は貝塚の他に七塚、片葉蓼、平須沼等あり。字を須田(役場)、幸田、脇川、中島、清水、町田東大沼、市崎に分つてゐる。

伊崎村

本村は古くは乘悟郷と呼ばれし所、郡の南部に位し、浮島の對岸に當り、霞ケ浦に臨む。西は阿波村に接してゐる。人口約二千五百、田五〇八町歩、畑一三〇町歩、産業組合がある。縣廳へ約十九里半、河川湖沼に汽船の便あり。字は伊佐部(役場)、河波崎、下須田、釜井に分る

阿波村

本村は霞ケ浦に臨み古く要津たりし所である。古渡高田大須賀伊崎の各村に圍繞さる。人口約三千、畑三六〇町歩、田二一六町歩にして産業組合の眞摯なる活動がある。名勝に神宮寺城址、比丘尼松田三塚、競馬場等あり。字は阿波(役場)神宮寺、四箇、南山來、須賀津、甘田等六區に分れてゐる。

古渡村

本村は郡の東部突角の位置にあり、浮島と一葦帶水の間にある水郷である。人口約二千九百、田二七五町歩、畑二一二町歩あり産業組合の旺盛なる發展あり。名勝に古渡入江、藏前城址等がある。字を古渡(役場)、上馬渡、三吹、飯出、岡飯出、柏木古渡、柏木、下馬渡、堀之内羽生に分けてゐる。

浮島村

本島は曾つて景行天皇御東巡の道すがら御幸ありし處、山上に天皇の紀念碑が建てられてゐる。景觀佳く多くの詩人にもてはやされてゐる。人口約一千七百餘田二〇二町歩、畑一六〇町歩あり。名勝に景行天皇行幸碑、浮島城址、お伊勢の墓、雷神の棒、浮島の景觀等がある。古渡村、麻生町より汽船の便がある。

大宮村

本村は郡の西南隅にありて、西北は龍ケ崎町に隣接し西は北相馬郡と境をなす人口約三千二百、田五三〇町歩、畑二一一町歩にして産業組合の充實せる處である。名勝に信太闘あり、縣廳へ約十八里にて、字を大德(役場)、宮淵、佐沼の三つに分けてゐる。宮本龜次郎氏の出身地である。

生板村

本村は大宮村と共に郡の西南隅に位し利根川を挾んで千葉縣に臨んでゐる。人口約六三五町歩、畑二一八町歩にて、産業組合の活動旺盛にして、水陸共に交通便利である。字を生板(役場)、幸谷、鍋子新田、小林町歩、龍ケ崎町歩、角崎町歩、大德に分つてゐる。町歩といふは新田のことで、本村は新田を合して一村をなしたものである。

源清田村

本村は生板村とその成立を同じくし附近の新田を合して一村を成したものである。生板村の東方に當り利根川沿岸の村落である。人口約二千四百、田五〇二町歩、畑一〇三町歩、産業組合の充實せるあり。名勝に新橋沼、琴比羅沼がある。縣廳へ約二十里、龍ケ崎へ自動車の便あ

り。東京銚子へ汽船の便がある。字は源清田 役場)、布鎌、平三郎、宮淵、猿島、羽子崎、古河林、手栗に分つてゐる。

長竿村

本村は利根川べりの水郷の地である。源清田村の東に隣接して、人口約一千八百、田三四五町歩、畑九三町歩、産業組合の眞摯な活動あり。名勝に犀沼外五沼がある。縣廳へ十八里二十三町、利根川に汽船の便あり銚子、佐原、東京に至る字は長竿(役場)、兵部新田、下町歩、庄布川に分つてゐる。

金江津村

本村は元千葉縣所轄なりしが明治三十二年茨城縣に移された。(此の時十六島の大部分を千葉縣に移す)郡の南方利根川に作つた村落で川を隔てゝ千葉縣滑川村と相對してゐる。人口約四千百、田八六四町歩、畑一四七町歩である。産業組合發達し、殊に本村小學校は曾つて優良學校に指定された教育村である。名勝に大浦沼、能場沼、聞場沼がある。字は金江津(役場)、田川、片卷、下加納、平川十三間戸の六區に分れてゐる。

十餘島村

本村は新島村と共に水郷をなし村名は所謂十六島なるが故である。郡の東南隅に近く利根川を隔てゝ千葉縣に臨む。南に金江津村、東に本新島あり。人口約三千三百、田七九三町歩、畑六七町歩にして米産實に三十萬圓を超す。産業組合の機能活潑である。名勝に二つ島、神崎の渦卷、ナンジャモンジャあり。字を曲淵(役場)、外十六區に分つ。

本新島村

本村は郡の東南隅に位し對岸は千葉縣佐原町、東は霞ケ浦に面する水郷にして景色明眉の所である。人口約二千五百餘田五七二町歩、畑五〇町歩、産業組合の徹底充實せる村である。名勝に横利根の閘門、土岐治綱の墓。河合戰跡等がある字は石納(役場)、上須田、上ノ島、西代佐原下手、八筋川、境島、飯島、三島、大島等に分たれてゐる。

林産農耕の新治郡

常陸國の中部にあり、北は西茨城郡に東は東茨城郡に接壤し、南は稻敷郡につづき西は眞壁郡及び筑波郡と相境する。郡の西北には筑波山、加波山等が連亙して郡界を限り、郡の大部分は洪積層の臺地で林産や農産に富む。

鐵道は常磐線が郡を縱貫し、土浦よりは筑波鐵道線が分岐して水戸線に向ひ、常南電氣軌道線もまた土浦から起つて阿

見村に入る。而して鹿島參宮鐵道線は石岡より起つて行方郡に至る。土浦の附近に海軍の霞ケ浦航空隊の飛行場がある。

本郡は、ニイハルまたはニヒハリといふ。

石岡はもと府中と稱し、常陸國の國府のあつたところで、水戸の支藩たる松平氏二萬石の陣屋があつた。土浦は土屋氏九萬五千石の城下で、また志筑は本堂氏一萬百石の陣屋を置いたところである。郡名は上世より著はれた新治の名を襲ふが、往昔の新治郡は今の眞壁、西茨城兩郡の地にあたり、本郡は僅かにその一部であつた。人口は十四萬人弱である。

全郡を分ちて左の五町三十ケ村とする

町　眞鍋、高濱、石岡、柿岡、土浦

村　上大津、下大津、美並、牛渡、佐賀、安飾、志子庫、關川、三、玉川、田余、國部、林、瓦會、戀瀬、葦穂、小幡、小櫻、志筑、新治、七會、都和、藤澤、斗利世、榮、九重、栗原、山ノ莊、東、中家

眞鍋町

本町は土浦町の町續きにして曾つて天狗騒動のとき田中愿藏の一隊に燒かれた處である。人口約五千五百、田二一八町歩、畑一八八町歩。縣立土浦中學校あり油漕所、製絲工場の他種々の工場がある土浦と共に將來の繁榮を期待さるゝ町である。字を眞鍋(役場)、木田余、殿里の三區に分つてゐる。

高濱町

「多賀波麻にきよする浪の沖つ浪寄すともよらじ子等にしよらば」などの古歌あり戀瀬川もよく歌に詠まれた所で昔は風光明眉の地として普ねく知られた地である。石岡町の南方に位し霞ケ浦に臨み舟運便利な所である。人口約三千五百、田二八三町歩、畑二一九町歩、産業組合の充實せる所にして、酒類の釀造工揚がある。名勝に指定史蹟たる舟塚山古墳がある。常磐線、鹿島參宮線何れも高濱驛があり交通至便である。字は高濱(役場)、北根本、中津川、東田中、東大橋、小井戸に分れてゐる。

石岡町

本町は昔の府中にして府中平村と稱した。德川時代水戸家の一族松平播摩守二萬國の領地たりし處、明治五年石岡町と名付けた。人口約二萬、田五九二町歩、畑一、〇二一町歩あり、郡中土浦に亞ぐ郡邑として、女學校、農學校、警察署、各産業組合、銀行會社、工場等あり町施設體裁相當整然たるものあり。名勝に大國主命以下六柱を合祀し、大椽氏以來領主崇敬厚かつた縣社總社神社あり。その他國分寺址、國分尼寺址、府中城址、石岡外城址等がある。字は石岡、染谷、村上の三區に分つて、役場を石岡に置いてゐる。

柿岡町

本町は抑も幕府の旗本龍川長門守の領地たりし處、郡の西北方に位し、西に葦穂、小幡、東に瓦會の諸村あり筑岳四方を圍み柿岡盆地の名がある。人口約四千田二四六町歩、畑三〇六町歩、産業組合の充實せるあり、會社銀行等がある。名勝に如來寺あり二十四輩の一として知らる。字を柿岡(役場)、金指、片野に分つ此邊煙草の産地である。

土浦町

本町は縣下屈指の都邑として産業上にも主要な役割を果しつゝある、町勢旺盛熾烈なる發展的町である。その歴史も亦古く上古に於いては砂丘入江の巷たりといはる、平將門が承平天慶の莊園時代に四圍泥海の中に龜の甲の如き高き丘阜あるを發見、要害を占むる城を築き龜の城と名付けしに創まるといはれ實に一千年前のことにして、將門亡びし後は大椽氏の支族、若泉、菅谷、結城、松平、西尾、栃木を經て土居氏再度城主となり、明治聖代に到る。はじめ新治縣を置かれしが明治八年茨城縣に合併し郡役所の所在地となつた。土浦町は西に關東の名峰筑波の紫雲こむる麗姿をバックとして霞ケ浦の明眉に臨み、筑波鐵道、常南鐵道の起點たるのみならず、常磐線の主要驛たり。又川湖を利用する舟運は、東京、銚子、鹿島、鉾田、香取と汽船和船の交通繁く、水陸兼備の交通要點たり。人口約二萬にして各官衙出張署、會社、銀行、工場、産業團體、組合等擧げるに遑なき程である。産業商工業方面での筆頭は繭取扱の七百萬圓内外を始めとし工産八十三萬圓内外、釀造二十萬圓に上る。名勝は有名な霞ケ浦並に航空隊を始め、國寶の古鐘を藏する等覺寺、神龍寺、龍鱗の松土浦城址、宿り木等があり、廣く世に知られてゐる。

上大津村

本村は昔小田氏の領土たりし所である眞鍋町の東方霞ケ浦に面せる部落にして人口約五千三百餘、田五二九町歩、畑六〇〇町歩である。特産物に蓮種がある。産業組合の確立充實してゐる處、名勝に館城址、駒神峰がある。縣廳へ約十一里半、常磐線神立驛があり、霞ケ浦の舟運の便亦大いに良し。字を手野(役場)、神立、沖宿、田、白鳥、菅野に分つ。

下大津村

本村は上大津村の東方に隣り、霞ケ浦に面し風光絶佳の地として、古く遊閑人の讃へたる文書等がある。人口約二千四百、田二二八町歩、畑二四九町歩、産組の充實見るべきものあり。縣廳へ約十二里、霞ケ浦の舟運便にして土浦町へ約二里。字は加茂(役場)、戸崎に分れてゐる

美並村

本村は土浦町の東南、上大津、下大津牛渡、佐賀、安飾、志士庫の各村に圍繞された區域にして、人口約二千七百、田二四三町歩、畑三九三町歩ある。縣廳へ十一里二十九町、縣道は東西柏崎及石岡町へ分岐してゐる。字は深谷(役場)、大和田、中臺、男神、下大堤、上大堤、南根本、三ツ木の八區に分る。

牛渡村

本村は郡の南端にありて、東に佐賀村西に下大津村、北は美並村と接し霞ケ浦に面する邑にして、曾つて村勢の衰微極に達せしが明治末年産業組合を設立爾來累年之が制壓に成功、現に益々確固充實の伸展を示し茨城縣支會より其の業績を賞されしことあり。人口約二千四百、田一七二町歩、畑二二七町歩である。高島嘉右衛門氏出生の地である。字を牛渡、有河の二に分つてゐる。

佐賀村

本村は郡の東南端に位し前方三面は霞ケ浦に面し、後方に牛渡、美並、安飾の三村と境を接してゐる。人口約三千三百田二八八町歩、畑二三八町歩がある。名勝に老松古杉鬱蓊たる幽趣眺佳の地として知られ觀世音を安置せる藍見崎がある縣廳へ約十二里半。字を坂(役場)、田伏に分つ。佐賀は坂の意にして村内坂頻多なる爲めにこの名出ず。

安飾村

本村は安食ともいはれ、曾て小田氏の知行所たり。人口約二千七百、田二二一町歩、畑二三〇町歩餘に上る。産業組合あり。縣廳へ約十一里半。字を安食(役場)、柏崎、岩坪、下輕部に分つ。人物竹内百太郎、太宰清右衛門等の勤王家を出してゐる。

志士庫村

本村は郡の南方に位し、安飾關川七會上大津、美並の各村の間に介在する部落にして、人口約二千七百餘、田一九二町歩、畑四九〇町歩あり、名勝に空谷上人墓、宍倉城址等がある。縣廳へ約十一里餘。字を石川(役場)、井關に分つてゐる宍倉古城は菅谷隱岐の築城といはる。

關川村

本村は志士庫村の北方に隣接し、東は霞ケ浦に臨んでゐる。高濱町へ僅かに一里。縣廳へ約八里である。人口約二千四百、田二三六町歩、畑二二二町歩あり。字を石川(役場)、井關の二區に分つてゐる。地名辭典に「宍倉の北一里にて戀瀬川は此地と高濱の間に來り霞ケ浦へ注ぐ

……」とある。

田余村

本村は古の田余郷にして附近に滑川あり。（底滑にして渡渉するに轉ぶによりこの川名ありと）高濱町の東に接し霞ケ浦に臨む。人口約二千九百、田二〇五町歩、畑二五一町歩で產業組合あり特產物に柿の產出がある。字を上玉里（役場）、高崎、田木谷、要又に分つてゐる。

玉川村

本村は古への田余郷にして、桑原岳は日本武尊の足を留め給へる處、亦古墳多く史家に知られた所である。園部川の川口にあり川を隔てゝ東茨城郡小川町と相對し南は霞ケ浦に面してゐる。人口約千六百、田一六五町歩、畑九五町歩、名勝に室町時代の特色に富む國寶指定の仁王門あり延曆年間僧最仙の創建といはれる西蓮寺がある。字を下玉里（役場）、川中子の二つに分つ。バスの便あり舟運の便亦良し。

園部村

本村は古く山前郷と稱されし所、現にその名山崎として殘る。石岡町の北方に位し、西は瓦會、林の二村に接し、東は西茨城郡と境してゐる。田二四〇町歩、畑六三〇町歩にして人口約三千四百、產業組合あり。字を山崎（役場）、眞家、東成井、宮ケ崎、柴間等に分つ。

瓦會村

本村は柿岡町の東北方に隣り、西に葦穗村、東に西茨城郡岩間町と接す。人口約二千六百、田二六五町歩あり、名勝に雲照寺がある。字を瓦谷（役場）、宗治會小塙、佐久、野田、部原の六區に分つてゐる。

林村

本村は古く拜師郷と呼ばる。拜師は林の義にして、此地古の片野城の址といはる。柿岡町の東、石岡町の西北に位置す人口約二千七百、田二七六町歩、畑三二二町歩あり。字を下林（役場）、上林、浦須、片岡、喜良壽里、根小屋に分つ。縣廳へ九里二七町、石岡、柿岡兩町よりバスの便あり。

戀瀬村

戀瀬川の上流にあたる爲この村名ありといはる。郡の北端に位し、西は眞壁郡東は西茨城郡に接してゐる。人口約三千六百餘、田二六一町歩、畑三二三町歩、名勝に板敷山大覺寺、加波山登山口がある。字を小見（役場）、大增、大塚、太田中戸の五區に分つ。大增の板敷山舊蹟は山伏辯圓が親鸞上人を待伏せて殺害せん

とせしを聖人の法話に頓悟して弓箭を捨て其弟子となつた眞宗に有名な逸話を生んだ所である。

葦穗村

本村名は葦山の北に足尾の峰あり、これより轉訛せしものといはる。郡の西部に位し、西は眞壁町、東は柿岡町、瓦會村、北戀瀬村、南に小幡村と隣接す。人口約三千五百、田三二四町歩、畑四六二町歩、產業組あり。名勝に足尾山、峰寺山、根古谷城址がある、縣廳へ十二里二七町、眞壁、柿岡兩町よりバスの便あり字を上會（役場）、吉生、小屋、小倉、餘岡、小山田、狢内に分つ。

小幡村

本村は小田氏の一族小幡氏の居所たり元大幡郷と稱し、小田氏の時代度々戰禍の巷となつた所である。郡の西方にあり て、西は筑波町、北は小櫻柿岡葦穗の諸町村と隣接してゐる。筑波山女體峰の東麓である。人口約三千六百、田三〇〇町歩、畑二九一町歩あり。縣廳へ十一里半筑波町及柿岡町にバスの便あり。字を小幡（役場）、須釜、細谷、上青柳、下青柳加生野の六區に分つてゐる。

小櫻村

本村は古の大幡郷である。柿岡盆地の南部、石岡町の西方山間にある邑にして西は筑波郡と境を接してゐる。人口約三千百餘、田三〇八町歩、畑三二〇町歩あり。縣廳へ十里二十六町、柿岡よりバスの便がある。字は月岡（役場）、半田、川又、青田、弓弦、柴内、辻、葛蒲澤、小野越、佛庄寺の十區に分つてゐる。

志筑村

本村は近世本堂氏八千石の封邑たりし處、舊名を師付（しづ）（滴、雫の意である）といはる。石岡町の西方にあり七會、明治、小櫻、林等の諸村に圍まれてゐる。人口約二千八百、田二五七町歩、畑三九二町歩、山林三二〇町歩、產業總額二千萬圓內外である。字を中志筑（役場）、下志筑、上志筑、五反田、大峰、横堀、栗田、高倉の八區に分けてゐる。

新治村

本村は古の荒張村にして、土田部落は土浦より府中に至る大道にて小字中根には長者屋敷跡あり。村は荒張川の左岸にあり、新治は荒張の轉訛せしもので、此の附近を元新治郷となし新治郡とせるは誤りといはる。高濱町の西方石岡町の東南に接す。人口約二千六百、田二五六町歩、畑三二七三町歩、山林三四〇町歩、產業組合あり。栗梨を產す。バスの便頗るよく縣廳へ約九里。字を西野寺（役場）東野寺、下土田、上土田、飯田、市川、

新治に分つてゐる。

七會村

本村は地勢南北に狹長にして新治村の西方にあり、西は都和村に接してゐる。人口約四千餘、田三一四町歩、畑五四二町歩あり、國道南北に貫通し柿岡、土浦兩町よりバスの便が良い。縣廳へ約十里字を中佐谷(役場)、下佐谷、上佐谷、雪入、山本、上稲吉の六區に分つてゐる。佐谷は大掾の一族佐谷七郎左衛門の地頭たりし處、稲吉は奥羽街道に當る。

都和村

本村は舊山莊の屬村である人口約三千田二三七町歩、畑三二五町歩、産業組合の活動見るべきものあり。眞鍋町の北方に位し、縣廳へ約十一里、國道縣道土浦町に通じてバスの便あり。字を常名 役場)、中貫、小山崎、今泉の四區に分つてゐる。

藤澤村

本村は郡の西方に位し土浦町の西北方にある、人口約三千七百餘、田二八三町歩畑三六五町歩産業組合の活動旺盛である。筑波鐵道常陸藤澤虫掛の二驛あり。區を藤澤(役場)、大畑、下坂田、上坂歩虫掛に分つ。櫻川の左岸に古城址あり、藤原藤房の謫居せる屋敷跡ともいはる。この外名勝に髮塔塚(藤房の遺髮塚)岩蛤、神宮寺(藤房僧となり隱遁せし所)等がある。

斗利出村

臨濟宗の大知識大光禪の開基せる法雲寺在る村として著名である。藤澤村の北方櫻川に沿ふた邑で人口約二千五百、田二二五町歩、畑二〇五町歩、縣道土浦町北條町に至りバスの便がある。字を高岡(役場)、田土部、藤澤新田、澤邊、田宮に分つてゐる。

山ノ莊村

本村は中古の庄名を山莊と呼んだ。南に斗利出村、東に七會村、北に小櫻村と隣接し、丘陵を隔てゝ西筑波郡小田町と相對す。人口約二千四百、田二三〇町歩畑二二二町歩。字を大志戸(役場)、小野東城寺、小高、本郷、永井の六區に分つ

榮村

本村は昔の大村郷にして其名は現に部落名として殘つてゐる。土浦町の西北方櫻川の西岸にある邑にして人口約四千餘田二六一町歩、畑二九六町歩あり。金田には日輪寺といふあり昔時の名刹たりし處。字を横町(役場)、上境、中根、土器屋、松塚、大、金田、古來、吉瀬の九區に分つてゐる。

九重村

本村は土浦町の西方にありて西は筑波郡に接し、栗原榮中家東の諸村と隣る。人口約四千、田二九六町歩、畑五〇三町歩にして村産業活潑にして優良村としての發展をなしつゝある。字を上ノ室(役場)、上廣岡、下廣岡、大角豆、倉掛、妻木、柴崎、東岡、花室、岡村新田の十區に分けてゐる。縣廳へ約十三里半、土浦町よりバスの便あり。

栗原村

本村は古の筑波郡東原郷の城内にして櫻川の右岸にあり、郡の西端筑波郡に突入せる平地である。人口約二千二百、田一四五町歩、畑二五〇町歩、産業組合の眞摯なる活動あり。縣廳へ十二里二十七町、土浦町へ縣道を通じ、二三町の距離字を栗原(役場)、上野、蓮沼の三區に分つてゐる。

中家村

大和法隆寺の古菌の裡に「常陸國信太郡中家郷戸主大伴部羊布を調へて進納す天平勝義八年十月とあるは此中家村なり土浦の西に隣接し、西に九重村あり。人口約四千三百、田三四七町歩、畑二八三町歩あり。製絲工場三、産業組合あり。名勝に國寶藥師像を藏する常福寺、國寶銅鐘を藏する般若寺、天神塚(平國香の墓といふ)等あり。バスの便よく。字を上高津(役場)、中高津、下高津、小松宍塚、矢作、飯田、佐野子、粕毛に分つ。

三村

本村は古田籠郷(たご)と稱されし處古來筑波社領となつた處。高濱町の南方に當り霞ケ浦に臨む。人口約二千五百、田二八四町歩、畑二六五町歩あり、縣廳へ九里十二町、常磐線が村内を貫通し、縣道は高濱町及び石岡町に通じバスの便がある。

東村

往古筑波郡に屬し後信太郡となり。明治二十九年本郡に入つたものである。郡の最南端にありて東は土浦町に接し、南は稲敷郡、西は筑波郡と境す。人口約四千三百、田三八五町歩、畑二八三町歩、國道村を南北に置きバスの便あり。字を中(役場)、永國、小岩、大岩田、島山、右籾、摩利山新田、中村西根、二戸などに分つ。

また林産に富む 筑波郡

本郡は小貝川の東岸に位する狹長な地で、北は眞壁郡、東は新治、稲敷の二郡

と相接攘し、南から西南へかけて猿島郡と境し、西は結城郡に連つてゐる。人口は八萬三千有餘をかぞへる。

主として洪積層の臺地から成り、小貝川の沿岸は沖積の平地である。郡の東北隅には筑波山がそびえ、櫻川がその麓を流れて新治郡に入る。郡の主要物産は農産であるが、林産も非常に多い。

筑波の名は早く景行天皇の朝、日本武尊の東夷御征伐の際にあらはれ、次で成務天皇の朝には國造が置かれたが、國郡制定の時には郡となつた。谷田部は明治の初めまで細川氏一萬六千三百石の城下であつたが、細川氏は明治四年下野茂木に移つた本郡の境界は文祿の檢地後、犬牙錯綜して居つたが、明治二十九年四月河内郡より一村を收め、新治郡より三村を收めて一村を與へ、北相馬郡より一村を編入してその境界を整現し、現區域となつた。

全郡を分ちて即ち次の三町二十四ケ村とする。

町 谷田部、筑波、北條。

村 板橋、小田、小野川、小張、大穗、上郷、鹿島、葛城、吉沼、高道祖、田水山、田井、作岡、長崎、久賀、谷井田、眞瀬、福岡、旭、豐、三島、島名、十和菅間。

谷田部町

谷田部は八部、夜門倍、夜多陪等にも依る。和名抄には河内國八部郷と見へてゐる。本町は郡の中央に位し、鐵道の便を缺くも道路四通八達して形勝の地點を占めてゐる。人口約五千百餘、田三〇五町歩、畑四六七町歩あり。字を谷田部(役場)、羽成、東丸山、境松、境松、根崎、古館、飯田、中野、片山、上萱丸、下萱丸、花島新田の十四區に分けてゐる警察署、筑波農業實習學校、家政女學校等あり、縣廳へ十五里、名勝に細川玄蕃頭陣屋跡がある。矢田部城は元小田氏の屬城であつたが、近世肥後の細川忠興の弟興元が一萬六千石を以て封ぜられたが明治維新に至るまで終に城主格に陞らずに終つた。附近町村とバスの便が良い。

筑波町

本町は筑波山双峯の麗姿と、藤田小四郎の天狗黨の義擧を以て普く天下に知られてゐる。筑波山の中腹に有り郡の最北端に位す。人口約三千八百、田二二〇町歩、畑二〇九町歩、産業組合、筑波觀測所、柿岡地磁觀測所等あり。古くは筑波根の峰より落るみなの川によつて、知らるゝ景勝の筑波山は現在はケーブルカーによつて登る樣になつてゐる。元治元年三月、藤田東湖の三子小四郎の首唱により、水戸天狗黨の一隊田丸稻右衛門を首領となし勤王の義旗を擧げ、幕軍之を擊つて克つ能はず後、諸生黨との抗爭等明治維新の大業に一助ともなつた由緒の處頂上の筑波神社には太刀その他の國寶がある。女體山は八七六米、男體山は之よ

り六米低い。

北條町

本町は昔の清水郷にして中世北條氏の此地に地頭たりしにより其の名あり。北に建久時代多氣義幹の築した北條城址がある。筑波山の南方にある一都邑にして人口約五千、田三〇〇町歩、畑一五七町歩、産業組合の發展せる處、警察署、製材工場等あり。北條尋常高等小學校は曾つて、優良校として表彰されたことがある。文學博士市村瓚次郎氏を出した處である。筑波鐵道、常陸北條驛あり。縣廳へ十三里半、附近バス網の中心をなす。字を北條(役場)、泉、小泉、君島の四區に分つてゐる。名勝出葉城址は北に一基の獨立をなし丘頂二畳に分れ北頂百五十米、南頂百二十米ありと。

小張村

本村は戰國時代小田氏の旗下只越入道金久の居城ありし處、谷田部町の南方に隣接せる村落にして、人口約一千九百、田二五五町歩、畑一四九町歩、産業組合あり。名勝に小張城址あり。縣廳へ十六里二七町相馬町よりバスの便あり。字は小張(役場)、谷口、奉社、市野深、新戸小島新田、善助新田等に分つてゐる。

板橋村

本村は上世河内郡大山郷の內たりしが中世約中庄に屬したるものゝ如く、其後文祿の檢地に牛沼湖面悉くと共に此一圓の地を筑波郡に編入され。德川時代は全村旗本の知行地であつた。谷田部町の南方に在り東は稻敷郡に境してゐる。人口約二千七百、田三〇一町歩、畑二九六町歩、山林六六〇町歩あり、蠶、豚等飼育が盛んである。名勝に國寶の板橋不動尊がある。谷田部、藤代驛にバスの便あり字を板橋(役場)、高岡、南太田、狸穴、新兵衛新田、武兵衛新田、大和田、勘兵衛新田、野堀神生に分つてゐる。

久賀村

本村は古くは河內郷にして、郡の最南端にあり東は稻敷郡、西方南方は北相馬郡に境して、北方に三島村と隣接す。人口約三千餘、田四四五町歩、畑一九二町歩あり。縣廳へ約十七里半、相馬町よりバスの便あり。字を濱田(役場)、足高、東栗山、城中、上萱場、下萱場、德衛門新田、根新田、孫左衛門新田に分れてゐる。足高は源義朝時代阿太加といふ地名の記錄あり岡見中務の城址がある。

三島村

本村は郡の南部、久賀谷井田板橋等の町村の間に介在し、南は川を隔てゝ北相馬郡と相對してゐる。人口約二千百、田三六八町歩、畑四一五町歩あり。縣廳へ

十七里、谷田部より縣道通じバスの便がある。字は下島(役場)、伊丹、神住新田山王新田、福原、上島、中島、戸崎、戸茂の九部落に分る。

谷井田村

本村は彼の有名な奇傑として知らるゝ間宮林蔵の出土せし處である。三島村の西方に隣り、西方に豐村と接す。人口約千八百餘、田二六五町歩、畑一六〇町歩あり、相馬及谷田部町へ縣道通じてバスの便あり。字を谷井田(役場)、山谷、上平柳、中平柳下平柳に分つてゐる。

豐村

本村は小貝川左岸の低野にして、豐體(ぶたい)の名稱は詳でない。郡の南方に位し、鹿島小張三島谷井田の四村と隣接し西南利根川に臨む、人口約二千百、田三〇四町歩、畑一四七町歩あり。産業組合あり。縣廳へ十七里半、常總鐵道守谷驛に自動車の便あり。字は豐體(役場)青古新田、青木、長渡呂、長渡呂新田、狸淵、彌柳、福田の八部に分れてゐる。

鹿島村

郡の西部に位し、長崎、十和、豐の各村に圍繞され、西は利根川に臨んでゐる人口約二千五百、田三五七町歩、畑二二八町歩、縣廳へ十七里半を隔つてゐる。字は古川(役場)、東楢戸、西楢戸、西丸山、成瀬、加藤、宮戸、川崎、上小目、下小目の十部落に分れてゐる。

長崎村

本村は郡の西南端に位置して、結城、北相馬、筑波三郡の交叉點に當る處である。人口約九百の小村にして縣廳へ十八里二十四町、縣道水海道へ通じ、バスの便がある。字を鬼長(役場)、川崎に分つ産物は約五六萬圓内外と見らる。

十和田村

本村は郡の眞幅郷にして、郡の西部にあり、北は福岡村、東小張村、南鹿島村長生村と隣接し西に利根川を臨む。人口約二千七百である、縣廳へ十七里五町、田四三七町歩、畑二〇五町歩である。水浦道に接し、バスの便あり。字を上長沼(役場)、押砂、日川、田、眞木、下長沼寺畑、川又、細代、北袋、箕輪の十二部落に分つてゐる。

福岡村

本村は天正十六年北條氏政の東征せるとき兵火の巷となつた處である。北に眞瀬村東に谷田部町、南に十和田村と隣接し、西は利根川に臨み、小貝川のあたり水涯壁立して丘をなす。人口約千九百、田一四五町歩、畑一七〇町歩、産業組合

あり。完禁岡製氷澱粉工場がある。北條谷田部兩町へ自動車の便あり。字を福岡(役場)、臺、仁左衛門新田、南伊佐衛新田、坂野新田に分る。

眞瀬村

本村は古の島名郷である。郡の西方に位し、利根川の東岸、東に島田村、北に上郷村、南に福岡村と隣接し多くは沼澤の地である。人口約三千四百、田四四四町歩、畑一九二町歩。縣廳へ十七里半、相馬町よりバスの便あり。字は眞瀬、高須田、高良田、老田淵、新右衛門新田、鍋沼新田に分れてゐる。

島名村

本村は昔の島名郷にして小貝川筑と波川の間にある島狀の部落である。郡の中央に位し、谷田部町の西北方に在り。人口約三千三百餘、田二四八町歩、畑三八〇町歩あり。縣廳へ十五里八町、北條町及谷田部町より縣道通じバスの便がある字を島名(役場)、面野井、水堀、高田、鬼ケ窪、下河原崎、上河原崎、中別府、下別府の九部落あり。

旭村

郡の中央部に位置し、東は新治郡に接し、葛城島名上郷吉沼大穗の諸村に圍繞されてゐる。人口約五千七百餘、田一九三町歩、畑八〇〇町歩、産業組合あり。縣廳へ約十四里半。字を沼崎(役場)、要遠東、土田、中東原新田、酒丸百家高野今鹿島等の部落に分れてゐる。

上郷村

本村は戰國時代小田氏の臣赤松則實の居た所で僅かに城址を存する。利根川の沿岸にあり、東は旭村北は吉沼村南は眞瀬村島名村に隣接してゐる。人口約五千餘、田一八一町歩、畑四八七町歩、産業組合實行組合等がある。土浦より自動車の便あり。字を田中(役場)、水守、山木に分つ。

吉沼村

本村は郡の西北方に位し、東に大穗村西に結城郡、南は上郷村北作多村と隣接してゐる。人口約四千九百、田二二一町歩、畑五三二町歩あり。字は吉沼(役場)西高野、大砂、牛縊、吉沼五人受に分つ水勝に戸の山白水、戸の山白鷺見返返りの櫻三社稲荷、夫婦塚等がある。

高道祖(サカ)村

本村は往古は諸浦郷の地域に入つてゐたが中世田中庄へ入り、後更に下妻庄に入りたるものである。天狗黨筑波山に擧兵の際幕府を擊破した地として知られてゐる。人口約二千三百、田一二二町歩、

畑一七六町歩、山林一三四町歩、總產額十七萬圓內外である。北條下妻兩町より縣道通じバスの便がある。

作岡村

本町は昔の水守鄉にして、筑波山の西南方にあり、高道祖菅間水山吉沼の諸村に圍繞されてゐる。人口約二千九百餘田一六五町歩、畑三一九町歩あり、北條町及び下妻町よりバスの便あり。字を作谷（役場）、安食、寺貝、明石、高野原新田の五區に分つてゐる。

水山村

本村は昔の水守鄉にして中世田中庄五百石と稱された庄田である。人口約二千二百餘、田一八五町歩、畑一九〇町歩、北條町よりバスの便あり、縣廳へ約十四里餘。字を田中（役場）、水守、山木の三區に分つてゐる。

菅間村

本村は昔渚蒲（すがま）鄉と稱されし處、郡の西北方に位し東に筑波山西に眞壁郡あり。人口約二千二百、田一三一町歩、畑八二町歩あり、筑波驛まで約半里ある。字は中菅間（役場）、上菅間、洞下、池田磯部の五區に分つてゐる。

田井村

筑波山の直下にある邑にして、古人は此地を筑波根の裾輪の田居といつた。筑波町と北條町の中央に位し、東は新治郡に接してゐる。田二〇四町歩、畑一四〇町歩にして人口二千六百餘あり。產業組合の活動見るべきものあり。バスの便またよい。字を神郡（役場）、臼井、大貫、杉木、小澤、漆所の六區に分つてゐる。

小田村

本村は小田城址、極樂寺址等あり、史家に取つて珍重の村落である。昔は相當賑ひたる處にして殊に氣骨の人太田三樂は戰國時代の眞の英雄として知らる。郡の東北端にあり、人口約四千七百、田四五三町歩、畑二二七町歩あり、產業組合各種實行組合の活動旺盛にして經濟更生模範町村として曾つて指定村たりしこともある。筑波鐵道小田驛あり。字を小田（役場）、北太田、小和田山口、平澤、大形、下大島に分つ。

大穗村

本村は北條町の南に隣接し村內を櫻川が貫通してゐる。田二九〇町歩、畑六七五町歩、產業組合がある。縣廳へ十三里半、土浦へ縣道が通じバスの便がある。字を大曾根（役場）、玉取、若森、佐條崎

長高野に分つ。大曾根にある常福寺は二十四輩の十八番にして門徒の靈場として知らる。

葛城村

郡の中央に位し谷田部町に隣接した村落である。人口約二千五百、田一六〇町歩、畑二三五町歩あり、縣廳へ約十四里半、北條、谷田部より自動車の便あり。字は苅間（役場）、東平塚、西平塚、下平塚、原、根崎、西大橋、西岡、島、山中新井、柳橋、大白硲、小白硲、平の十六區に分れてゐる。

小野川村

本村は郡の東南にある大村にして、人口約四千餘、田三〇三町歩、畑五八六町歩より高層氣象臺がある。字は館野（役場）、赤塚、梶田、下原、新牧田、稻岡北中島、市之臺、下横場、南中妻、榎戸今泉、上横場、手代本、小野崎、上原、松ノ木、西大沼、中內の二十部落に分る東は新治郡、南は稻敷郡、西に谷田部町と境してゐる。

農作適地の眞壁郡

常陸國の西端に位し北は栃木縣芳賀郡につゞき東は西茨城郡と境し南は筑波郡に連り、西は結城郡及び栃木縣下都賀郡と地を交へてゐる。

郡の東境には、花崗岩より成る筑波山加波山等の連山がそびえ、その西には洪積層の古地があり、その間を鬼怒川、小貝川、櫻川等が流れ、沿岸に沖積地をつくり、農作物の栽培に適し、產額が極めて多い。

鐵道水戸線は栃木縣小山町から來つて郡北部を橫斷し、これを下館に於て交叉して眞岡線と常總鐵道線とが北と南とに走り、なほ筑波鐵道線も郡の東部を通過する。

本郡はもと白壁郡と稱したのであつたが、光仁天皇の御諱なるため、これを避けて眞壁郡と改めたのである。眞壁城はもと眞壁郡家の所在にして、大椽長幹これに居り眞壁氏と稱した。子孫歷世これを承け、房幹に至り新治郡に移つた。その雨引觀音、眞壁の傳承寺、大寶、八幡神社等の名勝がある。

行政上全郡を分ちて四町二十七ケ村とし、人口は十二萬四千餘人である。

町　下館、關本、下妻、眞壁、

村　新治、伊讃、騰波ノ江、鳥羽、太田小栗、大國、大、上妻、川西、河內、河間、樺穗、嘉田生崎、竹島、大寶、中、長讃、村田、土野、黑子、谷貝、古里、五所、養蠶、雨引、紫尾

下館町

藤原秀鄉が平將門を伐つ爲めに三館を建てた、即ち上館は桶口村、中館は中館

村（共に現在の中村）下館は下館城である。中世水谷伊勢守勝俊此處に居り爾來一方の鎭城として近時に至り、明治時代より郡役所の所在地となつた處である。郡の西北部に當り、汽車東西南北に通じ交通の要點として、又物資の集散地として、此の地方の最も重要なる市邑をなしてゐる。人口約一萬三千に及び各官衙出張所、工場、會社、商店、產業組合外各種組合の發達せし處にして、縣立商業學校がある。名勝に下館城址、伊佐城址あり、縣廳へ約十三里である。

關本町

本町は古代關所のありし處ともいはれ中世には土豪の割據した處である。郡の西端部にある市邑にして、川を隔てゝ結城郡と境してゐる。人口約五千五百、田三三三町歩、畑五二三町歩あり、產業組合各種組合發達し、梨、桑苗の產地として知らる。名勝に岩谷古墳がある。常總鐵道關本驛、三馬驛あり、結城町、下妻町等へバスの便がある。なほ本町は、字を關本分中（役場）、關本中、關本上、關本下、關本、肥土、般玉、上野に分つ。

下妻町

本町は元多賀氏の居城たりし處、關ヶ原の役に西軍に與して所領を沒せられ、後水戸家の祖頼房の湯沐邑となりしが井上氏三千右の領地となりしものである。幕軍が天狗黨に破れた處で、維新前下妻城廻、西當郷、南當郷、東當郷の一町四ケ村であつたのを明治十四正下妻町となし明治二十二年更に無民戸地砂沼坂本大木の三新田を合併せしもので舊町村名は皆大字名に殘つてゐる。人口約七千五百にして各官衙出張所、各種工場、會社等あり產業組合の發達せる處で、町總產額三十萬圓內外に達す。縣立下妻中學、實科女學校等あり。名勝に五所神社、光明寺、普門寺等あり。交通は常總鐵道の下妻驛がある。バスの便大いに開く。字を下妻（役場）、砂沼新田、坂本新田、大木新田に分つてゐる。

眞壁町

源義家時代眞壁六郎なるもの奥州征伐のとき功あり代々此の地に住し雄を近郷に稱ふ郡名町名これによつて起るといはる。筑波山の北麓にある市邑にして、此邊炭草の產地として知られてゐる。人口約八千五百、田二八五町歩、畑三七〇町歩あり。官衙出張所、工場、商店等多く縣立眞壁農學校がある。產業組合が發達してゐる。名勝に八柱神社（塙世の聖天）天目山傳正寺、傳正寺温泉、光明寺等がある。

縣廳へ十二里、バスの便頗る良し字を眞壁（役場）、飯塚、田、山尾、古城、龜熊塙世、伊佐とに分つてゐる。

竹島村

元の竹島郷である。常陸大椽の一門小栗氏の所領たり。今の川澄、横島の字名は豪族の氏號より出ず。下館町の東方に位し地勢概ね平坦である。人口約二千八百、田三五五町歩畑一一〇町歩、產業組合、足袋工場等あり交通至便。

大字を稻野邊（役場）、横島、川澄、小林直井、金丸、高島などの七つに分つてゐる。

養蠶村

小貝川の邊ゆえ此村名あり。下館町の東南方郡の中央部に位す。人口約三千百田三〇〇町歩、畑一七二町歩、足袋工場發達し、產業組合の活動盛んである。バスの便あり。字を蕨（役場）、成田、下中山、島、塚原、上川中子、川連、德持、大塚、深見、茂田に分つ。

中村

本村は伊達氏の祖常陸入道朝宗の住みし處にして附近に伊佐城址あり。河內村の西に隣り、栃木縣と境を接してゐる。人口約二千八百、田二七六町歩、畑一八一町歩、足袋工場、產業組合等あり。下館よりバスの便がある。村內大字は折本（役場）中館、谷部、樋口、口戸、林、石塔、柴山、筑瀨、泉に分つてゐる。

五所村

五所宮といふ祠あり、伊佐三十三郷の惣社といはる。下館町の西南に當り栃木縣と境す。人口約三千二百、田四一二町歩、田三四町歩。府廳へ十四里結城町よりバスの便あり。字を灰塚、五所宮（役場）、小塙、棹ケ崎、山崎、森漆島、西山田、下江連、大谷、上手塚、子思議に分つ。

伊讃村

東鑑に伊佐爲宗なる者の子孫南朝に忠勤をぬきんづ伊佐山はこれにより名ありと村名は伊佐山より起れるものならんといはる。郡の西端にあり、下館、結城兩町の中央に位置す。人口約五千八百、田五二五町歩、畑四四二町歩の大村にして縣立下館高女校あり、製綿工場がある。バスの便よく字を菅谷（役場）外十五に分つ。

大田村

昔の沼田郷にして卑濕の地が多い。田約四七五町歩、田四九六町歩、人口約四千二百、常總鐵道の太田驛ありバスの便もよい。縣廳へ約十四里、字を西方（役場）、玉戸、一本松、二木成、野殿、下野殿、布川に分つ。

上妻村

本村は古く駒城と稱する城寨のあつた所である。下妻町の西北方に位し南は結城郡と境してゐる。鬼怒川の東岸に當り澤地が多い。人口約五千七百餘、田二七四町歩、畑七五五町歩、製綿工場、半燃絲工場等あり。關本、下妻兩町よりバスの便あり。字は黒駒(役場)、平手、尻手大木、半谷、澁井、柴、赤須、桐ヶ瀬、前河原、長塚江に分つてゐる。

河内村

本村は北島准向の據りし有名な關城のある處にして、南朝の歴史に知らるゝ、延元三年關城の戰を以て顯る。今尚其城址を存してゐる。關本町の東南に位し、人口約三千餘、田二二六町歩、畑四五〇町歩あり。字を犬塚(役場)、板橋、關館藤ヶ谷、花田、舟生に分つ。

川西村

元結城郡の管内であつた、字久下田は天文年中結城民の宿將水谷彌九郎正村の築城せし處である。郡の西端にあり、東は上妻村に接す。人口約三千四百、田一八〇町歩、畑四三〇町歩、産業組合あり字を久下田(役場)、大渡戸、小屋、高崎坪井、野爪、新井、袋、八丁、大里に分つ。

大寶村

本村は室沼の南邊にあり、昔小山朝長此地に來り下妻郷と稱し北畠親房を關城に迎へ賊と戰ひ利非ずして死す。下妻町の東に隣接し沼畔の丘陵を占む。人口約三千四百、田三八三町歩、畑二八五町歩名勝に縣社八幡神社、大寶城址あり下館下妻町よりバスの便あり。字を大寶(役場)、比毛、横根、坂井、平三戸、堀入大串、平沼新田、北大寶、下木戸、福田新田に分つ。

騰波ノ江村

騰波江の址は附近數村の間にある卑濕の地にして、昔は鳥羽の淡海といつて江海をなしてゐた。本村は大寶池の東方に位する低地にして、人口約二千七百、田二九七町歩、畑一九一町歩、製絲工場、産業組合あり、名勝に本庄院がある。下館下妻よりバスの便あり。字を若柳(役場)、筑波島、下新田、數須、中新田、上新田、中右衞門新田に分つ。

里子村

本村も騰波江の址である。河内村の東方にあり、東は川を隔てゝ鳥羽村に接す人口約三千六百、田三三〇町歩、畑二四一町歩、産業組合がある。名勝千妙寺は門未百餘を有する東國屈指の名刹として

知らる。常總鐵道黒子驛あり、北條、下館兩町より、バスの便がある。字は木戸(役場)、辻、梶田、中村新田、黒子、井上、西保末、稻荷新田に分つてゐる。

嘉田生崎村

本村名は嘉家佐和、西石田、飯田、野田、東榎生、下岡崎の中より拾ひて村名となす。大日本地名辭典には「墨陋の命名ならずや」とある。下館町の南方に位し、南北に長い村である。人口約三千二百餘、田三七五町歩、畑一三三町歩、足袋底工場あり。名勝に常陸大椽國香城址がある。字は西石田(役場)、外六部落あり。

村田村

本村は郡の中央に位し嘉田生崎村の東にあり、人口約三千二百餘、田三四四町歩、畑二四〇町歩、下館町よりバスの便あり、縣廳へ約十四里二八町。字を吉間(役場)、吉田、内淀、鍋山、大林、下川中子、新井新田に分つ。

鳥羽村

古の鳥羽の淡海の東北岸なりといはれ往古は此邊ならんといはる。筑波山下村田村の南に位す。人口約二千二百、田二二七町歩、畑二四九町歩、眞壁、下妻、下館各町へ約二里自動車の便がある。字は鷲島(役場)、築地、海老江、東保末、高津、式井に分つてゐる。

上野村

古は騰波乃江の跡なりといはるゝ本村は、郡の南端筑波山下にあり、人口約三千二百餘、田二五七町歩、畑一四七町歩、名勝に承和寺の址あり。字は中上野(役場)、赤濱、福岡林田、東石田、寺上野、向上野に分つ。縣道が眞壁、下妻兩町へ通じてゐる。

大村

本村の字海老島は北條氏の攻伐の時小田佐竹結城の諸族の交戰した處である。筑波山下にあり東に紫尾村西に村田村南に上野と隣接し、人口約四千百、田二一一町歩、畑五三七町歩あり。下妻、眞壁へ縣道が通じ大島驛よりバスの便がある字は海老ケ島(役場)、中根、山王堂、松原、田宿、倉持、有田に分つてゐる。

長讃村

本村の字押尾は上杉謙信と小田氏治の交戰の地にして安部晴明の事蹟ありと傳へられてゐる。眞壁町の西方にあり筑波山を眼前に見る。人口約三千二百、畑二一五町歩、畑三三五町歩、名勝に安部晴明宅址がある。字を宮後(役場)、宮山、押尾、猫島、上西郷谷、源法寺、柳に分

つてゐる。

古里村

本村は古の長貫郷にして結城氏の屬藥のありし處である。筑波山の北方にあり人口約三千九百、約二九六町歩、畑四九八町歩、産業組合あり、下館町眞壁町より縣道バスの便がある。字は知行(役場)桑山、清水、大島、谷永島、下郷谷、細田、柳上星谷、八幡、下星谷等に分る。

谷貝村

本村は古里村と共に古の長貫郷にして眞壁町の西方に接する村落である。人口約二千五百餘、田一六五町歩、畑三二一町歩、縣道は眞壁、下館兩町に通じバスの便が良い。字を下谷貝(役場)、細芝、上谷貝、東谷貝、大塚新田の五區に分つてゐる。

紫尾村

本村は古く椎尾といひ椎尾山上の藥王院は天臺宗の名藍にして、同所には平國春の據つた椎尾城址がある。筑波山の西麓にあり眞壁町の南に連なる。人口約四千六百、田三一一町歩、畑一九三町歩、産業組合あり。陶器繩の産地として知らる。字は椎尾(役場)、羽鳥、東山田、酒寄に分つ。

樺穂村

本村は古の眞壁郷の一部である。眞壁町の北方加波山下にあり人口約四千三百餘、田三〇五町歩、畑二八六町歩、筑波鐵道樺穂驛あり。又バスの便もよい。名勝加波山は海拔二千六百餘尺の筑波山脈の一支峯であつて自由黨時代暴動のあつた處である。天目山も亦風光に富み山中の十五鎧等によつて有名である。字は長岡(役場)、上小幡、下小幡、白井、櫻井、原方に分る。

雨引村

本村は昔の大苑郷である。雨引山は加波山の連山にして郡の東北隅に當り西茨城郡新治郡の交會點をなす。人口約三千九百、田二七四町歩、畑二九四町歩、名勝に義家弦卷塚、矢ノ根塚、樂法寺等あり同寺の雨引觀音は國寶である。字を本木(役場)、羽田、阿部田、大曾根、東飯田に分つ。

大國村

村内に將門の墓ありといふ俗說あり。大國玉神社は一に鹿島大明神といふ。雨引村の西にあり北は西茨城郡と接してゐる。人口約三千四百、田二七〇町歩、畑四六三町歩、名勝に七井、寶塚、將門墓等あり。村内を水戸線が貫通してゐる。

字を大國玉(役場)、金敷、高森、高久、寄木に分つ。

新治村

本村は古の新治郷である、村内に新治井あり開國の名蹟である。下館町の東方にあつて竹島、古里、小栗、大國の諸村に圍繞されてゐる。人口約四千三百、田四九二町歩、畑四四九町歩、産業組合、足袋工場、玩具工場、等あり。字を門井(役場)、三郷、久地東樂、蓮沼、横塚、白川澄、井出、蛯澤、古郡に分つてゐる。

小栗村

本村は古の新治郷に屬す。郡の東北隅にあり北は栃木縣、東は西茨城郡に接す人口約二千三百、田三一六町歩、畑二三八町歩、産業組合、足袋工場等がある。名勝に小栗判官城址、北野天滿宮がある縣廳へ十一里半、下館町よりバスの便あり。字は小栗(役場)、蓬田の二區に分る。

織物旺盛の結城郡

本郡は縣の西部に位し、下總國の北端にあり、北及び西北は栃木縣下都賀郡に接し、市より南は本縣の眞壁郡及び筑波郡に隣り、西は猿島郡と境する。

關東平野の北部にあたり、全郡地勢全く平坦にして、西邊は洪積層の臺地をなして飯沼川に至り、東部は鬼怒川や小貝川の冲積地にして水利もよく、良田も開け、地味肥沃なれば農産物の年産高は巨額にのぼり、また織物の産出も少くない

結城は江戸時の間水野氏十八萬石の城下の地であつた。本郡は明治二十九年四月、附近の豐田、岡田二郡を廢してこれを本郡に併せて成り、爾來區劃に變更はない。

鐵道は郡の北邊を省線の水戸線が走り常磐線の取手驛と水戸線の下館驛をつらぬる私鐵常總鐵道は郡の東部を南北に通る。人口は十萬六千を算し、全郡を分ちて次の三町二十四ケ村とする。

町　結城、石下、水海道。

村　飯沼、豐田、西豐田、豐加美、大花羽、豐岡、大形、大生、岡田、上山川、玉、宗道、中結城、總上、名崎、山川、五箇、羽黒、江川、安靜、絹川、三妻、下結城、菅原。

結城町

縣の西端樞要の地點を占め、東は下館友部を經て水戸に達し、西は東北本線小山と結ばれる。面積一方里二二、戸數二千八百餘を有し、治承年中、結城朝光がここに築城して結城政所といひ、累代の居城とし、慶長六年十八代中納言秀康の時越前に移封し、一時代官を置かれたが元祿十六年水野勝長一萬八千石の封邑を賜はり子孫相繼いで近世に至つた。紬は

この地の産として名あり、なほ梨、干瓢の産出が多い。

石下町

下妻町と水海道町の中央に位する主邑にして、常總鐵道による鐵道の便と鬼怒川水運の便を占め、人口約五千五百をかぞへる。町の名は領主石毛次郎政重より起りしものならんといはれ、大房部落には二十四輩の一なる東弘寺がある。米、繭、大麥、小麥を主産物とする。町内には農産物檢査出張所、下妻區裁判所出張所、石下郵便局、常磐銀行支店、五十銀行支店、石下産業組合、郡織物同業組合商工會、農會、火災豫防組合等ありて町勢殷盛を呈し、神社寺院並に名勝舊蹟も多い。

水海道町

郡の最南端に位し、南は筑波郡、西南方は北相馬郡を境し、縣下西南方の樞要な町である。常總鐵道水海道驛あり、岩井町及び取手町へ縣道通じてバスの便あり、また鬼怒川による水運の便もよい。平將門が僞内裏をつくりし時、當時大井の津と稱した當町を京の大津に倣へたといふ。戸數約千六百をかぞへ、主産物は米及び大小麥である。水海道城址、山田地藏尊の名勝あり、縣立の中學校、女學校のほか私立女學校二校を有し、銀行會社等も非常に多い。

絹川村

結城町の東南方に接し、絹川の一埠頭をなし、村名は絹川に沿ふ村の故に起つた。

川の名のこや絹を裂く秋の聲と古句にも詠まれ、情景想ふべきである。戸數五百八十餘、人口三千二百人にのぼり、米及び大小麥の産が多い。村の東北部には縣道の貫通するあり、結城町及び下妻町へバスが通つてゐる。縣廳へは十五里十七町。長命寺の古刹を有す。

江川村

郡の西端にありて栃木縣及び猿島郡と境を接し、干瓢、桑の産出多きを以て知られ、米、麥もまた尠くない。もとは茂呂村と稱した。戊辰の役には結城の官軍と東軍とがこの地で戰ひ、官軍敗退の歴史がある。戸數約八百をかぞへ、人口五千四百人である。結城町及び幸島村へ縣道通じてバスの便あり、縣廳へは十七里十七町にて達し得る。社寺頗る多く香取神社、三藏神社、市杵島神社、八坂神社光明寺、西脇寺のほか二社七ヶ寺をかぞへる。

山川村

江川村の東に連り、眞壁郡と境を接する本村は、上山川村と共に往古山川五郎

の采邑たりしところで、村内結城寺は金剛峯寺とも稱し、白鳳年間の開基に係り當地が古くから開けてゐたことを證するに足る。戸數七百六十餘、人口四千八百をかぞへ、米、大小麥を主産物としてゐる。平將門の支城にて俗に納凉殿と稱したる綾戸城の城址をはじめ、和歌御前の墓、不動明王等の名勝あり、村に縣道通じ、結城及び下妻へバスの便がある。

上山川村

結城町の南方に接し、米麥のほか桑苗の産出多きを以て著名である。結城朝見の次子重光（山川五郎と稱す）の舊邑にして、村名はこれより起るといふ。結城驛まで自動車の便あり、また下妻、大寶を經て筑波町に至るバスが往復する。人口約三千を有し、名勝に馬場及び不動宿の碑あり、上古この地に石窟を造り忌部の上祖野人に稼業を敎へたる碑なりと傳へる。また社寺には諏訪神社、香取神社慈眼寺、東持寺、本命寺がある。

中結城村

山川村の南に接し、東は眞壁郡川西村と境を分つ。古の小鹽郷にて、毛野（鬼怒）川の舊河道にあたる。縣廳まで十八里十町の地に位し、幸島村及び下妻町へ縣道通じ、乘合自動車が通つてゐる。面積一方里〇六四、戸數六百八十餘、人口四千三百有餘をかぞへ、米及び大小麥を主産物とする。養蠶業も隆盛を呈し、養蠶實行組合は十八の多きをかぞへる。神社は八社、寺院には醫王寺、圓滿寺がある。

名崎村

下結城村と共に往古は餘戸郷に屬し、平將門の叛亂の巷となりしところにて、將門記に豐田郡岡田とあるは當地のことである。郡の西北部に位し、西は猿島郡に接し、東に中結城村あり、結城用水堀の西南にあたつて飯沼の澤田に臨む村落である。戸數六百二十餘、人口約四千をかぞへ、米麥の産多きほか、製茶並に甘藷の栽培が盛んに行はれる。縣廳へ二十里二十三町、下館町、幸島村へ縣道通じバスの便がある。

安静村

下結城、飯沼兩村の間にあり、西は猿島郡に接壤する。歡喜寺、弘德寺、西福院、福聚寺、佛性寺、蓮寶寺等の諸刹あり、弘德寺は二十四輩の第五番にあたり寺は相馬太郎義清、即ち後の信樂房の開基にかゝる。米、小麥、大麥の産多く、戸數約七百八十、人口約四千九百をかぞへる。

常總鐵道宗道驛及び東北本線古河驛に向つてそれ〴〵縣道走り、交通の便は惡くない。

大形村

郡の中央に位し、安靜、飯沼、岡田、西豐田等の村々の間に介在し、平將門が興世王と議して、一州を取るも誅、八州を取るも誅、と放言したのはこの地にして、鎌庭はその古跡である。常總鐵道宗道驛及び沓掛村へは縣道が通じてゐる。別府、鎌庭、皆葉、村岡、五箇等の部落より成り、戸數約四百六十、人口二千八百をかぞへ、村内には勝善院、滿德寺、無量院の寺院あり、また古墳が多い。

岡田村

石下町の西方に接し、鬼怒川を隔てゝ石下驛と相對する。沓掛村へは縣道通じバスの便もある。向石下、篠山、藏持ほか五大字より成り、戸數約四百五十、人口二千八百有餘をかぞへ、米麥の産が多い。村内には鄕社桑原神社、願年寺、眞福寺、法輪寺等の社寺あり、大字大房には、國の大守豐田治親が親鸞聖人をこの地大高山に迎へて法弟となり、良信坊の名を賜りて開基したものである。なほ本村は土の詩人として有名な長塚節を生んだ村である。

大花羽村

郡の西南部に位し、石下町の南方にあり、歌舞伎劇に傳はる鬼怒川の累殺しの出來事は本村にありし事實にて、名勝累ケ淵のほか、法藏寺内には與右衛門の妻累の墓がある。鬼怒川を隔てゝ常總鐵道三妻驛に近く、交通の便良好である戸數三百二十餘、人口千九百をかぞへ、主産物は米及び大小麥である。

菅原村

郡の西南部に位し、東に大花羽村、南に豐岡村、北に飯沼村あり、西は猿島郡と接壤する。面積〇・五三八方里、戸數約五百五十、人口三千二百をかぞへ、米麥、繭の産額が多い。北朝の頃、高師冬の據りし飯沼城は本村内にあつたといはれ、こゝの天神社は菅公を祀るといふ。元大生鄕外六ケ村の聯合村なりしが、明治二十二年元岡田郡花島を分離し村名を菅原村と改稱した。菅原天滿社鎭座するにより名づけたものである。

下結城村

郡の西部にありて西は猿島郡に接し、北に名崎村南に安靜村、東に西豐田村がある。古の餘戸鄕にて、結城用水堀の西南にあたり、飯沼の澤田に臨んでゐる。戸數五百餘、人口三千餘に達し、主産物は米及び麥で、本村産業組合は成績極めて優秀である。下妻、古河、境の諸町には縣道が通ずる。また村内には五十銀行支店、長泉寺、下結城郵便局等がある。

豐岡村

郡の西南端に位し、南は猿島郡、南は北相馬郡に境し、東は水海道町に接し、地勢平坦である。二十四輩第一番横曾根報恩寺の所在地として廣く知られ、また村内弘經寺には豐臣秀吉の室天樹夫人の墓がある。戸數六百有餘、人口三千四百人弱。米、麥の産多く、古谷製綿工場を有し綿の移出も少くない。水海道町へは乘合自動車が通つてゐる。名勝には前記報恩寺、弘經寺のほか、鶴姫の墓、錦芳園、松花園等がある。

西豐田村

下妻町の西方に位し、下結城、安靜、大形、總上、上妻、川西、中結城の各村と隣接する。延元の頃、高師冬こゝに砦を築き、後、戰國時代に多賀谷重經これを領し、重經の子大二郎は伏見に於て秀吉に謁し、石田三成命によりて首服を加へ、その偏名を與へて三經といはせた。慶長六年、重經罪有りて所領を沒せられ三經は越前に移つた。

現在戸數約八百七十、人口五千二百にのぼり、米麥を以て主産物産とする。幸島村及び下妻町へ縣道通じバスが通つてゐる。

總上村

下妻町の南方に接し、西方に鬼怒川が流れてゐる。上古の毛野川の廢道にあたり、遺蹟なほ尋ぬべきもの多く、今糸繰川があつて大寶沼の水がこれに注いでゐる。戸數約三百八十、人口二千三百有餘を算し、米麥を以て主要産物とする。幸島村、下妻町へ縣道通じ、バスの便がある。

なほ村内には三月寺、滿願寺の佛堂のほか親鸞聖人の遺跡たる小島草庵舊蹟不動尊の名勝存し、村は小島、古澤、袋畑、二本紀、今泉、中居指等の部落より成る。

豐加美村

郡の東端に位し、東は筑波郡作岡村、北は眞壁郡下妻町、西方より南方に亘り總上、宗道、蠶飼の諸村に接し、地勢概して平坦である。一谷の合戰に平業盛を討取りし泥屋（一に土屋といふ）四郎五郎の兄弟はこの地の住人なりしといふ。戸數約四百二十、人口二千六百人にして米、麥、繭を主産物とし、農産物の首位を占むる米麥に對しては極力下沼農業倉庫に於て有利に共同販賣し、全村内の豐加美村産業組合は大正八年の設立にして組合事業の成績睹るべきもの多く、該組合を中心とし、村役場、村農會と聯絡を保ち、經濟更生五ケ年計畫の實行成績良好を極め、縣下に於ける模範更生村と呼ばれてゐる。

蠶飼村

郡の東端にありて東は筑波郡吉沼村につゞき、址は豐和美村に接し、西は宗道村、南は豐田村に連る。地勢平坦、往古の手向鄕の地にして、戸數二百三十、人口千四百人弱の小村なるも、米の產額多く、大小麥また少なくない。北條町及び宗道村へは縣道通じて交通の便惡からず村は大園木、鯨の二大字より成り、村內に江連用水組合、華藏寺等がある。

宗道村

北は下妻町南は水海道町、東は北條町西は古河町に通ずる街道の交叉點に當り玉、總上、豐加美、蠶飼、石下の諸町村の間に介在し、地勢平坦、結城五里、土浦へ七里にして達するを得、一小村なるも郡の中央にあたるを以て曾て郡衙を置かれしことあり、今も結城郡自治會館、縣士木出張所、縣農產物檢査所出張所、宗道郵便局等の官衙がある。常總鐵道に沿ふて宗道驛あり、下妻、石下の兩町へはバスが往復してゐる。村內宗道神社は安倍宗任の首級を祀ると傳へ、村に宗任の首塚と稱するものがある。

玉村

往昔の岡田鄕の一部にして、石下町の北に接し、鬼怒川はその西を流れる。地勢平坦、耕地は田百九十餘町歩、畑二百五十町歩を越え、米及び太小麥を以て主要物產とする。原宿、原、羽子、小保川若宮戸等の部落を合して成り、戸數四百有餘、人口二千七百餘人をかぞへ、玉村產業組合は近來頓に業績の良好を示しつゝある。なほ村內には光明寺、當光寺等の古刹がある。

豐田村

郡の東部に位し、東は筑波郡上鄕村につゞき、南は三妻村に接し、西は石下町に隣り、北は蠶飼村と境を交へる。往昔平將軍貞盛の一族たる平政幹が石毛館に居を構へ、豐田氏の祖となり、これに因んで村名を附したのである。なほ平將門の出生地は豐田鄕なりと傳へられてゐる戸數約四百、人口二千六百人弱を算し、米麥のほかビール壜苞の產地として有名である。村內には豐田城址及び龍心寺の名勝がある。

五箇村

水海道の東北方に位し、東は筑波郡眞瀨村、北は三妻村、南は大生村に接し、地勢平坦である。

長川一帶村流を抱く、蘆白く楓紅
に兩岸の秋、風物今の如くんば眞
に畫くべし、棹歌穩に送る運租の
舟

の句は本村の情景をうたつたものである

米麥のほか瓦の特產あり、東境に常總鐵道三妻驛ありて交通の便よく、村內に願明寺、松岳寺、眞福寺ほか三ケ寺を有す

三妻村

水海道町の北方にして石下町の南方に位置し、鬼怒川に沿ふ村落である。往古は飯猪鄕に含まれ、村の長さ二里餘に亘り、地勢極めて平坦である。石下、水海道の兩町へは縣道通じ、交通運輸の便惡からず、また常總鐵道に沿ふて三妻驛を置く。三坂、中妻の二大字より組成され戸數六百二十餘、人口二千五百餘人を算し耕地は田二百二十町歩、畑三百四十町歩に及び、主產物は、米、大小麥等である。村內には常磐銀行支店、三妻倉庫、靈仙寺等がある。

大生村

郡の南方水海道町の北に接續し、鬼怒小貝兩川の相迫るところにして田土卑濕數條の排水路を造つて耕畝を保持する。相野谷、平右衞門新田、小山戸、中山、十花、大崎ほか四大字より成り、戸數四百八十餘、人口三千餘をかぞへ、耕地は田二百八十町歩、畑二百七十六町歩にして、米及び大小麥の產出頗る多い。水海道町及び石下町へは縣道が通ずる。なほ村內には廣大寺、淨運寺、常德寺等の古刹がある。

飯沼村

安靜、大形、岡田、菅村の諸村に圍まれた農村で、西は猿島郡に境するこゝもまた附近村落の同樣、平將門の亂に兵火にかゝりし地である。戸數約七百四十、人口四千六百をかぞへ、飯沼なる大澤を有し、田三百十二町歩、畑四百七十四町歩を越え、米麥を以て主要物產とする。飯沼の水中には雁島なる名勝がある。この島は平時はその影無く、たゞ初秋の頃鴻雁飛來するに及んで自然に水上に浮出するものにて鴻雁去るに及べばその島また次第に沈み、恰も鴻雁の來宿に便するがために故らに生ずるが如きが樣に、世に雁島と稱へ、俗に浮沈の島とも稱へる

蔬菜の產地 猿島郡

下總國の北端にあり、北は栃木縣下都賀郡につゞき、東は結城郡及び北相馬郡と接し、南は千葉縣東葛飾郡と境し、西は利根川を以て埼玉縣北埼玉郡及び北葛飾郡に相對してゐる。

本郡は利根川の左岸の洪積層の臺地より成り、所々に沼澤あり、大山沼、釋迦沼、長井、戸沼、鶴戸沼、菅生沼等は就中大きいものである。

產物は農產物が主で、鐵道は省線東北本線が郡の西北端を通過するだけであるが、郡內到るところ道路發達して自動車

を通じ、交通頗る至便である。

南部の鵠戸沼と菅生沼との間の石井の地は天慶年間平將門が僞宮を建てたところで、今岩井町がある。北部の古河は、足利時代の末鎌倉公方足利成氏がこれに據り、古河公方と稱したところである。本郡は明治の初め印旛郡の所管であつたが、同六年千葉縣となり、更に同八年茨城縣に編入され、同二十八年に西葛飾郡を併合して現區域となつた。

郡内は今次の三町二十二ケ村に分れ、人口約十一萬五千人である。

町　古河、岩井、境

村　飯島、岡郷、生子菅、香取、勝鹿、神大實、幸島、長田、七重、七郷、中川長須、斉掛、八俣、五霞、猿島、櫻井、逆井山、弓馬田、靜、新郷、森戸

古河町

縣の西端に位し、栃木縣と埼玉縣の境界にある主邑にして、南は埼玉縣栗橋町に隣り、北は栃木縣小山町に通じ、市街殷盛交通また便利である。面積〇・四四方里、戸數三千六百五十、人口一萬八千九百にのぼり、米、麥、楊子、うどの産出が多い。奥州街道の古驛にして、萬葉集に許我の渡とあり、城はもと足利成氏の築きたるものにて古河公方の稱あり、近世土井利勝の末孫封ぜられて八萬石の城下であつた。なほ古河を大衆的に有名ならしめたるは馬琴の八犬傳中の芳流閣上の大將闘である。學校官衙會社工場等頗る多く一々枚擧の繁に堪へない。

岩井町

郡最東の主邑にして、西に鵠戸沼、東に水路通じ、水海道町は其東方にある。常陸椽平貞盛が將門の軍と戰を交へしはこの附近一帶の地である。水海道町へ乘合自動車の便あり、また北は苔掛村、南は埼玉縣、北葛飾郡二川村へ縣道が走つてゐる。戸數約八百六十、人口四千六百餘人、米麥の産多く、岩井郵便局、縣農産物檢査出張所、下妻區裁判所出張所の官衙のほか町立岩井實科高女、育成學校銀行支店、工場等あり、名勝として平將門を祀る國王明神、將門館址、九重の櫻北山、將門馬洗、島の藥師等が世に知られる。

境町

郡の中央に位置し、利根川を挾んで千葉縣關宿町と相對し、猿島、靜、長田、五霞の諸村と接壤し町の近くに長井戸沼がある。利根川圖志によれば、「關宿の對岸結城のゆくてにして繁昌の處なり月々六載舟を江戸に出し以て行旅に便す」と出てゐる。戸數九百三十餘、人口四千六百を算し、米麥の産あり、町内には境郵便局、境稅務出張所、猿島郡自治會館縣土木出張所等のほか官衙、學校、會社工場等多く、利根川堤防の眺望は絶佳にして名所に加へられる。利根川に舟楫の

便あり、岩井、關宿、古河の諸町へはバスが通つてゐる。

新郷村

古河町の南に接し、利根川を隔てゝ南は埼玉縣栗橋に相對し北に勝鹿村及び香取村あり、沼澤多く、耕地は田二百二十餘町歩、畑四百二十五町歩に上り、米麥のほか白菜、里芋、甘藷、南瓜南産がある。鴻巣には御所沼あり古河御所の遺跡なりといふ。

河舟をこがのわたりの夕波に
さしてなかひの里やとはまし

と道興准后の回國雜記にある許我の渡は中田部落にある。また足利成氏の墓、古河桃林、光了寺等いづれも名勝として知られる。

勝鹿村

古河町の東南に接する農村にて、北は栃木縣に境する。靜御前が奥州下向の際通過したところと傳へられ、享保の頃、古河の火藥庫ありて爆發し三萬千五百斤を燒失したといふ記錄がある。廣袤東西一里十町、南北一里十町にして面積一・六六方里を有し、米、繭、麥、大豆、粟、蕎麥、甘藷、里芋、漬菜、南瓜、西瓜、馬鈴薯の産が多い。古河町及び境町へバスが通ずる。名勝に熊澤蕃山の墓、思案橋等世に知られる。

岡郷村

勝鹿、櫻井兩村の間にあり南は香取村につらなり、北は栃木縣と境する。小堤上大野、關戸、稲宮の四大字より成り、戸數五百六十有餘、人口三千七百五十人をかぞへ、耕地は田百五十五町歩、畑五百八十五町歩にして米及び大小麥を主産物とする。東北本線古河驛及び幸島村へ縣道通じ自動車の便がある。小堤部落は本鑑にも記されたるところにて、野木宮合戰の時こゝも戰場の一部であつたといふ。

櫻井村

幸島、岡郷、八俣、靜等の村の間に在り、村内に長井戸沼横あり、平將門が妻子を隱したといふ幸島郡蘆津江邊といふは長井戸沼のことなりと傳はる。下大野久野、柳橋、葛生、高野の諸部落より成り、戸數約六百四十、人口四千百餘をかぞへ、米麥を主産物とし、白菜の特産がある。東北本線古河驛へは二里にして達し得べく乘合自動車が往復してゐる。

香取村

古河町の東方にありて、南に五霞村、西に新郷村あり、北は勝鹿村に接し、東は靜村に連る。村内湖沼多く、地形半島形をなす水郷にて、村名は鎭守香取神社あるにより名付けられた。釋迦、水海、

前林、磯邊、駒羽根ほか二部落を合して成り、戸數約七百八十、人口四千七百餘人をかぞへ、米、麥、大根、うどを重要物産とする。東北本線古河驛及び境町へは乘合自動車の便あり、交通狀態良好である。

五霞村

郡の西南端にあり、水路四境に通じて島をなし、西は埼玉縣栗橋町と相對し、東は千葉縣關宿町に境し、南は埼玉縣幸手町に連る。島内湖沼に富み、前を流るゝは權現堂川である。曾ては五箇村島とも呼んだところで、戰國時代、古河關宿等の戰塵を浴びた記錄多い。小福田、元栗橋、川妻、小手指、新幸谷、大福田ほか七大字を合して成り、戸數約千百四十人口約七千八百五十をかぞへ、米、麥、繭の産多く、産業組合、水利組合、耕地整理組合の活動賭るべきものが多い。

靜村

郡西部の中央にあり、櫻井、長田、境五霞、香取の町村に包まれ、東に長井戸沼、西南に利根の水路ありて、村内水郷を成し、戸數五百餘、人口二千七百五十を算し、米及び大小麥の産が多い。塚崎横塚、志鳥、稻尾の四部落あり、境町及び古河町へはバスの便あり、地名辭書にはつ塚崎の北を横塚といふが、此に沼澤の岸邊に一丘あり、形狀大塚に似たり、横塚塚崎の名も之等に因める者の如し」云々と見えてゐる。村内には古墳多く香取院、般若院の古刹がある。

長田村

長井戸沼の東岸にあり、南は境町に接し、他は靜、八俣、逆井山、猿島の諸村と隣り合ふ本村は、もと芦津郷の一部にして

滿川の春水綠油の如し、楊柳風輕く嚶鳴浮ぶ、閃々たる歸鴉犀已に遠し、青山低く亂檣の間にあり

とはこの地の景觀を寫したものである。境町へ一里、古河町へ四里、共にバスの便がある。産物は米麥を主とし、また製茶の業が盛んに行はれる。名勝に泉式部の植えたりと傳ふる旬櫻の老木がある。

八俣村

長田村の北に隣り、西は長井戸沼に瀕し、東は結城郡に接し、地勢平坦の本村は、古の八俣郷の地にて、結城街道を挾んで人家櫛比し、米麥のほか苗木の産地として有名である。東山田、谷貝、山田北山田、長左衞新田等の部落より成り、戸數約七百十戸、人口四千五百餘人を算し、古河町及び境町へはバスが通じて交通便利である。村内に久昌院遍照寺等の古刹がある。

幸島村

結城街道の一驛次にして郡の西北隅にあり、東は下妻町、西は古河町、南北は境結城兩町へ縣道通じ、いづれもバスの便がある。大字諸川は村の中心地にして人家櫛比し、戊辰の後に大鳥圭介の軍勢と官軍の一隊との戰つたところである。古は古河公方成氏の麾下師河の城主粕禮信濃守の城地なりといふ、今、その城址が殘つてゐる。村は諸川ほか九大字より成り、面積一方里三、人口七千百人をかぞへ、米、繭、麥、茶の産出が多い。

猿島村

境町の東方に接する農村にして、地勢平坦耕地よく開け、田百六町歩、畑四百八十五町歩に上り、灌漑の便よく米麥の産頗る多く、また煙草、白菜の栽培が盛んである。大歩、山崎、内門、染谷ほか三大字より成り、戸數約六百三十、人口三千九百をかぞへ、境町へはバスの便あり、村内には齋藤鐵工所、産業組合、下小橋變電所、金剛寺、大翁寺等がある。

森戸村

西に猿島村、北に生子菅村あり、東は七里村とつゞき、南は利根川に臨み對岸は千葉縣關宿町に近い。伏木、一ノ谷、百戸、若林、新田戸、桐ケ作の諸部落を合せて成り、戸數七百餘、人口四千五百を越え、産物としては米麥が最も多い。大字一の谷には二十四輩の一たる妙安寺あり、開基成然坊はもと藤原幸貫と稱し本州を支配し、後、親鸞に歸依して共に京都に上り、關東に歸つてからは弘教に身を委ねたといふ。縣道境町岩井線は村内を貫通する。

生子菅村

古の塔陀郷の地にして、生子、生子新田、菅谷の三部落より成り、村名は各部落名の一部を取つて付けたものである。猿島、森戸、七重、沓掛、逆井山の諸村によつて四周を繞らし、戸數五百九十、人口三千六百有餘にのぼり、耕地は田百五町歩、畑四百四十餘町歩を算し、米、大麥、小麥、煙草等を重要物産とする。岩井町及び境町へは共に縣道が通じてゐる。

逆井山村

郡の東部に位し、古の八俣郷の一部にて、この邊一帶はもと百濟の歸化人が多かつたといふ。沓掛、生子菅、長須、八俣の諸村の間に介存し、北は結城町に接してゐる逆井と山の二部落より成り、縣道により常總線宗道驛並に境町へ通じてゐる。戸數約六百九十、人口四千二百餘をかぞへ、米、大麥、小麥、蓮根等を主要物産とする。

七重村

鵠戸沼に沿ひ、森戸、長須、沓掛、生子菅諸村の間に介在し、地勢島山の如く耕地多く、田は百二十五町歩、畑は四百七十餘町歩に上る。往古の塔陀郷の一にて、大字富田はその殘名である。戸數六百二十、人口三千八百餘をかぞへ、米麥を以て主要物産とし、村民概ね質實勤勉である。縣道岩井町境町線に沿ひ交通の便は惡くない。

沓掛村

東は飯菅川を隔てゝ結城郡飯沼村に對し、北は逆井山村、南は飯島村に隣接する。往古の塔陀郷の一にて、下妻街道に沿ひ、沓掛はその驛名であつた。日光山瀧尾別所の古銅經筒の識に「下總國沓掛庄、松本民部少輔宗善」云々とあり、庄名にも呼び松本氏はこの地の地頭であつたといふ。戸數七百三十餘、人口四千二百五十人をかぞへ、米麥の産多く、製茶また少なくない。天然記念物大樺、龍泉寺等の名勝がある。

弓馬田村

郡東部の中央に位し、長須、岩井、飯島、沓掛、七重の諸村に圍まれ、地勢平坦、米麥の栽培に適し産額頗る多い。戰國時代には多賀谷政經の領分にて弓田の城山はその城址である。弓田、馬田、幸田の舊三村を合せて弓馬田と稱し、弓田はユダに讀み、古書には湯田にもつくる名勝に前記城山のほか、弓田城址、兵庫屋敷、談議所、將門の遺跡等がある。縣道は沓掛村及び岩井町へ通ずるが交通は稍々不便である。

飯島村

郡の東部に位し、東は結城郡菅原村と境を接し、南は岩井町に近く、飯沼の大澤を排水して近世村落をつくつたもので村内は沼澤が多い。幸田新田、大口新田ほか六大字より成り、戸數約四百、人口二千五百五十をかぞへ、耕地は田二百十餘町歩、畑百七十七町歩に及び、新興農村としての活氣ある村勢は益々將來の伸展を約束してゐる。米麥を以て主産物とする。縣道は沓掛村及び神大實村へ通ずる。

神大實村

郡の東南隅に位し、東は結城郡豐岡村に接し、北に飯島村、西に中川村がある神田山、大口、猫實の三大字より村名を取り、古の飯沼の大澤にして近世排水して田甫となしたものである。米麥等十數萬圓の年産高あり、水海道、岩井兩町へ縣道通じ乘合自動車の便があり、村内には延命院（將門の遺跡）がある。因に戸數約六百、人口は三千三百餘人である。

七郷村

郡の東南隅に位し、南は利根川を挾んで千葉縣東葛飾郡に對し、東は菅生沼を隔てゝ北相馬郡菅生村と境し、村内地勢平坦である。昔は石井郷に屬し、石井は平將門の僞都の跡なりと傳へられる。將門が平貞盛と最後の決戰をなせし島廣山は七郷村なりともいひ、守谷町なりともいひ一定しない。岩井町へ二里、縣道通じて交通至便、村内には村社八のほか觀行院、泉福寺、大安寺等の寺院六あり一本松の老樹は名勝として知られる。

中川村

七郷村の西につゞき、岩井町の南にあり、西は利根川に臨んで平野が多い古の石井郷にて、平將門に關する古蹟の一である。岩井町へ一里縣道通ずれどバスの便はない。小山城址、女夫松等の名勝あり、觀音寺、西光院、地藏寺のほか四社三ケ寺を算し、主産物は米、麥、煙草等である。因に村内戸數約六百三十、人口約三千七百にのぼる。

長須村

鵠戸沼と利根川の間に横はる水郷にして、村内水路多く殆ど島洲に似てゐる。延喜式に下總國長洲馬牧とある地で、地理志料には「地勢東に鵠戸沼あり、西に市谷沼あり、南利根川を帶び、水草便あり、最も放牧に適す」と出てゐる。親鸞聖人の舊蹟たる阿彌陀寺を有し、岩井町へは一里にて達し得、利根川には舟楫の便がある。なほ重要物産として蒟蒻、米麥等が擧げられる。

地形西より東南に長く、北東一帶は小川を以て結城郡、波郡及び稻敷郡と隣り、南より西は千葉縣印旛郡及び利根川を以て千葉縣東葛飾郡に接し、西北は菅生沼を以て猿島郡と相對する。

地勢は中央に第四紀古層の臺地あり、これを圍んで沖積層の地がある。鐵道は省線常磐線及び私鐵常總鐵道が通じ、道路またよく發達し、交通運輸の便良好である。

交通の便良好なるため文化比較的よく進み、住民は概して教育に理解深く、また崇神敬祖の念に富み、男女青年團、在郷軍人分會、婦人會等の活躍見るべきものが多い。稻戸井村には二小學校あり、その他はいづれも一町村一小學校で、すべて高等科を併置し、設備優秀、教育成績また一般に良好である。中學校へ進むものも多い。

郡内を次の四町二十ケ村に分ち、人口約五萬一千人である。

町　守谷、取手、相馬、布川。

農本位の北相馬郡

村　稲戸井、井野、六郷、大野、高野、大井澤、小文間、川原代、高井、高須、内守谷、文、小絹、寺原、山王、坂手、北文間、文間、東文間、菅生

なほこれらの町村は數多の大字より成り、多きは文村の如く十二字より、布川小文間、内守谷、坂手の各村は一村一字である。

守谷町

水海道町と取手町の中間に位する主邑にて常總鐵道の沿線にあたり、北は筑波郡に接してゐる。相馬氏累代の城地にて今その城址が殘つてゐる。守谷、赤法花の二字より成り、廣袤東西一里二町、南北一里十四町に及び、戸數五百有餘、人口二千八百五十人をかぞへる。町内には縣農產物檢査所出張所、龍ヶ崎區裁判出張所、守谷郵便局、常盤銀行支店等あり米麥の產も多い。名勝としては西林寺、相馬古御所桔梗原等が廣く世に知らる。

取手町

郡の主要市邑にして、利根川に沿ひ、陸前濱街道の要衝たると同時に常磐線と常總鐵道の分岐點にあたり、交通上主要なる位置を占める。對岸に千葉縣我孫子町がある。昔、大鹿左衞門尉の居れる砦の跡にて、取手は即ち砦より轉じたものである。舊本陣には

さして行く棹のとりての渡守
思ふ方々とくつきにけり

との歌碑がある。曩に優良村の一として表彰され、產物は酢、奈良漬、米、麥、木綿等を主とする。廣袤東西十六町、南北十五町、面積〇・四八八方里にして、人口は四千四百有餘をかぞへる。

相馬町

牛久沼の南方にあたり、舊陸前濱街道藤代驛の地で、驛北の小貝川は國郡の堺をなしてゐる。常磐線に沿ひて藤代驛を置き、南は取手に北は土浦に通じ、郡東南方の主邑をなし、街道また四通し、交通の便、頗る良好である。藤代、椚木、片町、宮和田、平野等の大字より成り、町内には相馬、藥代の二郵便局、常盤銀行支店、製綿工場、製板工場等あり、一部には農業も行はれ、古刹に高藏寺、信樂寺、莊嚴寺がある。

布川町

郡の西南隅に近く、一條の水路を隔てて千葉縣木下町及び布佐町と相對し、一帶の丘山を後にし、前は長江を望んで街衢をつらね、人煙輻湊し、魚米の地とするに足る。縣道は龍ヶ崎町に通じバスの便あり、水運また良好である。戸數約四百四十、人口二千三百五十人にのぼり、縣農產物檢査所出張所、布川郵便局、五十銀行支店等を有し、附近農村の物貨の集散地をなし、名勝としては來見寺、德

滿寺の地藏市等が擧げられる。

菅生村

郡の西南端に位し、西は菅生沼を隔て猿島郡七郷村と境を交へ、南に利根川を控へ、野州街道筋にもあたり、交通の利便に富む。菅生沼は享保年間飯沼の排水路をこゝに通じたものにて、末は利根川に通じてゐる。村は菅生、大塚戸の二大字より成り、戸數約六百二十、人口三千四百人をかぞへ、米及び麥を主產物とし、田百町歩餘、畑三百町歩の耕地を有する。一言主明神、正惠寺、無量寺等の名勝あり。一言主明神の大煙火は關東一の稱がある。

坂手村

守谷町西北一里半、郡の東北隅に位し北は水海道町に續き、西は猿島郡神大實村に接し、東に鬼怒川が流れてゐる。地勢極めて平坦にして灌漑の利便に富み、田百二十町歩、畑二百町歩の耕地あり、米及び大小麥の產出が多い。戸數約三百二十、人口千九百餘を算し、村内には阿彌陀寺、願海寺、極樂寺、三福寺等の寺院があり、水海道町及び菅生村への交通至便である。

内守谷村

郡の西北隅に位し、北は水海道に接し南は菅生村につゞき、西は坂手村と隣り東は鬼怒川を越えて小絹村と相對する。水戸市まで十里餘、むしろ東京市に近く交通は守谷町及び猿島郡岩井町への道路完備して概ねこれによる。戸數二百六十餘、人口千五百餘をかぞへ、耕地は田百二十八町餘、畑百六十八町餘あり、產物は米、小麥、大麥を以て主なるものとしてゐる。なほ小學校は七學級編成にて高等科を併置する。

小絹村

水海道町の南方にあたり、常總鐵道の沿線にして村内に小絹驛を置き、東は筑波郡長崎村、南は守谷町、西は鬼怒川に接し地勢全く平坦である。德川殿の鉾先にては五十の城々唯一日にて落ぬる、とある五十城のうちには村内筒戸城も含まれ、この邊一帶往昔は沼澤であつたといふ。新宿　寺畑、細代ほか三大字より成り米麥の產多く、禪福寺の鉢靈の行事は著名である。

大井澤村

小絹村の南方にして守谷町の北方にあり、舊大木、板戸井、立澤大山の四ヶ村を合して大井澤村と改めたもので、守谷町の西北一里餘に位し、鬼怒川は、大木と板戸井の中間に於て利根川へ入る。その交會の邊は、斥鹵沼澤相錯綜して三角

洲を生じ、水路も陸路も共に交通運輸の便良好である。戸數約四百、人口二千四百人弱をかぞへ、米麥を主要物産となし清龍寺、大圓寺、龍源寺の古刹がある。

大野村

郡の西南端に位し、西から南にかけて利根川が流れ、對岸は千葉縣東葛飾郡である。東は守谷町に連り、北は大井澤に隣り、村名は大柏、野木崎の二部落名より來り、村内地勢平坦、常總鐵道守谷驛を距ること一里、縣道は谷田部町に通じ交通至である。

高野村

守谷町の南に接し、南は利根の流れを越えて千葉縣と相對する。高野、鈴塚、乙子の三大字より成り、戸數約二百五十人口千五百の小村であるが、住民はよく農に從ひ、米及び大小麥の産出少なからず、一般には生活狀態裕福である。村内海禪寺は平將門が高野山を模して先祖の墓をつくつたところで、この寺の新皇堂といふのは將門を祀り國玉明神といふとの記錄が殘つてゐる。

高井村

郡の中央に位し、東は筑波郡谷井田村に境し、西は守谷町に接し、地勢平坦である。下高井、上高井、同地、市ノ代、貝塚の舊村より成り、貝塚部落にはその名の如く貝塚あり、此邊海を去ること二十四里なるも、往古は利根を溯流する海水が丘陵の下まで浸りたるものであらうといはれる。

稲戸井村

高井村の南にあり、利根川を隔てゝ千葉縣東葛飾郡富勢村と相對し、水郷に富む。戸頭、米野井、野々井、稲等の舊四ケ村を合併して稲戸井村と稱したので、守谷町の東南にあたり、戸頭は渡船場として古くから知られた。戸數約四百、人口約二千四百を算し、米及び大小麥を主産物とする。桔梗ケ原は平將門の愛妾桔梗御前が殺されたところと傳へ、今桔梗塚と稱する古い墳塚がある。

山王村

取手町の北方にあり、郡の北隅に位置する。北は筑波郡と境を接し、東に相馬町、南に寺原村、西に谷井村あり、山王ノ岡、和田、配松、神住、中内等の部落より成り、取手町へは一里餘、バスの便あり、また常總鐵道寺原驛へは僅かに二十町にて達し得る。

寺原村

取手町の北方に接し、取手町及び山王村へ縣道通じてバスの便あるほか、常總

鐵道に沿ひて寺原驛を置き交通至便を極める。寺田と桑原の二部落より成り、寺田には相馬八幡宮あり、天正年中、朱印地を附せられた古祠である。なほ名勝としてとげぬき地藏、寺田觀世音が著名である。地勢平坦、耕地は田二百二十町歩畑百町歩を有し、米麥を以て主要産物とする。

井野村

井野は薦沼（イヌ）の義である。ここには鬼作左本多重次の宅址あり、本多重次及び重玄の墓も殘つてゐる。位置は取手町の東に接續し、地勢稍々高く井野臺がある。井野、長兵衛新田、青柳、小堀吉田等の部落を合して成り、戸數三百三十餘、人口千八百人をかぞへ、住民は殆ど農を以て生業となし、主産物は米及び大小麥である。常磐線取手驛にちかく、また村内を國道が貫通し、交通狀態良好である。

小文間村

取手町より布川町に通ずる水路の北岸にあり南は利根川を隔てゝ千葉縣東葛飾郡湖北村相對する。舊記には小文間の東にて鰲飼川を渡るに戸田井の渡といひ景色いとよしとあり、一色氏の城址はこの渡に近く、その詰丸と覺しき地に今天神社がある。即ち第六天山にして、松樹繁茂し、天明年間、神道德次郎、紫紐泰助などと稱する賊首が黨を結んで、こゝに住したことあり、今も第六天社の西にあたる一段低きところに賊の竈の跡がある戸數約三百、人口千六百五十を算し、米麥を主産物とし、縣道取手布川線に沿ひ交通至便である。

六郷村

取手町と相馬町の間に位する地區にて陸前濱街道に沿ひ前記兩町の乘合自動車が往復してゐる。地勢全く平坦にして水利の便あり、田四百三十餘町歩、畑百町歩の耕地を有し、米を筆頭に大小麥の産多く住民の多くは農耕の業に從つてゐる村内寺院には久光寺、照谷寺、長福寺、佛性寺、來見寺等あり、敬神崇祖の念一般に篤く、小學校青年學校の成績よく、各種團體の活動また睹るべきものが多い

高須村

相馬町の南方、龍ケ崎町の西方に位し水路東を通じ、北文間、川原代、六郷、小文間諸村の間に介在する水郷の地である。藤代の東南一里、小文間の東北一里小貝川はこの里を繞り曲折して南に下り戸田井に至り利根川と合する。高須は高洲にて地勢を意味したものである。押切大留、高須、神浦の四大字より成り、戸數約三百、人口約千八百を算し、米麥の産多く、高須産業組合は業績の良好なるを以て夙に知られてゐる。

小原代村

牛久沼の東南に接し、西は筑波郡に續き、南は相馬に連る。遠藤川の堤は古の毛野川の址にて、常陸、下總兩國の舊境界線であつたらうといはれる。村名はその地勢により出來たものである。布川町への縣道は村内を貫き、乘合自動車が往復して交通狀態は良好である。戸數約二百六十、人口千五百に近く、葱の産地として知られ、また米、小麥の産も多い。

北文間村

龍ケ崎町と布川町との中央にあり、東は稻敷郡に接し、地勢平坦、往時は絹川は此邊にて香取浦の流江と相交つたといはれる。長沖、長沖新田、須藤堀、豐田北方、羽黑等の部落より成り、須藤は須渡のことにて、須渡は即ち洲處の義である。戸數約三百三十、人口千七百餘を有し、米麥の産出多く村内には正願寺、如來寺の寺院あり、川原代村及び布川町へは縣道通じバスが往復してゐる。

文間村

郡の東南隅に偏し、布川、龍ケ崎兩町の間に位し、文間臺の南面の聚落にして新利根川は曾根と押付の間より起り、東流して稻敷郡に入る。上曾根、早尾、大平、横須賀、羽根野ほか六大字より成り戸數約三百、人口千七百有餘にのぼり、田二百十町歩、畑百四十町歩の耕地あり灌漑の便に富み、米及び葱の産出が非常に多い。縣道龍ケ崎布川線は村内を貫通しバスが往復する。なほ村には村社天神社が鎭座する。

文間村

東文間、北文間兩村の間に介在し、東は稻敷郡につゞき、南は布川町に接壤する。往昔は附近八千石の田邑を合せて文間庄と稱し、文間臺の東端にして新利根川に臨み、その山丘上に文間明神あり、大澤長江を俯視し、千早の沃野鬱蒼たる風色を一望の中に收めるを得る。押戸、立木、大房、岡山の四大字より成り、龍ケ崎立崎間の縣道ありてバスを通じ、産物は米及び麥を以て主なるものとす。

東文間村

郡の東西隅に位し、東は稻敷郡生板村及び大宮村に連り、南は利根川を隔てゝ千葉縣印旛郡布鎌村に相對し、文間の庄の一角にして水鄕の地である。中谷、立崎、羽中、縄本、加納新田、總新田、東奥山新田等の大字より組成し、戸數約三百七十、人口二千百五十をかぞへ、立崎龍ケ崎間の縣道に沿ひバスつ便がある。主要産物は米と麥で、産業組合による産業經濟の統制よく行はれ、應順寺、正縄寺、無量寺、龍藏寺の寺院がある。

市原郡

五井町出津

町會議員 區長 **濱田玄悟**

氏は明治八年の岳降である、元出津區青年團長、國勢調査員、漁業組合理事、五井千種聯合耕地整理組合理事及び郡書記、五井町助役等の要職に歷任し、地方自治産業の爲めに盡瘁、現在は町農會副會長、農家組合長、出津區長、町會議員として、町諸般のことに寄與、功勞大にして、殊に區融和開發の爲めに盡せる眞摯なる努力は、區民から多大なる感謝と輿望とを受けてゐる。

白鳥村月崎

白鳥村長 正八位 **高山安衛**

多年、農業指導者として地方産業の發展に功勞顯著なる氏は、郡内にその名を知らぬ者なく、文字通り庶民の信望を一身にあつめてゐる。夙に茂原農學校に學を修め、農村中堅人物としての修業を積み、卒業後兵役に服し陸軍少尉に任じた

除隊後は埼玉縣農林技手を拜命して多年勤續し、その手腕と力量とは先輩上官のよく認むるところであつた後ち千葉縣香取郡農會に轉じて技術員となり、同郡下の農業指導に當り、殊に農業經營の改善については功績甚大であつた。辭職後は專ら本村の發展に盡力し、在鄕軍人分會長を永年つとめたるほか、曩に村長に選ばれて今日まで才腕を發揮しつゝあり、現時村會議員を兼ね、威名嘖々として永遠に消ゆべくもない。

白鳥村國本

白鳥村青年團長 **積田嘉平**

若々しい清新の空氣のはねかへるやうな、それでゐて或る成熟を感じさせる人格の持主たる氏は、大正三年六月二十五日の誕生なれば年齒未だ而立に滿たざるに、農村の振興に盡力して功績多く、若き時代人として普く畏敬されてゐる。積田家は代々農を業とする舊家にして當地屈指の大地主、嚴父嘉雄氏は元村長に推されて村治に貢獻ありし人材である。氏は夙に千葉縣立君津農林學校に學び、優等の成績を以てこれを卒業爾來村青年中の模範と稱され擧げられて

白鳥村青年團長に就任、非常時局下の青年團の使命に立脚して幾多公益に資する事業を遂行しつゝある。趣味は釣魚。家庭には兩親健在のほか令弟及び令妹六人があり、圓滿至福を極める。

白鳥村石塚　白鳥神社

社掌　宮原嘉之松氏

當社は、神武天皇日本武尊、菅原道眞の三柱祭祀をする村社にして、創建の年代は詳細を傳へざるも明暦二年に社殿改築の記錄あり、日本武尊東夷征伐當時からの古跡なれば、由緒の深く沿革の古きこと他に類例が尠ない。明治二十九年村社に列し、社名を白鳥神社と改められた一名痣拔神社と呼ばれ、當社を信仰すれば御神德により痣が消え去るとて來拜の客が多い。末社に大山神社がある。基本財産は山林五町三反、田一反、原野一反を有し、境内面積六千坪、本殿、拜殿等整ひ、上總ハイキングコースの一部に當り、菅公の木像、神劍二振、鏡三枚の寶物がある。氏子二里四方に亘つて五百戸を算し、例祭は毎年四月一日、現社掌は宮原嘉之松氏にして氏子總代は田村源一郎氏ほか六名である。

内田村　安寧山龍溪寺

當寺は多賀豐後守の開基にして、太永年間の創立開山である。曹洞宗に屬し、白衣觀音を本尊とする。境内約二千坪にして本堂、鐘樓、山門、豐川稻荷堂、庫裡、物置等整然として並ぶ。本寺格にして末寺四ケ寺あり。寺寶として涅槃像畫一幅、十六善神畫、その他あり。なほ當寺豐川稻荷は明治廿八年頃近江聖堂と云ふ人が本山に修業の歸途海荒れ白狐現れしにより再度當寺に來り之を祀ると云はれ毎年初午二月、秋九月二十二日に祭祀を執行し盛大を極める。元林肥後守檀頭たり（現在林伯である）當寺財産は境内の外山林十町歩、畑一町歩、田二町歩にして現住職澁谷篤信師は明治四十一年十一月三十日に生れた溫厚有識の士で、德望ある人である。

白鳥村國本　金藏院

新義眞言宗川村豐山派住職に屬する當院は、延命地藏尊を御本尊となし、開基は權大僧都慶濟師である。慶長六年同大僧都によつて一宇を創立されてより地方有數の道場として繁榮したが、時に利あらずして一時荒廢に歸せんとせしことあり、二十五代目の住職たる川村祐善師は境内外の

目面を一新すると共に、本堂の大修築を行ひ、且つ田畑を開墾するなど、一院の隆昌に多大の貢献を致し、現在見るが如き名刹となつた。師は二等司教權少僧正の資格を有す。本寺は大和の長谷寺に、末寺に夷隅郡老川村光明寺がある。境内七二坪、他に宅地四二九歩あり、本堂、客殿、庫裡、土殿、その他伽藍整備し、基本財産に田二町二反、畑一町、山林一町九反を算し、寺寶に惠心僧都の御眞筆を藏し、正月の仁王會、八月の施餓鬼は共に盛大に行はれる。檀家百八十戸、總代は積田嘉雄氏ほか七名である。

白鳥村月崎　永昌寺

住職　星野龍道師

當寺は、曹洞宗に屬し、御本尊は釋迦牟尼佛正安元戊年一月纖巖六胤禪師の開山に係る。禪師は正安三年遷化せられ、その後文明十三年大風雨ありて殿を著しく倒壞し古書類等は悉く紛失の憂目に遭つた。翌十四年寅年に至り、現今の地をトして境内となし堂宇を移築したが、然るに永祿の頃寺勢大に衰へ、君津郡馬來田村妙泉寺の中興開山太年伊椿禪師が當山を再興し、中興第一世となり、爾來今日に及び、現住職は星野龍道師である。本寺は前記妙泉寺、檀家は百二十戸、總代には秋田吉平氏ほか四氏が任じ、本堂庫裡、玄關、山門その他の建造物あり、行事としては春秋彼岸會、四月八日釋迦祭、八月十六日の大施餓鬼會、十二月八日の釋迦成道會等盛大を極める。

印旛郡

佐倉町彌勒町　佐倉町戊申信用組合

本組合の創立は遠く明治四十三年八月で、初代組合長川村彦三氏以來、代を更ふる六代目宮下恒三郎氏に及んでゐる。現在は保證責任組織となし、組合員數は二百六十餘名五百餘口を數へ、貸付に於て二萬三千八百餘圓、貯金に於て約二千三百圓の統計を示し、組合員に對し年三分の配當をなしてゐる。創立以來の古い歴史は組合の信望を厚くし、本組合を利用するもの逐年多きを加へつゝあるまた故なしではない。專務理事片岡善之助氏は前組合長として辣腕を持つた土地の名望家で、實際の事務は現組合長に代つて挺身采配を振つてゐる。氏は恒吉氏の長男明治十年五月十九日今の實家に出生、

現に町會議員として町治に與かるの外、また出納檢査委員として重きを置かれてゐる。

成田町成田

成田信用組合

電話成田二二三番

當組合は昭和三年九月二十日に創立されたもので、同八年の十二月保證責任組織に改めて現在に及んでゐる。初代組合長關川博道氏は實に當組合創立の功勞者として稱へられ、現組合長宮崎廣氏もその手腕に於て決して遜色なく、加ふるに斯界の利け者湯澤釣治氏、專務理事としてこれを輔佐し、前組合長の業蹟をいよ〳〵鞏固にすると共に盛況へと運びつゝある。組合地區を成田一圓となし、現組合員數は四百七十餘名、一千八百三十餘口に達し、商業者その大半を占めてゐる。湯澤專務は明治五年二月金子忠興氏の次男として東京市小石川に生れ、母堂氏の生家を繼いで今の姓に改め、夙に銀行界に入つて縣下に名を馳せ、當組合の創立と同時に現職に就いた人で、洵に謹直、寡言實行の人格者として、組合員から敬慕されてゐる。

根郷村六崎

根郷信用 販賣購買利用 組合

當組合は初代組合長渡邊庄次氏の三十有餘年に亘る。鋭意氏自ら組合事務に當つた功績はよく今日の組合の基礎を確立せるものといふべく、創立に當りては渡貫梅吉氏、渡貫直次郎氏、故寺田利助氏故宍倉榮吉氏等の功勞も亦特筆すべく、現組合長宍倉喜雄氏は以前常務理事たりし人、前組合長の衣鉢を襲いで專ら組合發展の爲めに努力しつゝあり、組合員四百五十一人、口數一、三五二、差引純財産一萬九千五百餘圓、差引益金九百三十餘圓となつてゐる(昭和十一年度)。この確實なる內容と、組合長始め櫻井常務理事、十一理事、監事等の共同一致による事業遂行は當組合の將來をして益々伸長を約束させるものであり、ひいては村産業の開發に多大の稗益をもたらすものである。

公津村臺方

臺方信用 販賣購買利用 組合

本組合は大正元年十二月有限責任組合として設立し、昭和八年四月保證責任組合となる。創立以來部落產業の開發に全面的効果を示し、農家各戶の經濟生活の伸展に大いなる足跡を印しつゝある。因に最近の業績を見るに販賣合計四千四百餘圓、購入九千百二十六圓餘となつてゐる。損益計算差引剩餘金三一二圓、差引純財產一萬二千三百餘圓、準備金五千四百七十餘圓、特別積立金千五百三十餘圓となつてゐる。組合員七十二人出資口數百八である。本組合は購買に於いて殆んど完璧をなしてゐる。現組合長谷晴助氏專務理事相京茂氏、青柳彥治氏、磯山澤吉氏、大川茂十郎氏、理事組合員一同の眞摯なる一致協同は全く他の模範たるに

足る。組合長谷氏は村內有數の名望家なり因に專務理事相京氏は現在村會議員、臺方養蠶組合專務理事等の名、公職に在任し村自治產業の上に多大の功績あり淳厚高潔なる人格と共に村民の信望厚く、やすよ夫人は現公津村長谷晴助氏の令妹にして國防婦人會長であり、一男三女の子福者である。

布鎌村布太

布鎌村信用 販賣購買利用 組合

當組合は明治三十八年二月十三日の創立にして爾來三十有餘年村內金融に、產業開發にその稗益する處甚大なり。十一年末現在によれば組合員一九四人出資口數三七二となつて居り、資產二萬七千八百餘圓、負債一萬八千百餘圓、差引純資產九千七百餘圓である。損益の差引剩餘金は百三十六圓餘、準備金二千百二十圓特別積立金百二圓餘となつてゐる。今や現組合長高瀨泰次郎氏を始めとして、大塚伊之助氏、大木信次郎氏、小島政次氏の三監事並に組合員一同の協力一致は本組合をして益々確固なる基礎の上に精々良く發展の効果を擧げつゝある。殊に高瀨氏は村內有力者として、その公正にして而も眞摯、寡默實行の資性は組合一同の信望を得てゐる。

六合村瀨戶

六合村信用 販賣購買利用 組合

專務理事 狩野廣瀨氏

當組合は出資金一萬三千圓、組合員五百餘名を擁する優良組合の一にして、創立以來堅實なる經營方針の下に着々基礎を固め、農村不況に遭遇せる際にも微動だに受けず、眞に產組中の模範とも稱すべく、現在貸付金一萬四千餘圓、貯金五千三百圓、米麥叺等の年販賣高二萬六千圓、肥料その他の購買高四萬二千餘圓の事業成績を示し、伸展性に富み、將來更に飛躍せんとする氣構へにある。組合長岩井力三郎氏は博識の人格者にて手腕に富み組合員の信賴篤く、また專務理事狩野廣瀨氏は先考俊次郎氏の長男にて、明治十年十月八日の岳降、千葉縣及び神奈川縣に農林技手として勤務せしこと多年退職後村會議員、區長等に推され、現時當組合專務理事たるほか村助役の要職に就いてゐる。長男俊氏は京城帝大庶務課に勤務する。

臼井町

臼井町長代理 太田杲寛

太田家はいつの頃から今の地に土着歸農したかを明かにしないが、とにかく相當の舊家であり、土地開發に勤めた家柄であることだけは、村民からよく知られてゐる。先代氏また、常に心を町政の上に注ぎ、公職等に推されて歷任、今日町政の土臺を築くに與つて力のあつた人である。當主は父君の衣鉢を受けて疾くよ

り公共方面に關與、一歩は一歩よりもと業績を殘して、遂に今日に至つてゐるが前町長退職するや、推されて町長代理として町政に鞅掌してゐるが、永年町治に對する功勞と、町民の寄する信望とが相結んで町の首腦者となるのではないかと一般から評判されてゐる。几帳面な氏の性格は、町政の上にも公私を明確にしてゐる。

佐倉町大佐倉

町會議員 多額納稅者 **藤崎善治**

當家は名門藤原家の末裔にして約五十代を經る舊家、舊佐倉城主の御用金用達をなし代々名主をつとめ、帶刀を許された家柄である。氏は先代保氏の長男にして明治五年十一月の岳降、町内第一の素封家として令名高く、舊内鄕村時代には村長二期、村會議員、消防組後援會長等をつとめ、佐倉町と内鄕村の合併の際には盡力多く、現時は町會議員、學務委員、佐倉町第十部消防組後援會長に擧げられてゐる。慶應義塾の出身にて、草花の栽培に趣味あり、また雲峯と號して詩歌に堪能である。文子夫人は愛國婦人會特別會員にして且つ國防婦人會顧問である。間に三男三女ありしも二令息を喪ひ、三男薫氏は中央大學法科を卒業せる秀才である。因に令弟藤崎正雄氏は元大藏大臣結城豐太郎氏の女婿である。

大森町發作

町會議員 發作耕地整理組合長 **田口光**

氏は昭和十二年七月印旛郡耕地整理組合長より功勞者として表彰銀盃一個を贈られし名譽の人である。明治三十七年三月の誕生にて、十五歳の時父善太郎氏に逝去され、その後中央大學に學び、昭和二年經濟科を卒業した。溫厚なる材幹と評され、町會議員、發作耕地整理組合長、發作第二耕地整理組合長、手賀沼普通水利組合議員等を兼任し、若きエキスパートとして耕地整理事業に貢献するところ多大である。趣味は盆栽、寫眞、野球等である。たか夫人は東葛飾郡笠早村の產、一男三女あり、母堂よねさんを加へて家庭頗る圓滿である。因に當家は氏を以て十二代目とする大森町屈指の素封家にて、祖父は多年町長、町會議員等をつとめ、また手賀沼開墾事業の功勞者として德望令名共に高かつた。

彌富村

彌富村長 **押尾龍藏**

再度推されて村長となつた名望家たる氏は、明治三年先代彌太郎氏の男に生れ

て夙に公共方面に進出、區長、學務委員衛生委員、村會議員、村長その他の公職に擧げられ、地方自治のために盡瘁貢献せる功勞は決して尠少なるものではなく常に村民の感謝と敬仰とを以て迎へられて來た。今また村治首腦者として起ち上つた氏は、老境を忘れて專念盡力、倒れて後ち止むの慨を以て雄々しくも村政を視てゐる。氏のこの文字通りの滅私奉公には、吏員何れも感奮興起、孜々としてその職に當るの美風を促進してゐる。因に當家は土地の舊家として知られ、維新前までは代々名主役を勤めて相當の功を稱へられ、先代安太郎氏も村公職に任じて多大の功績があつた。

旭村山梨

村會議員 消防組頭 **大野長治郎**

氏は二十有五年に亘り當村消防施設改善整備のために一意專心努力なし其の功績甚だ大なり。既に氏はその功勞に對する村よりの表彰七回、聯合會より感謝狀四回、縣知事より三回の表彰をうけてゐる。氏は大正十二年二月消防手を拜命爾來小頭、部長、副組頭、組頭と榮進以て今日に至りしものであるが、他に又村會議員、農會總代、大隆寺壇家總代、村衛生委員等の要職にあり村治に寄與せる功績亦尠しとせず。元區長をも勤め村民に多大の信望を得、氏は嚴父長松氏の長男として明治二十三年十一月の岳降、代々農たりしが先代長松氏より雜貨、煙草の店舗を開く、三男三女の子福者にして家庭圓滿を極め長男は既に製油業を營む。

千代田村

千代田村長 **清宮貞造**

清宮家は村でも永い歴史を續けた家柄で、累代農を本業となし、他面村治方面に寄與貢献するところがあつて、衆望甚だ高いものがある。氏は父君の後を嗣ぐや、一層公共方面に進出活躍して從來の衆望に副ふところがあり、しかもその圓熟せる手腕は村民一致の推薦となつて村長の要職に就任、鋭意邁進村治刷新の推進力となつてゐる。本村は四街道に總武線の停車場を置き、佐倉千葉間連絡の要衝に立つて、憲兵合遣所、巡査部長派出所、その他陸車砲兵射擊學校、陸軍野砲兵聯隊などがあり、また教育方面に在つては尋常高等小學校の外に、私立の女學校千代田文庫があり、更に伸びゆく村であるだけにそれに適應すべき劃策實施等一に氏の双肩にかゝつてゐる。

志津村上志津

村會議員 **志津半**

當家は連綿一千年の由緒ある歴史を持ち、志津姓を名乗る家の總本家である。氏は明治九年十月十五日の岳降、日露戰爭には第一軍梅澤支隊付にて奮鬪せる勇士、凱旋除隊後、村農會長をはじめ、丁未組合評議員、志津產業組合長を經て、村會議員、方面委員、耕作組合長等を現任し、貯金奬勵による表彰のほか、三十有餘回に亘つて表彰或は感狀を寄せられ

た功勞者である。令閨はるさんは明治七年生れ、長男義雄氏は農林大臣有馬頼寧伯の後援を得て產業組合實務研究會を主宰、次男忠德氏は縣廳土木課に勤務中。

和田村米戸

區長
產業組合理事
藤崎慶重郎

祖父久能衛門氏は庄屋、戸長等を勤めた舊家である。氏は明治八年四月十日の岳降。元助役として村自治の爲め多大の功績を殘す、現在米戸區長、產業組合理事、農家組合長として村產業伸展のため努力され、村民に感謝されつゝあり。家庭はたけ夫人長男茂氏夫妻長女久枝孃あり極めて圓滿常に春風の如し。因に氏は日本赤十字社特別社員である。

富里村新橋

富里村長
正七位勳六等功七級
湯本多一郎

氏は勘作氏四男として明治十六年一月五日の岳降にして明治三十六年野砲第十八聯隊に入營、兵として明治三十七八年の戰役に從軍、第三軍の旅順攻略に參加後陸軍士官學校に入り大正七年卒業、士官となり累進して砲兵大尉正七位勳六等功七級に叙せらる。氏は現在村長、在鄉軍人分會長、產業組合長、養蠶實行組合聯合會長の要職にあり、村政、產業の爲めに多大の功績を擧げ村民信望の的となつてゐる。資性溫容人格高潔の紳士にして、前に收入役二期を勤め村財政上にも功勞あり、しん夫人は當村佐藤靑五郎氏の長女にして二男二女の子福者にして、家庭は極めて圓滿である。因に氏は長野縣埴科郡五加村小船山の出身である。

公津村

公津村長
谷清助

本村は義民宗吾埋葬の地、宗吾靈堂の名によつて人々に喰炙してゐる。公津村を語るには勞ひ宗吾を尋ね、甚兵衛渡に飢かねばならないといふ由緒のある村で他村に比しては早くから目覺めてゐて、種々なる施設も整つてゐる。氏は今村民の輿望を擔つて、この由緒ある村の樞機に携はり、農耕產業をはじめ印旛沼沿岸の水產等の改善刷新に鋭意努力し、大に村績を向上せしめつゝある。溫厚篤實、白紙を以て緒般に對し、一度諾を與へた以上は謂ゆる火の中、水の中をも顧みず必ず決行するといふ大勇猛心を有つてゐる。しかも斷行して過誤なく、一村信賴の度を高めつゝある所以でもあらう、本村の今後はたゞもう氏の大きな腕にかけられてゐる。

宗像村

宗像村長
大熊秀治郎

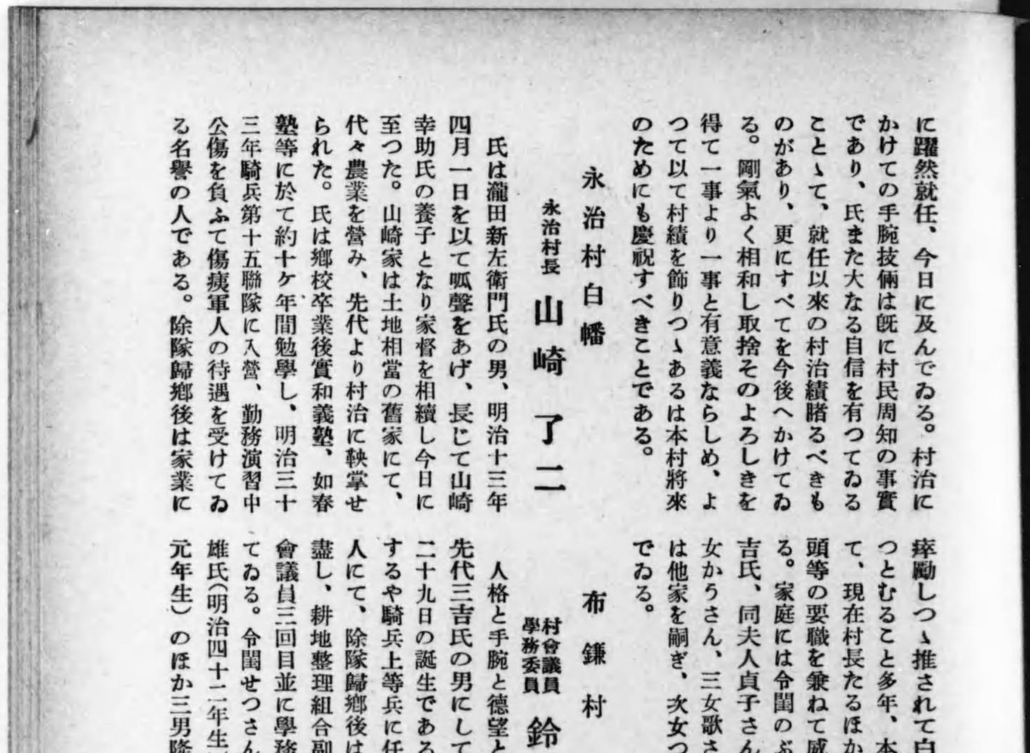
農產物の主なるものに穀類、豆類、蔬菜類を見せてゐる本村は、北方から南方に傾斜し、丘陵が東北から西南に向つて起伏し、この間細流が南流して印旛沼に注ぐといふ農村で、且つ養蠶地としては郡の中位を占めてゐるが、氏は一度村長に推薦さるゝや、我が鄉の恩に感謝し、我が村民の輿望に副ふはこの秋とばかり

に躍然就任、今日に及んでゐる。村治にかけての手腕技倆は既に村民周知の事實であり、氏また大なる自信を有つてゐることゝて、就任以來の村治績睹るべきものがあり、更にすべてを今後へかけてゐる。剛氣よく相和し取捨そのよろしきを得て一事より一事と有意義ならしめ、よつて以て村績を飾りつゝあるは本村將來のためにも慶祝すべきことである。

永治村白幡

永治村長
山崎了二

氏は瀧田新左衛門氏の男、明治十三年四月一日を以て呱聲をあげ、長じて山崎幸助氏の養子となり家督を相續し今日に至つた。山崎家は土地相當の舊家にて、代々農業を營み、先代より村治に執掌せられた。氏は鄉校卒業後實和義塾、如春塾等に於て約十ケ年間勉學し、明治三十三年騎兵第十五聯隊に入營、勤務演習中公傷を負ふて傷痍軍人の待遇を受けてゐる名譽の人である。除隊歸鄉後は家業に



率勵しつゝ推されて白幡區長、村助役をつとむること多年、本村自治の功勞者にて、現在村長たるほか村會議員、消防組頭等の要職を兼ねて威福並び行はれてゐる。家庭には令閨のぶさんのほか長男諭吉氏、同夫人貞子さん、愛孫德彦君、長女かうさん、三女歌さんあり、次男襄氏は他家を嗣ぎ、次女つとさんは他に嫁いでゐる。

布鎌村

村會議員
學務委員
鈴木雄

人格と手腕と德望とを兼有する氏は、先代三吉氏の男にして明治二十二年三月二十九日の誕生である。長じて兵役に服するや騎兵上等兵に任じ模範と稱されし人にて、除隊歸鄉後は家業の傍ら公益に盡し、耕地整理組合副長を經て、現在村會議員三回目並に學務委員の重責を兼ねてゐる。令閨せつさんとの間には長男光雄氏(明治四十二年生)次男幸男氏(大正元年生)のほか三男隆雄君、四男美邦君の愛息がある。

白井村

白井村長
五十嵐善太郎

氏は本村五十嵐三五郎氏の長男、明治十六年十二月七日の出生にて、大正四年叔父傳兵衛氏の養嗣子となり今日に至つた。國學院大學別科を卒業せる英才にて、學成りて歸鄉するや村書記を拜命、爾來二十有餘年間村治の中心に立ちて、郡會議員もつとめ、株式會社中山協和銀行重役たりしこともあり、溫和の中に烈々たる氣慨を含み、現時白井村長のほか村農會長、產業組合長、靑年團長等村の首班となつて活躍し、更に郡農會副會長、印旛郡政友會第三支部長として重きをなす。母堂くら刀自は古稀を過ぎて健在令閨ときさんは

東葛飾郡手賀村の人、長男善内氏は明治大學在學中、家庭にはなほ次男登氏、養子襄氏(永治村長山崎了二氏息)、令孫等がゐる。因に五十嵐家は六百年來の舊家にて部落の草分、名主庄屋をつとめた名高き家柄である。

豐住村

豐住村長 鈴木慶治郎

當家は約二百年十三代を經た名門にして、氏は安食町矢口成毛惣五衛門氏の二男として明治二十一年四月三日に生れ、二十歳の時先代榮助氏の養子となり今日に至つた。榮助氏は村會議員、區長等に推されし德望家である。氏は明治三十九年四月成田中學校卒業後、一年志願兵として近衛歩兵第一聯隊に入營、除隊後、在郷軍人分會長、區長、村會議員等に任じ、昭和五年十月助役、同九年七月に村長の要職に就き、昭和十年勤勞會を組織して思想善導につとめ、曾て共產黨員三名を出せし縣下の難村たりし本村を更生せしめ、現にその會長たるほか、村農會長、消防組副組頭等を兼任する。前國防婦人分會長たりしこと夫人との間に三女あり、長女きよさんは東京に、次女けいさん及び三女秀子さんは家庭に在る。

豐住村北羽鳥 豐住村助役 消防組頭 荻原鋭之助

村内の輿望普く溫厚誠實なる氏は事に當つて果敢、よく後輩を指導するを以て名聲高く、曾ては收入役及び村會議員二期をつとめ、村治各方面に亘つて顯著なる業績を收めたる手腕家である。明治二十四年三月十二日を以て健かな呱々の聲をあげ、徵兵檢査に合格して入營するや忽ち隊内の模範と稱され、除隊歸郷後は家業の傍ら前記の重職に任じ、現在助役に昇任、併せて消防組頭、村會副會長にも推されてゐる。趣味は狩獵及び旅行である。けい夫人は東京市に生れた江戸ッ兒、長女及び次女は他家に嫁ぎ、長男英男氏は早稻田第二高等學院に在學中、三女みちさんは家庭にあつて家事を見習ひ、四女志津子嬢は成田高女在學中の才媛、五女ゆきさんは小學校に通つてゐる。

八生村

八生村長 勳八等功七級 湯淺新太郎

農村經濟生活の活路は行き詰つた現在狀態に一大斧鉞を加へて打開更生の一途あるのみで、しかもその匡濟の途は徒に上司官衙の指示指導を待つが如き謂ゆる他力本願に墮すべきではない、必ずや自奮自勵我れ立たざるべからずといふ熱意

を以て本村に即せる自力更生の方途を確立せねばならぬといふ信念の下に、率先經濟更生委員會を起して斷乎實行して來た氏の功績は、今や燦然として輝ける村治を見せ、村民の輿望を實に大ならしめてゐる。氏は舊家に生れた人、曾ては戰役に參加して各地に轉戰、偉勳を樹てた譽れある勇士で、勳八等に叙し功七級を下賜されてゐる。

中郷村芦田

中郷村長 岩館兼太郎

當家は名主の家系にして先代清治郎氏は村會議員として多年村自治に貢献せり。氏はその長男として明治九年二月二十日の岳降にして、元當村會議員、現在は村農會長、村長として村政の中樞々機に多大の貢献をなし又產業組合理事として、產業伸展に盡力する所尠なくない。村内有數の名望家にして、家庭は溫良貞淑なるよし子夫人との間に三男三女の子福者として圓滿を極めてゐる。

遠山村小菅 遠山村長 神崎文助

各種公名譽職に歷任して貢獻頗る多き氏は現時村長の重任を帶びるほか二期目の村會議員をつとめ、昭和五年より同九年までの間に一萬三千圓の滯納あり、敎員給料不拂四ケ月にも及び縣下の難治村といはれた遠山村をして今日の安きに置かしめた努力と手腕の人にして、小學校舍(十一敎室)の增築その他各種事業を遂行せる敏腕家である。出生は明治二十三年十月七日同四十三年成田中學校卒業後家庭に在り、爾來青年團支部長、村助役に歷任、國勢調査員にも囑託せられた。むめ子夫人は遠山村國防婦人會役員、三男三女を有し、長男功有君は成田中學に、長女百合子嬢は成田高女に在學し、共に頭腦明敏の譽れあり、將來益々多望多幸の一家である。

大森町中ノ口

町會議員 武藤重平

中ノ口部落草分の舊家たる秋坂治郎右衛門家より分れたる當家は初代を治郎藏氏と稱し、氏はその長男明治二十二年四月二十八日の出生にして、產業更生に多大の功績を積み、統計調査員、町會議員養蠶實行組合長、區評議員、用排水組合副長、農家組合長、消防組第六部長等の諸要職に推されてゐる。家庭には兩親健在し令閨とは琴瑟相和し、長男牛松氏は農に精勵しつゝ消防組役員をとつめ、三人の令孫がある。

旭村四街道

井筒金治

退役陸軍砲兵准尉 正七位勳六等功七級

氏は印旛郡六郷村の人十代約二百年を續く井筒家に先代茂吉氏の次男として明治十四年九月十五日を以て生を享けた。同三十四年野砲兵第十八聯隊に入營、四十二年砲兵第三旅團司令部付となり、更に市川野砲兵第十七聯隊附を經て大正七年十二月准尉にて退職、この間日露戰爭には第三軍に屬して出征、旅順方面の戰鬪には赫々たる武勳を樹て、奉天の大會戰にも參加した。退役後陸軍野砲兵學校に軍屬として勤務、昭和七年これを辭したが、滿洲事變の際には動員事務に關係し、從軍記章と慰勞金を賜つた。趣味は園藝。現在區長の要職にあり、てい夫人は四街道國防婦人會に班長たりしことある名流にして、二人の令嬢を有し、長女は他に嫁し次女郁枝さんは佐倉高女を出て目下家庭にある。

千代田村物井

村會議員 勳八等

小山藤右衞門

氏は精氣に溢るる若鷲の如き潑剌たる新鋭材幹である。先代庄吉氏の長男として生をこの世に享け、夙に頭腦衆にすぐれて明敏、日露戰爭の際は野戰砲兵として從軍、南山得利寺その他の地に戰功あり、勳八等に敍されたる忠勇義烈の士にて、奉天大會戰には決死隊となり、一小隊全滅の中に、頸部に砲創を受けて生殘つたたゞ一人である。凱旋歸鄉後は家業の傍ら村農會役員及び物井區長等に推されて公共の爲に竭し、現時村會議員に選ばれて居り、村道及び鹿島川改修に對しては特に努力奮鬪せる功勞者である。母よしさんは安政五年生れにて現に健在、しげ夫人は同村の人にて氏との間に長女初代さんを儲け、養子茂氏を迎へて二男一女の愛孫を持つてゐる。

志津村井野

元志津村長

森谷善一郎

氏は村民の信望極めて厚き溫厚の人格者である。明治十七年十二月二十三日を以て生をこの世に享け俊英と謳はれ英器と稱されし人材である。若冠三十代にして村長の要職に推され、公設消防組の開設には特に功勞あり、初代志津消防組頭として活躍、また村會議員たること二回、助役を經て

村長にも擧げられたる功績多き活動家である。はる夫人は旭村大川和一郎氏の令妹、長男は阿蘇尋常高等小學校に教鞭を執つてゐる。

和田村

村會議員 勳八等

高石信太郎

努力と誠意を以て社會公共の事業に關與貢献せる氏は、資性英邁にして人品高雅なる名望家である。開祖以來四代約百年を繼續する高石家に明治十四年九月九日を以て呱々の聲をあげ、中學校を卒業せる學識博き人材、夙に在鄉軍人分會長に推されて鄉軍のため多大の寄與貢献をなし、その後軍友會長として今日に至り、また學務委員に選ばれること四回、本村教育の充實振興に努力するところ多く、現にその任にあるほか村會議員として村政に活躍してゐる。令閨あい子さんは明治二十年の出生、長男林男氏は成田中學校の出身、次男芳男氏は埼玉縣川口市日本デイゼル工業株式會社技手、他に三男壽男君、四男雅男君、五男和男君及び長女千代さんがあり、家庭的に頗る惠まれてゐる。

公津村成木新田

村會議員 戸數割調査員

石井鶴松

村長より納稅成績優良なるにより表彰を受けたる名譽の人、わが石井鶴松氏は明治七年二月二十八日の岳降である。夙に納稅組合長として活躍多年に及べるほか區長二回、統計調査副委員長、神社總代をつとめ現時村會議員及び戸數割調査員の任にある。令閨もよさんは明治十一年の出生、氏との間に長男龜太郎氏（元青年團長）次男正志氏（明治四十一年生）三男芳雄氏（大正三年生）の令息のほか、長女たけ子さん及び次女たみ子さんがあり家庭頗る圓滿である。

宗像村岩戸

村會議員 元衆議院議員 勳五等

篠田有德

單に地方政界の重鎭たるのみならず國會議事堂に於て堂々の論を獅子吼し、縣下の偉材たる氏は先代有則氏の男にして明治十三年十二月二十六日の出生である。千葉中學校出身にて、日露戰爭には奉天の大會戰に拔群の功を樹てたる勇士、凱旋後、鋭意公事に竭し、村長、村農會長、青年團長土地賃貸價格調査員たること多年、道路の改修や橋梁架設に特に功勞あり、現時四度目の村會議員たるほか、金錢債務調停委員、小作爭議調停委員、その他の要職を兼任し鄉黨の信望を一身にあつめてゐる。令閨よしさんとの間には、長男恒

氏(明治四十四年生)、次男俊夫氏(大正八年生)、三男義三郎君(大正十一年生)、四男昭君(昭和五年生)があり、長女ふくさんは篠田靜雄氏に嫁した。

永治村和泉

村會議員 武藤爲誠

三十有餘年村會議員に選任功績多き氏は銀盃を贈られて表彰され、且つ同樣三十餘年間社寺總代を勤めてゐる信望家である。書畫骨董に趣味あり、西圓寺、東郷最澄、甲東の書を所藏し、また劍道に達し、觀世流謠曲にも堪能である。區長八年、木下外六ケ村組合會議員二十五年、印旛實業學校評議員二十年のほか、土地賃貸價格調査員に任じ、幾度か村長に推されたが他に讓つて受けず、謂はゞ村相談役の立場に於て村政に參與してゐる。祖父茂兵衛氏は名主をつとめ、先代啓三郎氏また戸長、手賀村外三十六ケ村堤防組合管理者村會議員、學務委員、區長、社寺總代、地主總代、印旛郡第七教育會長等に任じたる材幹にして、氏はその長男、明治六年四月二日を以て生れ、現時家庭には夫人貞子さん、長男行敏君、同夫人ほか愛孫四人がゐる。

白井村名内

村會議員 秋谷七之助

當家は天文年間より名主をつとめ苗字帶刀を許された家柄にて、明和七年三月の作に成る大日如來像を家寶として保存する。先々代田十郎氏は名主戸長をつとめた。氏は先代藤吉氏の養嗣子、明治二十五年一月十七日の岳降にて、信念に强く權力に屈せざる正義の士である。神社總代、消防組頭同小頭を多年勤續し、現時村會議員並に區評議員の任にある。家庭には夫人コヨ子さんのほか養子次郎君、養女フヨ孃がゐる。

豐住村南羽鳥

産業組合長 根本隆一

氏は地方自治産業に多大の貢献を致せる手腕家である。その歷任せる公名譽職の後を辿つて見るに、助役、村長、郡會議員、村會議員、區長、檀家總代、その他諸方面に亘つて居り、いづれの方面に於ても他の企て及ばざる業績を示し、嘖々たる名聲と怒濤の如き賞讃の聲を受け、本村人材中の第一人者と稱されるもまた故なきではない。現時産業組合長に推され、從來不振狀態にありし同組合の更生に力を竭して漸次隆盛に赴かしめつゝあり、氏の手腕と實力により、やがて優良組合となるのも遠い將來ではなからうといはれてゐる。先代幸太郎氏は名主及び村長をつとめたる人、氏はその男にて明治十二年二月二十日の出生、家庭には令閨とみ子さん、二男三二氏、三男菊次氏、四男至平氏あり、長女あささんは根本明一氏に嫁した。

中郷村赤荻

村會議員 寺内和吉

當家は三百有餘年の由緒正しき歷史を有する舊家にて、先代巳太郎氏は村會議員をはじめ幾多の公名譽職に擧げられて村自治に盡力多かりし人材である。當主は明治十九年五月十九日の誕生にて、長じて先代の養子となり家督を繼いで今日に至つた。村會議員に當選するほか各方面の要職に就き、公共への寄與貢獻尠なからざる上に、家に在つては克く農業にいそしみ、家運を益々隆昌に赴かしめ、現在三町餘の水田を耕作してゐる。資性溫厚にして實直、近隣は勿論のこと小作人よりも溫情ある人格者として評判がよい。令閨みつさんは明治二十一年の生れ長男靜氏は同四十年出生にて家業に精勵する傍ら成田親交會中郷支部長をつとめ、夫人せきさんとは偕老の契りも固く相和してゐる。

佐倉町

町會議員 消防組頭 辻新一郎

嚴父正氏は町會議員、郡會議員を歷任して治政上多大の功績ありし人、當家は十四代三百有餘年の家系を有し、旅館業五代に亘る舊家にして、且又町内有數の名望家たり。氏は正氏の長男として明治二十三年五月に生る。東京市大倉商業卒業後直ちに家業に從ふ。元佐倉三業組合長、學務委員、衞生委員、勸業委員としてその要職を完うし現消防組頭、町會議員(五期)信用組合理事、土木委員、金錢債務調停委員等の重職にあり銳意町自治の爲めに精勵し町民に多大の感謝を受く、殊に當町消防組は氏を組頭として施設に統制に成果を得在職十餘年間に金馬簾七本を算し縣下二大優秀組の一となれり。氏は趣味として謠曲(梅若流)俳句(寶石)に造詣深く、家庭には二男一女まつ子夫人(愛婦特別會員たり)極めて圓滿なり。長男正敏氏は日大商科卒業東京タイガー計算器會社に勤務中なり。

大森町大森

消防組頭 齋藤房太郎

電話木下六六番

氏は三重縣河藝郡齋藤藤次郎氏の長男、明治十六年十二月の出生にて、十六歲の時大森町の

伯父齋藤佐四郎氏が酒造業を營み居りしを賴つて當地に來り、隣町たる茨城縣布佐町花妻酒造店に奉公すること十ケ年、二十歳の時五十圓の資本金を以て當町に獨立し、僅か七ケ年にして、堂々たる現在の家屋を新築した。大正四年燒酎「永泉」を、同十五年清酢醪の醸造をなし、販路年毎に擴大して今日に至り、立志傳中の人として尊敬されてゐる。製品は第八回關東酒類醬油品評會に於て一等褒賞を得たる優良品である。消防組頭現二期目、町會議員、家屋稅調査員、消防聯合會副會長等の要職を現任し、大正十二年には消防成績優秀なるを以て千葉縣知事より表彰された。氏はまた灸療術に長じて、多數の人々を救濟してゐることは有名である。

千代田村物井

村會議員 元區長 **森 滿太郎**

氏は元區長として物井區和合開發の爲め專心努力す。資性溫厚篤實にして而もことに當りては眞摯熱意の人である。爲めに多數村民の信望を荷負ひ推挽されて村會議員となる。爾來、村政の爲め各方面に鋭意盡力し多大の功績を致せり。氏の長男は目下支那事變に出征各戰線に活躍中である。出征兵士遺族としての同家はその心情に於いて公正盡忠態度全く他の模範に足ると、家庭はツヤ夫人と共に極めて圓滿である。氏の今後村政に對する抱負は村民多大の期待を受けてゐる。

志津村井野

志津村信用組合監事 **村山太一郎**

農事改良を奬勵し、公共事業に寄附を惜しまず、表彰數回に及ぶ氏は、劍道三段の猛者、往時習志野騎兵聯隊在營當時聯隊長より軍刀術及び馬術に拔群の成績を擧げて表彰され、その他帝國農業教育會、縣知事よりも表彰を受けた。明治二十四年五月二十二日の岳降、現時志津村信用組合監事村會議員二期目その他の要職にある。先考平三郎氏は農興社長たりし人望家にてなほ當家は約四百年も續く當村屈指の舊家である。

和田村米戸

村會議員 **藤崎勝次郎**

村民敬慕の目標であり、自治の功勞者である氏は、明治十七年四月十六日を以て生をこの世に享けた。資性磊落にして剛毅の氣象を有し、輿望をあつめて村會議員に當選すること二回、嘖々たる名聲を博し、人格と手腕とを兼有する稀有の材幹である。母堂やす刀自は年齒七十有五歳にてなほ赫灼たる元氣を有し、養子留吉氏は明治三十七年生れ、同夫人ふじさんは明治四十一年生れ、家庭圓滿幸福を極め繁榮の一路を辿り、近在の羨望の的となつてゐる。

公津村北須賀

村會議員 **泉水久兵衛**

昭和九年郡養蠶組合より表彰さるゝの名譽に浴する氏は、區長代理、國勢調査員、養蠶組合長等を歷任せる本村自治産業の功勞者にして、大正九年には青年會長にも擧げられ、現在は村會議員に任ずるほか印東耕地整理組合理事を囑託せられ、多年の經驗を基礎に功勞益々顯著なるものがある。明治十七年十月十日の出生にて、尊父子之松氏は村會議員並びに區長をつとめし人材である。氏は成田中學の前身たる英漢義塾に學びし俊才、家庭にはやす夫人、長男正男氏、四男俊氏がゐる。

宗像村鎌刈

村農會長 産業組合專務理事 正八位 **柴倉貴一**

謹嚴實直の手腕家たる氏は、元村長たる柴倉幸介氏の男にして明治二十一年十一月二十六日の出生である。佐倉中學校卒業後、軍務に服して步兵少尉に任じ、除隊後在鄕軍人分會長たること多年、また村會議員、村長等をつとめ、道路問題學校修築問題、役場廳舍購入問題等幾多の功績を積み、また戶籍事務改善功勞者として表彰された人である。現時村農會長、村會議員、區長、産業組合專務理事を兼任する。家庭には母堂かね子刀自、令閨はなさんのほか二人の令息がある。

永治村浦部

村會議員 **富澤憲資**

當家は天和年間以前よりの舊家にして二百六十年の歷史を有し約十三代を相繼いで今日に至り、明治の頃、元押上心淸寺住職たる心淨院僧正亮慶を出したる名門である。代々農蠶の業を兼ねて家産巨く、先代寅松氏は村會議員、區長、消防組小頭等に推され、區長時代救濟道路工事を完成した手腕家である。氏はその長男にして明治三十一年一月十八日の出生、農産物受檢組合長を經て、現時村會議員、統計調査員、消防組第二部長をつとめ、民政黨の綱領に共鳴し居れど、條理あれば一黨一派に偏することなく、偏へに鄕黨の福祉增進を念願として活動を續けてゐる。夫人くにさんとの間には長男孝君、長女アイ子孃あり、令弟孝之助氏は騎兵少尉にして目下支那事變に出征中である。

白井村

村會議員 **川鍋彥太郎**

當家は開祖以來三百年を經る舊家今より五代前の祖勘左衞門氏は富士講を起し道路愛護を力

說して關八州を遊說し歩き、功により、明治大帝より御酒、御掛圖を下賜された光榮の家である。當主は先代釜吉氏の養子、國勢調査員五回、村農會代議員、氏子總代、折笠消防組合長を歴任し、現時區長及び村會議員をつとめてゐる。各方面に功績多く、表彰感謝狀を受けること十數回に及ぶ。長男洵氏は千葉師範に、長女美千子さんは大森實科高女に在學中である。

中郷村和田

消防組頭 **吉岡義孝**

氏は釣魚や狩獵に趣味を有し、且つ愛犬家として有名である。成田中學校を四年修了後、宮城縣渡波水産學校に轉入學し、ここに四ケ年の課程を修め、卒業後北海道紋別合同鮭漁業場に勤務、二ケ年の後歸郷せるものにて、釣も獵も單なる趣味以上に達してゐるのだ。生れは明治三十七年一月二十六日、中郷村長二回に及ぶ名望家たる故七郎兵衛氏を父とし、その次男である。中郷村消防組副組頭を經て同組頭に任じ、當消防組として最初の金馬簾を授與せられたるは全く氏の努力に依るものにして昭和十一年表彰さるゝの光榮に浴した。現時村會議員も兼任する。節子夫人は本村赤荻秋山平氏の愛娘、成田高女出身にて村國防婦人會理事をつとめ、氏との間に一男一女がある。

佐倉町

町會議員 勳七等功七級 **鈴木寅吉**

氏は現在佐倉町町會議員（二期）土木委員三業組合長、區長等の要職にあり、鋭意町勢伸展の爲に努力盡瘁す。趣味として草花の栽培、カメラ等に造詣深く、溫容にして信念强く町民の信望厚し。故七平氏の長男として明治十二年十月に生れ、明治三十七八年戰役に多大の功績あり勳七等功七級を賜る。明治四十年警視廳巡査拜命一時代々幡役場に奉職後再び千葉縣に於て警察界に入り、累進して刑事部長、佐原署司法主任となる。在官十三年にして大正十三年退職後飲食業界に入り現在二ケ所の支店並に九名の從業員を使用して益々繁榮す。斯業界の重鎭として功績尠からず、氏は又大正三、四の有名なる八木能宣の殺人放火强盜事件に關係して敏腕をふるひ時の署長より表彰感謝を受く其の他表彰感謝狀八十有餘に達し以つて氏の奉公至誠の心情厚きを知るに足る。

大森町發作

町農會長 **植村幹**

農事の改善と地方經濟の向上とは從來

氏が主張し來り、且つ現に奮鬪努力し居るものにて、これぞ氏の生活であり趣味である。

明治十六年十二月二十一日の出生にて、元縣農林技手たること二十ケ年農産物檢査所佐倉支所長をつとめしことあり、溫厚篤實の人材として衆望があつた。辭職後町農會長に推されて今日まで約十ケ年耕地整理組合副長を兼ね、地方産業經濟の飽くなき發達に努力してゐる。家庭には令閨のほか長男隆治氏、同夫人及び令孫四人あり圓滿を極める。因に當家の始祖植村三郎兵衛は手賀沼開墾に力を注ぎ、名主をつとめ、爾後代々里正に推されたる名門にて、先代國治氏は永年手賀沼組合堤防取締をつとめその沿革誌の著者、町長、町農會長、郡會議員等に任じ、昭和九年永眠したが、その功績は村史と共に永く輝くであらう。

千代田村龜崎

村會議員 **鈴木源一**

性剛毅果斷、機智に富み、動作明快なる氏は故安五郎氏の長男にして、明治二十三年十二月一日の岳降である。安五郎氏は壯年時代横濱植木株式會社に勤務せしことあり、その後歸農精勵して現在の基礎を築いた努力の人である。氏はその血を享けて早くより公共の福祉に努め、消防組第六部長同小頭、區長、土木、衞生、勸業の各委員に歴任、村會議員に當選三回、現にその任にあり、龜崎養蠶實行組合長、學務委員を兼任する。政友會系の材幹にて、衆議院議員吉植庄一郎氏の一派に屬する。趣味は盆栽。母堂はる氏は杖師を越えて健在、夫人よしさんは琴瑟相和し、長男右源次氏は佐倉中學校卒業、長女なか嬢は佐倉高女出身にて共に家庭にあり、他に小學校通學中の愛兒がある。

志津村小竹

消防組頭 **鈴木忠維**

天は自ら助くる者を助くといふ。努力こそあらゆる成功の根本要素である。氏は努力の人、千葉郡睦村平戸の舊家染谷源右衞門氏を父として明治十九年二月十一日に生を享け、當家の養子となりしもの、社寺總代、村會議員、區長、在郷軍人分會長等をつとめ、現に消防組頭、小竹公德社理事、村農會總代等の要職を兼任し、農事改良に寢食を忘れて盡瘁し、在郷軍人會長より功勞賞を授與された郷軍の功勞者であり、消防組には十八ケ年勤續の年功賞及び功勞賞を受け、金馬簾二條使用を允許されるに至らしめた本村消防組の恩人である。抑々當家は約五百年の歴史を有する舊家にて、先々代重兵衞氏は村治に心